

なか の さこ
中ノ迫第2遺跡

Nakanosako2 Site

東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書56

2008

宮崎県埋蔵文化財センター



南方向から臨む中ノ迫第2遺跡周辺



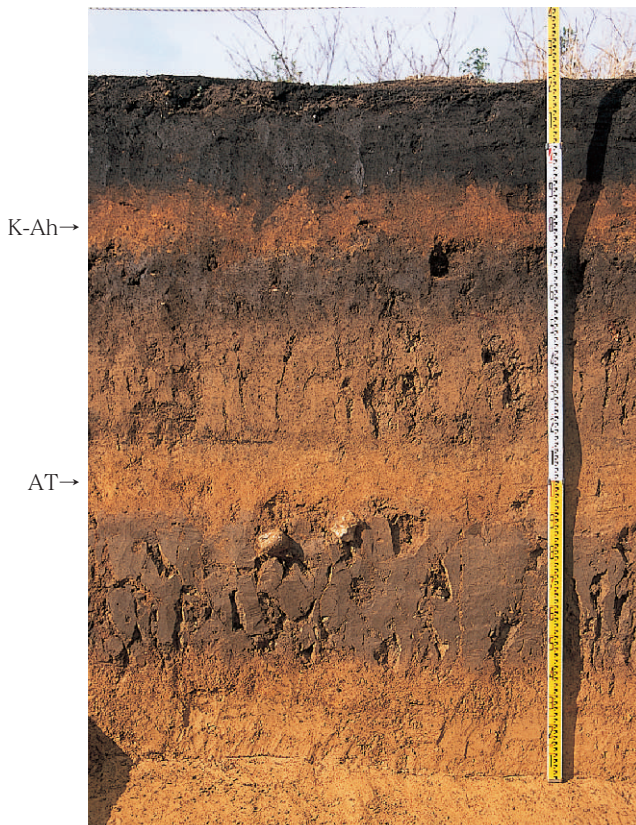
南西方向から臨む中ノ迫第2遺跡



中ノ迫第2遺跡全景（上が北）



後期旧石器時代Ⅱ期石器接合資料



中ノ迫第2遺跡A区土層



旧石器時代Ⅱ期石器ブロック検出状況



縄文時代早期S112・38周辺散礫



縄文時代早期出土土器



弥生時代出土遺物①



弥生時代出土遺物②

序

宮崎県教育委員会では、東九州自動車道（都農～西都間）建設予定地にかかる埋蔵文化財の発掘調査を平成11年度から実施しております。本書はその発掘調査報告書であります。

本書に掲載した中ノ迫第2遺跡は、平成17年6月から平成18年3月まで発掘調査を行い、縄文時代早期の集石遺構を中心として、後期旧石器時代や弥生時代の遺構・遺物が見つかりました。

ここに報告する内容は、今後、当地域の歴史を解明する上で貴重な資料になるものと考えられます。

本書が学術資料となるだけでなく、学校教育や生涯学習の場などで活用され、また、埋蔵文化財保護に対する理解の一助になれば幸いです。

最後に、調査にあたって御協力いただいた関係諸機関・地元の方々、並びに御指導・御助言を賜った先生方に対して、厚くお礼申し上げます。

平成20年2月

宮崎県埋蔵文化財センター
所長 清野 勉

例言

- 1 本書は、東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴い、宮崎県教育委員会が実施した中ノ迫第2遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、日本道路公団九州支社から委託を受けて宮崎県教育委員会が調査主体となり、宮崎県埋蔵文化財センターが実施した。なお、日本道路公団は平成17年10月1日より分割民営化され、西日本高速道路株式会社九州支社となったが、本報告書では日本道路公団として記載する。
- 3 現地での実測・写真撮影等の記録は、佐竹智光、長友久昭、島木良浩、大山博志、白地浩、松元一浩、森本征明、堀口悟史、小船井順、児玉幹、河野雅人が行い、一部について発掘作業員の協力を得た。また、本書で使用した遺物写真は、佐竹が撮影した。
- 4 測量・空中写真・自然科学分析等は、次の機関に委託した。
地形測量・グリッド杭設定 : (有)川南技術コンサルタント
空中写真 : (株)九州航空
自然科学分析 : (株)パリノ・サーヴェイ
- 5 土層断面及び一部の石器、土器の色調については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』に拠った。
- 6 石器実測は、一部の实測及びトレースを大成エンジニアリング株式会社に委託し、他は本センターの整理作業員の補助を得て佐竹智光が行った。
- 7 整理作業は、遺物については中ノ迫第2遺跡現場事務所及び宮崎県埋蔵文化財センターで行い、礫の一部については川南整理作業棟において行った。
- 8 本書に使用した遺跡分布図は、国土地理院発行の1/50,000図をもとに、遺跡周辺地形図は、日本道路公団宮崎工事事務所から提供の1/1,000図をもとに作成した。
- 9 本書で使用している国土座標は、旧平面直角座標系Ⅱ（日本測地系）による。レベルは海拔絶対高である。
- 10 本報告書で使用する遺構の略号は以下の通りである。
竪穴状住居跡・・・SA 礫群、集石遺構・・・SI 炉穴・・・SP
土坑・・・SC 不明遺構・・・SZ
- 11 挿図の縮尺は次の通りである。
遺構・遺物分布図・・・1/1,000、1/1,500
遺構実測図・・・1/30、1/40、1/60
遺物実測図・・・1/2、1/3、2/3 ※以上を基本とするが、これ以外のものもある。
- 12 本書の執筆並びに編集は、佐竹智光が担当した。
- 13 本書に使用した方位は、主に磁北（M.N.）であり、位置図などの一部は、座標北（G.N.）である。
- 14 本遺跡の出土遺物並びにその他の諸記録類は、宮崎県埋蔵文化財センターで保管している。

本文目次

第I章 はじめに

| | |
|-------------|---|
| 第1節 調査に至る経緯 | 1 |
| 第2節 調査の組織 | 1 |

第II章 遺跡の環境

| | |
|-----------|---|
| 第1節 地理的環境 | 3 |
| 第2節 歴史的環境 | 3 |

第III章 調査の経過と方針

| | |
|----------------------|---|
| 第1節 確認調査の概要 | 4 |
| 第2節 発掘調査の方法・概要 | 5 |
| 第3節 整理作業及び報告書作成 | 6 |
| 第4節 遺構・石材に対する基本的な考え方 | 7 |

第IV章 発掘調査の記録

| | |
|----------------------|----|
| 第1節 基本層序 | 8 |
| 第2節 遺構と遺物 | |
| (1) 後期旧石器時代I期の遺物 | 13 |
| (2) 後期旧石器時代II期の遺構・遺物 | 14 |
| (3) 縄文時代早期の遺構・遺物 | 32 |
| (4) 弥生時代の遺構・遺物 | 70 |
| (5) その他の時代の遺構・遺物 | 79 |

第V章 自然科学分析

| | |
|---------------|----|
| 第1節 分析の経緯 | 80 |
| 第2節 放射性炭素年代測定 | 80 |
| 第3節 樹種同定 | 81 |
| 第4節 考察 | 83 |

第VI章 まとめ

| | |
|-----------------|----|
| 第1節 中ノ迫第2遺跡の様相 | 86 |
| 第2節 周辺遺跡との比較・検討 | 87 |
| 第3節 おわりに | 91 |

挿図目次

| | | | | | |
|------|---------------------|-------|------|-------------------------|----|
| 第1図 | 周辺遺跡位置図 | 2 | 第38図 | 押型文土器分布図 | 47 |
| 第2図 | 周辺地形及び確認調査トレンチ位置図 | 4 | 第39図 | 縄文時代早期土器実測図(3) | 49 |
| 第3図 | 確認調査出土遺物実測図 | 5 | 第40図 | 縄文時代早期土器実測図(4) | 50 |
| 第4図 | K-Ah 残存範囲図 | 8 | 第41図 | 条痕文土器分布図 | 51 |
| 第5図 | グリッド配置及び土層実測位置図 | 9 | 第42図 | 縄文時代早期土器実測図(5) | 52 |
| 第6図 | 調査区土層実測図(1) | 9 | 第43図 | 縄文時代早期土器実測図(6) | 53 |
| 第7図 | 調査区土層実測図(2) | 10 | 第44図 | 刺突文土器分布図 | 54 |
| 第8図 | 全遺構分布図 | 11・12 | 第45図 | 縄文時代早期土器実測図(7) | 55 |
| 第9図 | 後期旧石器時代I期石器実測図 | 13 | 第46図 | 撚糸文土器分布図 | 56 |
| 第10図 | 石器ブロック出土遺物分布図 | 14 | 第47図 | 縄文時代早期石器実測図(1) | 58 |
| 第11図 | 後期旧石器時代II期礫群実測図(1) | 15 | 第48図 | 縄文時代早期石器実測図(2) | 59 |
| 第12図 | 後期旧石器時代II期礫群実測図(2) | 16 | 第49図 | 石鏃・チップ分布図 | 60 |
| 第13図 | 後期旧石器時代II期石器実測図(1) | 18 | 第50図 | 縄文時代早期石器実測図(3) | 61 |
| 第14図 | 後期旧石器時代II期石器実測図(2) | 19 | 第51図 | 縄文時代早期石器実測図(4) | 62 |
| 第15図 | 後期旧石器時代II期石器実測図(3) | 20 | 第52図 | 縄文時代早期石器実測図(5) | 63 |
| 第16図 | 後期旧石器時代II期石器実測図(4) | 21 | 第53図 | 縄文時代早期石器実測図(6) | 64 |
| 第17図 | 後期旧石器時代II期石器実測図(5) | 22 | 第54図 | 縄文時代早期石器実測図(7) | 65 |
| 第18図 | 後期旧石器時代II期石器実測図(6) | 23 | 第55図 | 縄文時代早期石器実測図(8) | 66 |
| 第19図 | 後期旧石器時代II期石器実測図(7) | 24 | 第56図 | 縄文時代早期石器実測図(9) | 67 |
| 第20図 | 後期旧石器時代II期石器実測図(8) | 25 | 第57図 | 縄文時代早期石器実測図(10) | 68 |
| 第21図 | 後期旧石器時代II期石器実測図(9) | 26 | 第58図 | 縄文時代早期石器実測図(11) | 69 |
| 第22図 | 後期旧石器時代II期石器実測図(10) | 27 | 第59図 | 弥生時代SA1実測図 | 70 |
| 第23図 | 後期旧石器時代II期石器実測図(11) | 28 | 第60図 | SA1出土土器実測図・石器実測図(1) | 71 |
| 第24図 | 後期旧石器時代II期石器実測図(12) | 29 | 第61図 | SA1出土石器実測図(2) | 72 |
| 第25図 | 後期旧石器時代II期石器実測図(13) | 30 | 第62図 | 弥生時代SA2実測図 | 73 |
| 第26図 | 後期旧石器時代II期石器実測図(14) | 31 | 第63図 | SA2出土土器実測図(1) | 74 |
| 第27図 | SI12・38周辺散礫分布図 | 32 | 第64図 | SA2出土土器実測図(2) | 75 |
| 第28図 | 縄文時代早期集石遺構実測図(1) | 33 | 第65図 | SA2出土土器実測図(3) | 76 |
| 第29図 | 縄文時代早期集石遺構実測図(2) | 34 | 第66図 | SA2出土土器実測図(4)・石器実測図 | 77 |
| 第30図 | 縄文時代早期集石遺構実測図(3) | 36 | 第67図 | 包含層等出土弥生土器実測図 | 78 |
| 第31図 | 縄文時代早期集石遺構実測図(4) | 37 | 第68図 | 時期不明遺構実測図・時期不明土坑出土土器実測図 | 79 |
| 第32図 | 縄文時代早期集石遺構実測図(5) | 38 | | | |
| 第33図 | 縄文時代早期集石遺構実測図(6) | 40 | 第69図 | 暦年較正曲線図 | 85 |
| 第34図 | 縄文時代早期集石遺構実測図(7) | 41 | 第70図 | 中ノ迫遺跡位置図 | 87 |
| 第35図 | 縄文時代早期炉穴・土坑実測図 | 43 | 第71図 | 中ノ迫遺跡基本土層・文化層比較図 | 88 |
| 第36図 | 縄文時代早期土器実測図(1) | 45 | | | |
| 第37図 | 縄文時代早期土器実測図(2) | 46 | | | |

表 目 次

| | | | |
|----------------------------|-----|--------------------------|-------|
| 第 1 表 集石遺構観察表 | 4 2 | 第 11 表 中ノ迫第 2 遺跡石器観察表(4) | 9 5 |
| 第 2 表 放射性炭素年代測定結果表 | 8 2 | 第 12 表 中ノ迫第 2 遺跡石器観察表(5) | 9 6 |
| 第 3 表 曆年較正結果表 | 8 2 | 第 13 表 中ノ迫第 2 遺跡石器観察表(6) | 9 7 |
| 第 4 表 樹種同定結果表 | 8 2 | 第 14 表 中ノ迫第 2 遺跡石器観察表(7) | 9 8 |
| 第 5 表 中ノ迫遺跡検出遺構数比較表 | 8 9 | 第 15 表 中ノ迫第 2 遺跡石器観察表(8) | 9 9 |
| 第 6 表 中ノ迫遺跡後期旧石器時代Ⅲ期遺物数比較表 | 8 9 | 第 16 表 中ノ迫第 2 遺跡石器観察表(1) | 9 9 |
| 第 7 表 中ノ迫遺跡出土黒曜石産地一覧表 | 9 0 | 第 17 表 中ノ迫第 2 遺跡石器観察表(2) | 1 0 0 |
| 第 8 表 中ノ迫第 2 遺跡石器観察表(1) | 9 2 | 第 18 表 中ノ迫第 2 遺跡石器観察表(3) | 1 0 1 |
| 第 9 表 中ノ迫第 2 遺跡石器観察表(2) | 9 3 | 第 19 表 中ノ迫第 2 遺跡石器観察表(4) | 1 0 2 |
| 第 10 表 中ノ迫第 2 遺跡石器観察表(3) | 9 4 | | |

図版目次

| | | | | |
|---|-------|--|-----------------|-------|
| 図版 1 樹種同定炭化材 | 1 0 3 | 図版 14 後期旧石器時代Ⅱ期石器 | 72~88・89~97 | 1 1 6 |
| 図版 2 後期旧石器時代Ⅱ期礫群 SI 1~8 | 1 0 4 | 図版 15 後期旧石器時代Ⅱ期石器 | 98~123・124~131 | 1 1 7 |
| 図版 3 縄文時代早期集石遺構Ⅰ類 SI 7・12・32・38 | 1 0 5 | 図版 16 後期旧石器時代Ⅱ期石器 132~134 縄文時代早期土器 135~153 | | 1 1 8 |
| 図版 4 縄文時代早期集石遺構Ⅱ類 SI 2・3・5・8~10・13・14 | 1 0 6 | 図版 17 縄文時代早期土器 | 154~173・174~186 | 1 1 9 |
| 図版 5 縄文時代早期集石遺構Ⅱ・Ⅲ類 SI 18・23~27・29・31・33 | 1 0 7 | 図版 18 縄文時代早期土器 | 187~197・198~200 | 1 2 0 |
| 図版 6 縄文時代早期集石遺構Ⅱ・Ⅲ類 SI 37・1・4・15~17・19 | 1 0 8 | 図版 19 縄文時代早期土器 | 201・202・203~216 | 1 2 1 |
| 図版 7 縄文時代早期集石遺構Ⅲ類 SI 20~22・28・30・34~35 | 1 0 9 | 図版 20 縄文時代早期石器 | 217~264・265~307 | 1 2 2 |
| 図版 8 縄文時代早期集石遺構Ⅲ類 SI36 縄文時代早期炉穴 SP1 縄文時代早期土坑 SC1 縄文時代早期SI12・38周辺散礫 G11グリッド(Ⅲ層)遺物検出 A区(Ⅲ層)作業風景 弥生時代竪穴住居跡 SA1 | 1 1 0 | 図版 21 縄文時代早期石器 | 308~311・312~315 | 1 2 3 |
| 図版 9 弥生時代竪穴住居跡 SA1・2 時期不明土坑 SC1 時期不明遺構 SZ1 | 1 1 1 | 図版 22 縄文時代早期石器 | 316~325・326~333 | 1 2 4 |
| 図版 10 確認調査出土遺物 1~6 後期旧石器時代Ⅰ期石器 7~10 | 1 1 2 | 図版 23 縄文時代早期石器 | 334~338・339~342 | 1 2 5 |
| 図版 11 後期旧石器時代Ⅱ期石器 接合資料1(11~23)・2(24~33) | 1 1 3 | 図版 24 縄文時代早期石器 343~345 弥生時代SA1出土遺物 346~352 | | 1 2 6 |
| 図版 12 後期旧石器時代Ⅱ期石器 接合資料3(34~45)・4(46~52) | 1 1 4 | 図版 25 弥生時代SA1出土遺物 353~358 弥生時代SA2出土遺物 359~363 | | 1 2 7 |
| 図版 13 後期旧石器時代Ⅱ期石器 接合資料5(53~57)・6(58・59) 60~71 | 1 1 5 | 図版 26 弥生時代SA2出土遺物 364~375・376~380 | | 1 2 8 |
| | | 図版 27 弥生時代SA2出土遺物 381~384 弥生時代包含層等出土土器 385~388 時期不明SC1出土土器 389 | | 1 2 9 |

第 I 章 はじめに

第 1 節 調査に至る経緯

東九州自動車道（都農～西都間）は、平成元年2月に基本計画がなされ、平成9年3月には整備計画路線となっている。さらに、平成9年12月に建設大臣（現国土交通大臣）から日本道路公団へ施行命令が出され、公団では翌年の2月から事業に着工している。その間、県教育委員会では、平成6年度に延岡～西都間の遺跡詳細分布調査を行い、それに基づき埋蔵文化財の保護について関係機関と協議を重ねた結果、工事施工によって影響が出る部分については、工事着手前に発掘調査を実施することとなった。調査は、平成11年度から県教育委員会が日本道路公団の委託を受け、宮崎県埋蔵文化財センターで行っている。

本遺跡の確認調査は2回に分けて行われた。一次が平成13年10月15日～11月30日、二次が平成17年2月16日～3月18日に実施された。その結果、縄文時代のものと思われる集石遺構が検出され、後期旧石器時代、縄文時代早期の遺物が出土した。これらの確認調査の結果をもとに、全調査対象面積を19,130㎡として、平成17年6月9日～平成18年3月30日まで本調査を実施した。整理作業は平成17年11月から実施し、平成19年度に終了した。

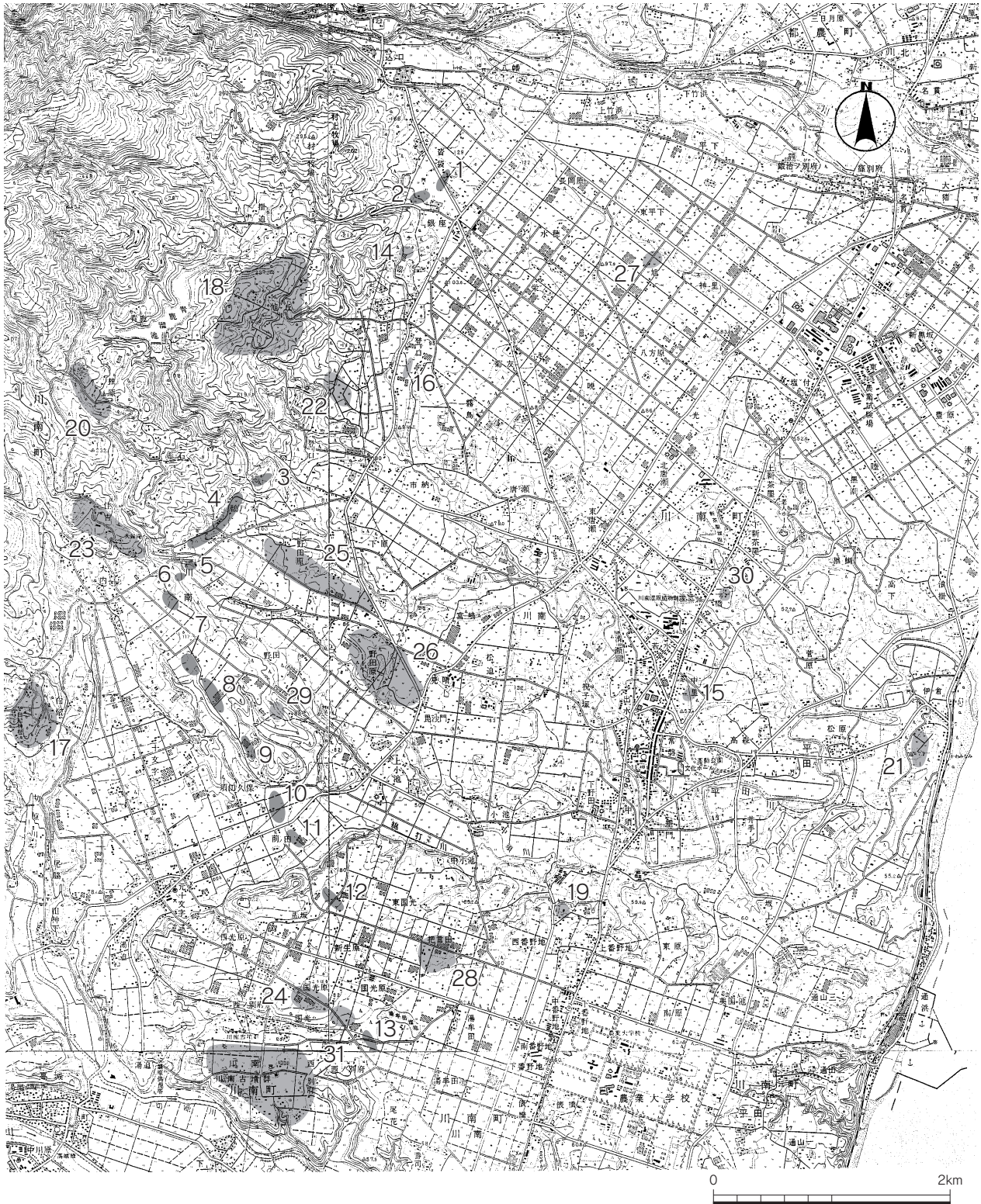
調査終了後、平成19年2月3日に、同じ川南町内の中ノ迫第3遺跡、登り口第1遺跡、登り口第2遺跡、市納上第2遺跡と合同で調査報告会を行い、117名の参加を得た。

第 2 節 調査の組織

調査主体 宮崎県教育委員会
宮崎県埋蔵文化財センター
所 長 宮園 淳一（平成17年度）
清野 勉（平成18・19年度）
副所長 加藤 悟郎（平成18・19年度）
副所長兼調査第二課長
岩永 哲夫（平成17・18年度）
総務課長 宮越 尊（平成17～19年度）

調査第一課長
高山 富雄（平成17・18年度）
長津 宗重（平成19年度）
主幹兼総務係長
石川 恵史（平成17年度）
主幹兼総務担当リーダー
高山 正信（平成18・19年度）
調査第一課
主幹兼調査第一係長
長津 宗重（平成17年度）
主幹兼調査第一担当リーダー
長津 宗重（平成18年度）
副主幹兼調査第一担当リーダー
南中道 隆（平成19年度）
主幹兼調査第二係長
菅付 和樹（平成17年度）
主幹兼調査第二担当リーダー
菅付 和樹（平成18・19年度）
（調査・報告書担当）
主事 佐竹 智光（平成17～19年度）
（調査担当）
調査第一課調査第一担当
主査 大山 博志（平成17年度）
調査第一課調査第二担当
主査 長友 久昭（平成17年度）
主査 島木 良浩（平成17年度）

調査指導委員（敬称略）
泉 拓良（京都大学）
小畑 弘己（熊本大学）
田崎 博之（愛媛大学）
広瀬 和雄（国立歴史民俗博物館）
本田 道輝（鹿児島大学）
柳沢 一男（宮崎大学）



- | | | | | |
|--------------|-----------|-----------|------------|--------------|
| 1 銀座第1遺跡 | 2 銀座第2遺跡 | 3 虚空蔵免遺跡 | 4 赤石・天神本遺跡 | 5 天神本第2遺跡 |
| 6 大内原遺跡 | 7 中ノ迫第1遺跡 | 8 中ノ迫第2遺跡 | 9 中ノ迫第3遺跡 | 10 前ノ田村上第1遺跡 |
| 11 前ノ田村上第2遺跡 | 12 赤坂遺跡 | 13 湯牟田遺跡 | 14 藏座村遺跡 | 15 後牟田遺跡 |
| 16 霧島遺跡 | 17 白鬚遺跡 | 18 旭ヶ丘遺跡 | 19 番野地C遺跡 | 20 椎原遺跡 |
| 21 大久保遺跡 | 22 谷ノ口遺跡 | 23 住吉B遺跡 | 24 上ノ原遺跡 | 25 丸山西原遺跡 |
| 26 松ヶ迫遺跡 | 27 東平下遺跡 | 28 把言田遺跡 | 29 中ノ迫A遺跡 | 30 野稲尾遺跡 |
| 31 川南古墳群 | | | | |
- ※1～12は東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う発掘調査遺跡

第1図 周辺遺跡位置図 (1/50,000)

第Ⅱ章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

川南町は、日向灘を望む宮崎県北東部に位置し、北は都農町、西は木城町、南は高鍋町に接している。町北西部には、上面木山（1,040m）を中心とする尾鈴山系が連なり、その東麓から小丸川や平田川、中須川、名貫川によって形成された平坦な14面の段丘が広がる。町内では北から大きく唐瀬原・国光原・川南・高城の4面に分かれている。

中ノ迫第2遺跡は、大内・大内原・須田久保に広がる舌状台地（唐瀬原段丘面）の縁辺部標高100m前後に立地し、南方には小丸川支流の切原川が流れ、十文字扇状地Ⅱ面が広がる。遺跡周辺には同台地上に、北に中ノ迫第1遺跡、南に中ノ迫第3遺跡、南東側に中ノ迫A遺跡、南の扇状地に前ノ田村上第1・第2遺跡が分布する。

第2節 歴史的環境

本遺跡の調査では、後期旧石器時代、縄文時代早期、弥生時代の遺構・遺物を確認した。そこで、同時代の中ノ迫第2遺跡周辺遺跡について概観する。

川南町は、山地とその東麓から海岸に広がる平坦な段丘面からなっており、各時代の遺跡の多くは段丘上に位置している。

（後期旧石器時代）

この時代の代表として、川南段丘面に位置し、始良Tn火山灰層（AT）下位～霧島イワオコシ上位の石器群が出土した後牟田遺跡が挙げられる。また、最近の調査では、中ノ迫第1・第3遺跡、前ノ田村上第2遺跡等でナイフ形石器や角錐状石器と共に礫群が検出されている。

（縄文時代）

当初、川南町における縄文時代は、後の時代に比べ非常に少なかったが、後牟田遺跡、霧島遺跡、上ノ原遺跡等において早期の遺構・遺物が確認されると共に、近年の東九州自動車道建設による調査により、次第にその数を増加させている。赤石・天神本遺跡や前ノ田村上第2遺跡、国光原遺跡で草創期の隆帯文土器が、市納上第2遺跡や尾花坂上遺跡、中ノ迫第3遺跡、国光原遺跡では数多くの集石遺構と共に、早期の押型文土器等が出土し

ている。また、赤石・天神本遺跡では、後・晩期の竪穴住居跡が検出されている。

（弥生時代）

弥生時代の遺跡は、旧石器時代や縄文時代の遺跡と比べて数多く調査されている。それは東九州自動車道関連の遺跡においても同様で、赤坂遺跡では円形周溝墓や周溝状遺構が、尾花A遺跡では古墳時代前期までを含めた300軒以上の竪穴住居跡が検出されるなど大規模集落の様相を見せるものを中心に、発掘調査を行った遺跡のほとんどで弥生時代の遺構・遺物が検出されている。

【引用参考文献】

『川南町史』1983 川南町教育委員会

『川南町の埋蔵文化財』遺跡詳細分布調査報告書 1983 川南町教育委員会

『後牟田遺跡』宮崎県川南町後牟田遺跡における旧石器時代の研究 2002 川南町教育委員会 後牟田遺跡調査団

「東九州自動車道（都農～西都間）関連埋蔵文化財発掘調査概要報告書Ⅵ」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第131集 2006 宮崎県埋蔵文化財センター

第三章 調査の経過と方針

第1節 確認調査の概要

中ノ迫第2遺跡は、20,300㎡を測る。調査面積を確定するため、平成13年から二度に渡って確認調査を行った。

一次確認調査は、平成13年10月15日～11月30日、面積5,800㎡を対象に、12本のトレンチ（720㎡）を設定して行った。調査区が町道により2箇所に分かれているため、北側をA区（本調査時B区南側）、南側をB区（本調査時C区北側）とした。トレンチは、各区に6本ずつ設定した。

A区では、T1、T2のMB0から貝殻条痕文を含む土器片、Kr-Kbから黒曜石が出土した。T3ではKr-Kbから剥片が出土した。T4ではMB0から黒曜石やチャート、土器片が出土すると共に、焼礫の集まりが検出されている。T5ではMB0から山形押型文を含む土器片や剥片が出土した。T6ではMB0から土器片やチャート、黒曜石、Kr-KbとMB2から剥片が出土した。

B区では、T1でKr-Kbから黒曜石、MB2からチャート剥片が出土した。T2、T3では、MB0から剥片や土器片が、Kr-Kbから石核や剥片が出土している。T4ではMB0からチャート剥片や貝殻条痕文を含む土器片が出土すると共に、集石遺構と思われる礫の集まりが検出されている。T5ではMB0から剥片や土器片が、Kr-Kbから剥片が出土した。T6ではMB0からチャートや黒曜石、土器片が、Kr-Kbからスクレイパー（第3図1）や剥片が出土した。

二次確認調査は、平成17年2月16日～3月18日、面積14,500㎡を対象に、11本のトレンチ（340㎡）を設定して行った。調査区は3つに分かれており、トレンチはそれぞれに3～4本ずつ設定された。最も北の区（本調査時A区）にはT1～T4があり、T1ではMB0で石鏃の一部（第3図6）、ML1で剥片が出土した。T2ではMB0・ML1で石鏃（第3



第2図 周辺地形及び確認調査トレンチ位置図（1/4,000）

図2・3・5)が出土した。またT3ではML1で剥片が、T4ではMB0で剥片と共に集石遺構が検出されている。

その南側の区(本調査時B区北側)にはT5~T7があり、T5では何もみつからなかったが、MB0からML3までの土層を確認している。T6ではMB0~ML1で、剥片と共に集石遺構が検出されている。T7ではML1で姫島産黒曜石製の石鏃(第3図4)が出土している。

最も南の区(本調査時C区南側)にはT8~T11があり、T8の一部でKr-Kbを含む層より上が、T9の一部でML1より上が削平されていた。T8では何もみつからなかった。T9、T10ではKr-Kbを含む層で剥片が出土すると共に、T10ではMB0で集石遺構を検出。T11ではML1から剥片が出土したのみであった。

一連の確認調査の結果、遺跡面積20,300㎡のうち、確認調査によるトレンチ等の面積を除外した19,130㎡を調査面積として設定した。

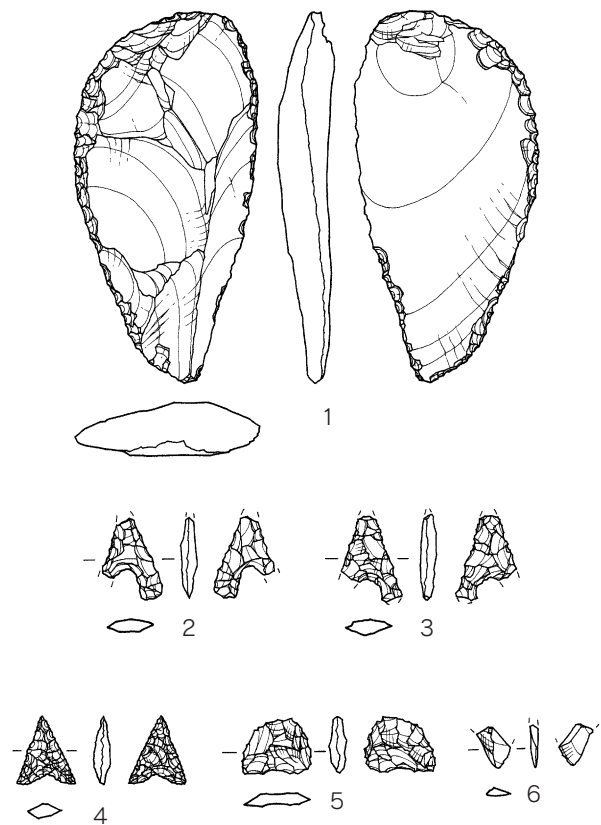
第2節 発掘調査の方法・概要

調査の経過

調査は、平成17年6月9日~平成18年3月30日まで実施した。本調査区は、緩やかに南に下っている。かつては畑地として利用されており、期間中も、調査区東隣では畑作と養鶏が行われていた。

調査区内には町道が走っており、これを境として北からA~C区、西側をD区とした。始めに、B区に国土座標軸に準じ、南北に14~27、東西にG~Oの10m×10mの大グリッドを設定した。さらにそれを4分割して5m×5mの小グリッドを設定した(小グリッドは、大グリッド内の北西側を1、北東側を2、南西側を3、南東側を4と表記する)。そこで、まず大グリッド中の対角にある小グリッド2箇所を掘削し、遺構・遺物の出土状況によって周囲へ掘削を広げていく方法をとった。また、調査開始前にD区とA区の一部で、ブッシュチョッパーを用いて雑木の除去を行った。調査は、排土置き場を確保しつつ、B区→C・D区→A区の順に行った。

B区は、表土剥ぎを行いK-Ah(II層)の残存状況を記録した後、遺構精査を行ったが、確認でき



第3図 確認調査出土遺物実測図(1/2)

たのは近年の耕作による攪乱のみであった。また、確認調査時のトレンチを重機を用いて掘削し、土層の確認を行った。K-Ah(II層)除去後、中央付近から掘削を開始し、MB0(III層)で集石遺構3基、石鏃等の石器と一部それに重なる場所からチップが集中して出土した。Kr-Kbを含む層(V層)で礫群を3基検出した。B区は、南半分のMB2~3(IXa・b層)を先に調査し、埋め戻しを行った後、北半分のMB2~3(IXa・b層)の調査とC・D区の調査を、一部並行して行った。

C区は、北半分がML1(IV層)まで削平されていたため、小グリッドに沿ってL字形に1m幅のトレンチを設定し、遺物の出土がみられた周囲を広げる方法をとった。集石遺構は、北側のKr-Kbを含む層(V層)で、削平を受けたと見られるものが1基、南側MB0(III層)で1基検出された。南側Kr-Kbを含む層(V層)では、角錐状石器が数点まとまって出土し、礫群が1基検出された。

D区はそのほとんどが斜面地であるため、なるべく平坦な場所を選び、調査区南西の一角を掘削した。調査は、重機を用いて2 m×3 mの先行トレンチを2箇所を開け、土層を確認した後掘削を開始した。K-Ah (II層) 直下で、長方形に並ぶ時期不明の石の列 (SZ1) が検出された。また、MB0 (III層) で集石遺構が5基検出され、そのうち1基 (SI8) は長径2 mを測る大型のものであった。Kr-Kbを含む層 (V層) 以下は堆積状況が悪く、遺構・遺物共に確認できなかつたため、先行トレンチによる確認のみで終了した。

A区は、C・D区の調査と一部並行して排土をB区へ埋め戻し、表土剥ぎを行った。その後、調査区南東端に先行トレンチを開け、土層の確認を行った。堆積状況は良好で、本遺跡の基本土層が全て確認できた。MB0(III層)で集石遺構を26基検出し、遺物も他の区に比べて多く出土した。現場事務所をB区へ移設した後、調査区北側の現場事務所を設置していた場所の表土剥ぎを行った所、K-Ah (II層) 上面で弥生時代の竪穴住居跡を2軒検出した。Kr-Kbを含む層 (V層) 以下は、大グリッドに沿って2 m幅のトレンチを設定し、遺構・遺物の確認状況によって周囲へ広げる形をとった。その結果、礫群が4基、角錐状石器等を含む石器ブロック1箇所が検出された。始良Tn火山灰下位のMB2~3 (IXa・b層) では、剥片数点が出土した。

〈日誌抄〉；平成17年6月～平成18年3月

- 6月20日 発掘調査開始
- 7月 4日 B区MB0グリッド掘り開始
- 8月 2日 SI1実測
- 8月11日 B区空撮実施
- 9月 7日 SP1検出
B区Kr-Kbグリッド掘り開始
- 9月15日 礫群1を検出
- 9月21日 B区MB2・3グリッド掘り開始
D区MB0グリッド掘り開始
- 10月17日 SI8検出
- 10月20日 C区MB0グリッド掘り開始
- 11月 1日 現場での整理作業開始

- 11月 8日 C・D区空撮実施
- 11月15日 C区Kr-Kbグリッド掘り開始
- 11月17日 C区MB2・3トレンチ掘り開始
- 11月21日 礫群4を検出
- 11月21日 A区MB0グリッド掘り開始
- 12月 1日 SI12及び散礫検出
- 12月 5日 現場事務所を移設
- 12月14日 SA1・2検出
- 1月17日 A区空撮実施
- 1月21日 A区Kr-Kbグリッド掘り開始
- 2月 1日 礫群5を検出
- 2月10日 角錐状石器を含む石器ブロック検出
- 2月22日 A区MB2・3グリッド掘り開始
- 3月15日 掘削終了
- 3月27日 埋め戻し終了

第3節 整理作業及び報告書作成

平成17年11月1日より、調査と並行して現場で整理作業を開始した。現場では出土遺物の水洗、集石遺構構成礫の計測と接合を行った。平成18年7月より、川南整理作業棟で礫群構成礫の計測と接合を行った。平成18年4月からは、埋蔵文化財センターにおいて注記・接合等を開始し、平成19年5月に終了した。それと平行して報告書作成を行い、平成19年10月に終了した。

第4節 遺構・石材に対する基本的な考え方

1 遺構

(1) 礫群

旧石器時代で、礫に一定のまとまりが見られるもの。また、まとまりが散漫であっても、周辺には礫が見られないような状況にあるもの。

本調査の結果、8基が検出された。

(2) 集石遺構

縄文時代で、礫に一定のまとまりが見られるもの。赤化しているものも多い。

本調査の結果、37基が検出された。

(3) 散礫

重なりを持たない礫の集まり。主に集石遺構の周辺に見られる。

(4) 遺物集中区（石器ブロック）

本遺跡でいう遺物集中区は、石器製品や剥片、土器片等が集中して出土する場所を指す。

本調査の結果、石器ブロックが1箇所検出された。

(5) 炉穴

楕円形をした土坑の底面に、焼土が比較的多く検出されたものを炉穴とした。

本調査の結果、1基が検出された。

2 石材及び石材種

中ノ迫第2遺跡から出土した石器に用いられている石材の中で、細分類をおこなったものについて、その略称と分類基準を記す。

(1) チャート類 (Ch)

色調から4種類に分かれる。

Ch1：白色

Ch2：青色

Ch3：黒色

Ch4：赤色

本文中等で、単に「チャート類」と表記した場合、Ch1～4の全てを含む場合がある。

(2) ホルンフェルス (H)

肉眼での観察により2種類に分かれる。

H1：暗青灰色。網目状に鉄錆色（赤褐色）が入るものがある。

H2：その他。黄色・灰色・白色・黒褐色・赤褐色のものがある。

(3) 黒曜石 (Ob)

産地の違いにより3種類に分かれる。

Ob1：黒色。透光性は高く、強い光沢をもつ。僅かに白色の不純物を含む。肉眼による同定から、桑ノ木津留産と思われる。

Ob2：黒色。透光性は低く、薄い部分でもほとんど光りを透さない。ロウ状でにぶい光沢をもつ。全体に白い縞が入る。肉眼による同定から、小国産と思われる。

Ob3：灰白色。透光性は高い。内部に赤色鉱物を含むものがある。肉眼による同定から、姫島産と思われる。

その他の石材についても、本文・表・分布図中等で次の略称を使用することがある。

流紋岩 : Ryu

頁岩 : Sh

砂岩 : Sa

尾鈴山酸性岩類 : Oz

サヌカイト : Sn

第Ⅳ章 発掘調査の記録

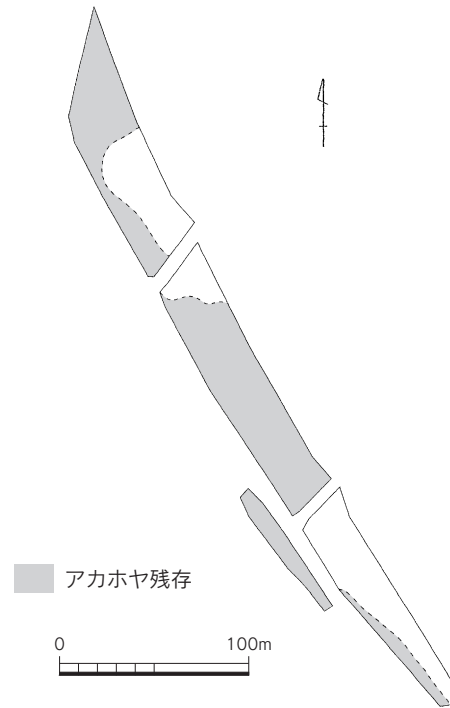
第1節 基本層序

中ノ迫第2遺跡は確認調査の結果、川南町内における標準的な層序を示していることが判明した。本遺跡では、耕作による削平のため、A・B区の一部で鬼界アカホヤ（K-Ah）が、C区の一部で小林軽石（Kr-Kb）を含む層より上層が消失していたが、それ以外は斜面側を除けば堆積状況は良好であった。本調査では、これをⅠ～Ⅹ層に分けた。

鍵層としては、Ⅱ層の鬼界アカホヤ〔K-Ah〕（約7,300年前）、Ⅴ層の小林軽石〔Kr-Kb〕を含む層（約16,700年前）、Ⅷ層の始良Tn火山灰〔AT〕（約27,000年前）である。

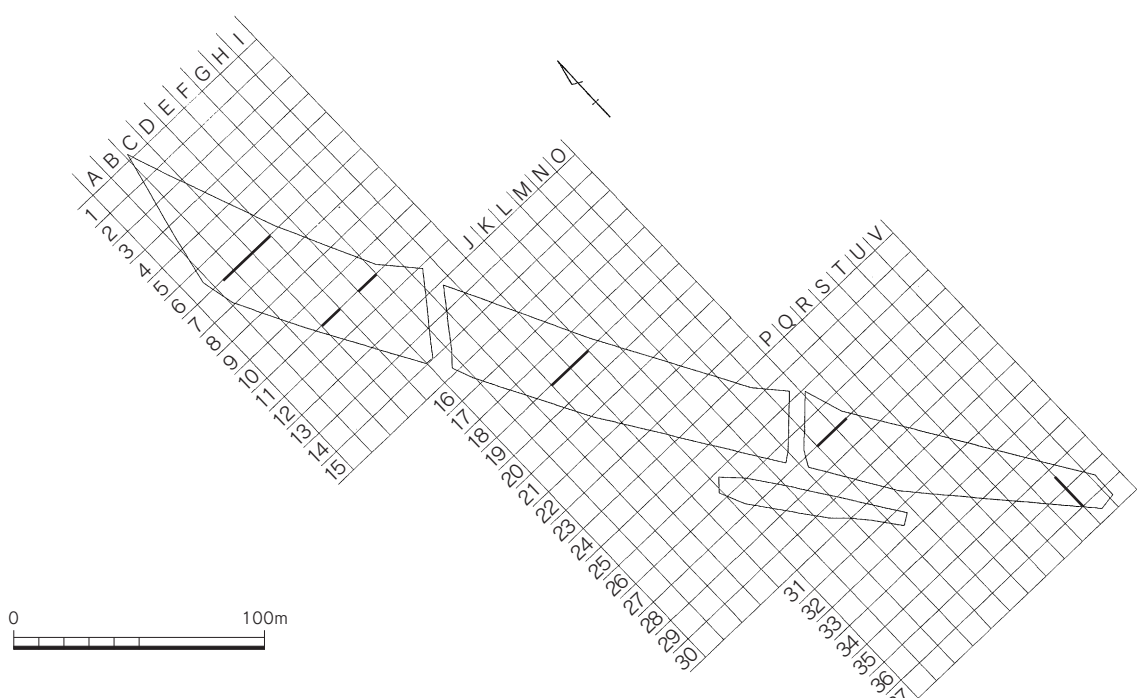
本遺跡の遺構・遺物包含層は、Ⅱ層（K-Ah）上面検出の弥生時代、Ⅲ～Ⅳ層（黒褐色土）の縄文時代早期、Ⅴ～Ⅵ層（暗褐色土）、Ⅸ層（黒褐色土）の後期旧石器時代にそれぞれ該当する4枚である。

以下に、本遺跡の基本土層及びその詳細を挙げる。

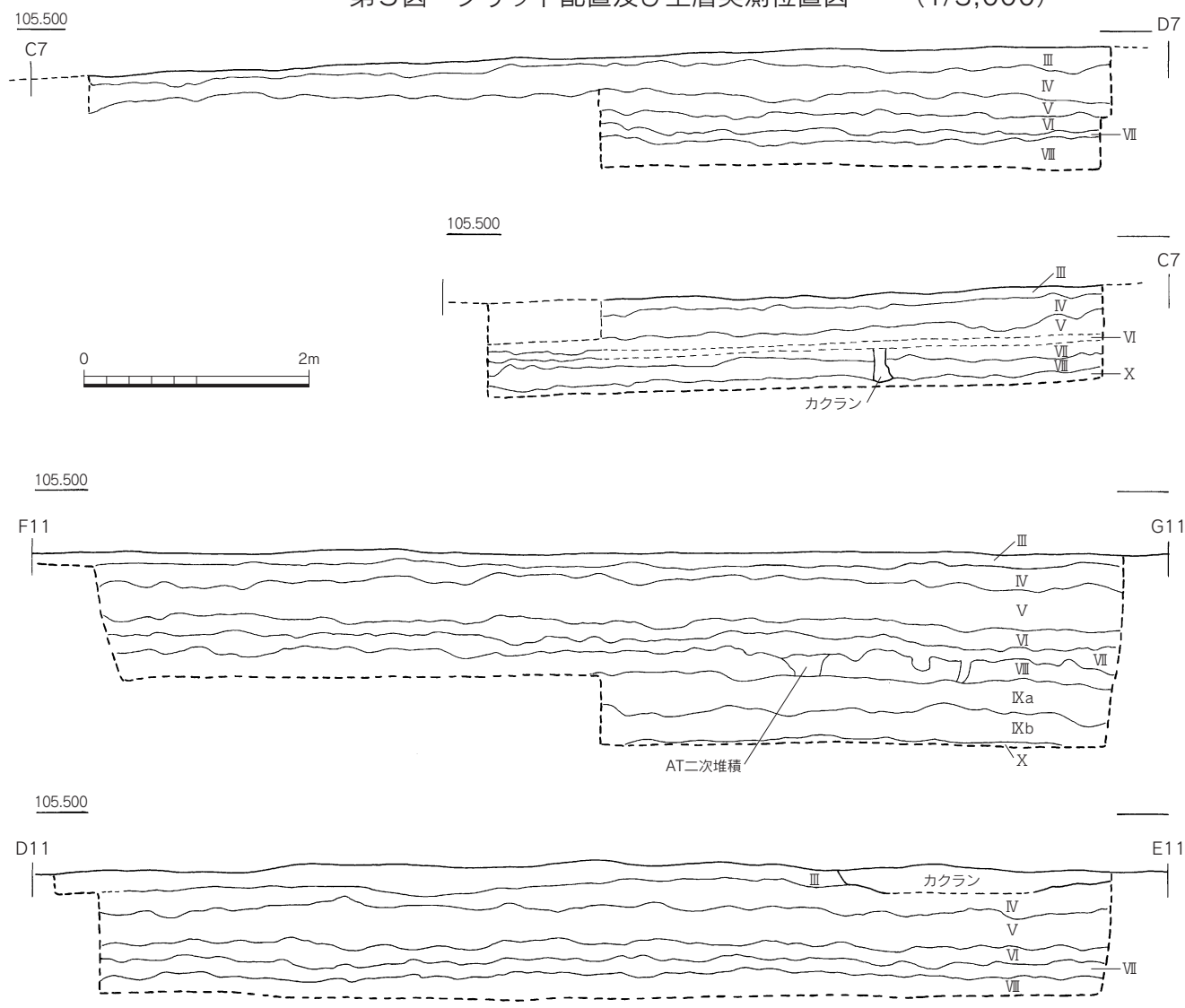


第4図 K-Ah 残存範囲図 (1/4,000)

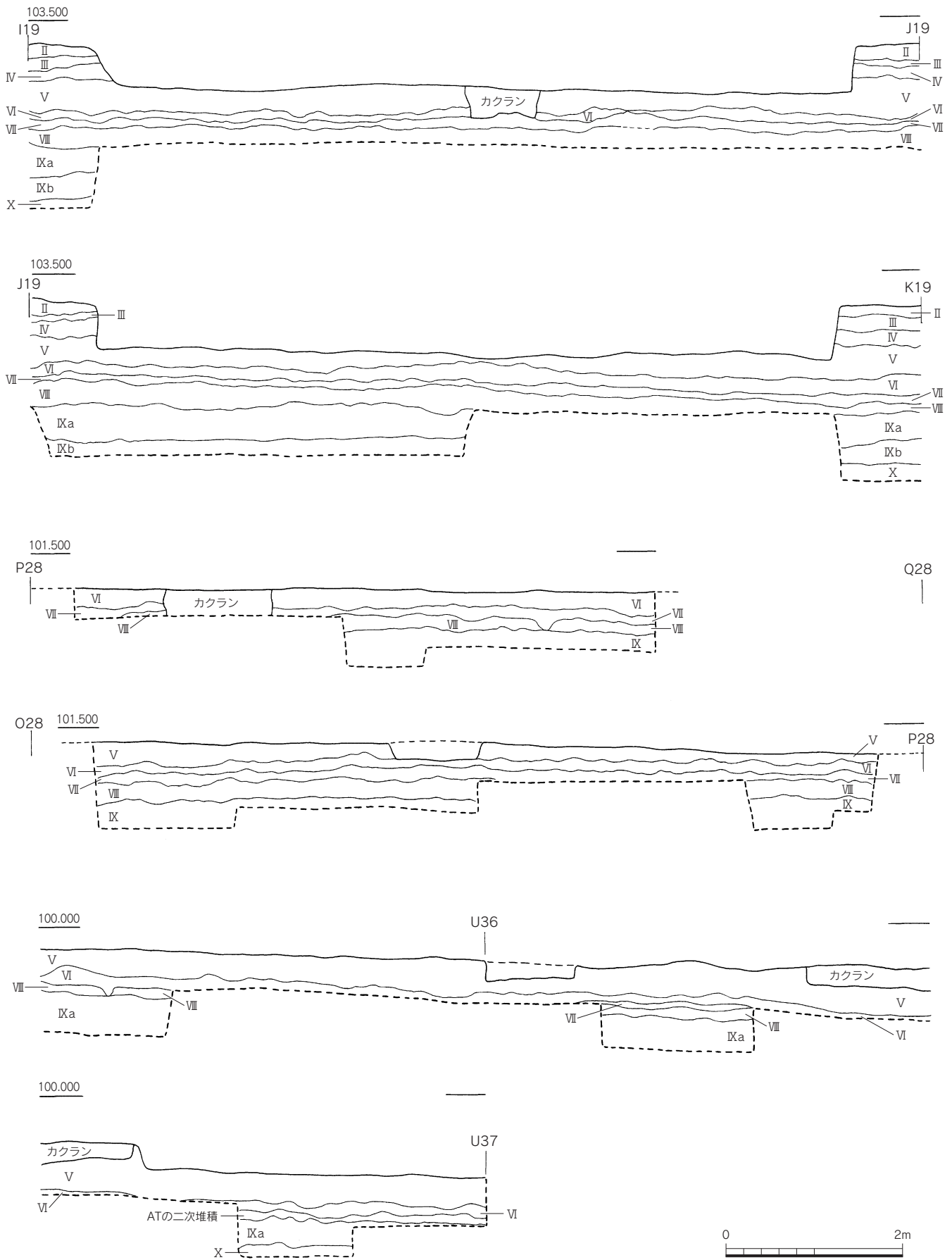
| | | |
|-----|-----------|---|
| Ⅰ層 | 表土 | 耕作土 |
| Ⅱ層 | 鬼界アカホヤ火山灰 | K-Ah 黄橙色 (Hue10YR7/8) 土 しまり無し。軟質。 |
| Ⅲ層 | MB0 | 黒褐色 (Hue10YR3/1) 土 しまり無し。やや軟質。 乾燥すると非常に固くなる。 |
| Ⅳ層 | ML1 | 暗褐色 (Hue10YR3/3) 土 しまり無し。やや軟質。 |
| Ⅴ層 | Kr-Kbを含む層 | 褐色 (Hue10YR4/6) 土 僅かにしまりあり。軟質。 粘性あり。φ約1mmの明褐色粒 (Kr-Kb) を僅かに含む。 |
| Ⅵ層 | MB1 | 暗褐色 (Hue10YR3/3) 土 しまりあり。やや硬質。 φ約1cmの黒褐色のブロックを含む。 |
| Ⅶ層 | ML2 | 暗オリーブ褐色 (Hue2.5YR3/3) 土 しまりあり。やや硬質。 |
| Ⅷ層 | 始良Tn火山灰 | AT 明黄褐色 (Hue10YR6/8) 土 しまり無し。軟質。 |
| Ⅸa層 | MB2 | 黒褐色 (Hue2.5YR3/1) 土 固くしまる。硬質。 φ1mm以下の白色鉱物粒を含む。乾燥するとブロック状に崩れる。 |
| Ⅸb層 | MB3 | 黒褐色 (Hue2.5YR3/2) 土 固くしまる。硬質。 乾燥するとブロック状に崩れる。 |
| Ⅹ層 | ML3 | 黄褐色 (Hue10YR5/8) 土 固くしまる。やや硬質。 粘性あり。φ1mm以下の白色、橙色、黒色粒子を含む。 |



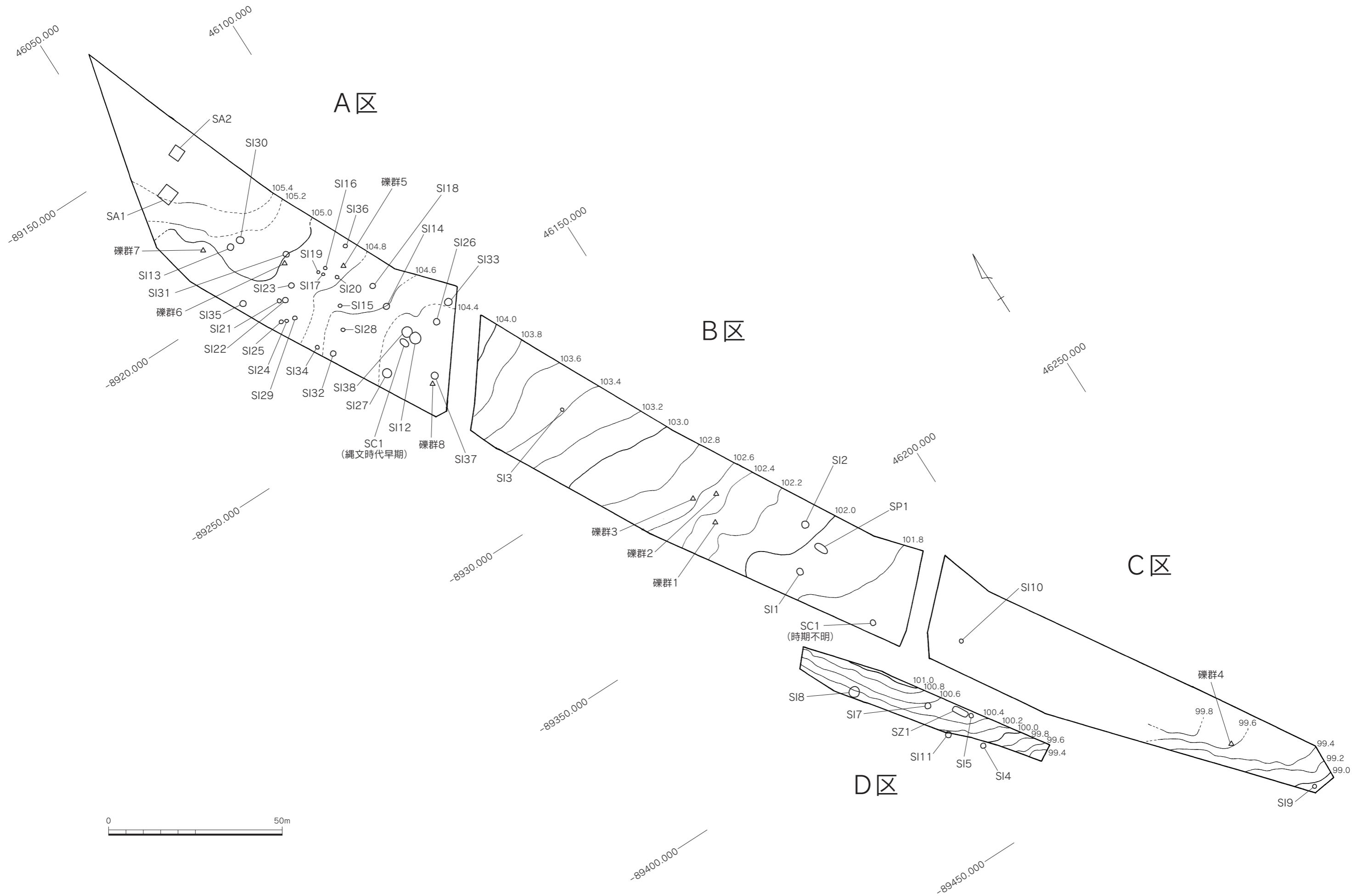
第5図 グリッド配置及び土層実測位置図 (1/3,000)



第6図 調査区土層実測図(1)(1/60)



第7図 調査区土層実測図 (2) (1/60)



第8図 全遺構分布図 (1/1,000)

※標高 (m) はMB0 (Ⅲ層) 上面のもの

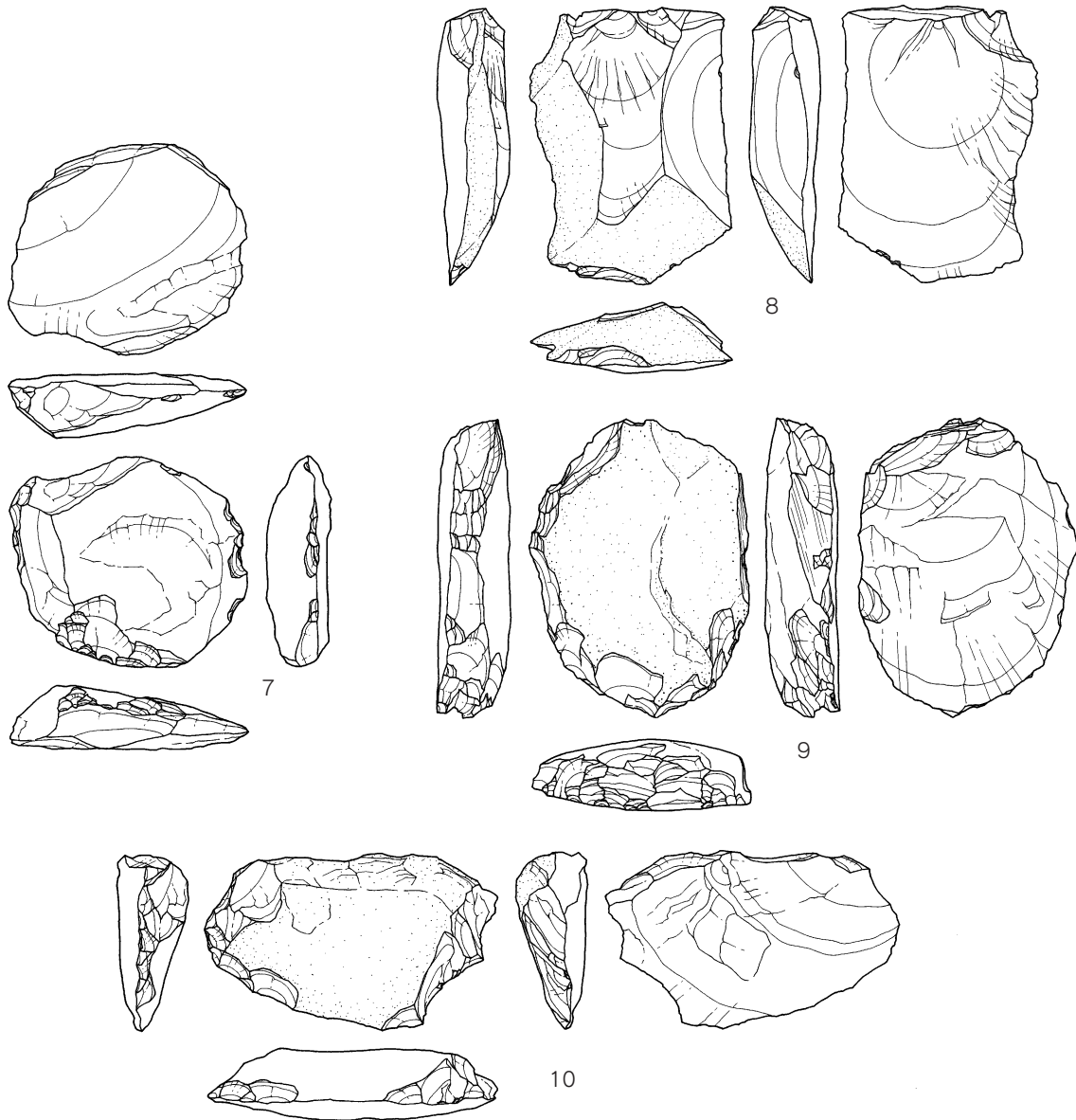
第2節 遺構と遺物

中ノ迫第2遺跡は、南北に細長い形をしているが、この中の遺構・遺物の分布は一定ではなく、どの時期にも偏りが見られた。いずれの時期も、北側のA区が遺構・遺物共に数多く確認された。以下に、確認された遺構・遺物を時代別に掲載する。

(1) 後期旧石器時代 I 期の遺物

後期旧石器時代の遺構・遺物は、AT (Ⅷ層) を境として、その上位と下位の二つの時期に分けることができる。

後期旧石器時代 I 期は、AT (Ⅷ層) 下位のMB2・3 (IXa・b層) にあたり、遺構は検出されなかった。遺物はホルンフェルス (H2) の剥片のみで、4点 (第9図7~10) を図化した。これらは、A区南西部 (D12・E12グリッド) のMB2 (IXa層) とMB3 (IXb層) の境目付近から出土しており、いずれも剥片の周囲に荒い調整が施されている。



第9図 後期旧石器時代 I 期石器実測図 (1/2)

(2) 後期旧石器時代II期の遺構・遺物

後期旧石器時代II期は、Kr-Kbを含む層（V層）を中心とした層で遺構・遺物が確認された。遺構としては礫群8基、石器ブロック1箇所を検出し、遺物では角錐状石器等の多様な石器が出土している。

1 礫群（第11～12図）

A区に4基、B区に3基、C区に1基の合計8基が検出された。SI1・2は礫が散漫であるが、その周囲からは礫が検出されないことから範囲を絞り、礫群と認定した。SI3～8は、直径約1mの範囲内に礫が集中するものであった。いずれも掘り込みは無く、礫が平面的に広がるのみであった。礫群の構成礫は、全て尾鈴山酸性岩類である。

SI1（第11図）

B区検出。直径約5mの範囲に礫が散漫に散らばる。礫の数は26個。総重量は約30.9kg。

SI2（第11図）

B区検出。直径約5mの範囲に礫が散漫に散らばる。礫の数は23個。総重量は約9.6kg。

SI3（第12図）

B区検出。礫が直径約1mの範囲に集中し、周囲にも礫が散在している。礫の数は39個。総重量は約15.1kg。

SI4（第12図）

C区検出。礫が直径約0.8mの範囲に集中する。礫の数は45個。総重量は約5.4kg。

SI5（第12図）

A区検出。礫が直径約1mの範囲に集中する。礫の数は41個。総重量は約19.0kg。

SI6（第12図）

A区検出。礫が直径約1mの範囲に集中する。礫の数は53個。総重量は約13.7kg。

SI7（第12図）

A区検出。礫が直径約0.6mの範囲に集中する。礫の数は60個。総重量は約12.1kg。

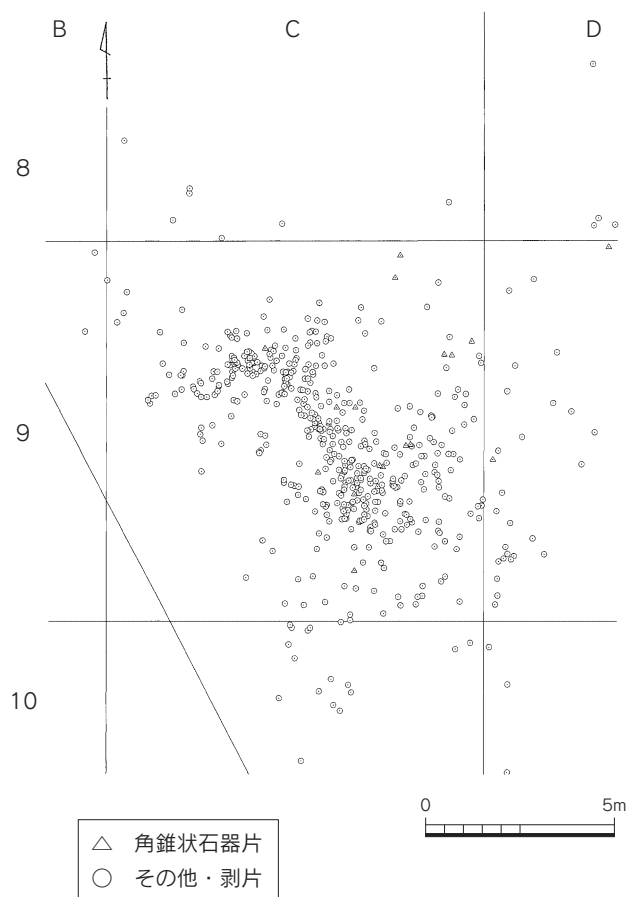
SI8（第12図）

A区検出。礫が直径約0.5mの範囲に集中する。礫の数は16個。総重量は約6.4kg。

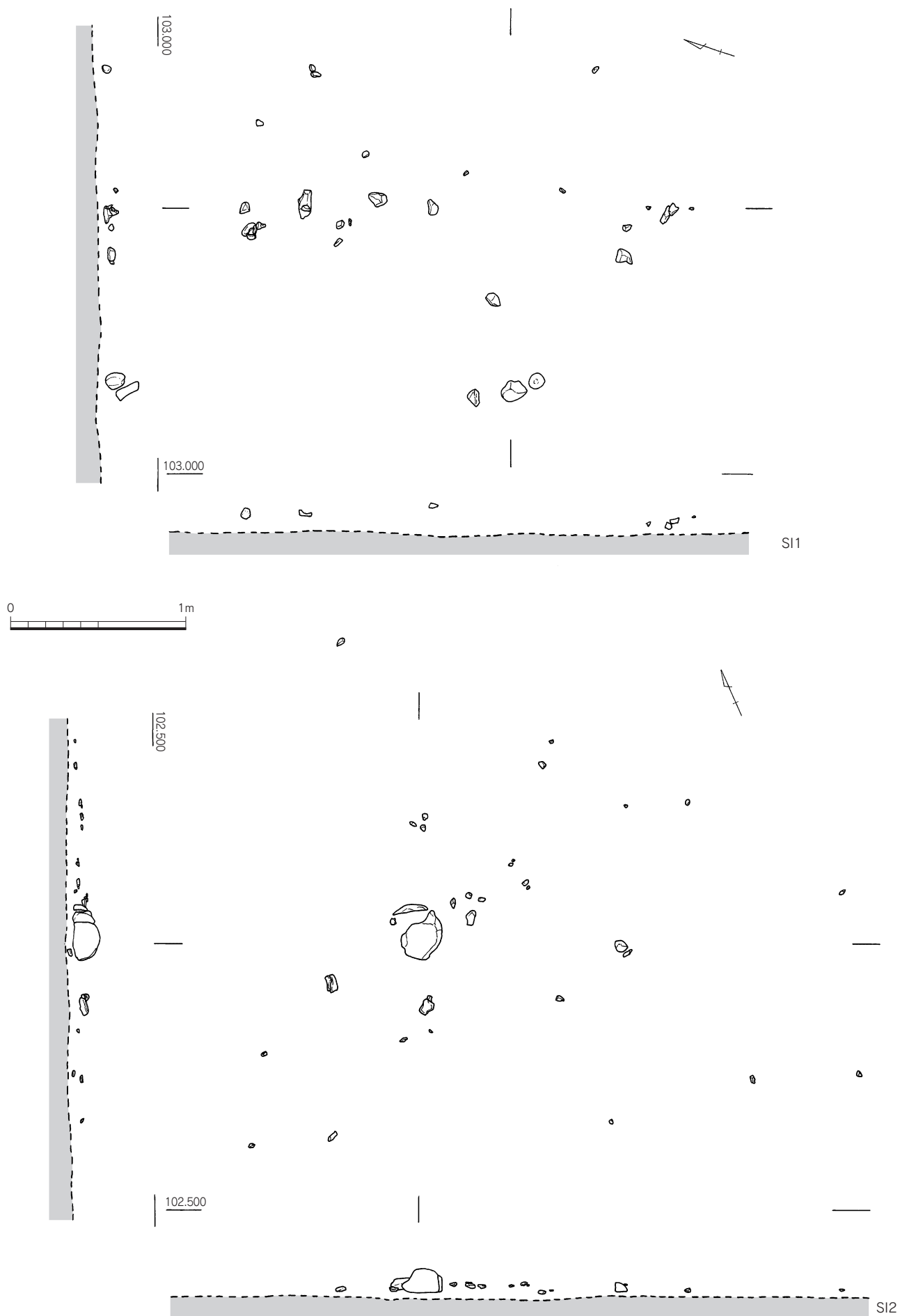
2 石器ブロック（第10図）

A区C9グリッドを中心とした直径約8mの範囲に、角錐状石器片17点（後に接合したものもある）を含む石器ブロックが検出された。遺物数はC9グリッド内で478点。角錐状石器以外にも、細石刃、細石刃核、敲石、磨石、剥片等が出土している。これを石材の面から見てみると、最も多いのがホルンフェルスで369点を数え、次いでチャート類45点、流紋岩37点、砂岩7点等となっている。この中で、特徴的なものとしてあげられるのが、ホルンフェルスの中でも「H1」とされるものである。

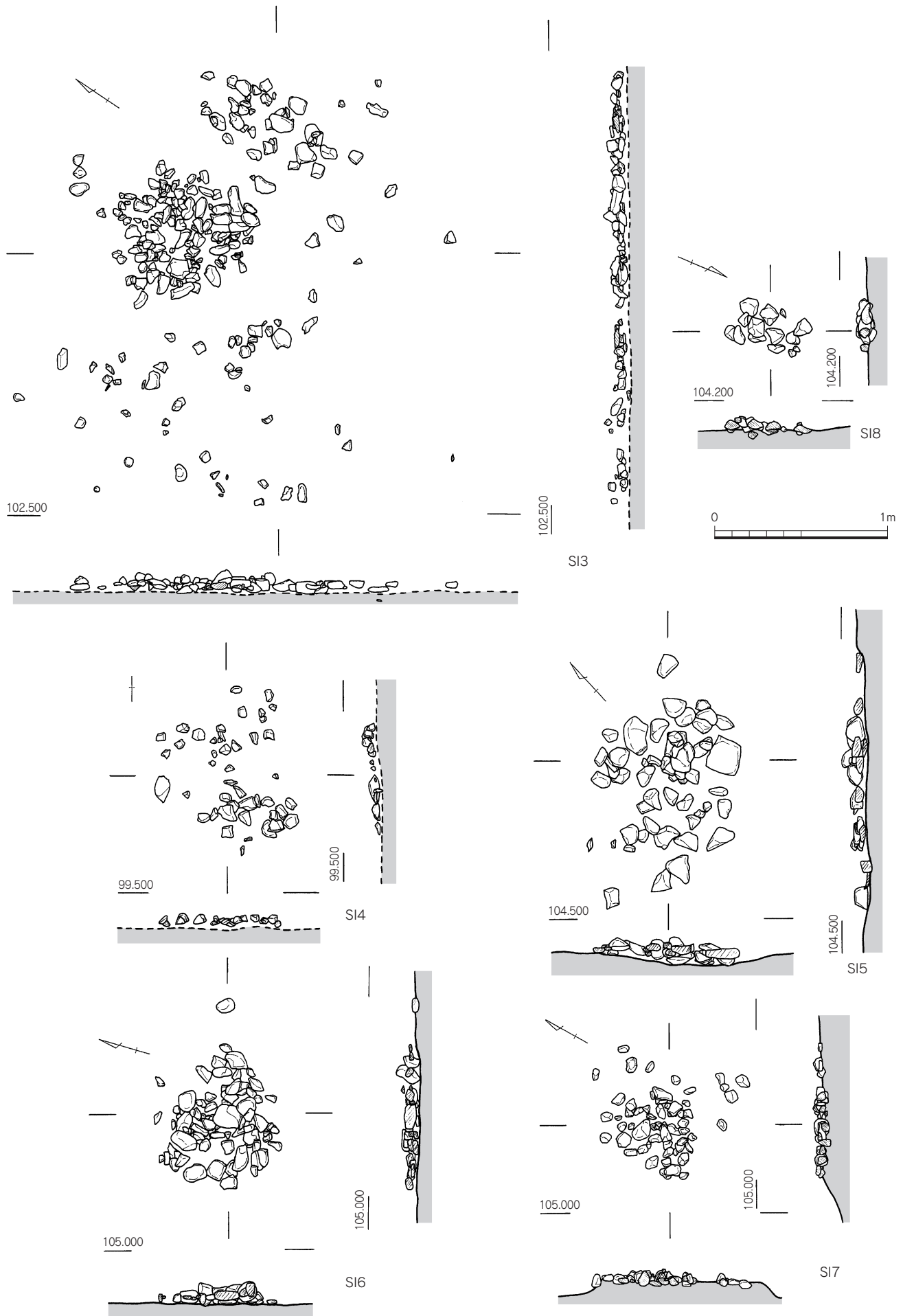
「H1」は、遺跡全体から出土したものの約9割に



第10図 石器ブロック出土遺物分布図
(1/200)



第11図 後期旧石器時代Ⅱ期礫群実測図 (1) (1/30)



第12図 後期旧石器時代Ⅱ期礫群実測図 (2) (1/30)

あたる163点がこの範囲に集中している。

また、「H1」は角錐状石器として加工されたものが多く、それらは同じ石器ブロック内出土の剥片と接合するものが多く見られた。接合資料として掲載されているものの全てが、この石器ブロックの範囲内出土の石器からなっている。このようなことから、この石器ブロックは石器製作の場であった可能性が考えられる。

3 石器

この時期の層からは、角錐状石器を中心として、剥片尖頭器、ナイフ形石器といった多くの種類の石器が出土した。

【接合資料】

接合資料は、そのいずれもが前述の石器ブロックから出土した石器が接合したものである。特に、製品を含むものはいずれも角錐状石器を中心としており、その周囲に調整剥片が接合している。これは、当時の石器製作の一端を示していると言えるだろう。

接合資料1（第13図11～23）

黒色の流紋岩製で、剥片13点が接合した。自然面を有する剥片を中心に構成されている。芯となる石核は出土していない。これは、同時期のナイフ形石器等に使用されているものと同じ石材であり、出土しなかった石核部分が製品に加工された可能性もある。

接合資料2（第14図24～33）

ホルンフェルス（H1）製で、角錐状石器片2点と剥片8点が接合した。二つに折れた角錐状石器を中心として、調整剥片が接合している。また、角錐状石器の一片である28は、先端を利用し基部側を再加工することで、新たな角錐状石器として再生させているようである。

接合資料3（第15図34～45）

ホルンフェルス（H1）製で、角錐状石器片1点と剥片11点が接合した。中央部分が厚い角錐状石器を中心に、多数の剥片が接合している。角錐状石器片は先端部が折れているが、先端部も調整剥片と同様に狭い範囲内から出土している。こういった状況から、これは製作時に欠損したのではな

いかと思われる。

接合資料4（第16図46～52）

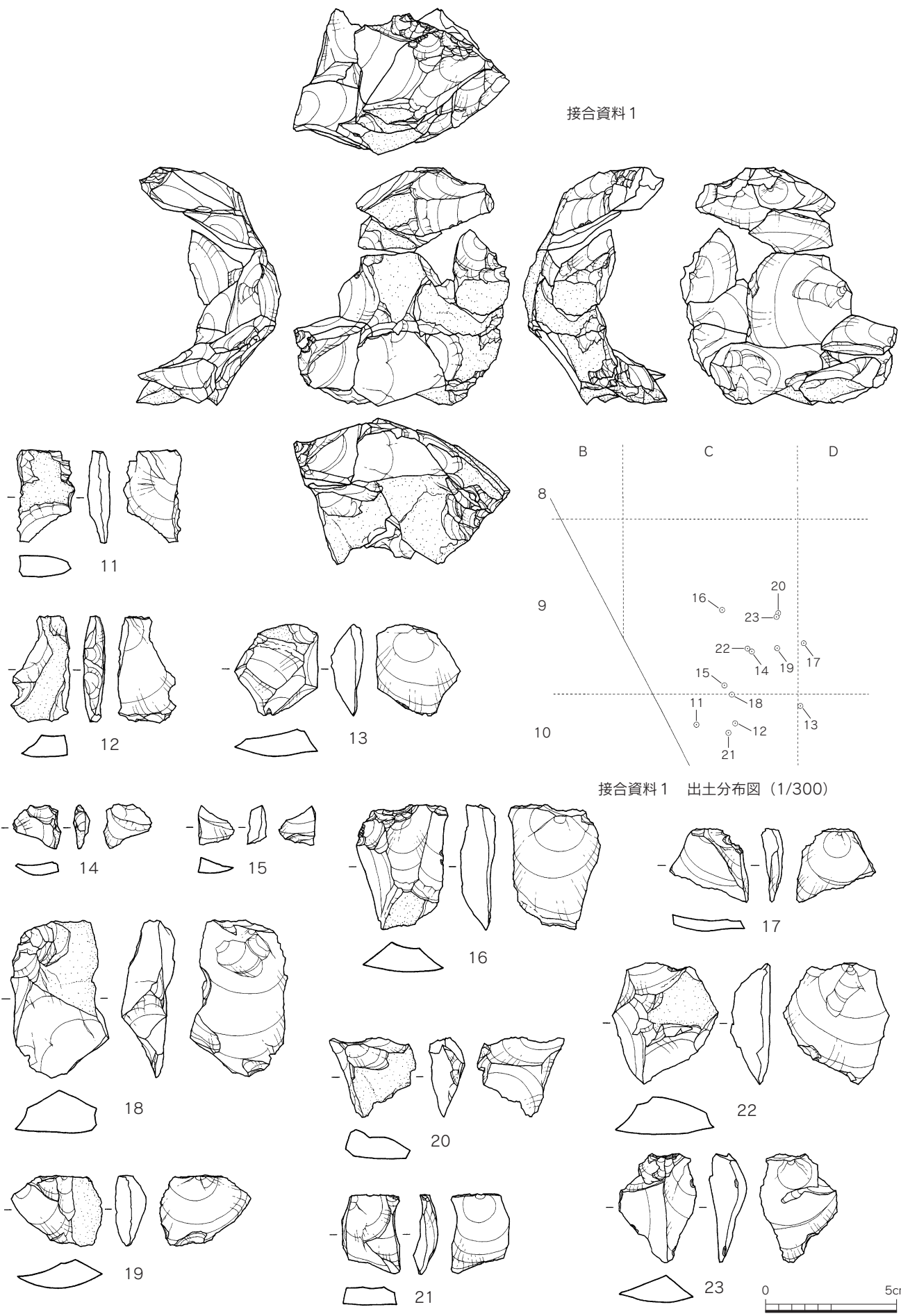
ホルンフェルス（H1）製で、角錐状石器片1点と剥片6点が接合した。角錐状石器の刺突部と思われる先端を有しているが、基部はこれ以上接合するものが確認されず、その全体像は不明である。

接合資料5（第17図53～57）

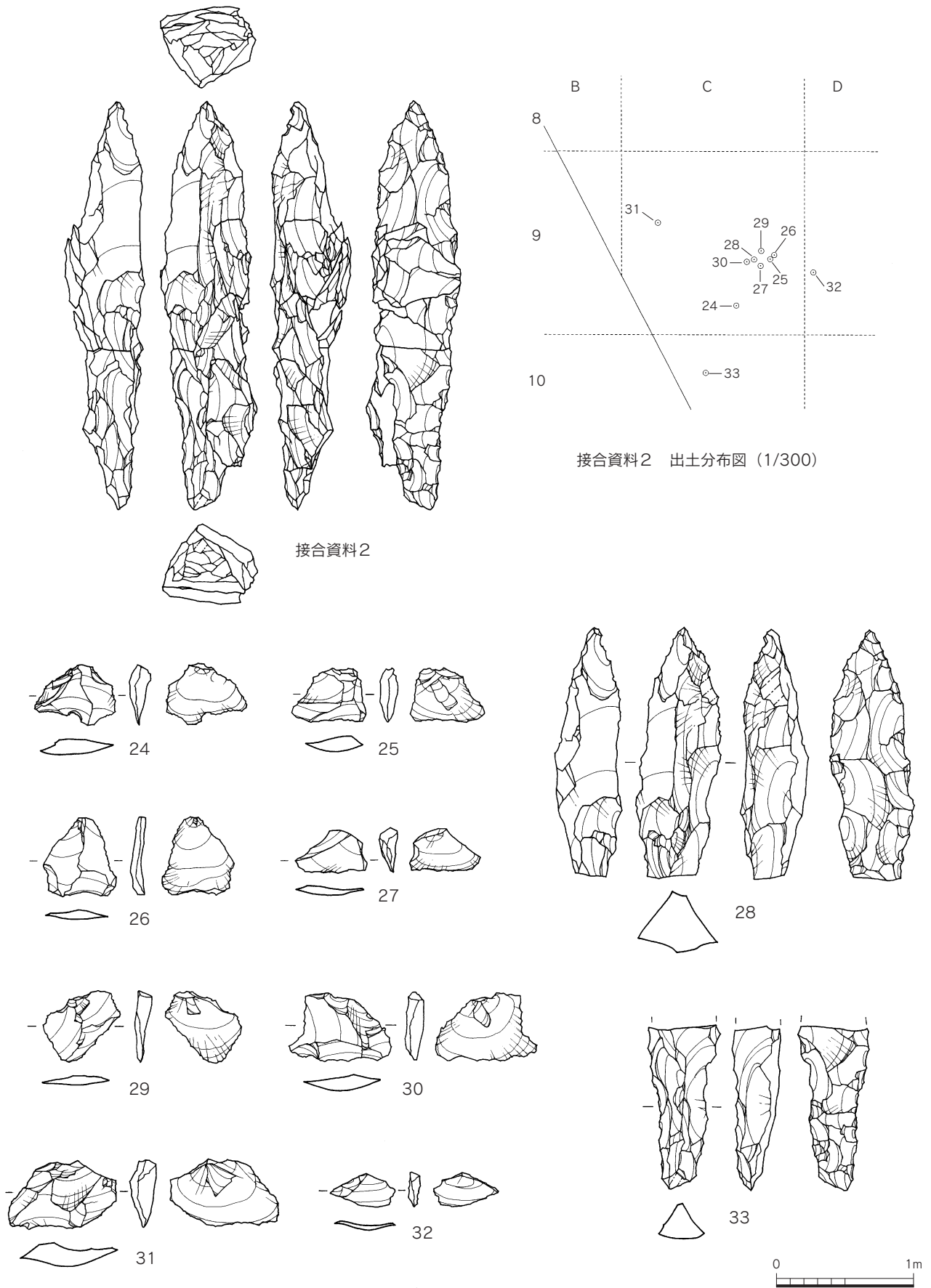
ホルンフェルス（H1）製で、角錐状石器片2点と剥片3点が接合した。中心は中央部分が非常に太い角錐状石器である。先端部側が折れているが、これも接合資料3と同じく製作時に欠損したのではないかと思われる。

接合資料6（第18図58・59）

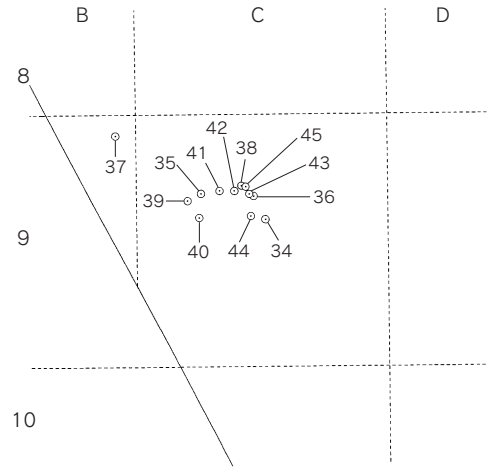
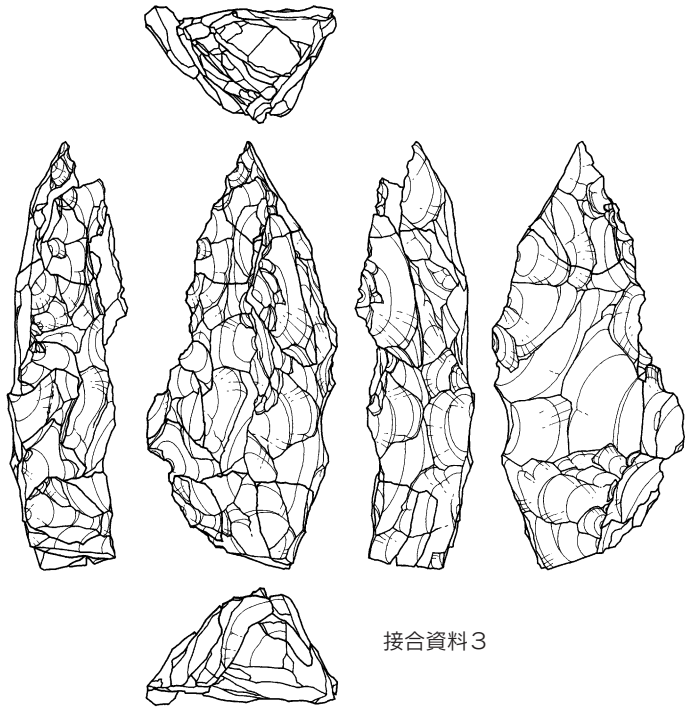
ホルンフェルス（H1）製で、角錐状石器1点と剥片1点が接合した。59は完形の角錐状石器である。



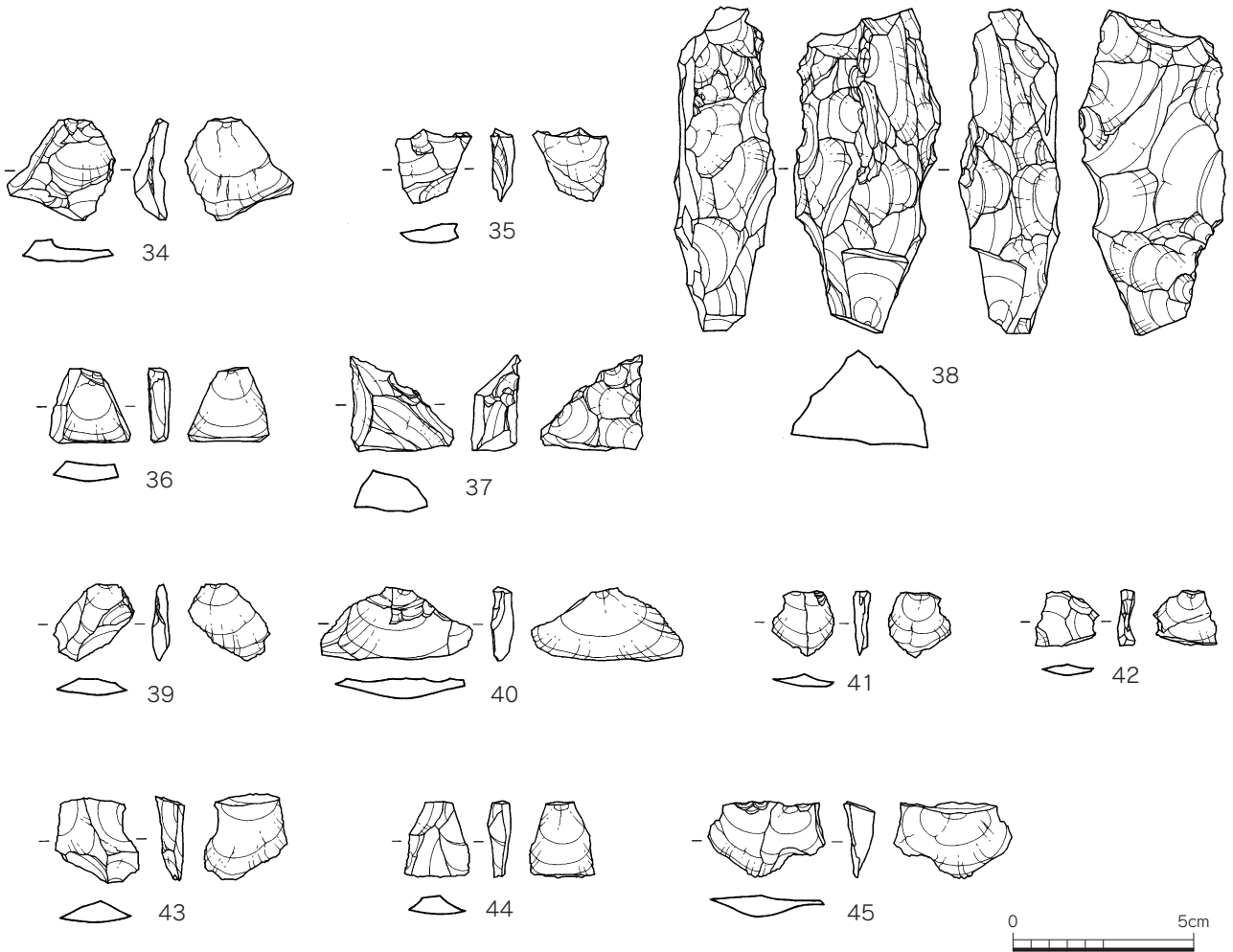
第13圖 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測圖 (1) (1/2)



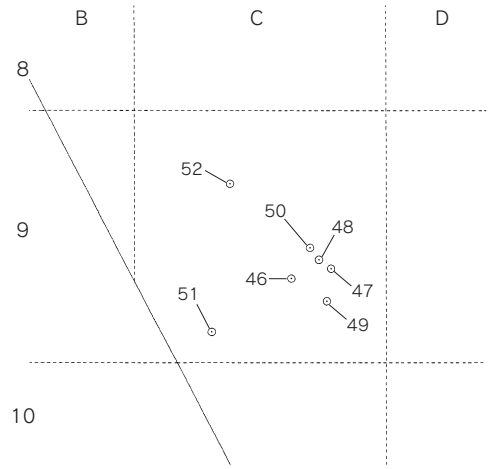
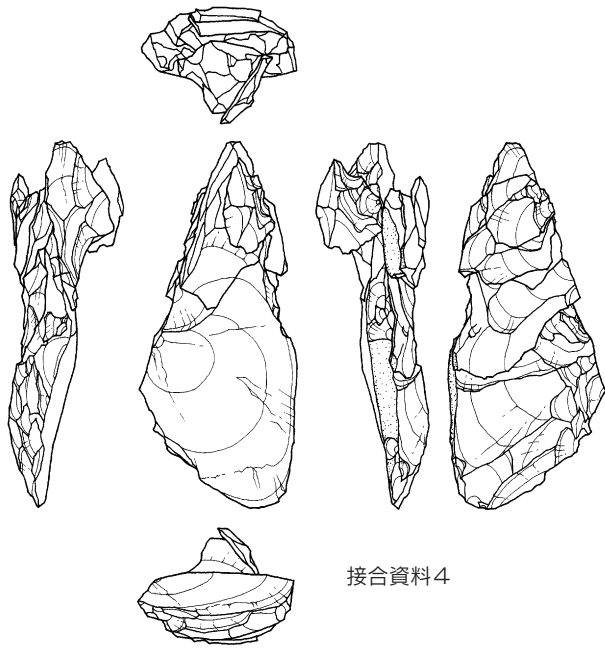
第14図 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図 (2) (1/2)



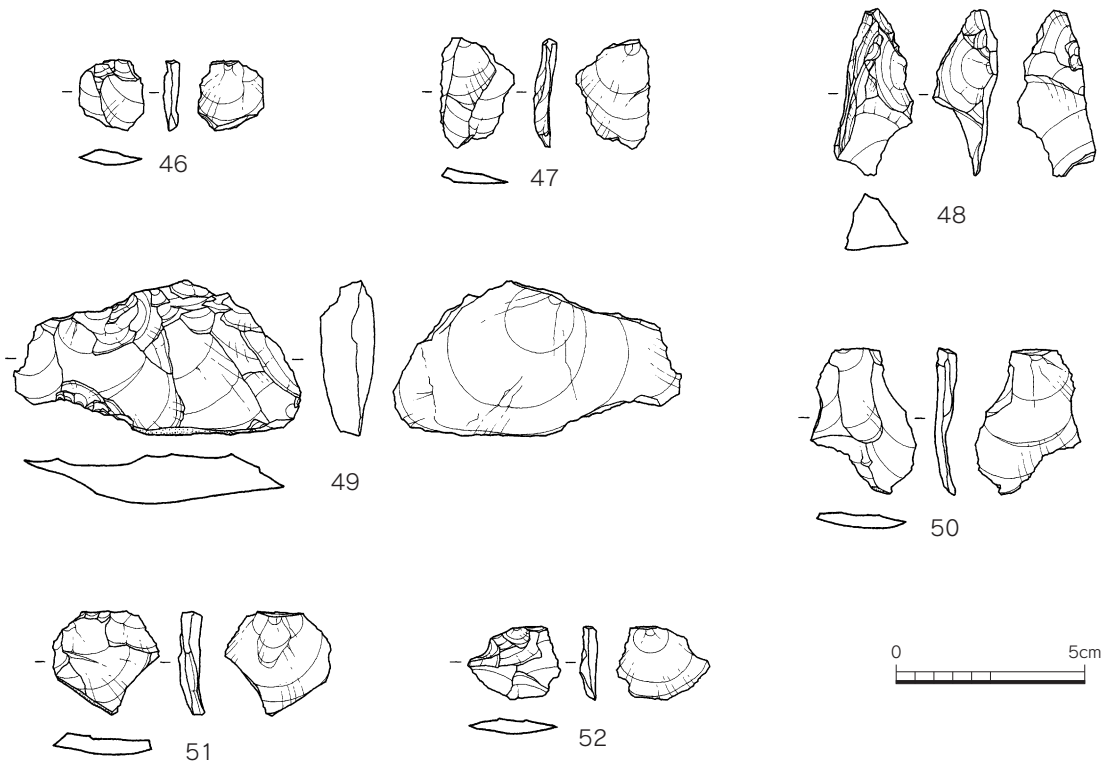
接合資料3 出土分布圖 (1/300)



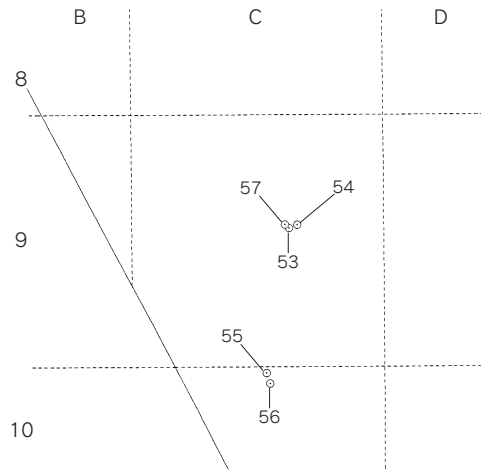
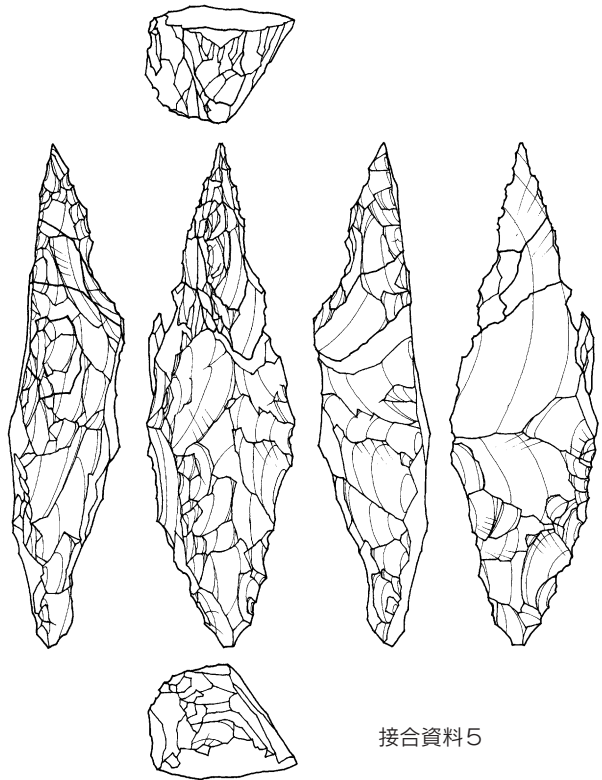
第15圖 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測圖 (3) (1/2)



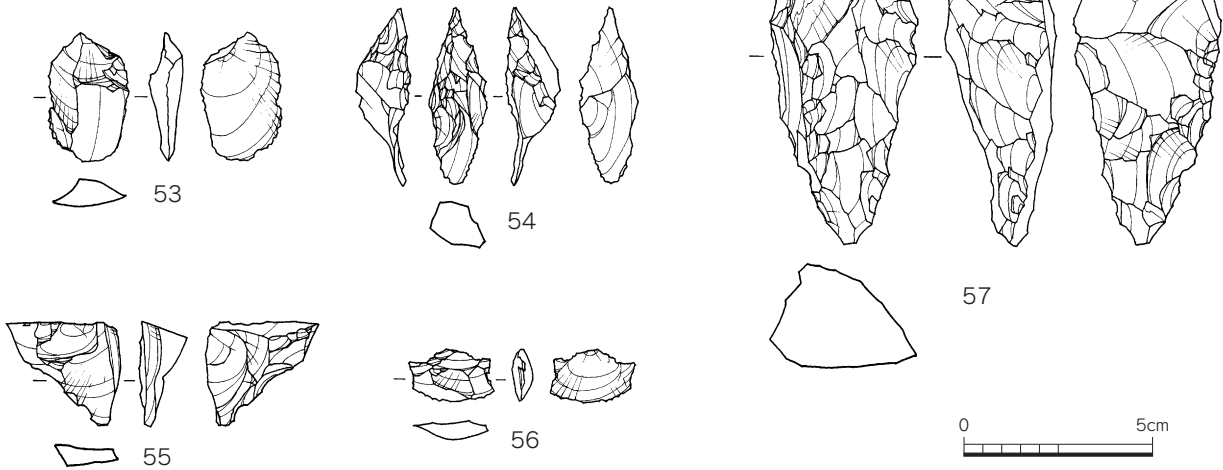
接合資料4 出土分布図 (1/300)



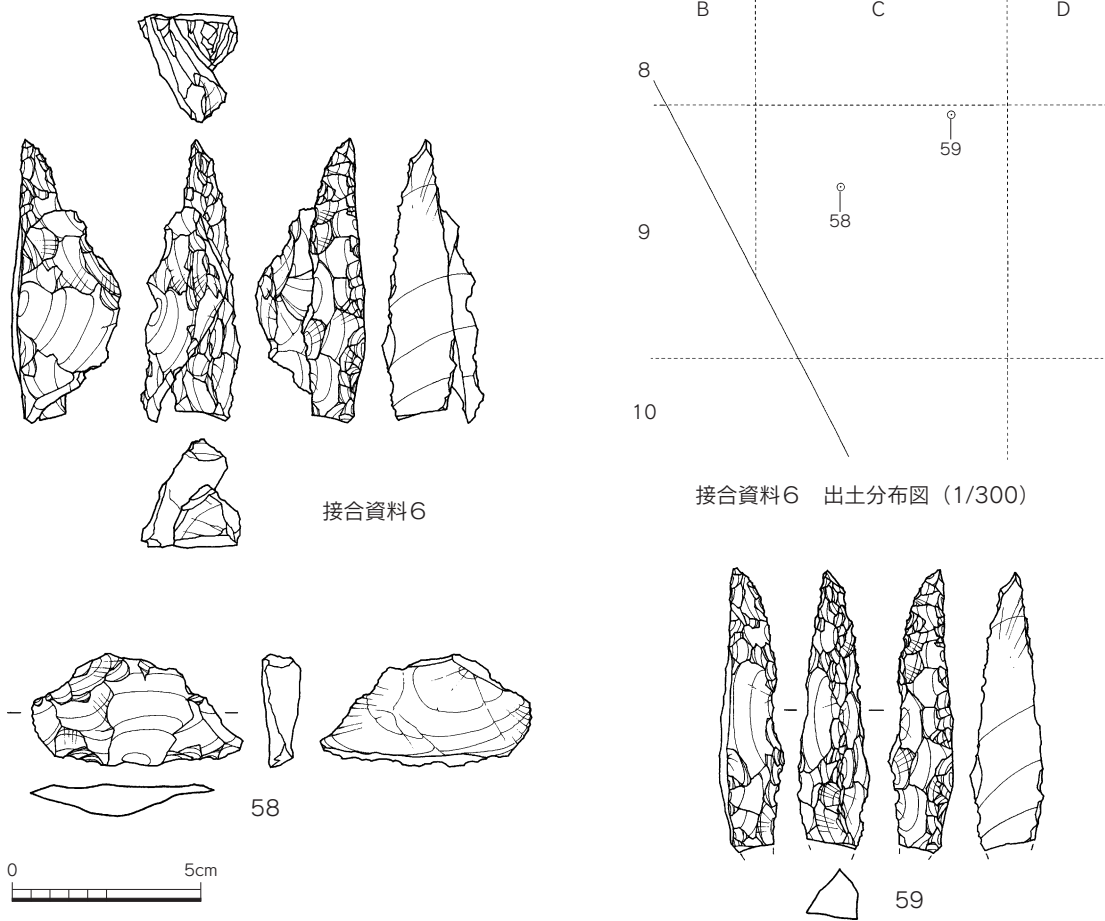
第16図 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図 (4) (1/2)



接合資料5 出土分布図 (1/300)



第17図 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図 (5) (1/2)



第18図 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図 (6) (1/2)

【角錐状石器】(第19図60~69、第20図70~83)

角錐状石器は、破片として出土したものを合わせて30点が出土した(内5点は接合資料として掲載済み)。60~79はホルンフェルス(H2)製、80はチャート類(Ch2)製、81~83は流紋岩製である。その中で、完形品もしくはほぼ全体が復元できたものは13点であった。全体の器長が分かるもので計測したところ、約7cm~約16cmまで様々であったが、10cm前後のものが最も多くなっている。破片のものも多くは先端部で、接合資料の例から考えると、製作時に破損したものである可能性も考えられる。

全体の形を見ると、先端と基部を同じように細く尖らせたものと、基部をやや太く丸みを持たせたものがあり、それぞれに使用方法等が異なっ

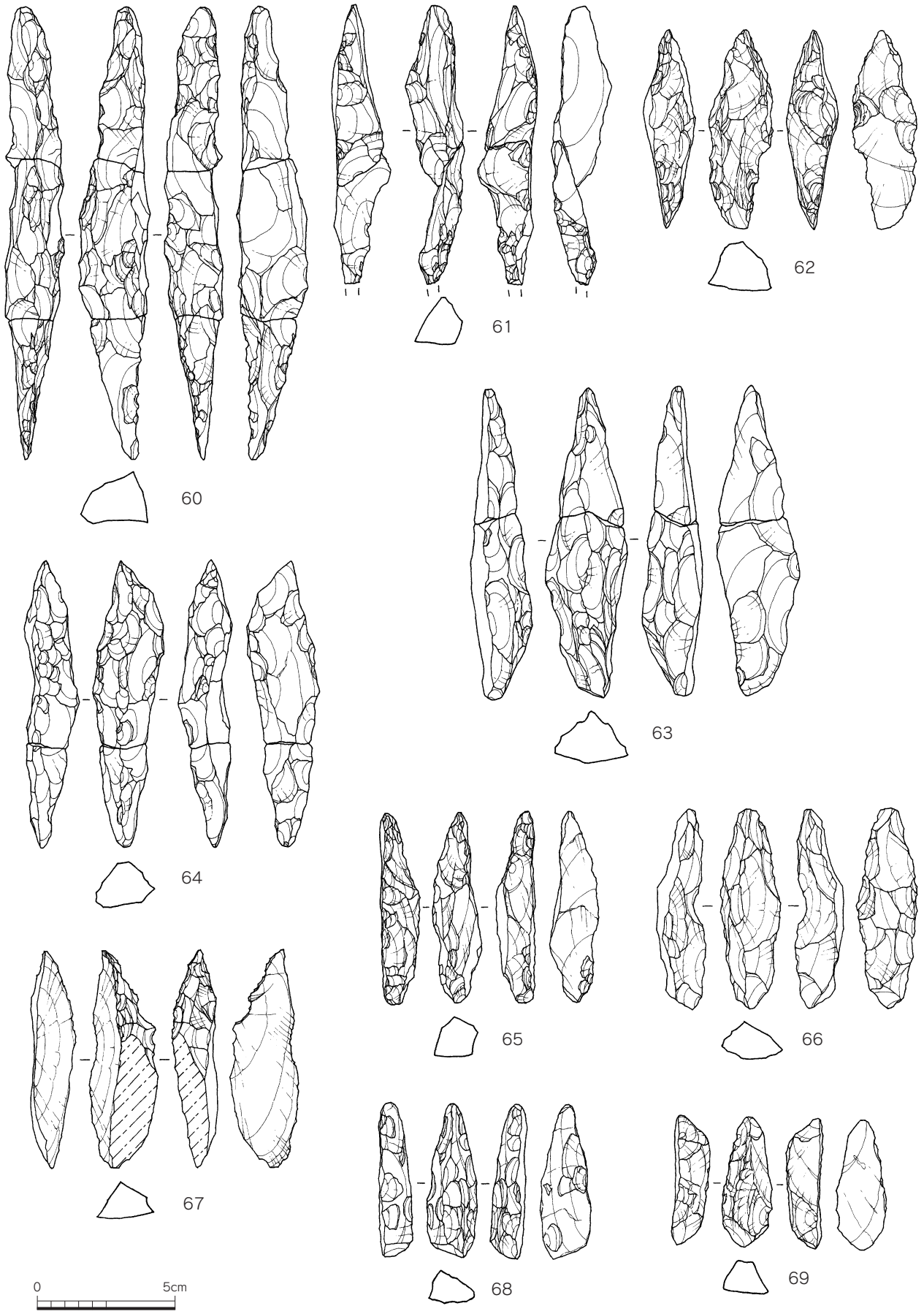
いた可能性もある。

【剥片尖頭器】(第21図84~88)

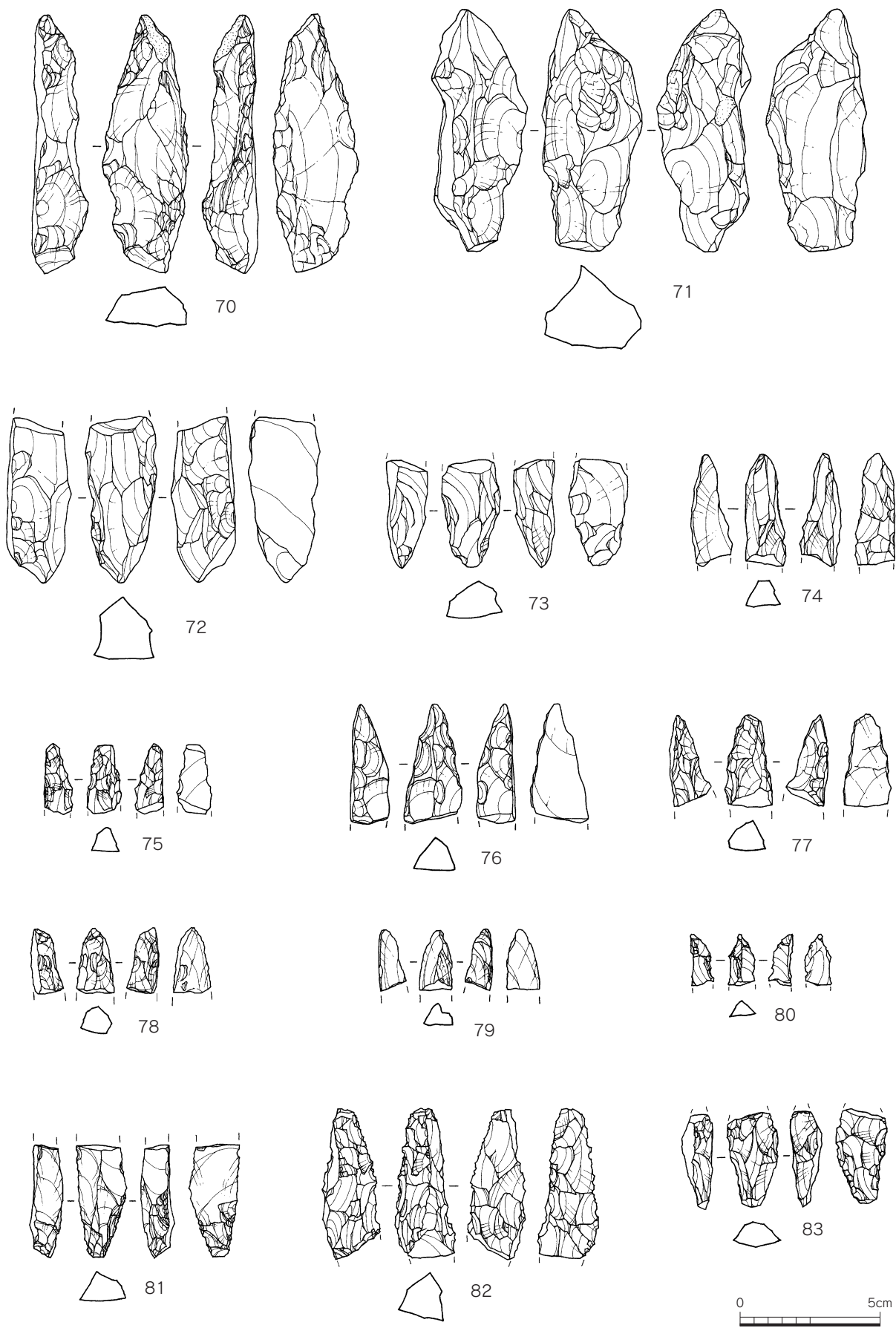
合計5点が出土した。86~88は流紋岩製、84・85はホルンフェルス(H2)製で、いずれも縦長剥片を素材としている。特に84・85は基部付近に加工を施し、莖部を作り出している。86は周囲に調整を施しているが、全体的に厚くなっている。

【ナイフ形石器】(第21図89~93)

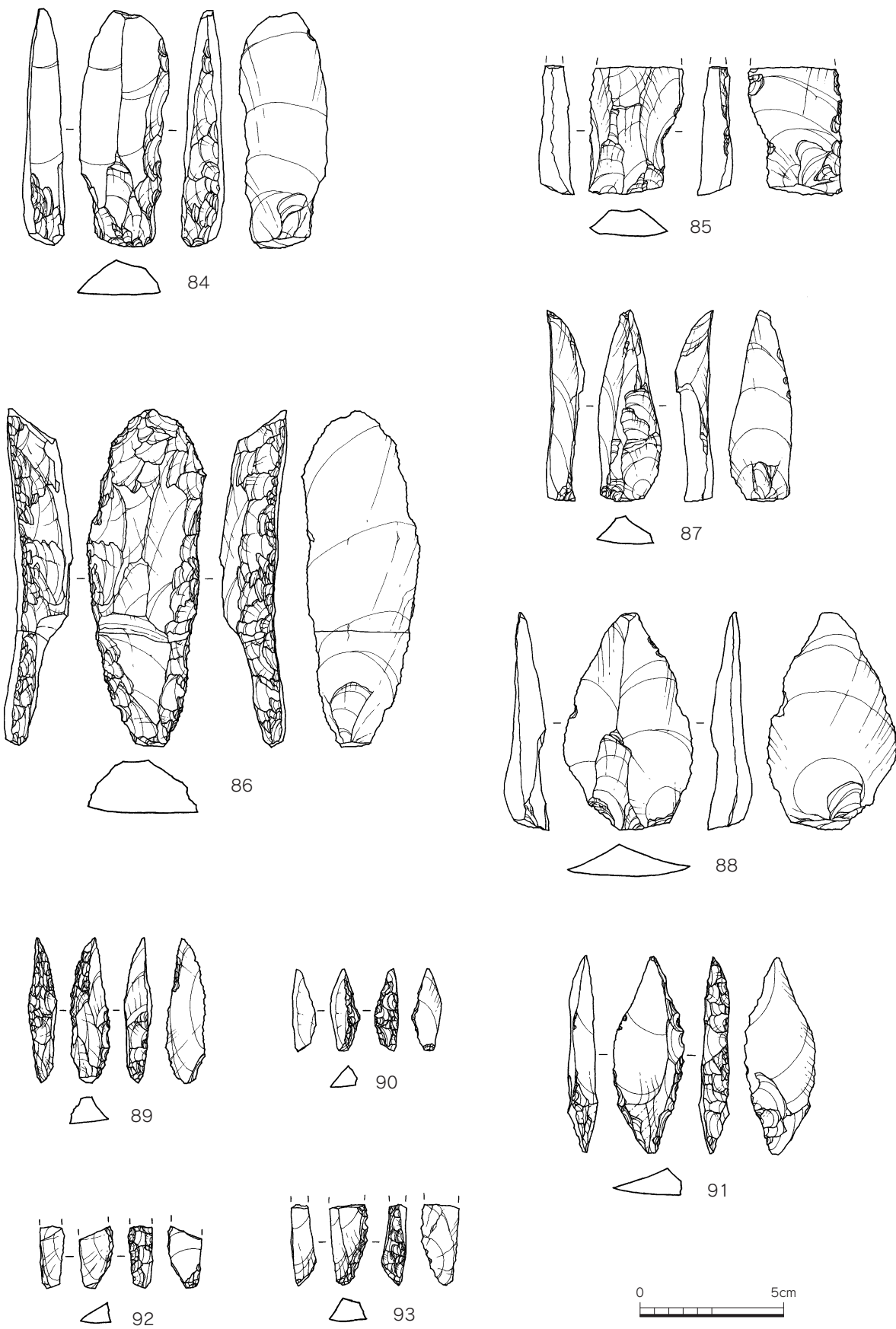
合計5点が出土した。89~92は流紋岩製、93はチャート類(Ch2)製である。89・91は二側縁加工、90・92・93は一側縁加工であった。横長剥片を素材としたものが多いが、91・92は縦長剥片を素材としている。



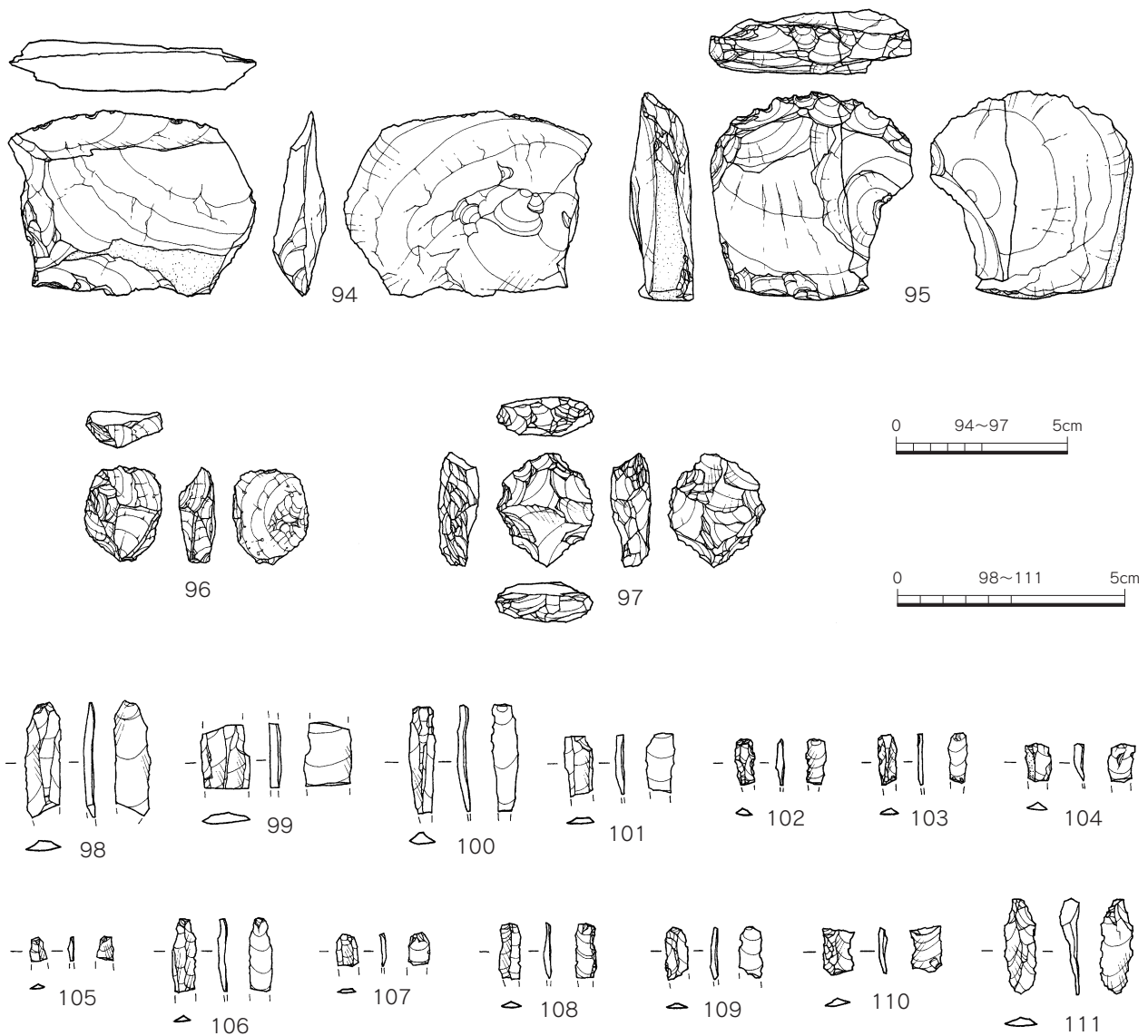
第19図 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図 (7) (1/2)



第20図 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図 (8) (1/2)



第21図 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図 (9) (1/2)



第22図 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図 (10) (1/2・2/3)

【搔器】(第22図94~96)

合計3点が出土した。94は流紋岩製、95はホルンフェルス(H1)製、96は黒曜石(Ob2)製である。いずれも剥片の側縁を刃部としたサイドスクレイパーである。

が欠損、もしくは一部しか残っておらず、器長は大きくても約3cm。98~101は流紋岩製、102~108は黒曜石(Ob1)製、109~111はチャート類(Ch1・2)製である。流紋岩製のものの方が比較的大きく太いのに対して、黒曜石、チャート類製ものは小さく細い傾向がある。

【石核】(第22図97)

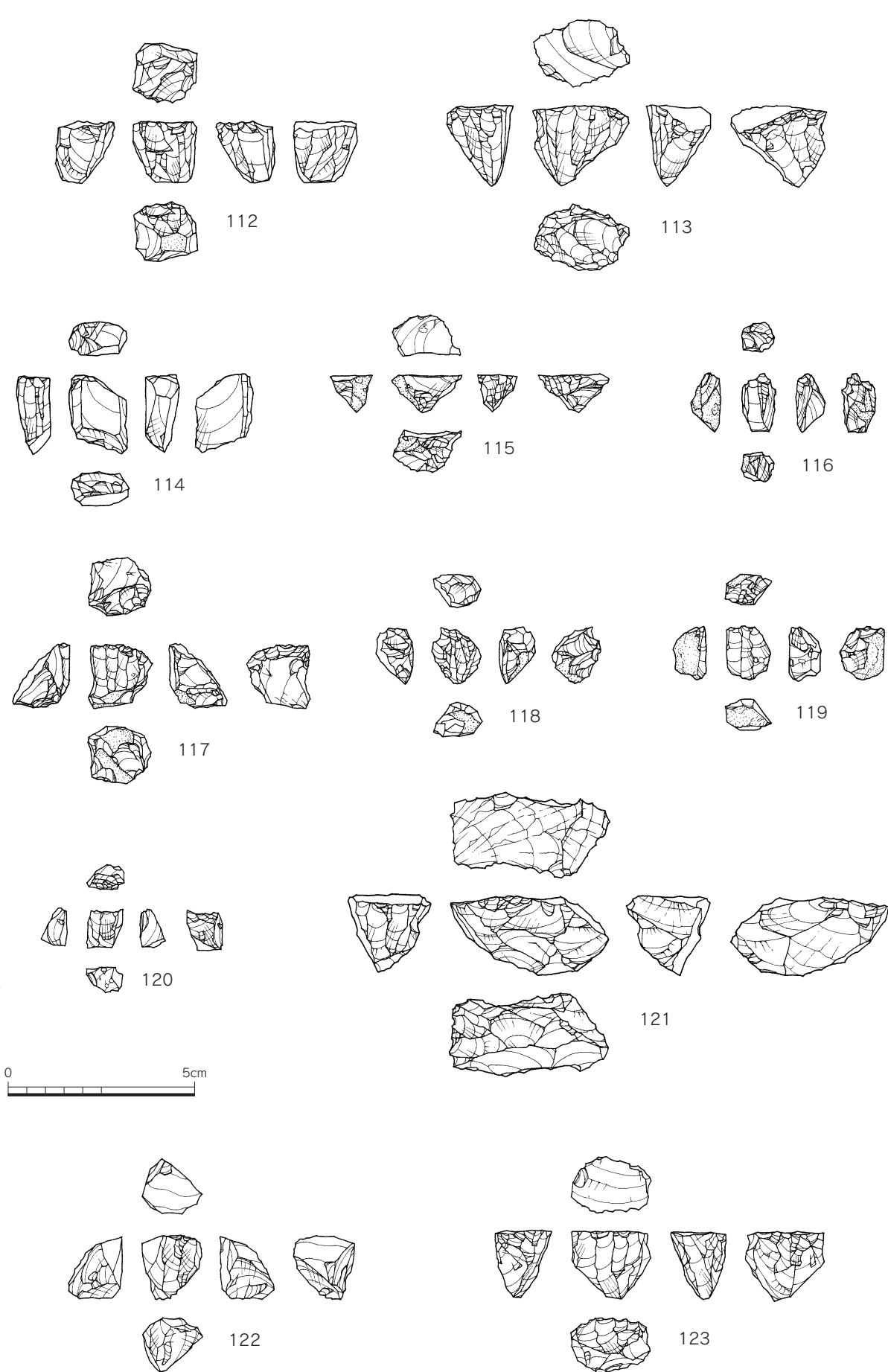
流紋岩製の石核である。これが出土したのはML1(Ⅳ層)中であるが、黒色の流紋岩は当遺跡の後期旧石器時代Ⅱ期に多く使用されていることもあり、ここに含めた。

【細石刃核】(第23図112~123)

合計12点が出土した。112~114は流紋岩製、115~120は黒曜石(Ob1)製、121~123はチャート類(Ch1・2)製であった。112・113・123は上面を平坦に整えた逆円錐形を呈しており、周囲複数面で剥離を行っている。また、黒曜石製ものは小型、不定形が多くなっている。

【細石刃】(第22図98~111)

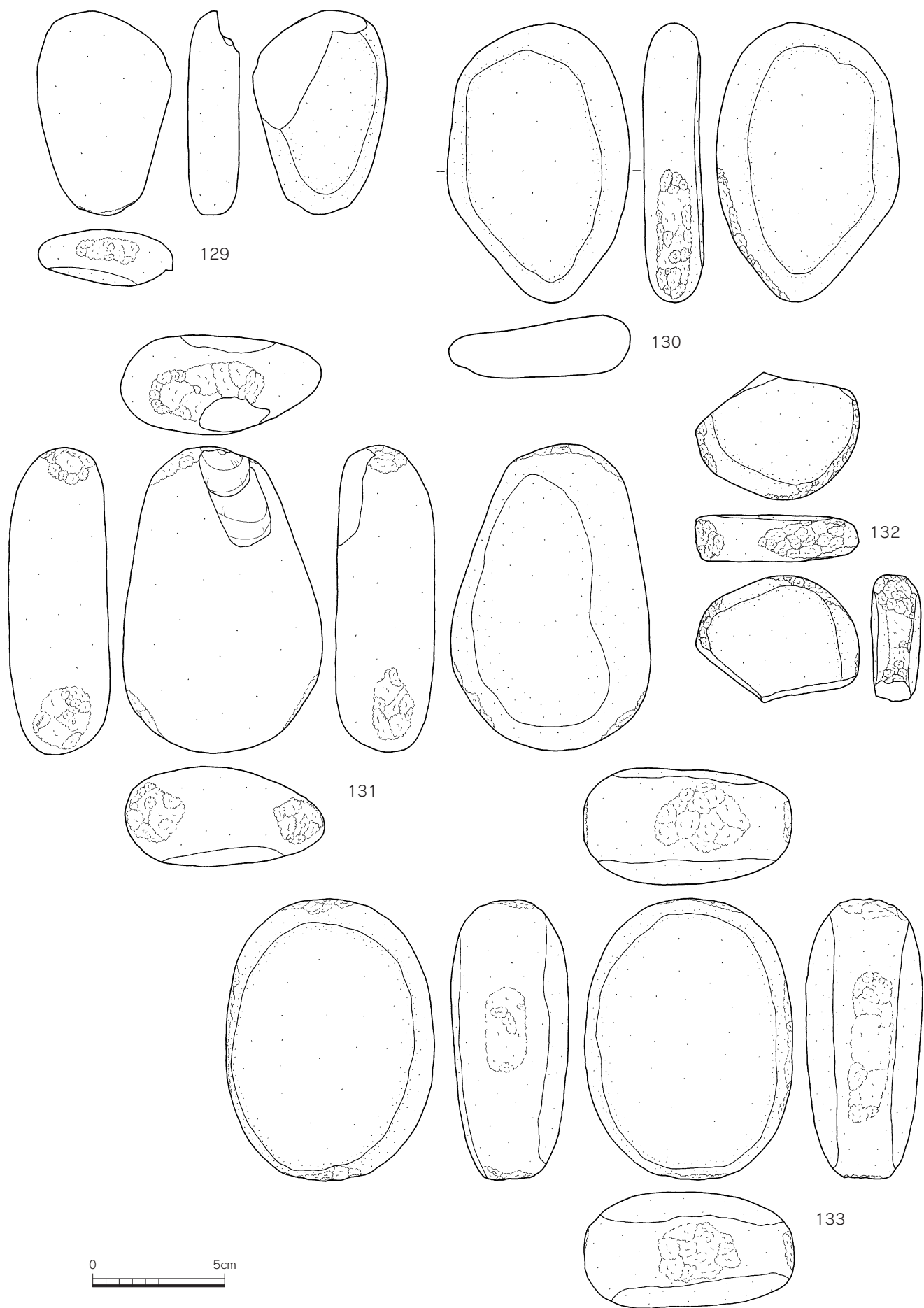
合計14点が出土した。そのほとんどが、どこか



第23図 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図 (11) (2/3)



第24図 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図 (12) (1/2)



第25図 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図 (13) (1/2)

出土した細石刃と細石刃核は同じ石材が使用されており、接合こそ確認できなかったが、本遺跡内での細石刃製作が想定される。

細石刃と細石刃核は、その一部がMB0（Ⅲ層）やML1（Ⅳ層）から出土しているが、ここでは全て後期旧石器時代Ⅱ期に含めて報告することとした。ただこれらに使用されている黒曜石は、後期旧石器時代Ⅱ期に多く使用される「Ob2」ではなく縄文時代早期に多く使用される「Ob1」である。このことから、細石刃と細石刃核は後期旧石器時代Ⅱ期の中でも新しい時期のものであろうと思われる。

【敲石】（第24図124～128、第25図129～133）

合計10点が出土した。124～132は砂岩製、133のみ尾鈴山酸性岩類製である。これらを、全体の形状により二つに分けた。

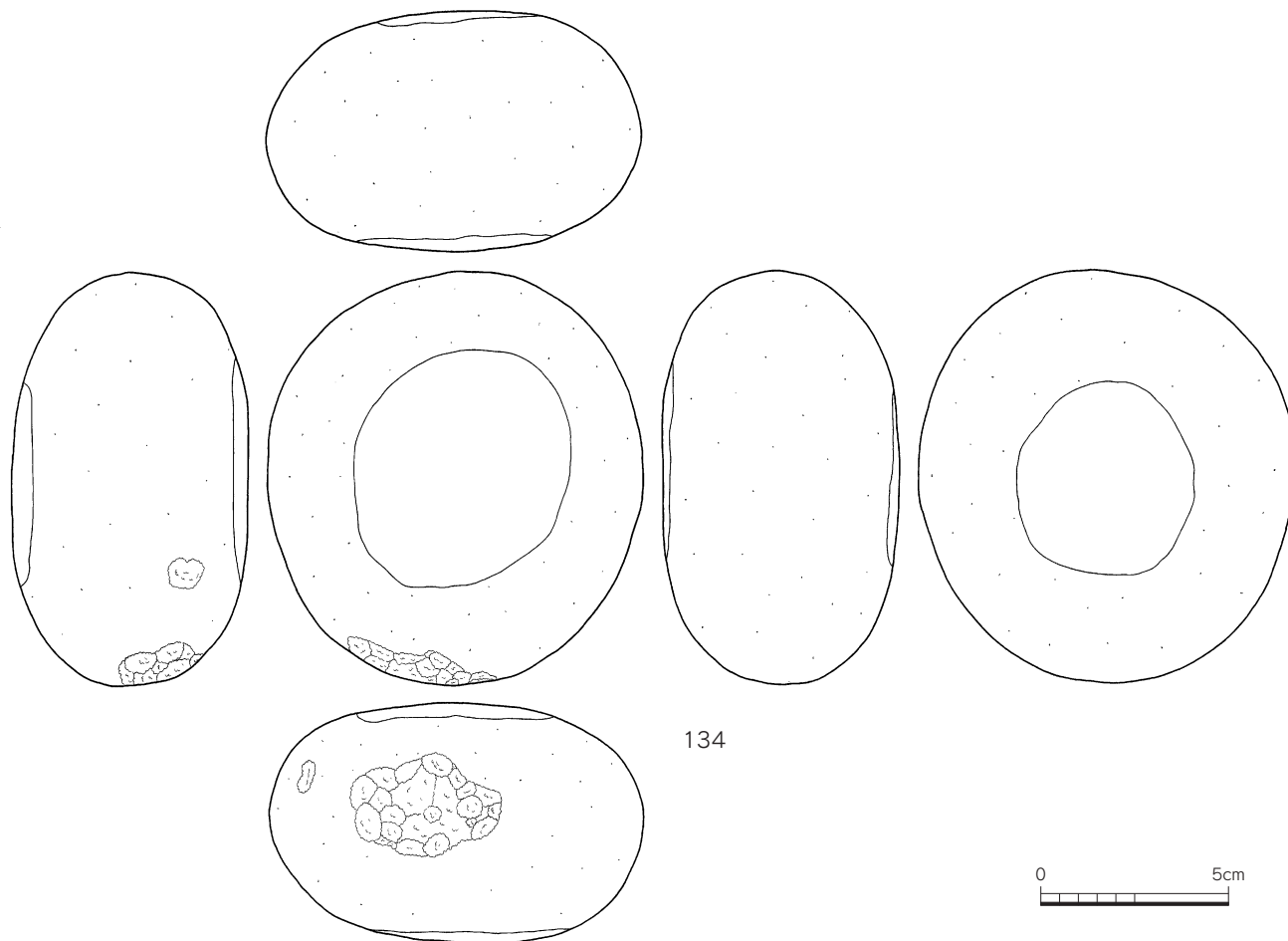
124～128は棒状の礫を利用したものである。いずれも礫の両方あるいは片方の端部に敲打痕を

持つ。125は円礫を打ち欠いた後、剥離面に敲打を加えて平坦面をつくり、握りやすいように加工している。また、右側面の稜にも敲打痕が残されている。127は礫下端に敲打痕を持ち、逆側には剥離による調整が行われている。

129～133は円礫を利用した平坦な形のものである。礫の上下端ばかりでなく、周囲等にも複数箇所の敲打痕を持つものが多い。棒状のものに比べると、敲打痕の範囲がやや広がっているものが多い。131は平坦な礫を用い、周囲3箇所に敲打痕を持つ。礫上端が敲打により一部剥離している。133は平坦な円礫を用いており、上下左右4箇所に敲打痕を持っている。

【磨石】（第26図134）

尾鈴山酸性岩類製で、表裏両面に磨面を持つ。また、礫下面に敲打痕を有している。



第26図 後期旧石器時代Ⅱ期石器実測図（14）（1/2）

(3) 縄文時代早期の遺構・遺物

縄文時代早期は、遺構では集石遺構37基、炉穴1基等が検出され、遺物では石鏃82点や押型文をはじめとする土器等が出土し、本遺跡で最も多くの遺構・遺物が確認された時期である。

1 集石遺構

集石遺構はこの時期の主要な遺構である。合計37基が検出された。検出面は、SI10がKr-Kbを含む層（V層）である以外は全てMB0（Ⅲ層）である。検出された場所は、B・C・D区の境目を中心とした地域と、A区のほぼ全域に渡る地域がほとんどである（第8図参照）。どちらも域内にチップの集中部や石器・土器片の出土が見られたが、後者の方が遺構・遺物共に数が多い。集石遺構の構成礫は、全て尾鈴山酸性岩類であった。一部の集石遺構から検出された炭化物を用いて年代測定を行っている（詳細第V章）ため、測定結果を炭化物の検出された集石遺構の項に記載する。

本調査では、これらを配石と掘り込みの有無により3種類に分けた。（SI6は欠番）

- ・ I類 掘り込み、配石を共に持つもの
（SI7・12・32・38）
- ・ II類 掘り込みを持ち、配石を持たないもの
（SI2・3・5・8・9・10・13・14・18
・23・25・26・27・29・31・33・37）
- ・ III類 掘り込み、配石を共に持たないもの
（地山が僅かに窪んでいるものを含む。）
（SI1・4・11・15・16・17・19・20
・21・22・24・28・30・34・35・36）

【I類】

SI7（第29図）

配石の周囲から多くの炭化材が検出された（8,120±50BP）。集石遺構の東側が現代の攪乱のために消失している。残存した礫は206個。そのため、検出面からは中心が分からず、上面とは主軸を変更して配石を実測している。

SI12（第28図）

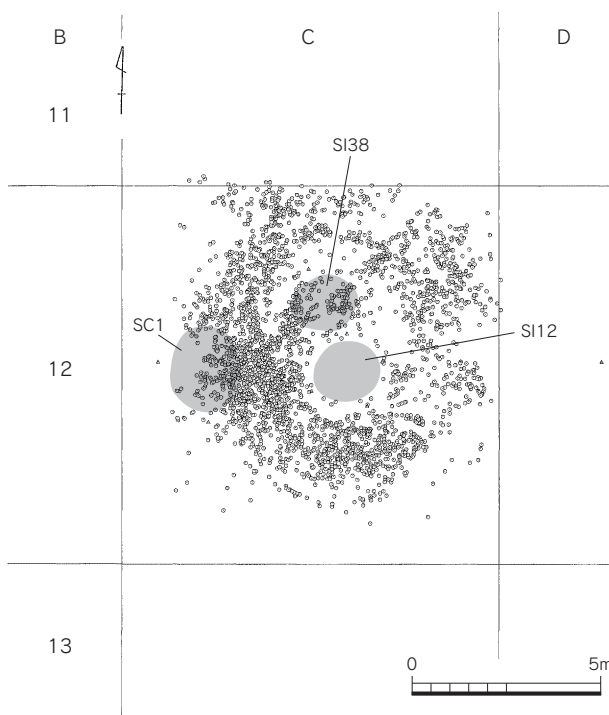
本遺跡中ではかなりの大型で、1,678個の礫が使用されていた。掘り込みの長径は約1.8mを測る。埋土中から炭化材が検出された。すぐ側にSI38があり、これらを中心とした直径約10mの範囲に散礫が存在している（第27図、図版8参照）。散礫の構成礫は尾鈴山酸性岩類が中心で、約2,700個の礫からなっている。散礫中からは遺物がほとんど出土せず、礫は南西～南側の密度が他より高くなっている。

SI32（第29図）

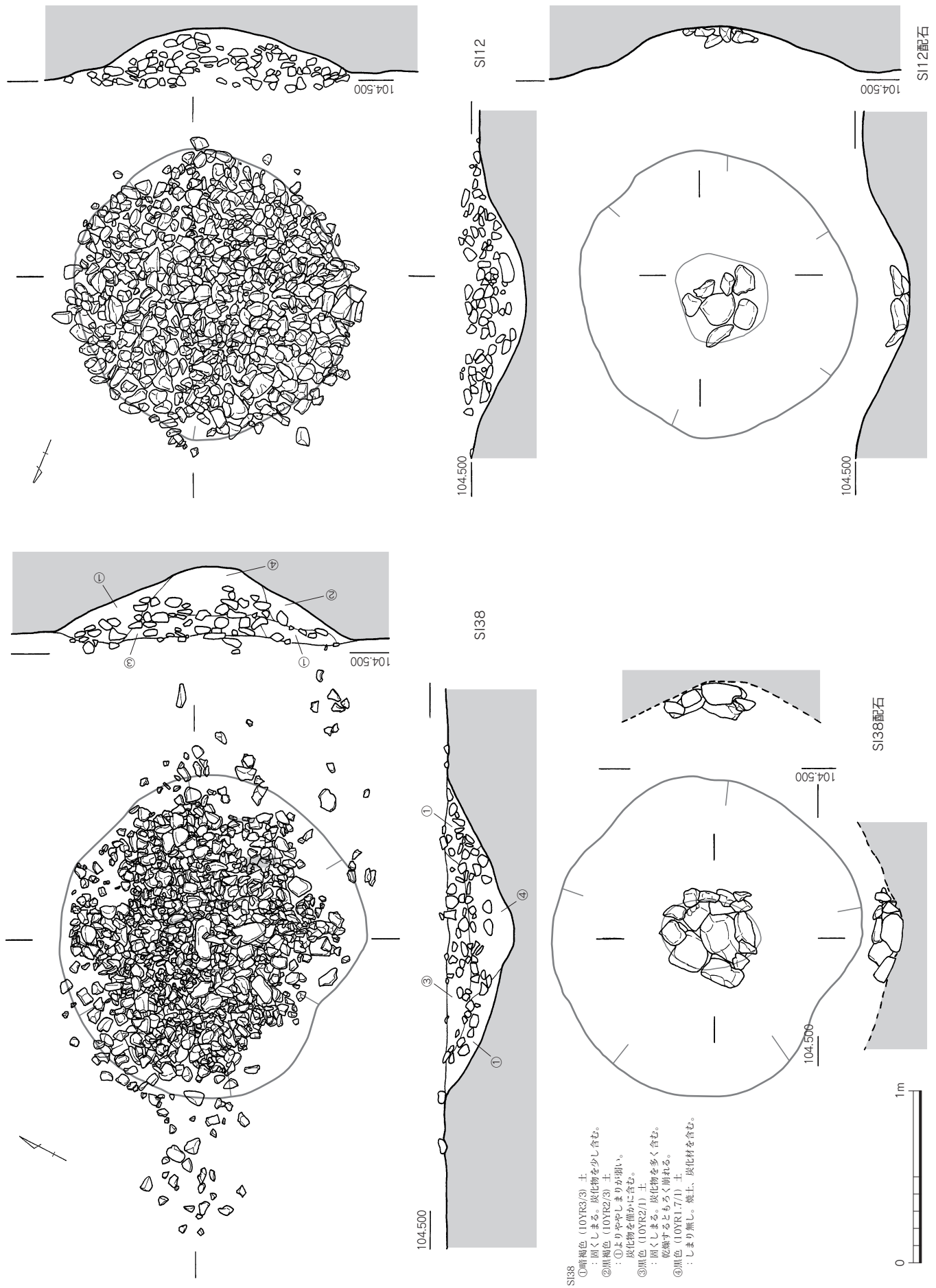
比較的大型の礫が多く使われており、礫の数は320個。配石の上から炭化材が検出された。近くにSI33がある。

SI38（第28図）

本遺跡中ではかなりの大型で、1,515個の礫が使用されていた。掘り込みの長径は約1.8mを測る。掘り込みの底から炭化材が検出された（8,340±50BP）。SI12と隣りあっており、同様に散礫のほぼ中心に位置している。

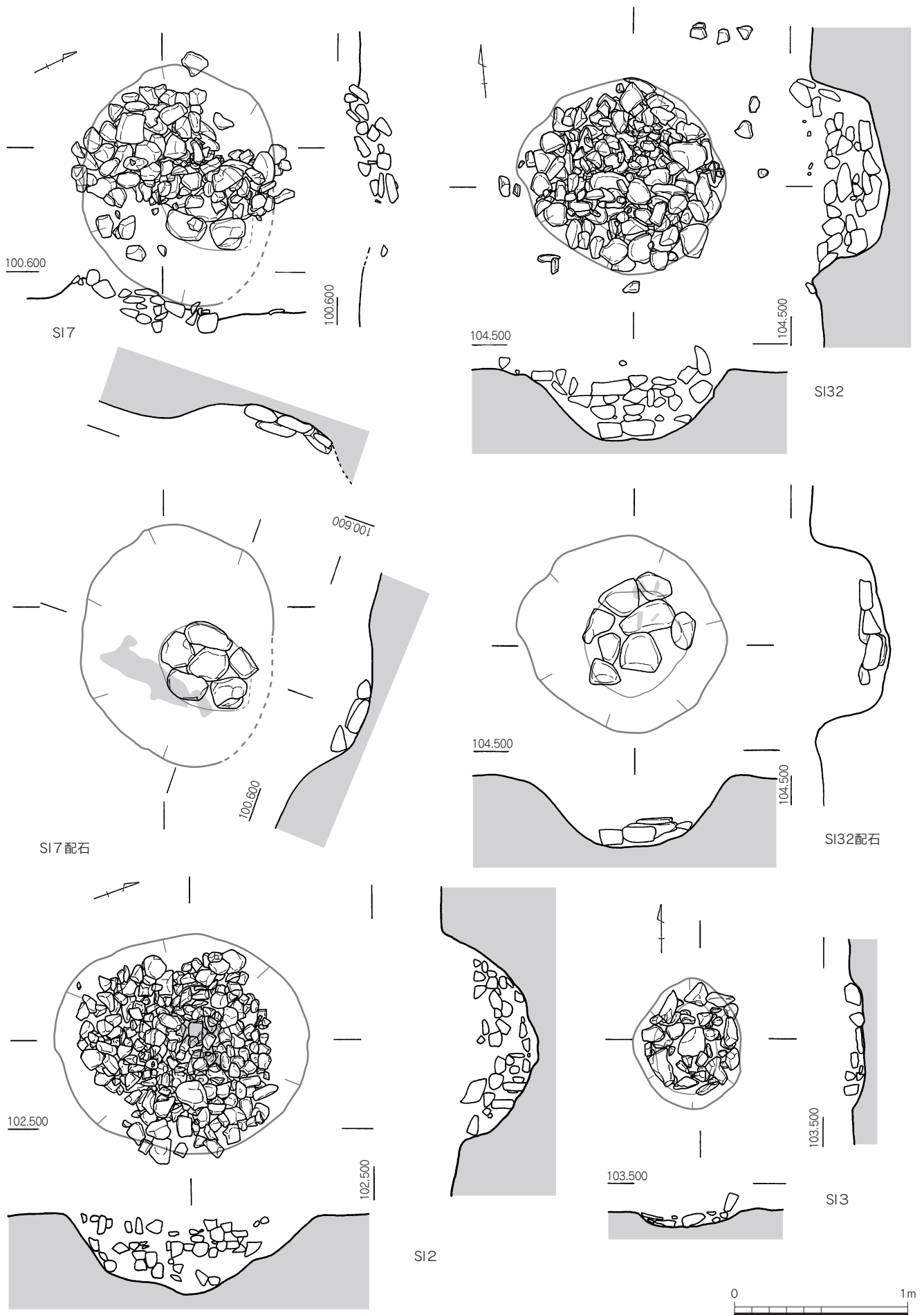


第27図 SI12・38周辺散礫分布図（1/200）



SI38
 ①暗褐色 (10YR3/3) 土
 : 固くしまる。炭化物を少し含む。
 ②黒褐色 (10YR2/3) 土
 : ①よりややしまりが弱い。
 炭化物を僅かに含む。
 ③黒色 (10YR2/1) 土
 : 固くしまる。炭化物を多く含む。
 乾燥すると多少く崩れる。
 ④黒色 (10YR1.7/1) 土
 : しまり無し。硬止。炭化物を含む。

第28図 縄文時代早期集石遺構実測図 (1) (1/30)



第29図 縄文時代早期集石遺構実測図 (2) (1/30)

【II類】

SI2 (第29図)

比較的大型の掘り込みを持つ(深さは約0.5m)。礫の数は698個。掘り込みの底から炭化材が検出された(8,190±50BP)。また、集石遺構構成礫の最上部でホルンフェルス(H1)製の打製石斧(第48図311)が出土している。

SI3 (第29図)

掘り込みは浅い。使用された礫の数は37個と少ないが、きれいな円形に敷き詰められている。埋土中から炭化物粒が検出された。

SI5 (第30図)

掘り込みは浅い。礫の数は106個。炭化物は検出されていない。

SI8 (第30図)

本遺跡中ではかなりの大型で、1,060個の礫が使用されていた。掘り込みの長径は約1.5mを測る。埋土中から炭化物が検出された。東から西へ下る斜面に位置しているためか、集石遺構上部の礫が西側に偏っている。

SI9 (第30図)

掘り込みは浅い。礫の数は88個。検出当初、礫が疎らにしか見つからず、中心がずれたため断面は見通して実測を行った。炭化物は検出されていない。

SI10 (第30図)

掘り込みの内部には、疎らにしか礫が無かった。礫の数は79個。埋土中から炭化物が検出された(8,730±50BP)。この集石遺構が検出された場所は、Kr-Kbを含む層(V層)より上が削平されており、この集石遺構の上部も削平された可能性がある。

SI13 (第30図)

掘り込みは浅い。礫の数は115個。埋土中から炭化物が検出された。

SI14 (第31図)

礫の数は111個。埋土中、礫の下から炭化物が検出された。

SI18 (第31図)

掘り込みは浅い。礫の数は98個。埋土中から炭化物粒が検出された。

SI23 (第31図)

礫の数は106個。炭化物は検出されていない。

SI25 (第31図)

浅い掘り込みを持つ。礫の数は60個。埋土中から炭化物粒が検出された。SI24と隣りあっている。

SI26 (第31図)

礫の数は75個。埋土中、礫の下から炭化物が検出された。

SI27 (第31図)

礫の数は285個。埋土中、礫の下から炭化物が検出された。周囲には、疎らではあるが散礫が見られる。

SI29 (第32図)

礫の数は181個。内部から、貝殻条痕文土器(II類A)が出土している。埋土中から炭化物粒が検出された。

SI31 (第32図)

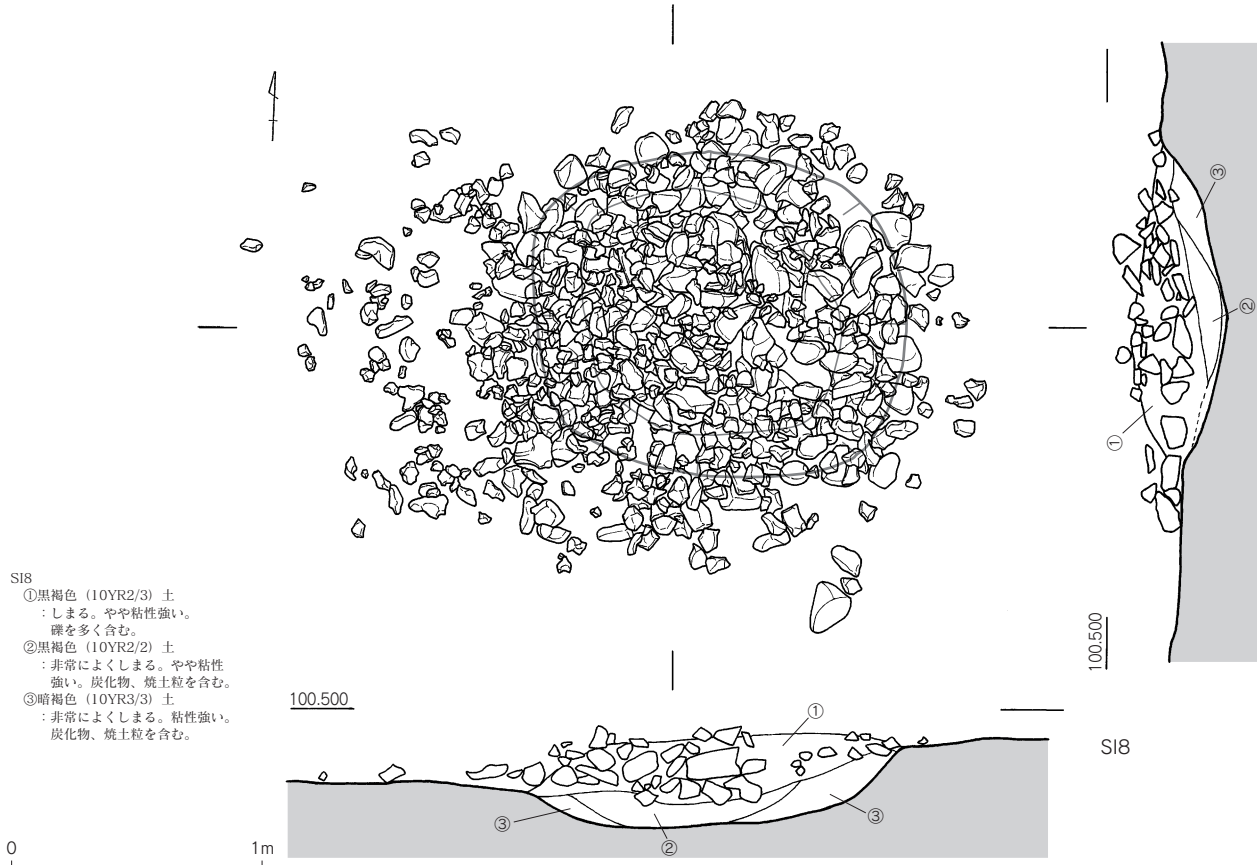
礫の数は52個。埋土中から炭化物粒が検出された。

SI33 (第32図)

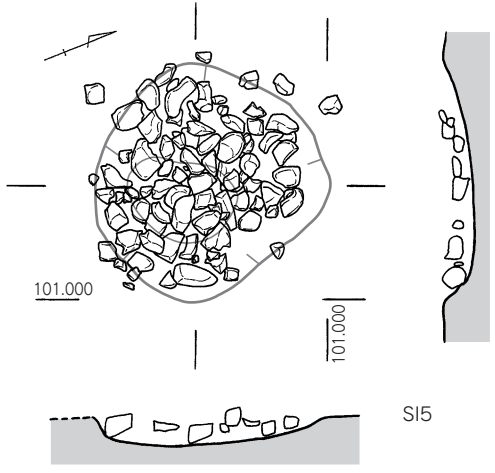
掘り込みは深い。掘り込みの深さは約0.4m。礫の数は308個。埋土中から炭化材が検出された。近くにSI32がある。

SI37 (第32図)

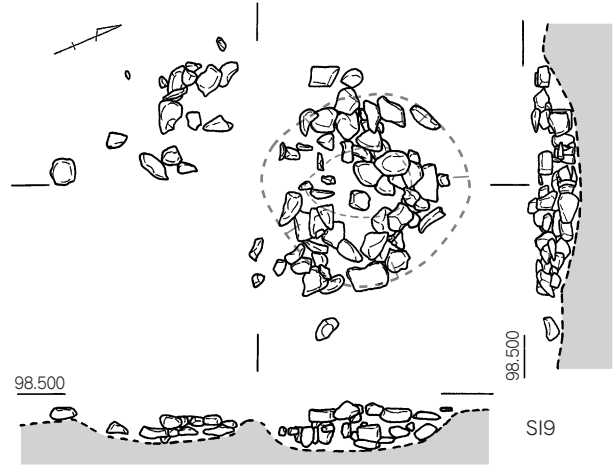
掘り込みは浅い。礫の数は73個。埋土中から炭化物粒が僅かに検出された。



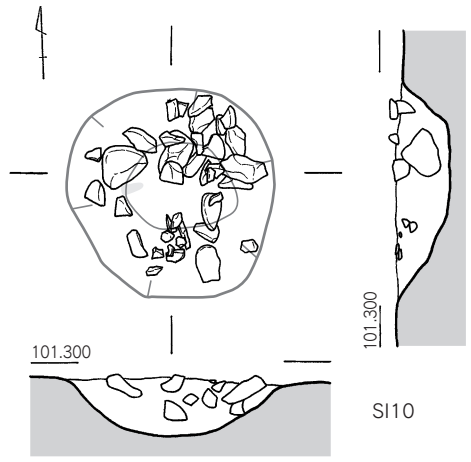
SI8
 ①黒褐色 (10YR2/3) 土
 : しまる。やや粘性強い。
 礫を多く含む。
 ②黒褐色 (10YR2/2) 土
 : 非常によくしまる。やや粘性
 強い。炭化物、焼土粒を含む。
 ③暗褐色 (10YR3/3) 土
 : 非常によくしまる。粘性強い。
 炭化物、焼土粒を含む。



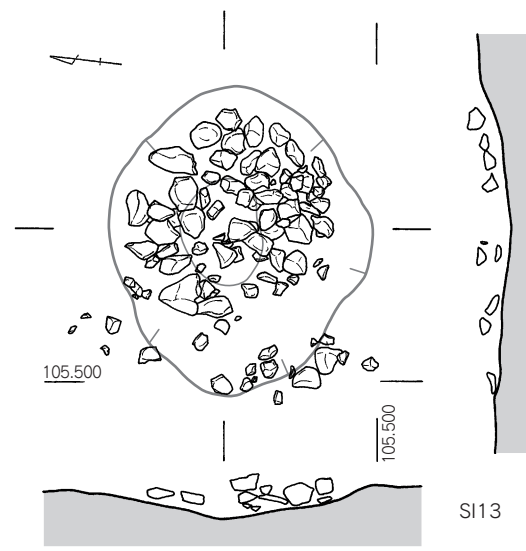
SI5



SI9



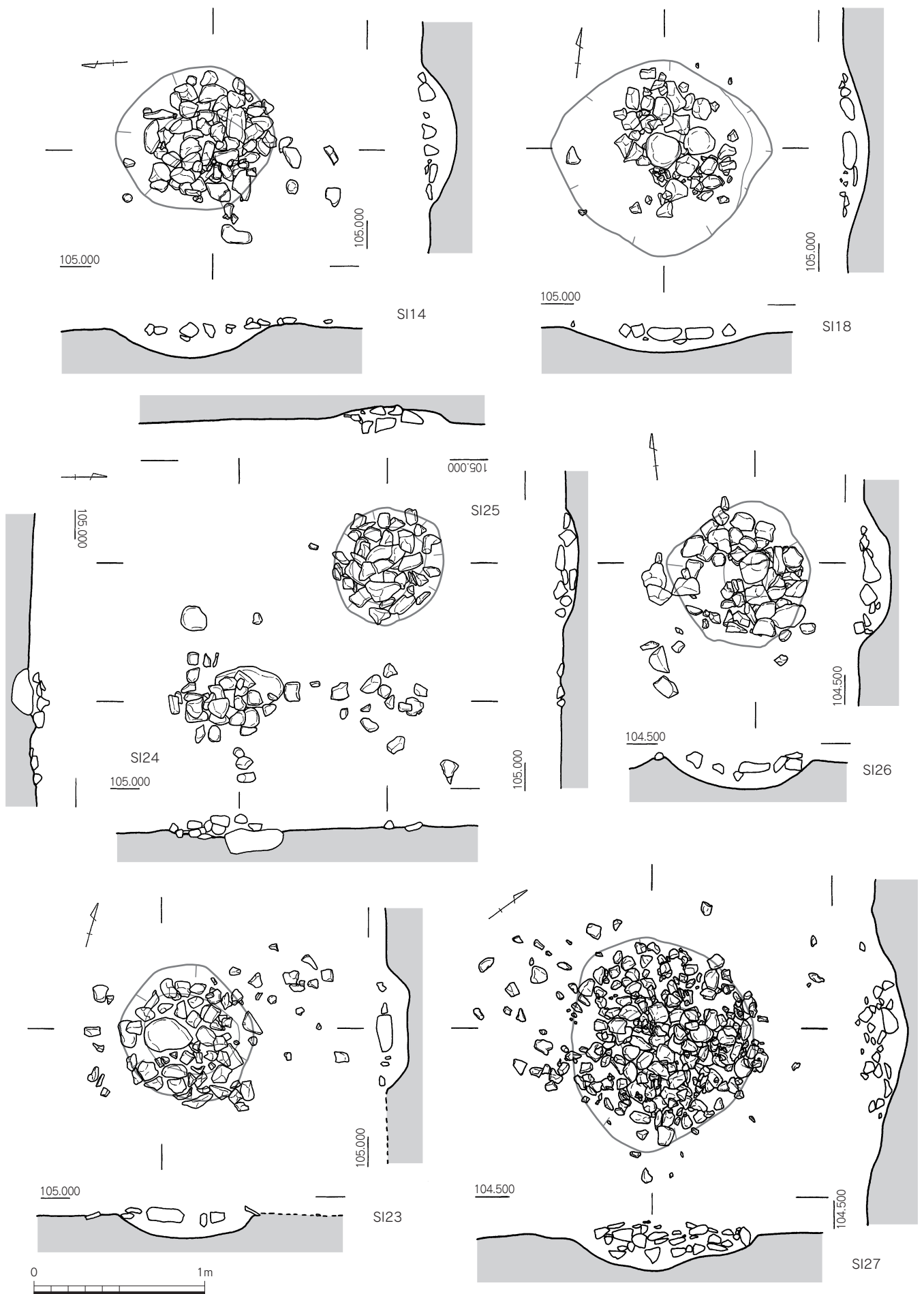
SI10



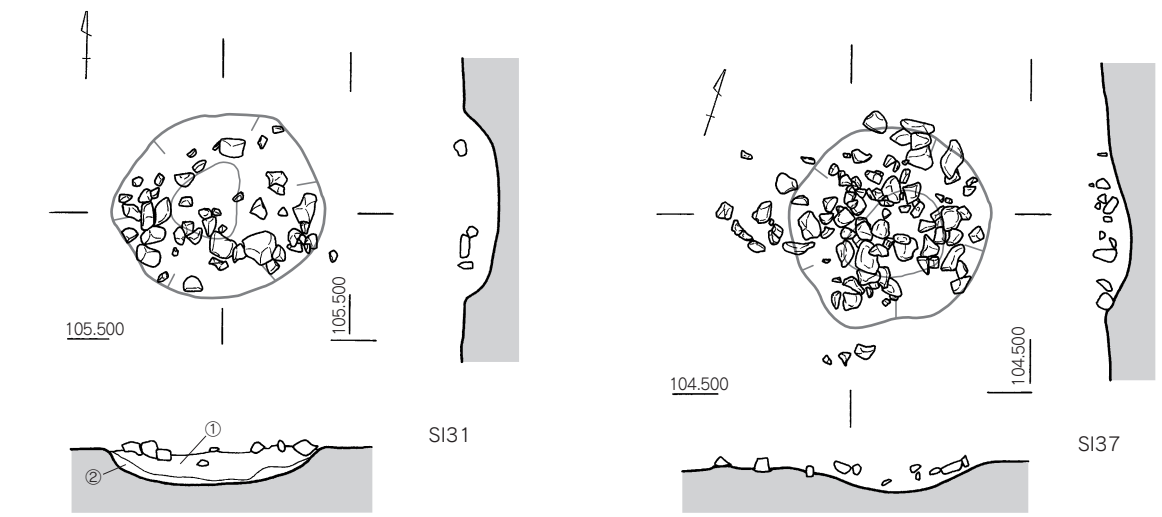
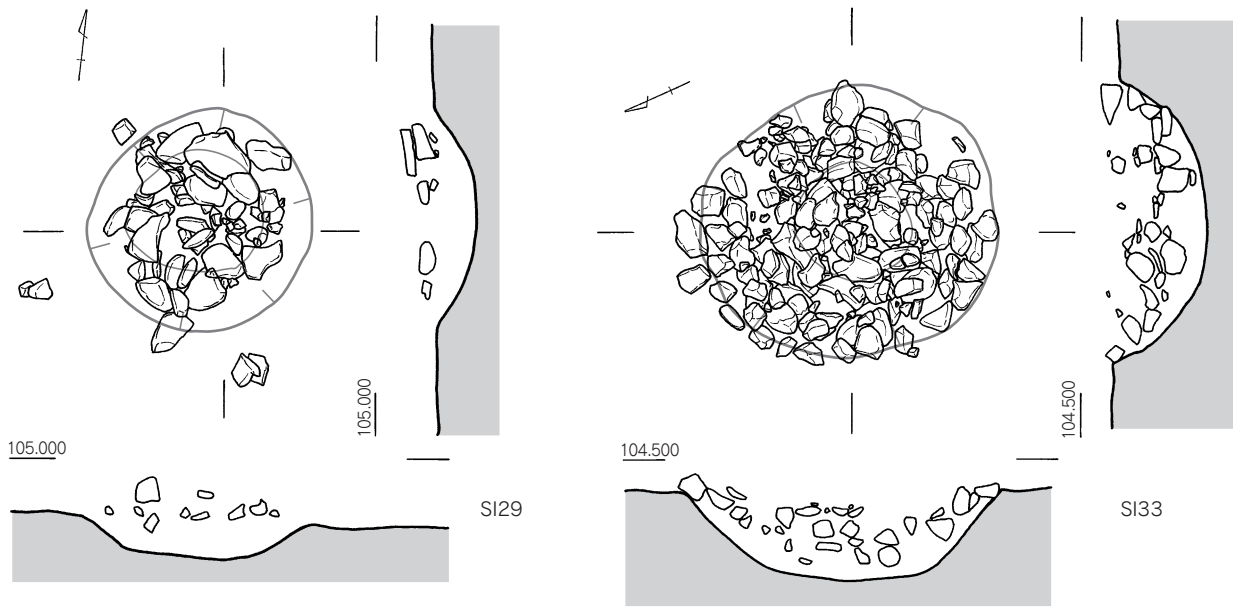
SI13

SI10
 ①黒色 (10YR1/2) 土 : 固くしまる。粘性強い。炭化材を多く含む。
 分層は出来ないが、下位ほど炭化物が多く、固くしまる。

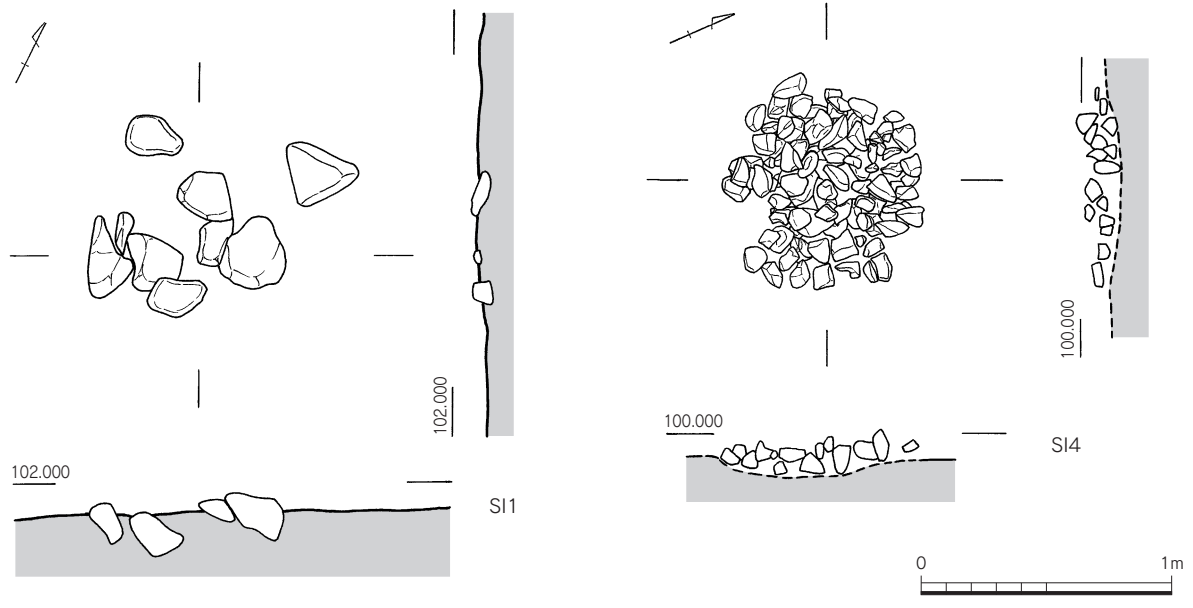
第30図 縄文時代早期集石遺構実測図 (3) (1/30)



第31図 縄文時代早期集石遺構実測図 (4) (1/30)



SI31
 ①黒褐色 (10YR2/2) 土：固くしまる。炭化物粒を多く含む。
 ②黒褐色 (10YR2/3) 土：固くしまる。炭化物粒を少し含む。①よりも色が薄い。



第32図 縄文時代早期集石遺構実測図 (5) (1/30)

【Ⅲ類】

SI1 (第32図)

構成礫は12個と少ないが、その半数が1個で2kg以上あり、他の集石遺構とは大きく異なっている。礫の周囲や下から撚糸文土器(Ⅳ類B)が出土した。炭化物は検出されていない。

SI4 (第32図)

礫の数は96個。緩やかな斜面に位置している。炭化物は検出されていない。

SI11 (第33図)

礫の数は39個。炭化物は検出されていない。

SI15 (第33図)

礫の数は96個。礫の間から炭化物粒が検出された。

SI16 (第34図)

礫の数は41個。礫の間から山形押型文土器(Ⅰ類Ba)が出土し、炭化物粒が僅かに検出された。

SI17 (第34図)

礫の数は160個。礫の間から炭化物粒が僅かに検出された。

SI19 (第34図)

礫の数は61個。礫の間から炭化物粒が僅かに検出された。

SI20 (第34図)

礫の数は29個。礫の間から炭化物粒が検出された。

SI21 (第34図)

礫の数は107個。SI22と隣りあっている。集石遺構の周囲から打製石斧(第48図310)や剥片が出土した。炭化物は検出されていない。

SI22 (第34図)

礫の数は209個。礫の間から炭化物粒が僅かに検出された。集石遺構の周囲から剥片や貝殻刺突文土器(Ⅲ類)が出土した。SI21と隣りあっている。

SI24 (第31図)

礫の数は30個。SI25と隣りあっている。比較的大きく平坦な礫が中央にある。炭化物は検出されていない。

SI28 (第34図)

礫の数は52個。炭化物は検出されていない。

SI30 (第34図)

礫の数は122個。炭化物は検出されていない。

SI34 (第34図)

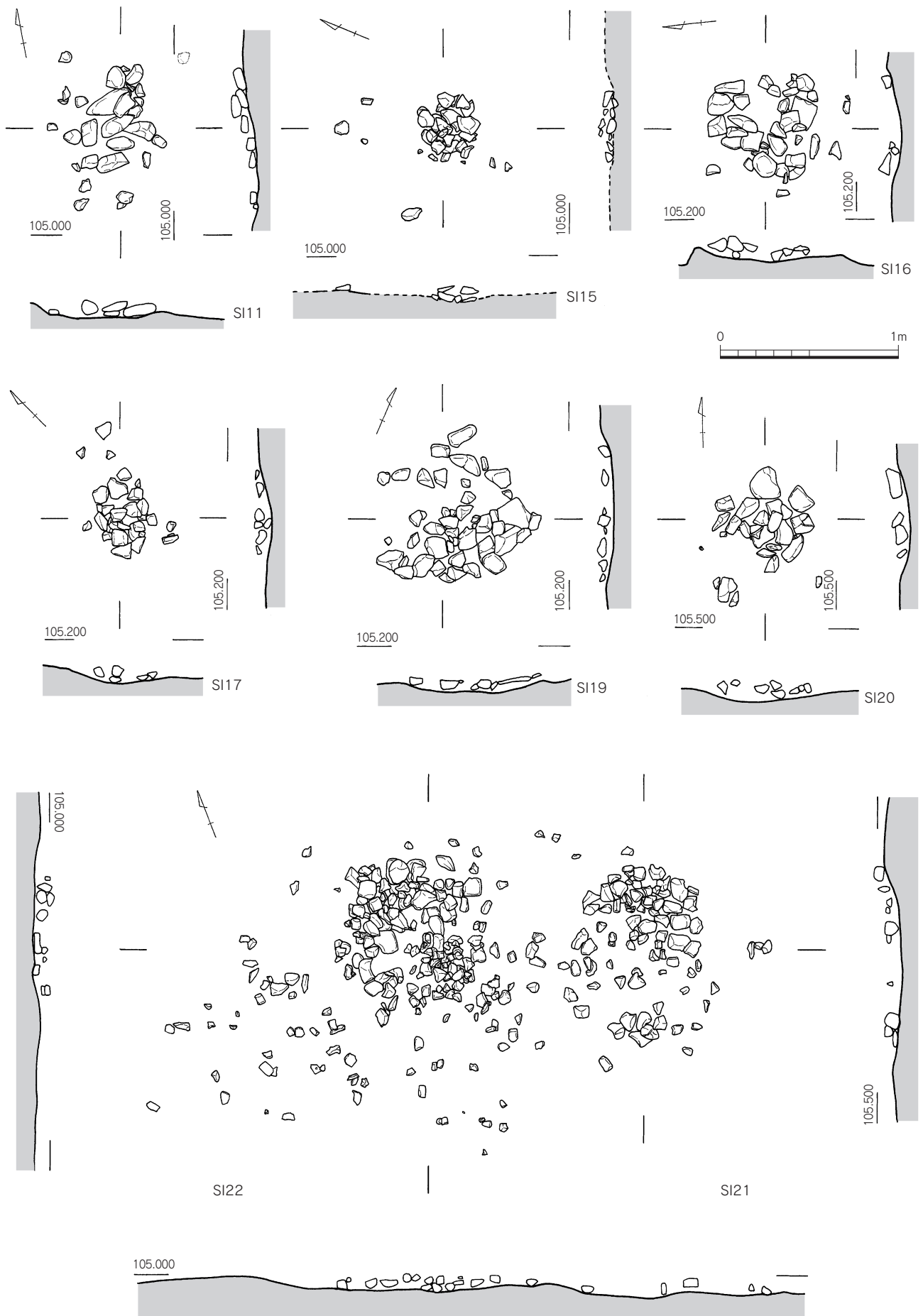
礫の数は53個。炭化物は検出されていない。

SI35 (第34図)

礫の数は124個。炭化物は検出されていない。

SI36 (第34図)

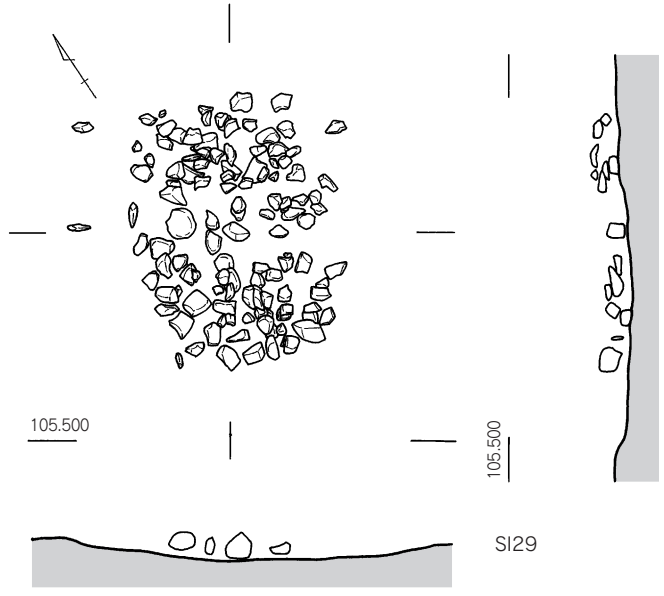
礫の数は95個。礫の間から炭化物粒が僅かに検出された。



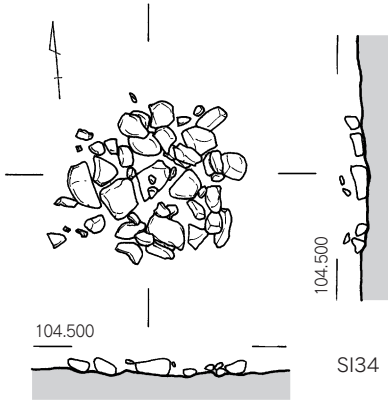
第33図 縄文時代早期集石遺構実測図 (6) (1/30)



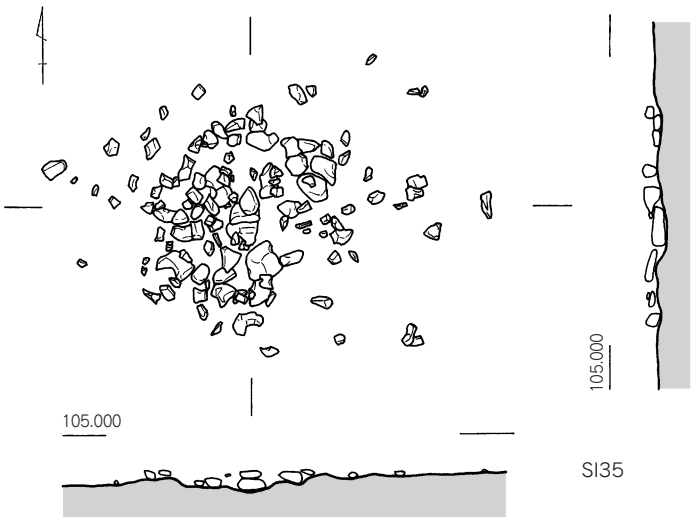
SI28



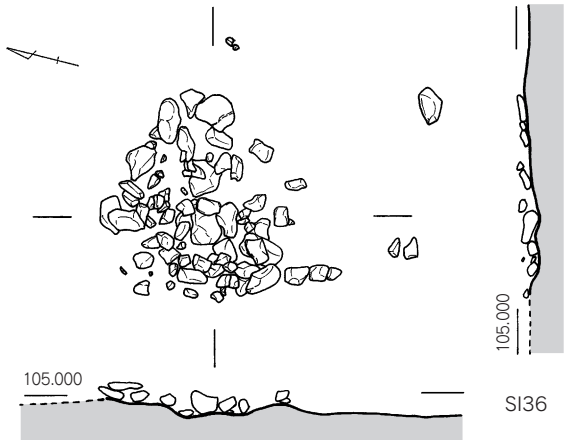
SI29



SI34



SI35



SI36



第34図 縄文時代早期集石遺構実測図 (7) (1/30)

| | 区 | グリッド | 層 | 長径(m) | 短径(m) | 分類 | 掘込み | 配石 | 炭化物 | 構成礫 | 礫個数 | 備考 |
|------|---|-------|---|-------|-------|----|-----|----|-----|-----------|------|----------------------------|
| SI1 | B | L24-1 | Ⅲ | 0.8 | 0.45 | Ⅲ | — | — | — | 尾鈴山酸性岩類のみ | 12 | 礫の下から土器が出土 |
| SI2 | B | M23-1 | Ⅲ | 1.45 | 1.25 | Ⅱ | ○ | — | ○ | 尾鈴山酸性岩類のみ | 698 | 掘り込み底面に炭化材 |
| SI3 | B | I16-3 | Ⅲ | 0.65 | 0.55 | Ⅱ | ○ | — | △ | 尾鈴山酸性岩類のみ | 37 | 埋土中に炭化物粒 |
| SI4 | D | N31-1 | Ⅲ | 0.79 | 0.77 | Ⅲ | — | — | — | 尾鈴山酸性岩類のみ | 96 | |
| SI5 | D | N30-1 | Ⅲ | 0.92 | 0.85 | Ⅱ | ○ | — | — | 尾鈴山酸性岩類のみ | 106 | |
| SI6 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | 欠番 |
| SI7 | D | M29-1 | Ⅲ | 1.25 | 0.77 | Ⅰ | ○ | ○ | ○ | 尾鈴山酸性岩類のみ | 206 | 配石の上に炭化材 |
| SI8 | D | K27-4 | Ⅲ | 2.11 | 1.73 | Ⅱ | ○ | — | △ | 尾鈴山酸性岩類のみ | 1060 | 埋土中に炭化物 |
| SI9 | C | U37-1 | Ⅲ | 0.87 | 0.84 | Ⅱ | ○ | — | — | 尾鈴山酸性岩類のみ | 88 | |
| SI10 | C | I28-1 | V | 0.82 | 0.81 | Ⅱ | ○ | — | △ | 尾鈴山酸性岩類のみ | 79 | 掘り込み部分に礫がほとんど無い 埋土中に炭化物 |
| SI11 | D | M30-2 | Ⅲ | 0.78 | 0.66 | Ⅲ | — | — | — | 尾鈴山酸性岩類のみ | 39 | |
| SI12 | A | F12-2 | Ⅲ | 1.8 | 1.8 | Ⅰ | ○ | ○ | ○ | 尾鈴山酸性岩類のみ | 1678 | 周囲に散礫を伴う 埋土中、礫下に炭化物 |
| SI13 | A | C7-4 | Ⅲ | 0.88 | 0.81 | Ⅱ | ○ | — | △ | 尾鈴山酸性岩類のみ | 115 | 埋土中に炭化物粒 |
| SI14 | A | F11-1 | Ⅲ | 0.88 | 0.75 | Ⅱ | ○ | — | ○ | 尾鈴山酸性岩類のみ | 111 | 埋土中、礫下に炭化物 |
| SI15 | A | E10-3 | Ⅲ | 0.4 | 0.35 | Ⅲ | — | — | △ | 尾鈴山酸性岩類のみ | 96 | 礫の間に炭化物粒僅か |
| SI16 | A | E9-1 | Ⅲ | 0.62 | 0.57 | Ⅲ | — | — | △ | 尾鈴山酸性岩類のみ | 41 | 礫の間に炭化物粒僅か |
| SI17 | A | E9-1 | Ⅲ | 0.48 | 0.35 | Ⅲ | — | — | △ | 尾鈴山酸性岩類のみ | 160 | 礫の間に炭化物粒僅か |
| SI18 | A | F10-1 | Ⅲ | 0.86 | 0.72 | Ⅱ | ○ | — | △ | 尾鈴山酸性岩類のみ | 98 | 埋土中に炭化物粒 |
| SI19 | A | E9-1 | Ⅲ | 0.94 | 0.87 | Ⅲ | — | — | △ | 尾鈴山酸性岩類のみ | 61 | 礫の間に炭化物粒僅か |
| SI20 | A | E9-4 | Ⅲ | 0.58 | 0.55 | Ⅲ | — | — | △ | 尾鈴山酸性岩類のみ | 29 | 礫の間に炭化物粒 |
| SI21 | A | C9-4 | Ⅲ | 0.73 | 0.66 | Ⅲ | — | — | — | 尾鈴山酸性岩類のみ | 107 | |
| SI22 | A | C9-4 | Ⅲ | 0.9 | 0.86 | Ⅲ | — | — | △ | 尾鈴山酸性岩類のみ | 209 | 礫の間に炭化物粒僅か |
| SI23 | A | D9-1 | Ⅲ | 0.8 | 0.78 | Ⅱ | ○ | — | — | 尾鈴山酸性岩類のみ | 106 | |
| SI24 | A | C10-1 | Ⅲ | 0.77 | 0.43 | Ⅲ | — | — | — | 尾鈴山酸性岩類のみ | 30 | |
| SI25 | A | C10-1 | Ⅲ | 0.69 | 0.63 | Ⅱ | ○ | — | △ | 尾鈴山酸性岩類のみ | 60 | 埋土中に炭化物粒 |
| SI26 | A | G12-1 | Ⅲ | 0.75 | 0.7 | Ⅱ | ○ | — | ○ | 尾鈴山酸性岩類のみ | 75 | 埋土中、礫下に炭化物 |
| SI27 | A | E12-3 | Ⅲ | 1.18 | 0.91 | Ⅱ | ○ | — | ○ | 尾鈴山酸性岩類のみ | 285 | 埋土中、礫下に炭化物 |
| SI28 | A | D11-2 | Ⅲ | 0.81 | 0.65 | Ⅲ | — | — | — | 尾鈴山酸性岩類のみ | 52 | |
| SI29 | A | D10-1 | Ⅲ | 0.9 | 0.88 | Ⅱ | ○ | — | △ | 尾鈴山酸性岩類のみ | 181 | 埋土中に炭化物粒 |
| SI30 | A | C7-4 | Ⅲ | 1.1 | 0.8 | Ⅲ | — | — | — | 尾鈴山酸性岩類のみ | 122 | |
| SI31 | A | D8-4 | Ⅲ | 0.76 | 0.6 | Ⅱ | ○ | — | △ | 尾鈴山酸性岩類のみ | 52 | 埋土中に炭化物粒 |
| SI32 | A | D11-3 | Ⅲ | 1.1 | 1.09 | Ⅰ | ○ | ○ | ○ | 尾鈴山酸性岩類のみ | 320 | 配石の上に炭化材 |
| SI33 | A | G12-1 | Ⅲ | 1.28 | 1.12 | Ⅱ | ○ | — | ○ | 尾鈴山酸性岩類のみ | 308 | 埋土中に炭化物粒 |
| SI34 | A | D11-1 | Ⅲ | 0.7 | 0.65 | Ⅲ | — | — | — | 尾鈴山酸性岩類のみ | 53 | |
| SI35 | A | B9-2 | Ⅲ | 0.95 | 0.9 | Ⅲ | — | — | — | 尾鈴山酸性岩類のみ | 124 | |
| SI36 | A | F9-1 | Ⅲ | 0.81 | 0.77 | Ⅲ | — | — | △ | 尾鈴山酸性岩類のみ | 95 | 礫の間に炭化物粒僅か |
| SI37 | A | F13-3 | Ⅲ | 0.88 | 0.79 | Ⅱ | ○ | — | △ | 尾鈴山酸性岩類のみ | 73 | 埋土中に炭化物粒僅か |
| SI38 | A | F12-2 | Ⅲ | 2.07 | 1.56 | Ⅰ | ○ | ○ | ○ | 尾鈴山酸性岩類のみ | 1515 | 周囲に散礫を伴う 掘り込み底面に炭化材 |

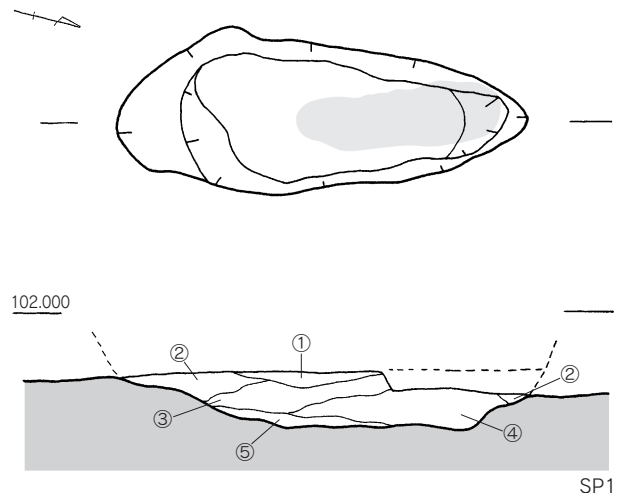
※層は、検出面を示す ※長径、短径は礫の広がる範囲で計測 ※炭化物は、○炭化材あり △炭化物あり —炭化物無し

第1表 集石遺構観察表

2 炉穴

SP1 (第35図)

B区で検出された。長径約2.2mの長楕円形。検出面からの深さは中央部で約0.3m。焼土の検出された側の立ち上がりが急になっている。これの検出面はKr-Kbを含む層（V層）であるが、底面から押型文土器（I類Bb）の小片が出土しており、SP1は縄文時代早期に属する可能性がある。そこで、SP1から検出された炭化物を用いてAMS-炭素14（¹⁴C）年代測定を行った（詳細第V章）。測定の結果、SP1の年代は8,000±50BPで、較正年代でBC7,000年頃～BC6,800年頃とされ、BC7,800年頃～BC7,000年頃とされた集石遺構検出の炭化材によるものと大差ない数値であった。このことから、SP1は縄文時代早期の遺構としてよいものと思われる。

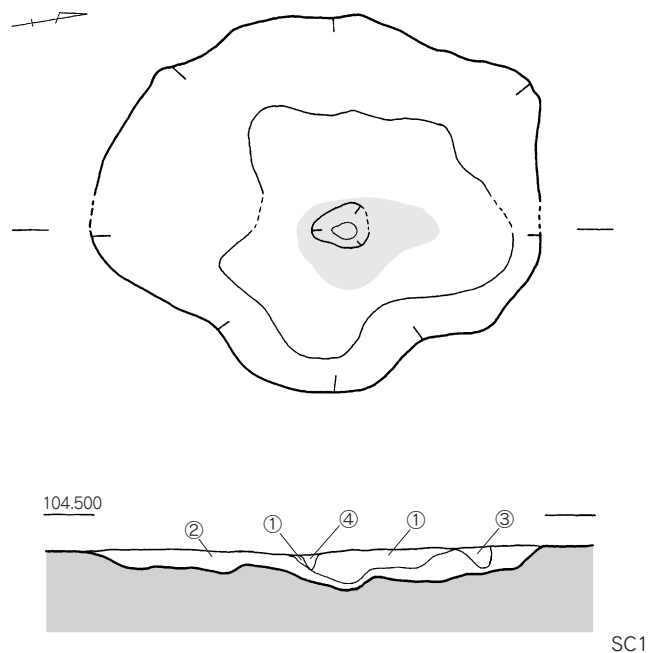


- SP1
- ① 灰黄褐色 (10YR4/2) 土：しまり無し。軟質。にぶい黄橙 (10YR6/4) 色の粒を含む。
 - ② 黒褐色 (2.5YR3/2) 土：しまり無し。やや硬質。焼土を僅かに含む。
 - ③ 黒褐色 (2.5YR3/1) 土：僅かにしまる。やや硬質。焼土を少し含む。
 - ④ 黒褐色 (2.5YR3/1) 土：僅かにしまる。やや硬質。焼土、炭化物を多く含む。
 - ⑤ 暗オリーブ褐色 (2.5YR3/3) 土：しまり無し。軟質。焼土を僅かに含む。

3 土坑

SC1 (第35図)

SI12・38周囲の散礫西端から検出された（第8図・第27図参照）。長径約2.4mの楕円形。検出面からの深さは中央部で約0.2m。中央付近の埋土に焼土や炭化物粒を含む部分がある。集石遺構に近く散礫の端に位置しているため、礫を熱するために火を焚いた土坑とも考えられるが、内部から赤化した礫は出土せず、炭化物も中央付近以外の埋土からは検出されていない。



- SC1
- ① にぶい黄褐色 (10YR4/3) 土：しまる。やや硬質。炭化物、焼土粒を含む。
 - ② 暗褐色 (10YR3/3) 土：しまる。硬質。炭化物、焼土を僅かに含む。
 - ③ 黒褐色 (10YR3/2) 土：しまり無し。軟質。
 - ④ 植栽痕：一部K-Ahが混じる。

0 1m

第35図 縄文時代早期炉穴・土坑実測図 (1/40)

4 縄文土器

本遺跡では、さまざまな文様を施された土器が出土している。それらの多くは小片であり、接合を行ったものの器形が分かる程度にまで復元できたものは数個体のみで、器形からの分類は困難と思われた。そこで、これらを文様を基にⅠ～Ⅴ類に大別し、さらに合計12種類に細分した。

- ・Ⅰ類 押型文が施されているもの。さらに3種類に分かれる。
 - A 格子目押型文が施されているもの。
 - B 山形押型文が施されているもの。さらに2種類に分かれる。
 - a：山が比較的小さく、深く施文されているもの。
 - b：山が比較的大きく、浅く施文されているもの。
 - C 楕円押型文が施されているもの。さらに2種類に分かれる。
 - a：楕円の長径が比較的小さい（6mm未満）もの。
 - b：楕円の長径が比較的大きい（6mm以上）もの。
- ・Ⅱ類 条痕文が施されているもの。さらに2種類に分かれる。
 - A 斜～横方向に貝殻条痕文が施されているもの。
 - B 不規則に条痕文が施されているもの。
- ・Ⅲ類 刺突文が施されているもの。
- ・Ⅳ類 撚糸文が施されているもの。さらに3種類に分かれる。
 - A 一節の長径が約5mmで、一節ごとの間隔が比較的広いもの。
 - B 一節の長径が約4mmのもの。
 - C 一節の長径が約1mmのもの。
- ・Ⅴ類 その他。文様を持たないものや、Ⅰ～Ⅳ類に当てはまらない文様のもの。

【Ⅰ類A】（第36図135～143）

9点を図化した。胎土の特徴等から、全て同一個体と思われる。口縁部内面は上段に縦位の原体条痕が、下段に外面と同じ格子目押型文が施されている。口縁形態は波状口縁と思われる。厚さは約10mm。口縁部断面形は舌状もしくは角の丸い方形を呈する。早水台式に相当。これらの胎土には黒色の鉱物が多量に含まれており、土器表面がキラキラと光る様子が観察された。このような胎土は、他の分類とした土器では確認されていない。

【Ⅰ類Ba】（第36図144～153）

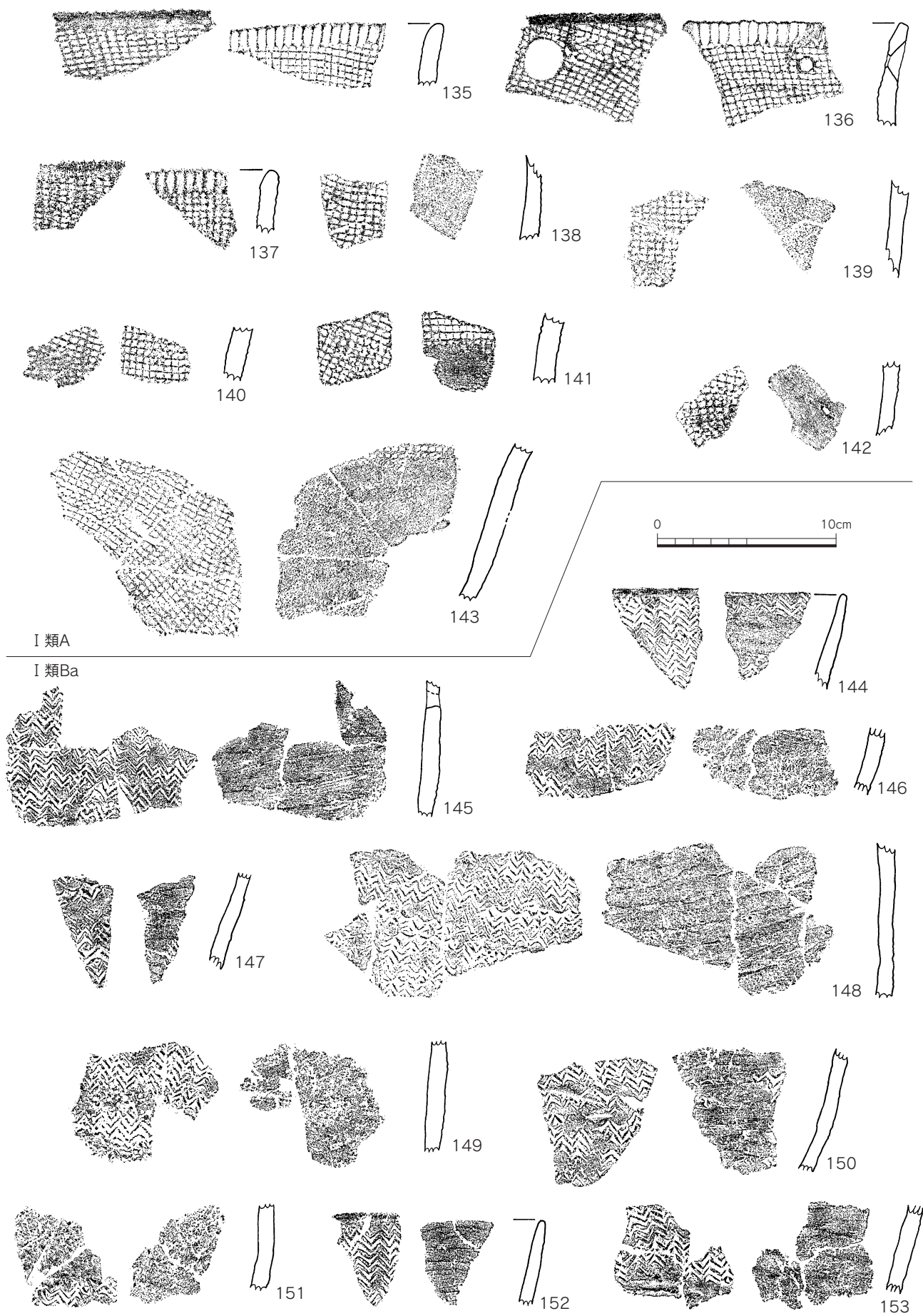
10点を図化した。山形押型文は横回転で、内面にも施されているものもある。内面は横方向のナデ。厚さは約7mm。口縁部断面形は舌状を呈している。稲荷山式に相当。いずれもあまり風化した印象は無く、しっかりしている。

【Ⅰ類Bb】（第37図154～162）

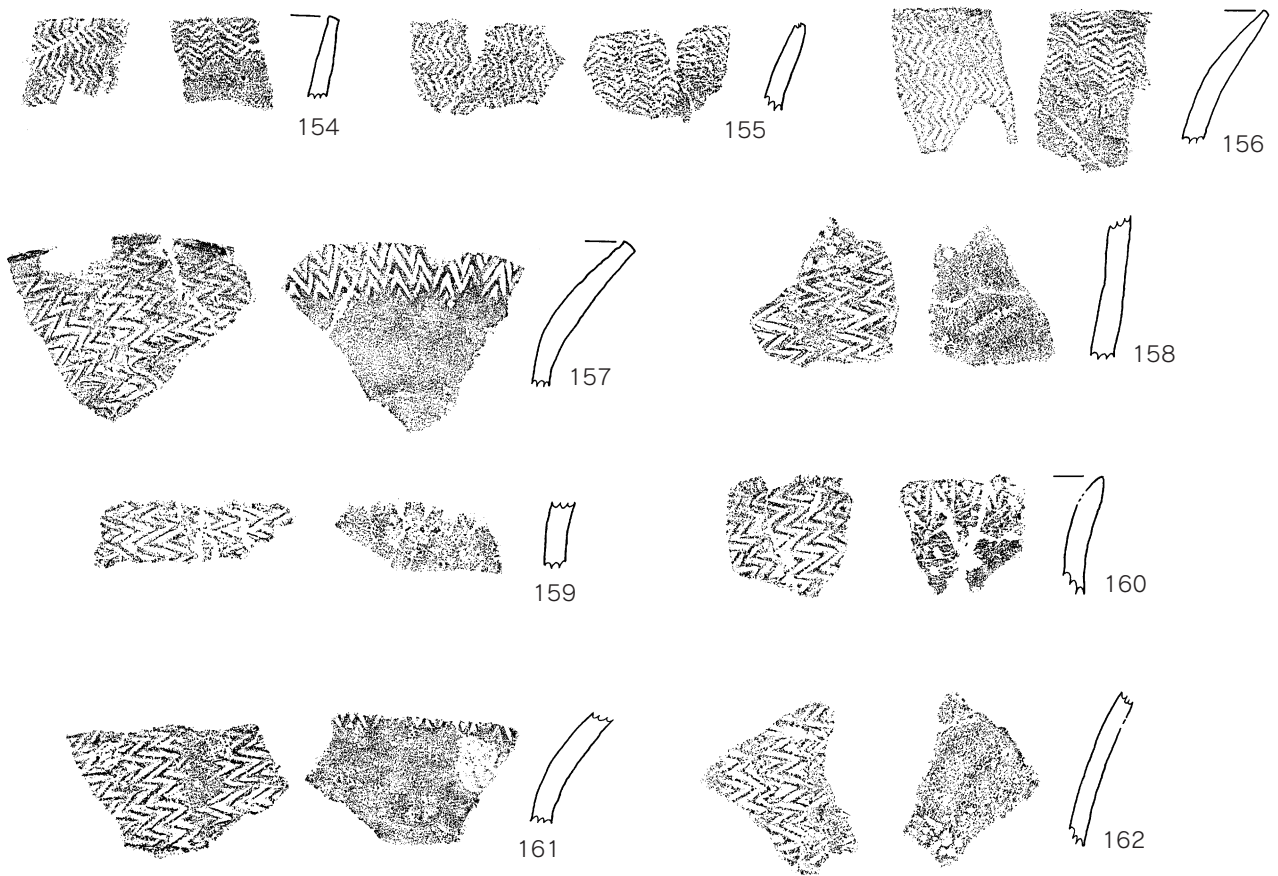
9点を図化した。外面の山形押型文は縦回転で、口縁内面上部に施されたものは横回転である。浅く施文されているためか、文様が薄くなっているものが多い。厚さは約7mm。口縁部断面形は舌状や方形を呈し、多くは短く外反している。田村式に相当。表面は粉っぽく、Ⅰ類Baよりも風化している。154～156は他よりも山が小さいが、施文方向は一致している。

【Ⅰ類Ca】（第37図163～173）

11点を図化した。外面は横回転の楕円押型文が多いが、166・167は縦回転である。また、内面に楕円押型文が施されているものもあり、こちらはいずれも横回転である。厚さは約9mm。口縁部断面形は舌状や方形を呈している。稲荷山式に相当。163は小型の胴部片であるが、楕円押型文がベルト状に施文されている。

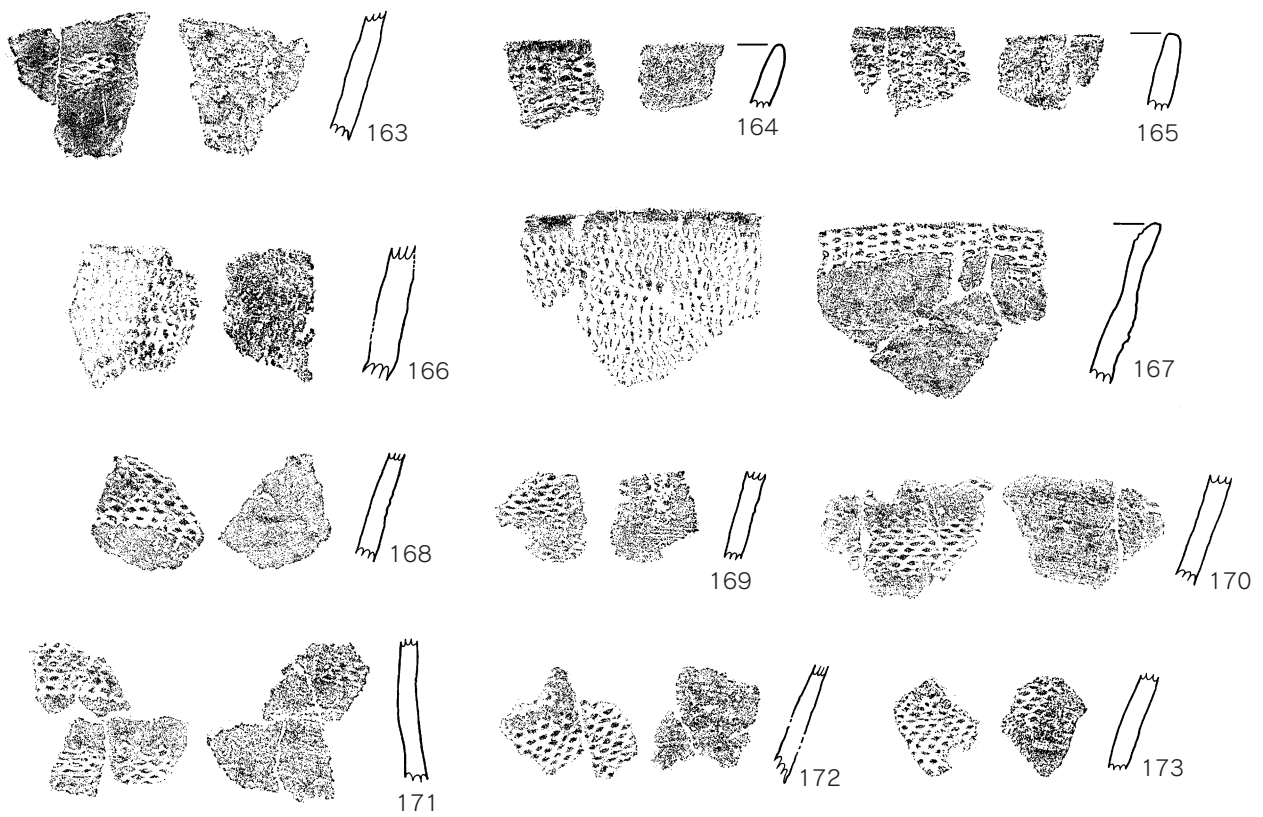


第36図 縄文時代早期土器実測図 (1)(1/3)

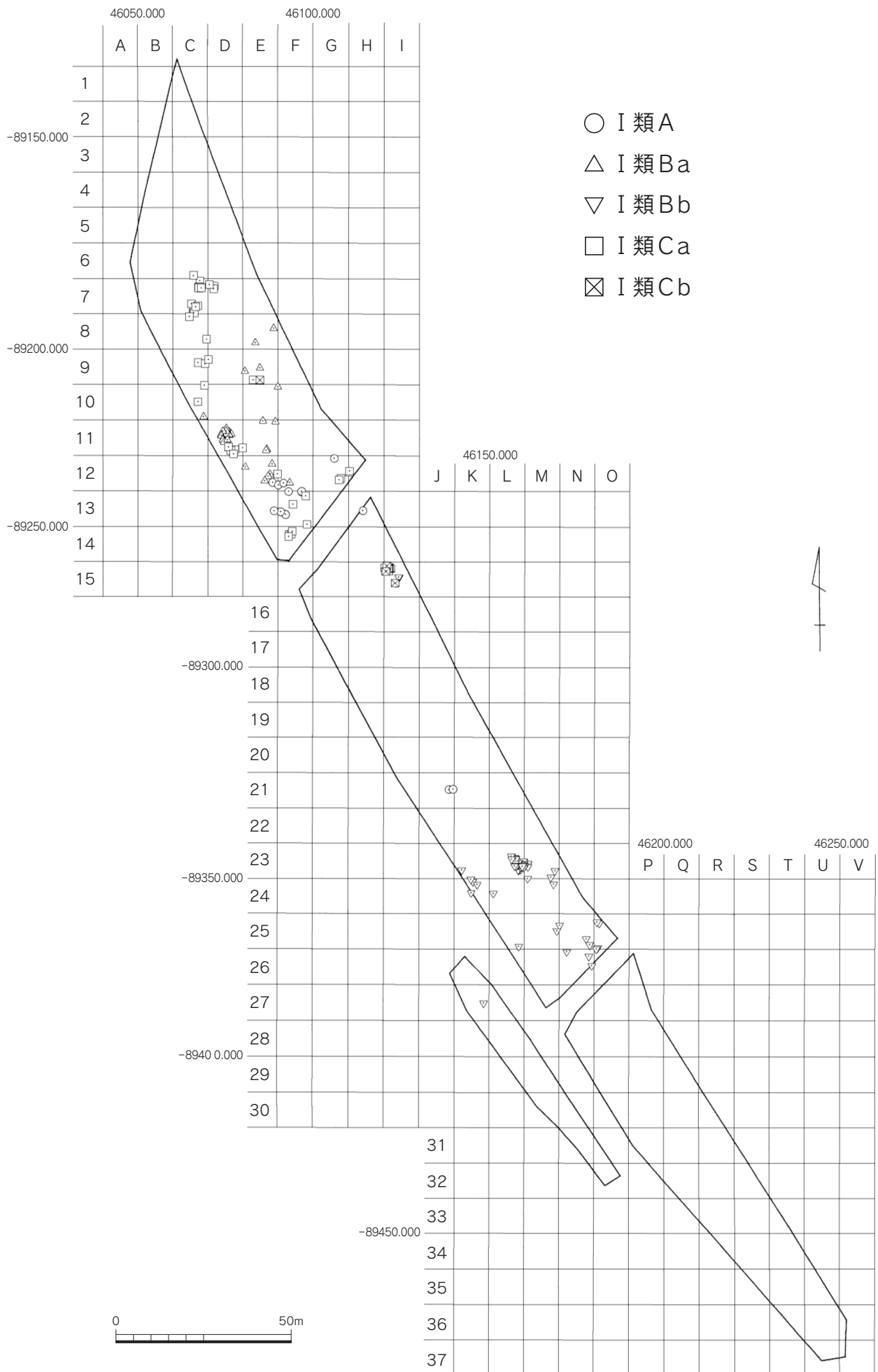


I 類Bb

I 類Ca



第37図 縄文時代早期土器実測図 (2) (1/3)



第38図 押型文土器分布図 (1/1,500)

【I類Cb】(第39図174~177)

4点を図化した。口縁部を含むものは無く、底部である177が横回転であることが分かる以外、施文方向は不明である。厚さは約10mm。田村式に相当。

【II類A】(第39図178~189、第40図190~196)

19点を図化した。器面が風化しているものが多く、中には文様の一部しか判別できないものもある。内面は縦もしくは横方向のナデ。厚さは約10~12mm。口縁部断面形は舌状もしくは角の丸い方形を呈し、短く外反するものが多い。別府原3式に相当。

【II類B】(第40図197)

口縁部付近のもの一点しか出土していない。厚さは約15mm。口縁部断面形は方形を呈する。内外共に風化している。

【III類】(第42図198~200、第43図201・202)

5点を図化した。198と199と200、201と202は、それぞれ同一個体と思われる。図化しなかった小片もどちらかの個体に含まれるため、III類は2個体しかないものと思われる。どちらも狭い範囲に同一個体の土器片が集中して出土した。どちらも下剥峯式に相当すると思われる。

198~200は、斜方向に刺突文が施されている。平底で、裏底には木の葉圧痕が残されている。内面は横方向のナデ。厚さは約7mm。器形は、底部から外に開きながら立ち上がるバケツ状で、口縁部断面形は方形を呈する。

201・202は、規格化された刺突による文様が全面に施されている。内面は縦方向のナデ。厚さは約10mm。底部は出土していないが、外に開きながら立ち上がるバケツ状を呈する。口縁部断面形は方形を呈し、口縁端部が特に厚くなっている。

【IV類A】(第45図203)

1点のみ図化した。外面に斜位の撚糸文が施されている。厚さは約10mm。口縁部断面形はやや角の丸い方形を呈する。

【IV類B】(第45図204~210)

IV類の中では数が最も多く、7点を図化した。外面に斜位の撚糸文が施されている。内面は横方向のナデ。厚さは約7mm。口縁部断面形は舌状や方形を呈する。稲荷山式に相当するか。206・209は、文様の一部を撫で消した無文帯が設けられている。

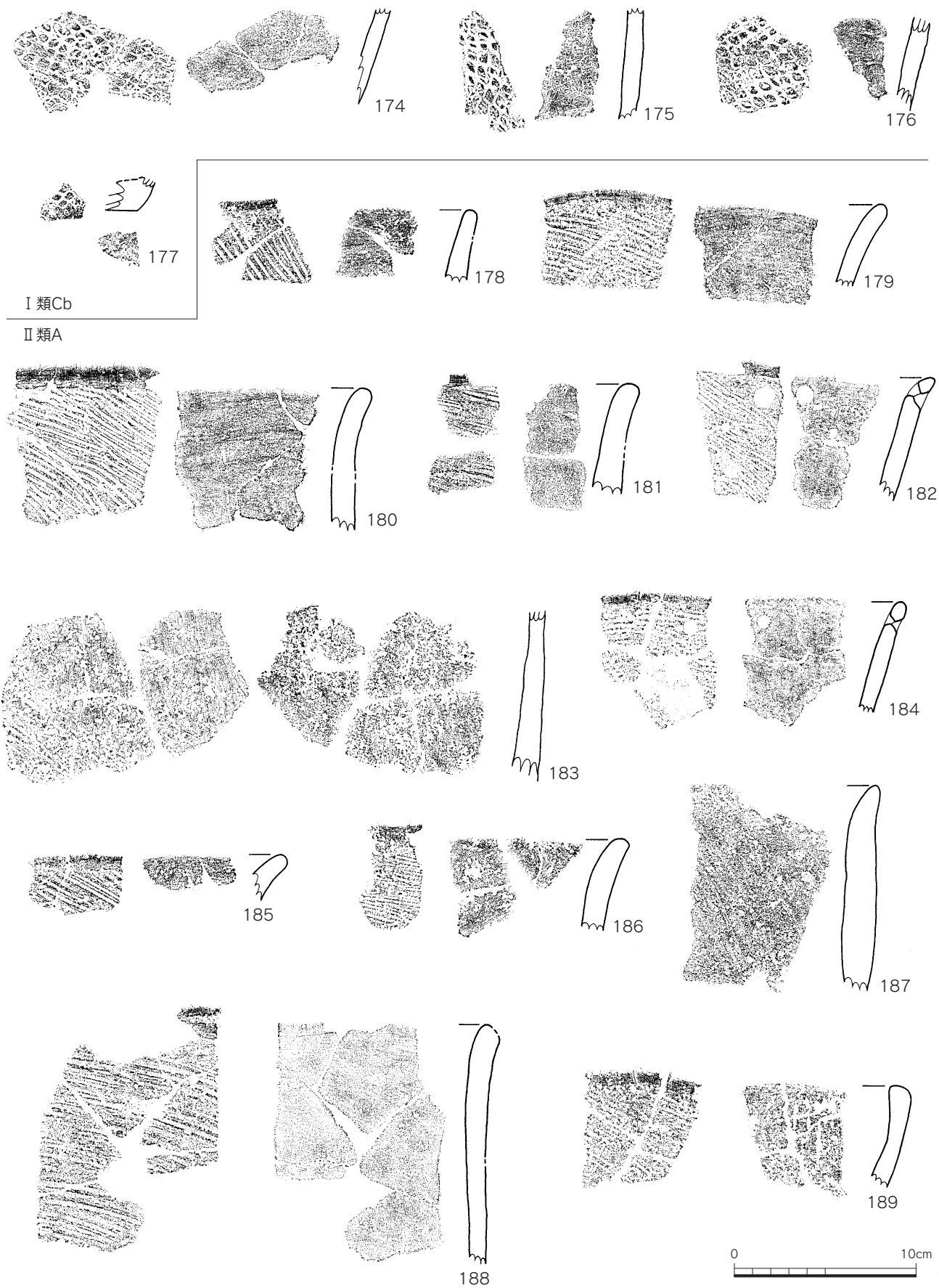
【IV類C】(第45図211)

1点のみ図化した。厚さは約7mm。図化しなかったものも、全て小片であった。

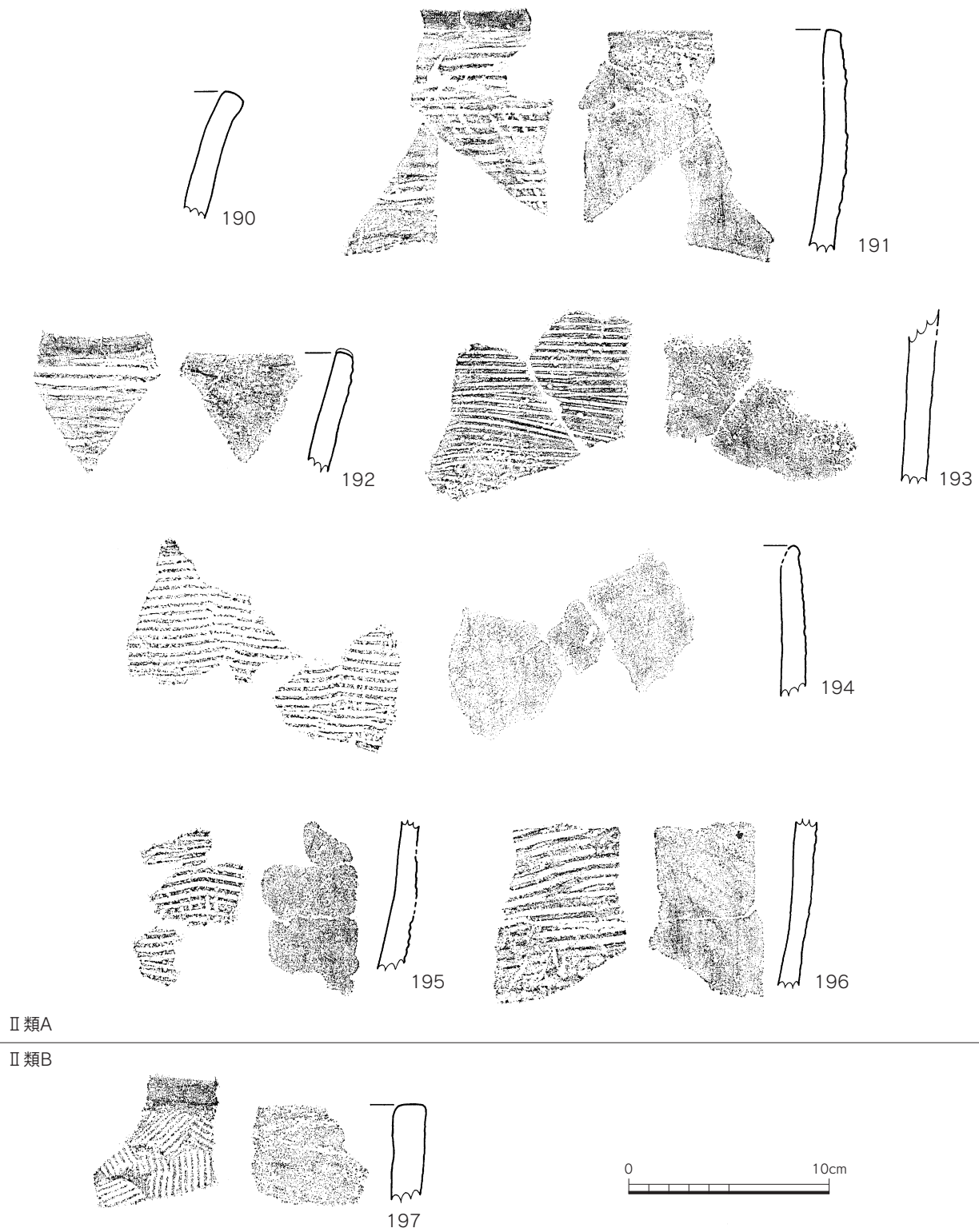
【V類】(第45図212~216)

4点を図化した。212は平底、213は丸底の底部である。どちらも文様は施されていない。214は、土器表面に粘土紐を菱形に貼り付け、文様としたものである。小片で、他に類似する文様のものは確認できない。215は、部位不明の土器片である。その形態から、つまみのような部分ではないかと思われる。216は壺の口縁部と思われる。文様は施されていない。

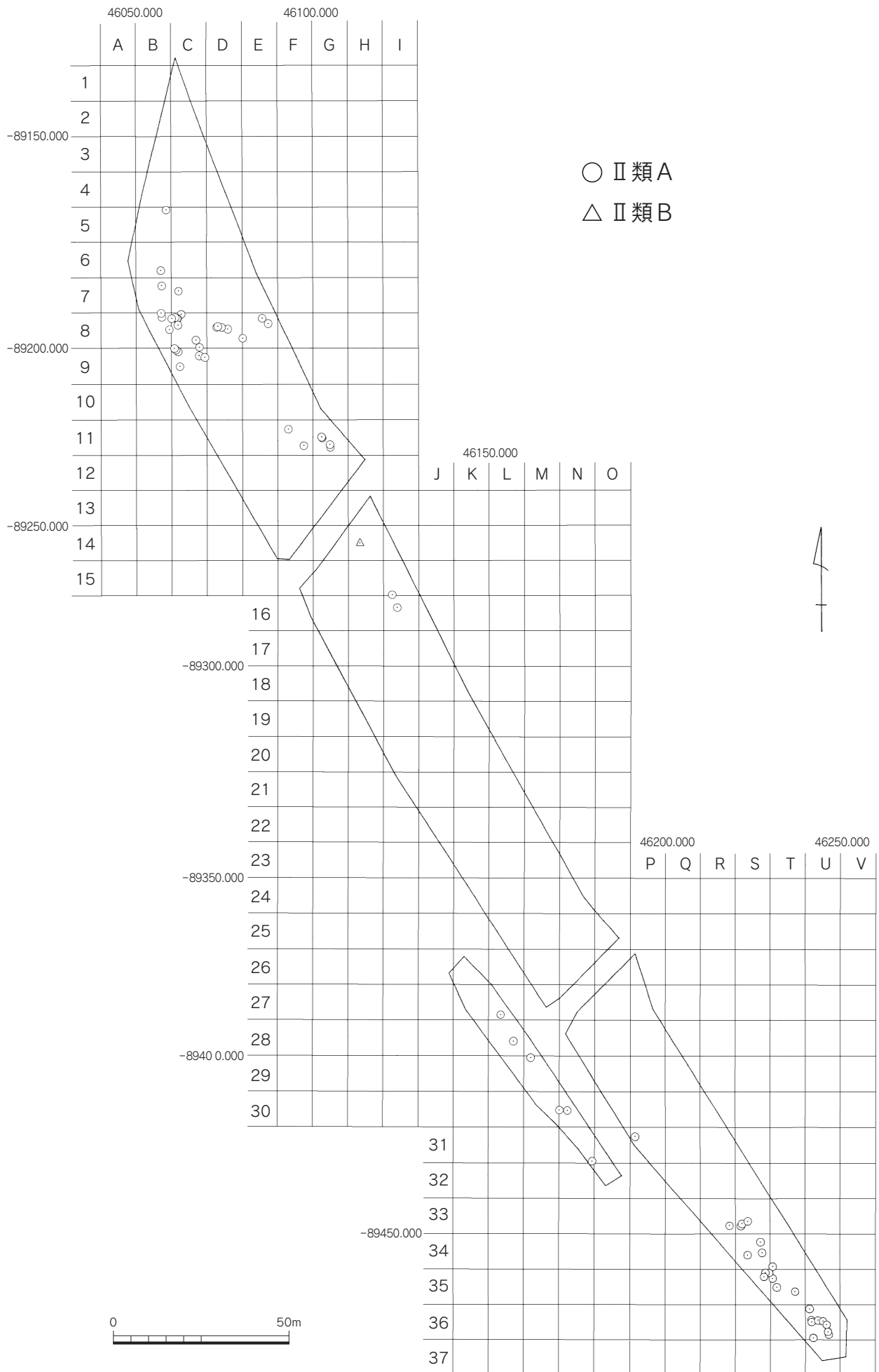
これらの各分類は、それぞれに遺跡内で一定の分布域を持っており、使用時期の違いが想定されるが、層位的把握は困難であったため、各類の同伴関係・編年的序列等不明な点が多い。中には、I類Caの様に弧を描く様に分布し、本調査区外へ続くと思われるもの(第38図参照)や、II類の様にA区とC区南側に分布域が偏るもの(第41図参照)等、本遺跡の状況だけでは判断し難いものもある。そのため、遺跡周辺の状況を総合しなければ、より深い理解は難しいものと思われる。



第39図 縄文時代早期土器実測図 (3) (1/3)

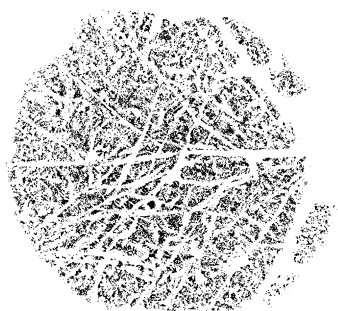
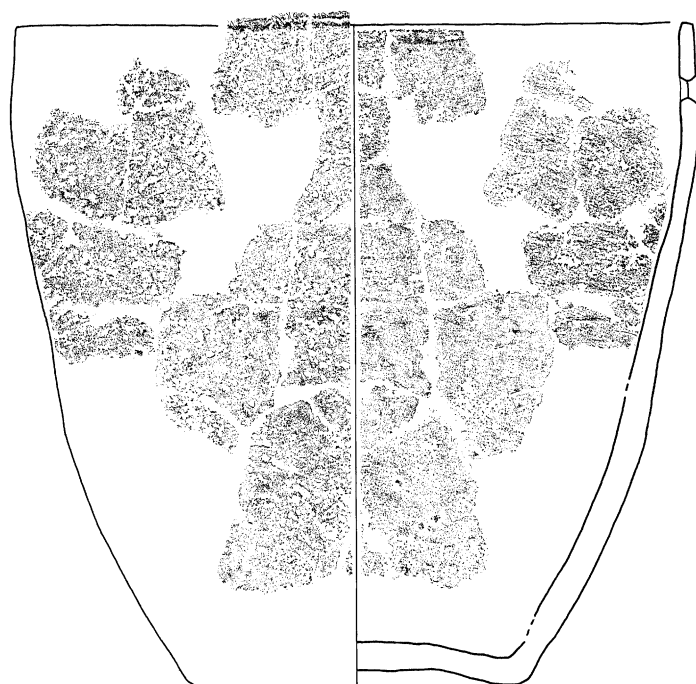


第40図 縄文時代早期土器実測図 (4)(1/3)

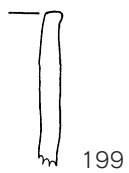


第41図 条痕文土器分布図 (1/1,500)

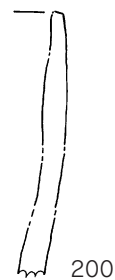
Ⅲ類



198



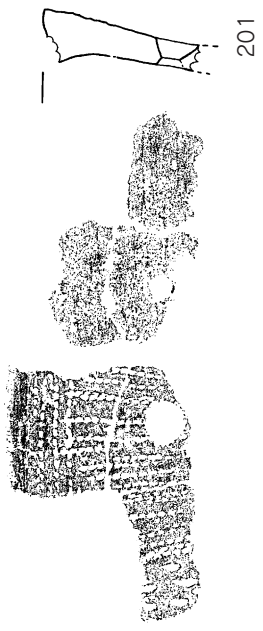
199



200



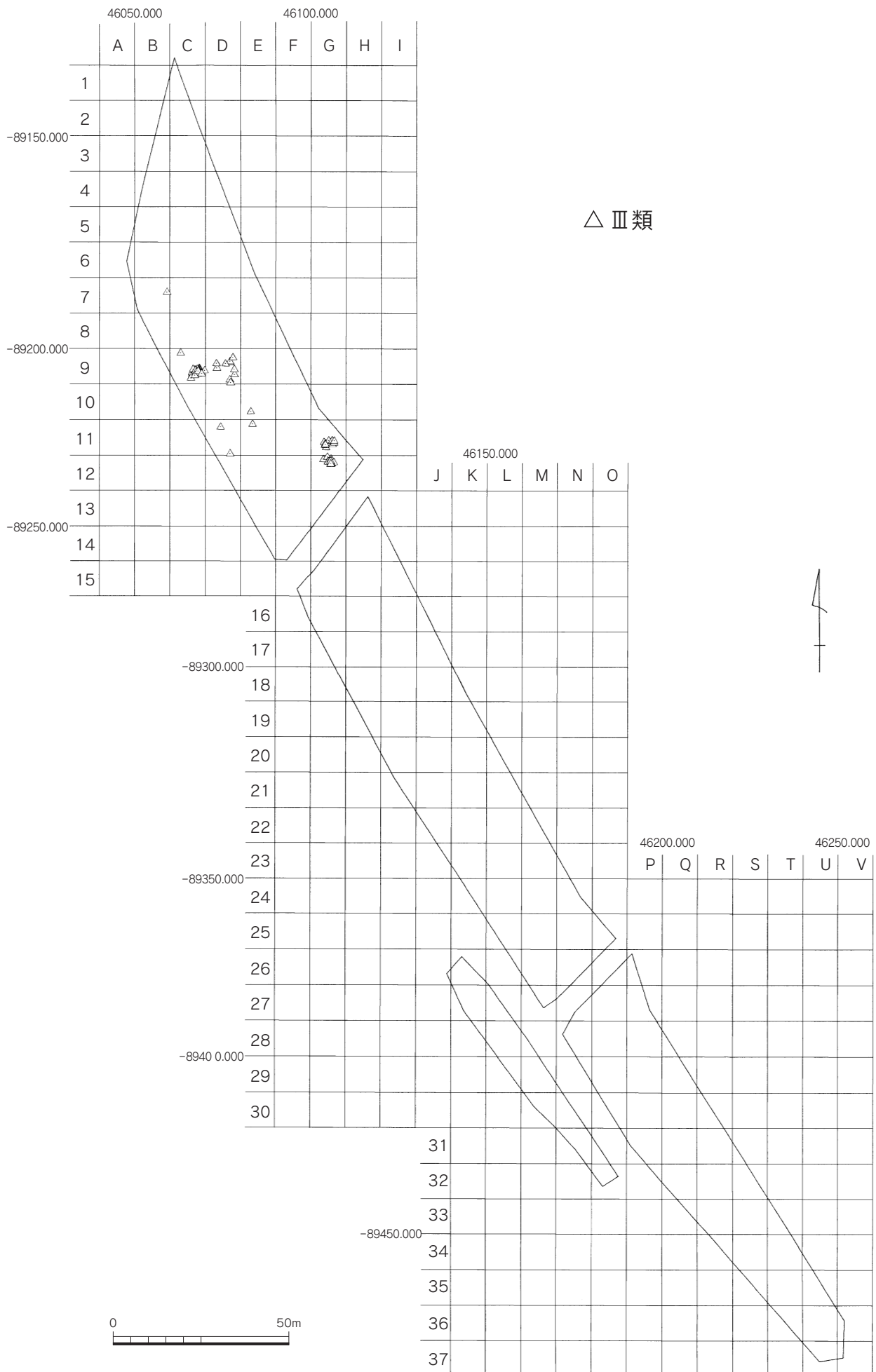
第42図 縄文時代早期土器実測図 (5) (1/3)



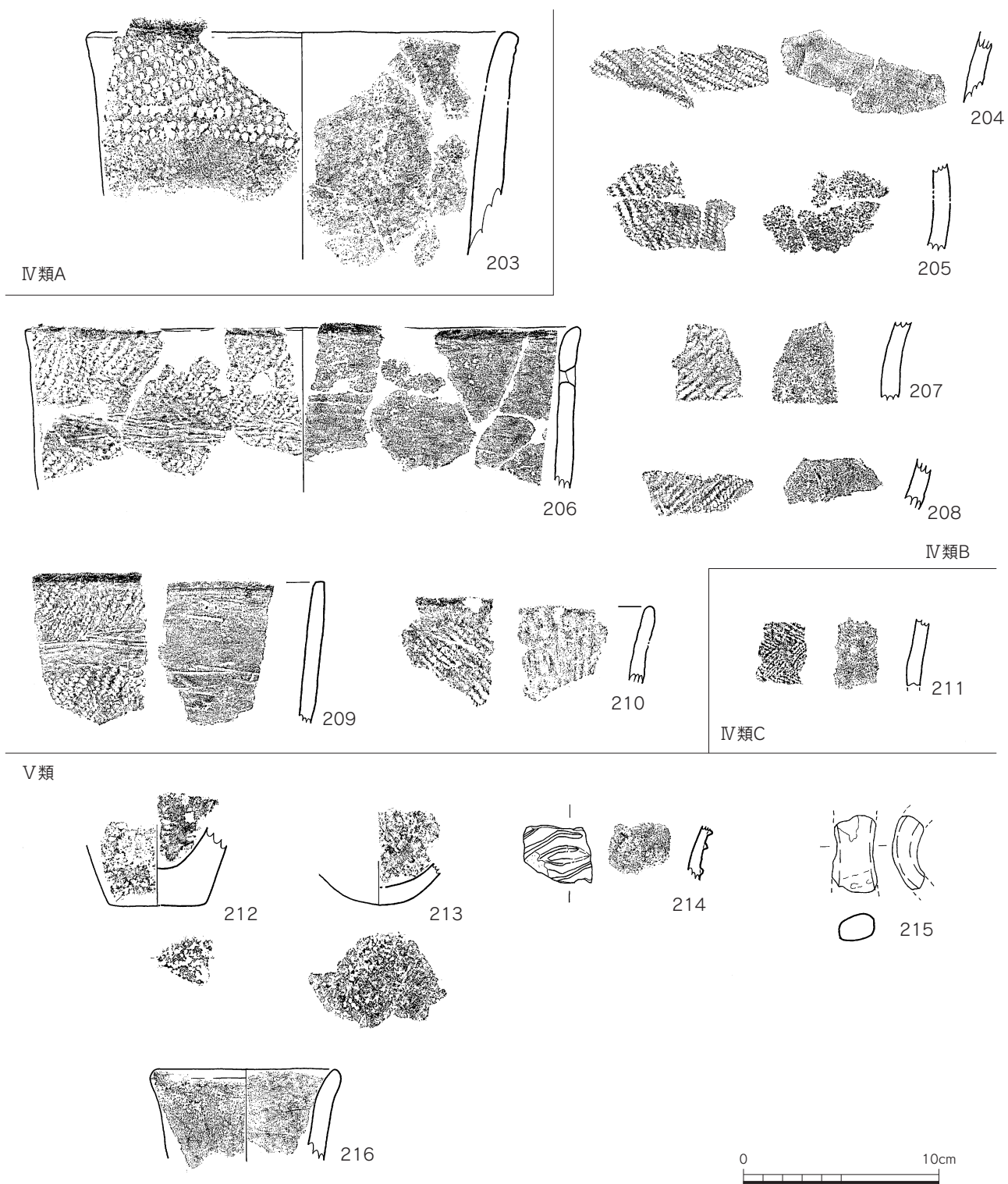
皿類



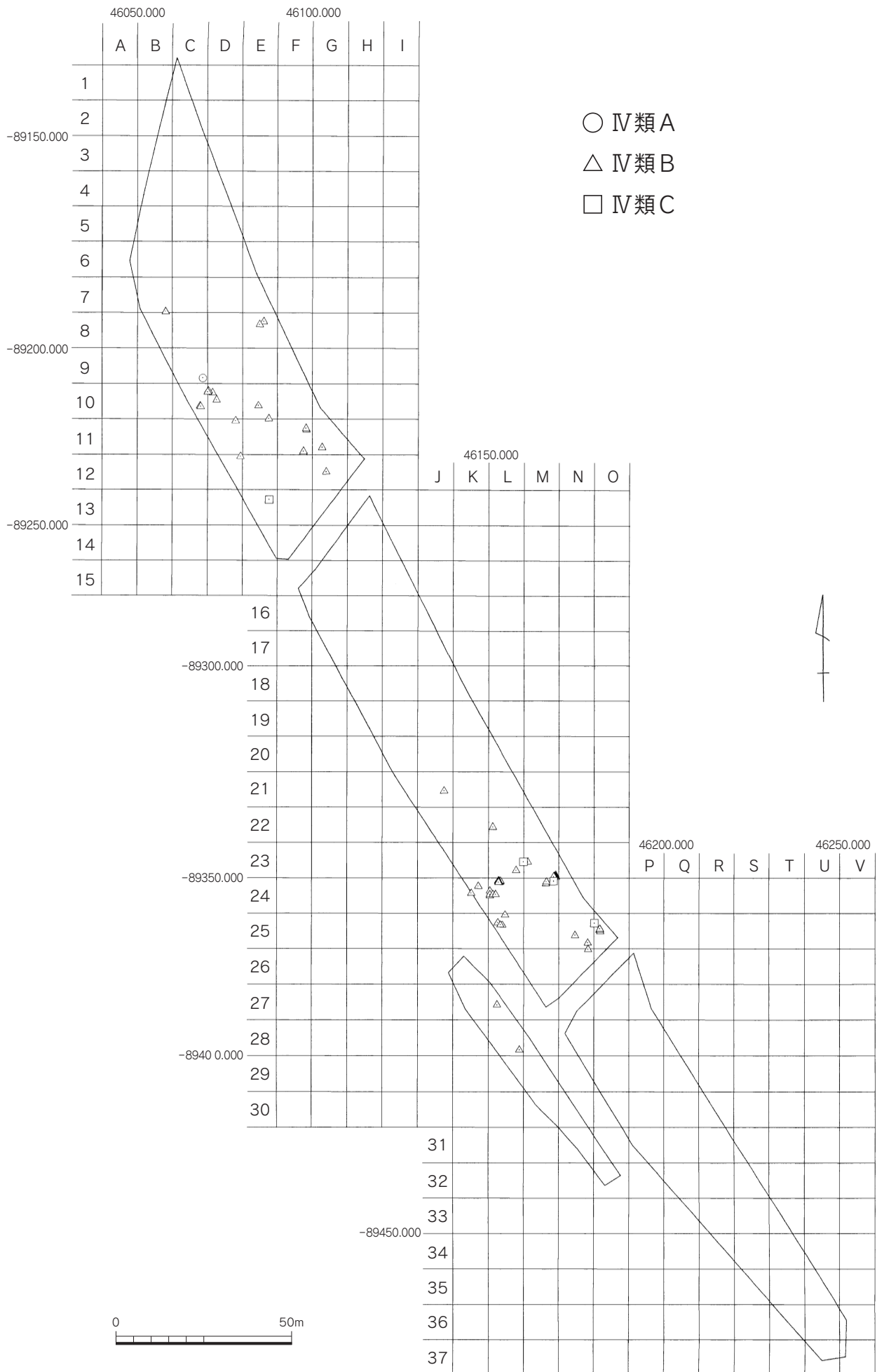
第43図 縄文時代早期土器実測図 (6) (1/3)



第44図 刺突文土器分布図 (1/1,500)



第45図 縄文時代早期土器実測図 (7) (1/3)



第46図 撚糸文土器分布図 (1/1,500)

5 石器

【石鏃】(第47図217~267、第48図268~298)

本調査では、合計82点が出土した。これらはその大まかな形から、以下の5種類に分類を行った。

- | | |
|-----------------------|-----|
| ① 正三角形 (217~236) | 20点 |
| ② 二等辺三角形 (237~275) | 39点 |
| ③ 鋤形 (276~282) | 7点 |
| ④ その他 (283~291) | 9点 |
| ⑤ 欠損により形態不明 (292~298) | 7点 |

これら5種類の中では②二等辺三角形が39点と最も多いが、それぞれの分類中で器長や挟りの大小は様々である。また、いずれかの分類が狭い範囲に集中するといった様子も見られない。

使用されている石材で最も多いのは、チャート類で45点(Ch1が13点、Ch2が28点、Ch3が3点、Ch4が1点)が出土している。続いて黒曜石が16点(Ob1が9点、Ob3が7点)、ホルンフェルス(H2)が13点と多く、流紋岩や頁岩、サヌカイト、尾鈴山酸性岩類も僅かながら用いられている。形態分類ごとの石材の偏りは見られない。サヌカイト製のものとは283の1点しかなく、他に剥片も見られないことから、製品の状態で搬入されたものと思われる。

ほとんどの石鏃は、剥離による調整のみであるが、298は中央の平坦部に磨いた部分を有する局部磨製石鏃である。また、227は裏面に自然面のような滑らかでない部分を有している。

石鏃のほとんどはA・B区から出土しており、その多くがチップの集中範囲と重なっている。しかし、B区北側には、チップやその他の遺物がほとんど出土しない場所から、石鏃のみが単独で点々と分布する範囲がある(第49図参照)。

ここで、上でも登場したチップについて記述しておく。本調査では、チップ(小型の剥片の中でも、長辺が1cmに満たないもの)が大量に出土した。その数は、出土地点を記録したものだけでも約2000点にのぼる。この中で、最も多い石材はチャート類で約87%を占めている。次いでホルンフェルスが約6%、黒曜石が約5%、流紋岩が約2%となる。これらのチップは、そのほとんどがA・B区に分布しており、また幾つかの集中部を持っている(第49図参照)。そして、縄文時代早期で

は石器の多くがこのチップの集中部と重なる場所から出土している。このような事と、下に記す石鏃未製品とを合わせて考えると、本遺跡ではA・B区の各地で石器製作が行われていたと考えられる。

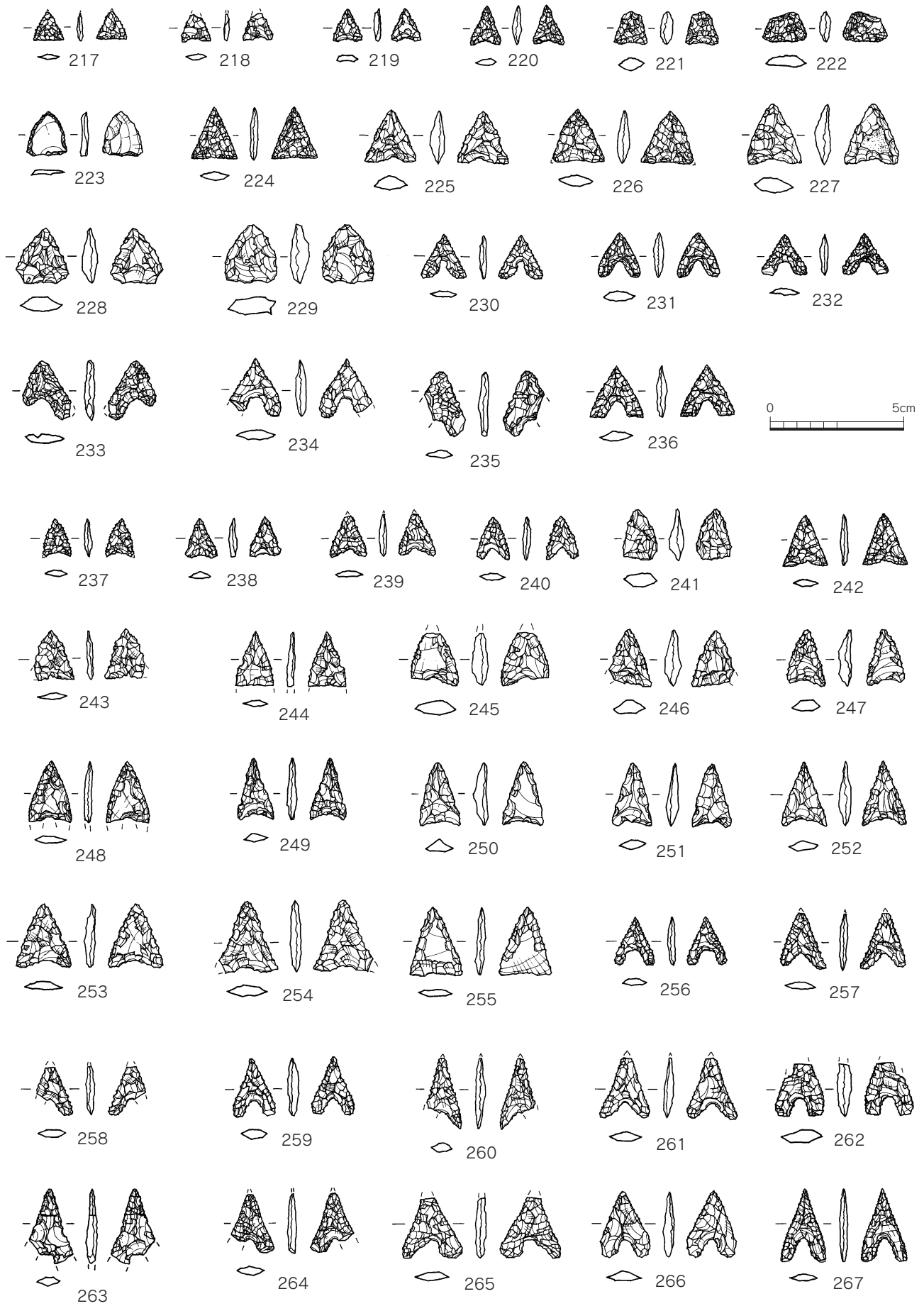
【石鏃未製品】(第48図299~307)

本調査では、石鏃未製品と思われるものが合計9点出土した。299~303は一部調整が行われているが、全体の整形が完了していないと思われるものである。304~307は、いずれも全く調整されていない剥離面を有しており、大まかな形を整える段階と思われる。

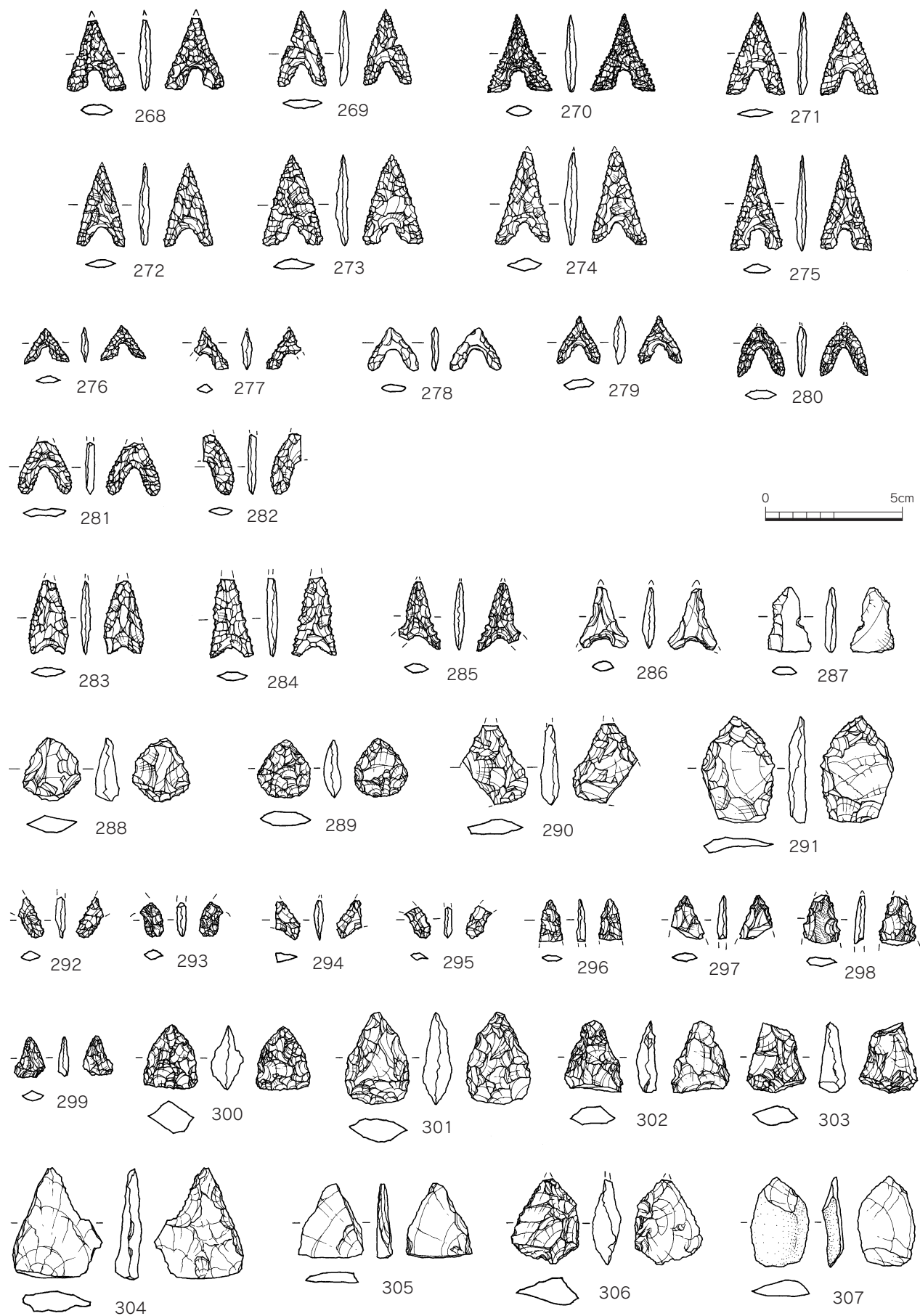
【石斧】(第50図308~311、第51図312~315)

合計8点が出土した。全てホルンフェルス(308・309・311・314はH1、310・312・313・315はH2)製である。308は有肩の打製石斧である。円刃で、裏面に一部自然面を残している。309は裏面に自然面を残し、調整を行った打製石斧であり、刃部はノミのような形状をしている。310は円刃の打製石斧である。表面から調整を行い、裏面は大きく自然面を残している。311は尖った刃部を持つ打製石斧である。基部側がやや細く作られている。

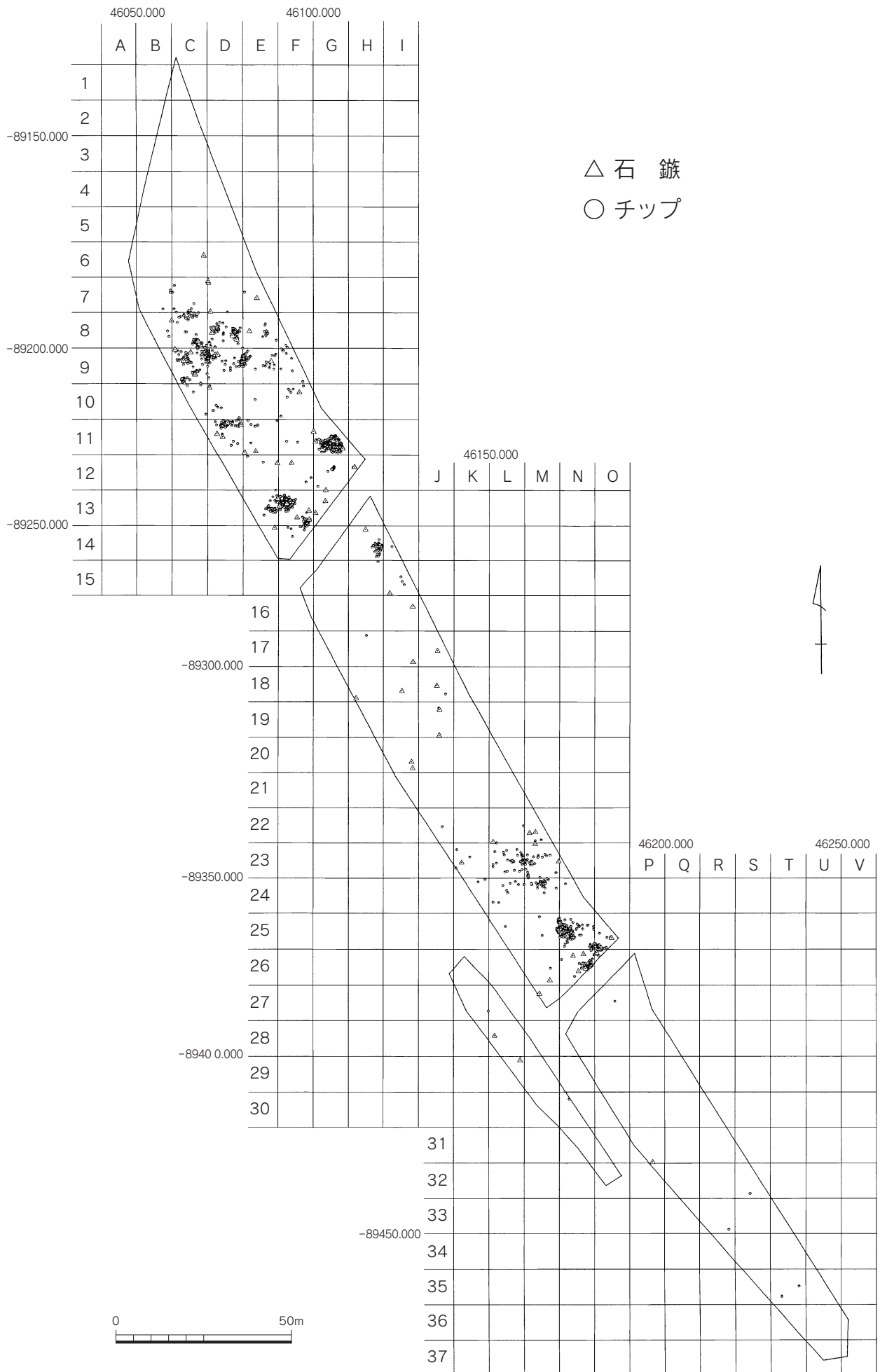
312は太い胴を持つ打製石斧である。円刃で、裏面は自然面を残している。胴部がややえぐれている。313は両面から調整を行った偏刃を持つ打製石斧である。周囲すべてに調整が施されており、裏面中央部には磨いたような部分がある。314はその刃部形態から磨製石斧と思われるが、石材の風化が激しく詳細を観察することができない。315は基部が僅かに細い短冊形をしており、敲打による整形の後に剥離を行っている。刃部の表面に磨いた部分を有する局部磨製石斧である。



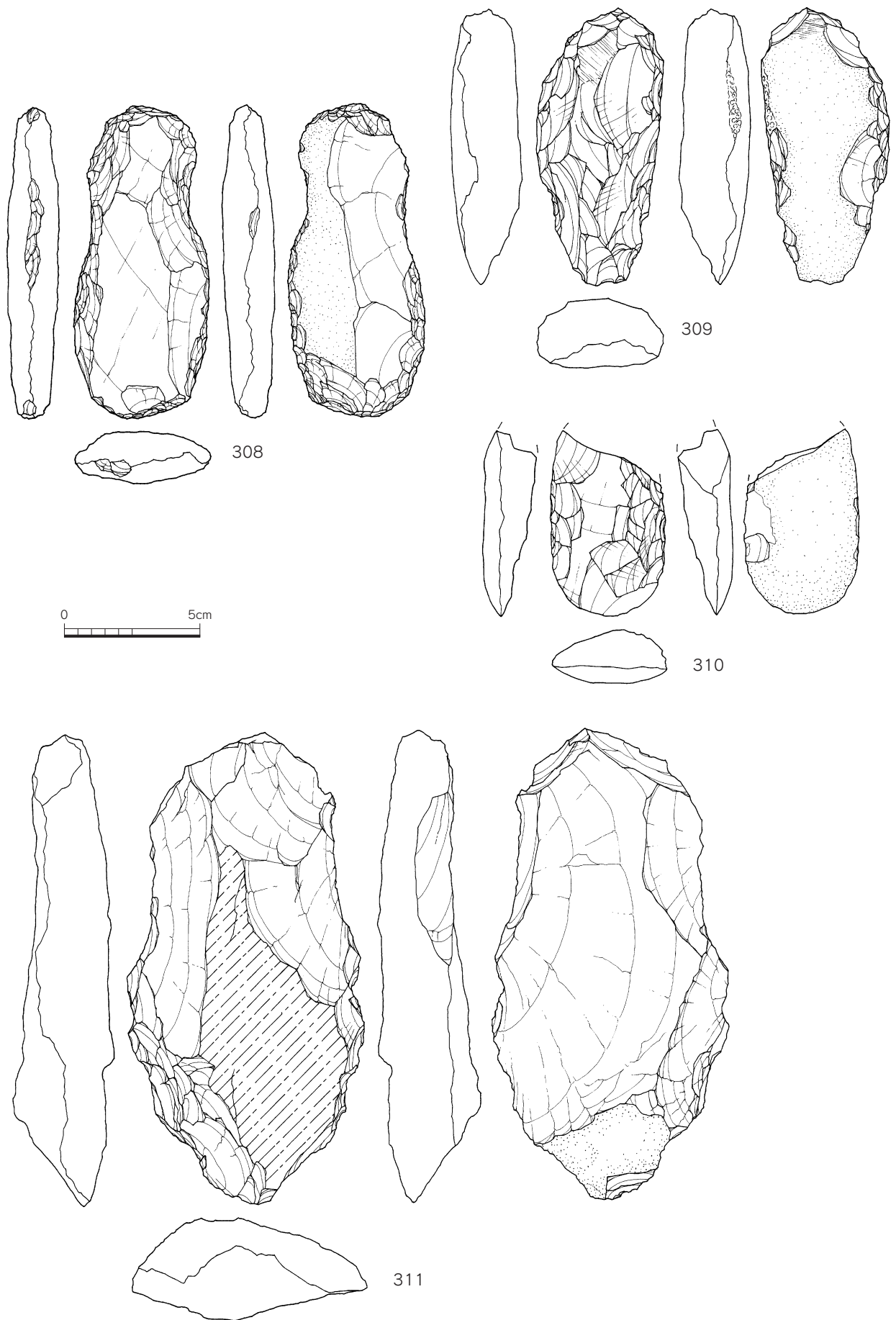
第47図 縄文時代早期石器実測図 (1)(1/2)



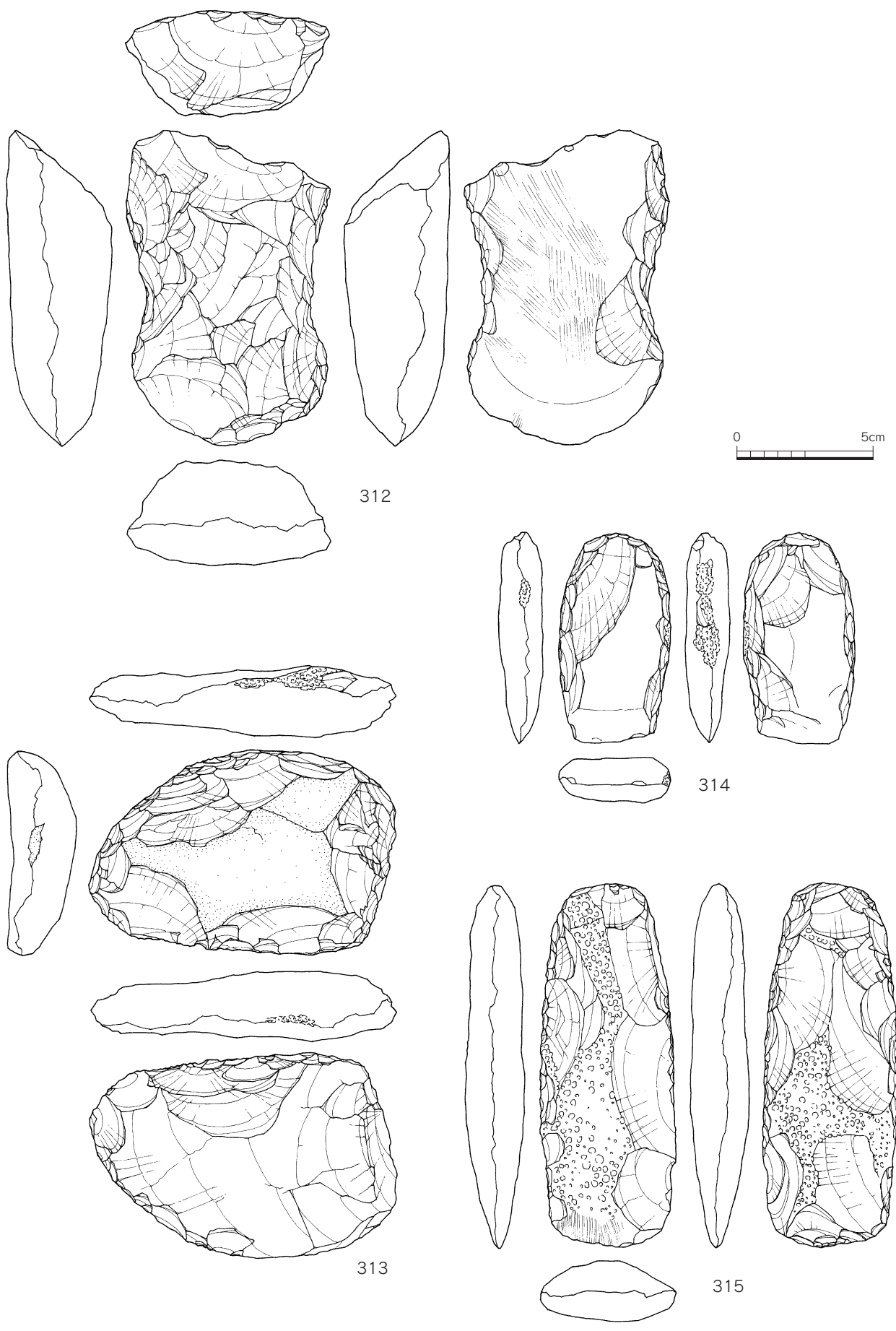
第48図 縄文時代早期石器実測図 (2) (1/2)



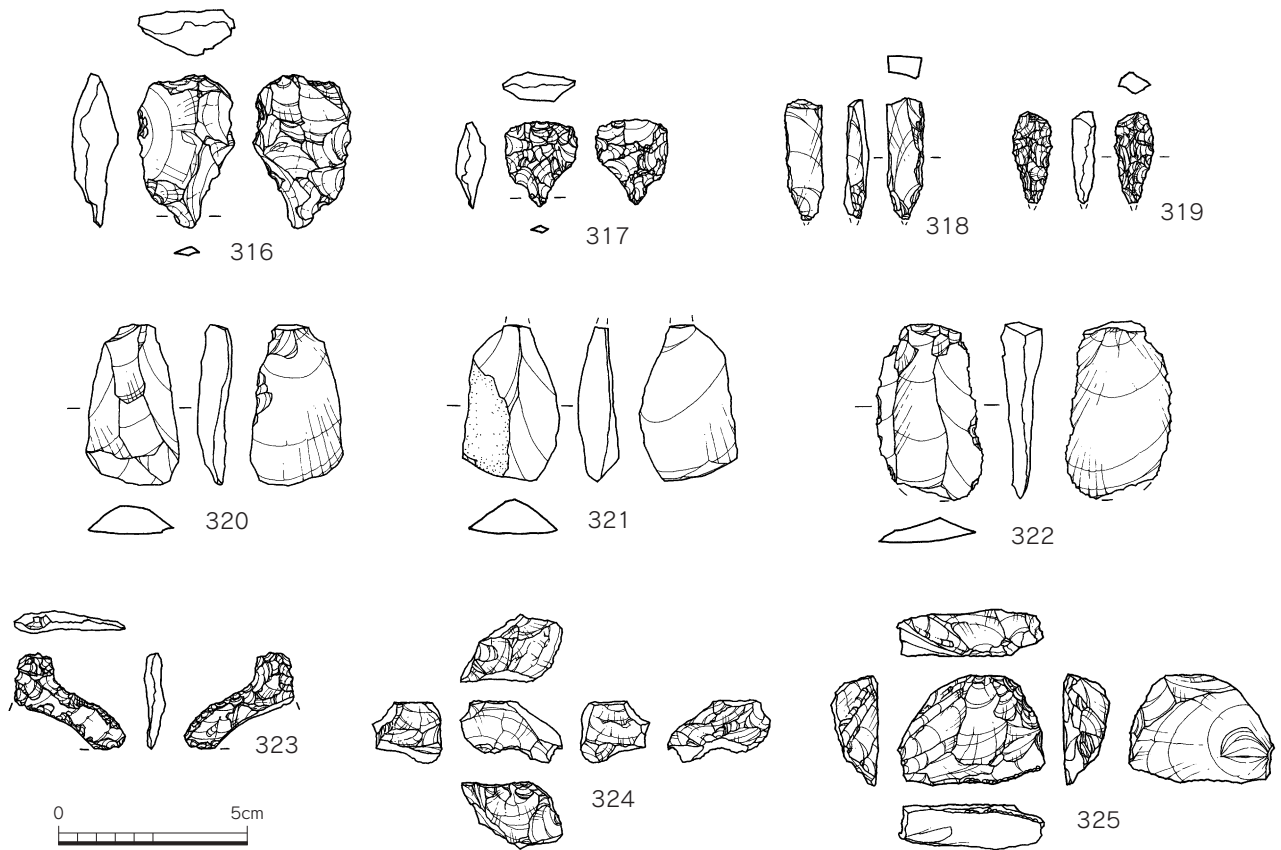
第49図 石鏃・チップ分布図 (1/1,500)



第50図 縄文時代早期石器実測図 (3) (1/2)



第51図 縄文時代早期石器実測図 (4) (1/2)



第52図 縄文時代早期石器実測図 (5) (1/2)

【石錐】(第52図316～319)

合計4点が出土した。316・317はチャート類(316がCh1、317がCh2)製で、不定形の基部から短い錐部が作り出されている。

318・319は、棒状の石錐ではないかと思われるものである。318は流紋岩製、319は黒曜石(Ob1)製である。どちらも側面に調整を施し、下端を尖らせている。

【石匙】(第52図320～323)

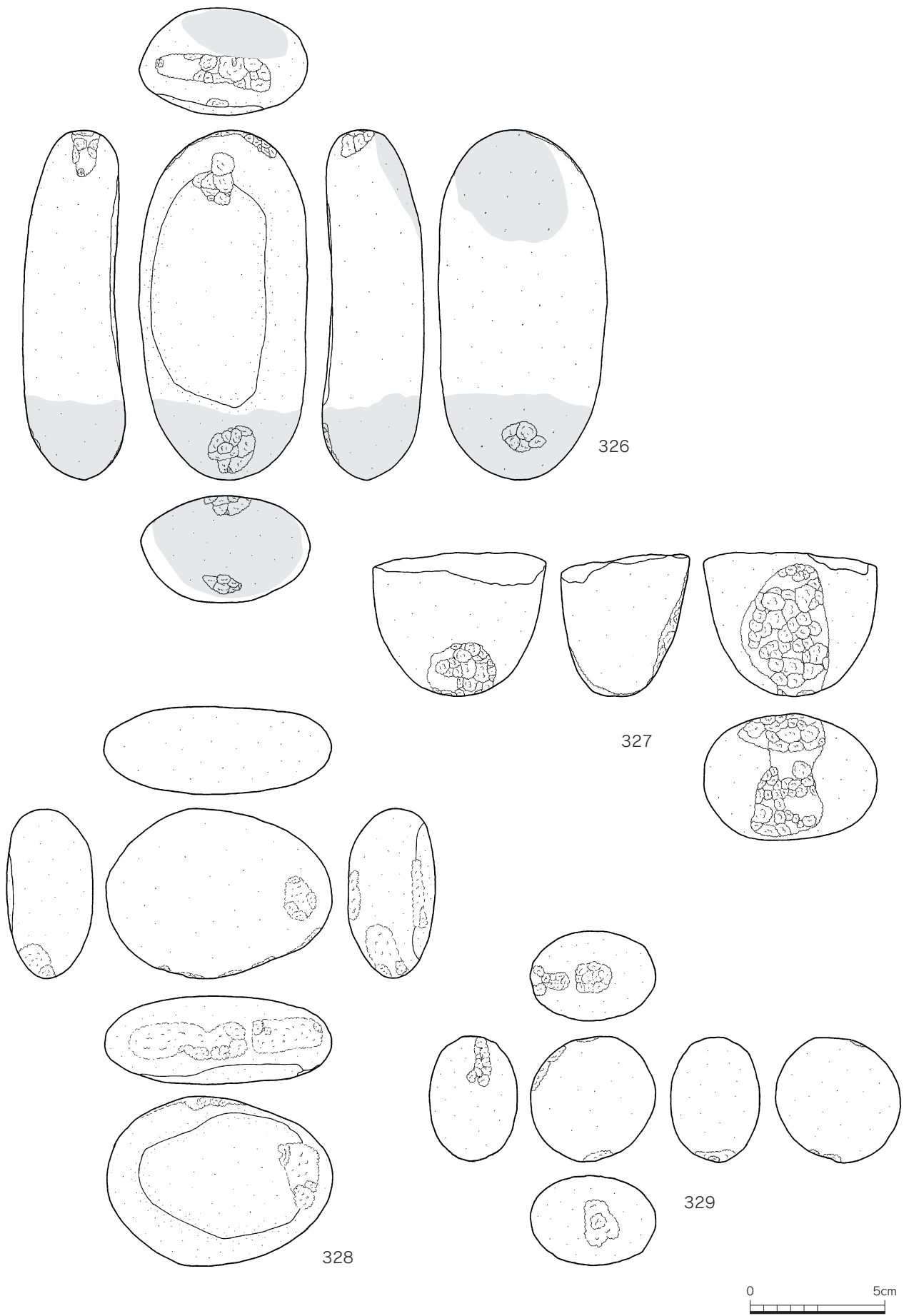
合計4点が出土した。320～322は縦長の刃部を持つホルンフェルス(H2)製、323は横長の刃部を持つ黒曜石(Ob1)製である。それぞれ、上部中央につまみ部分、またはその痕跡がみられる。

【石核】(第52図324・325)

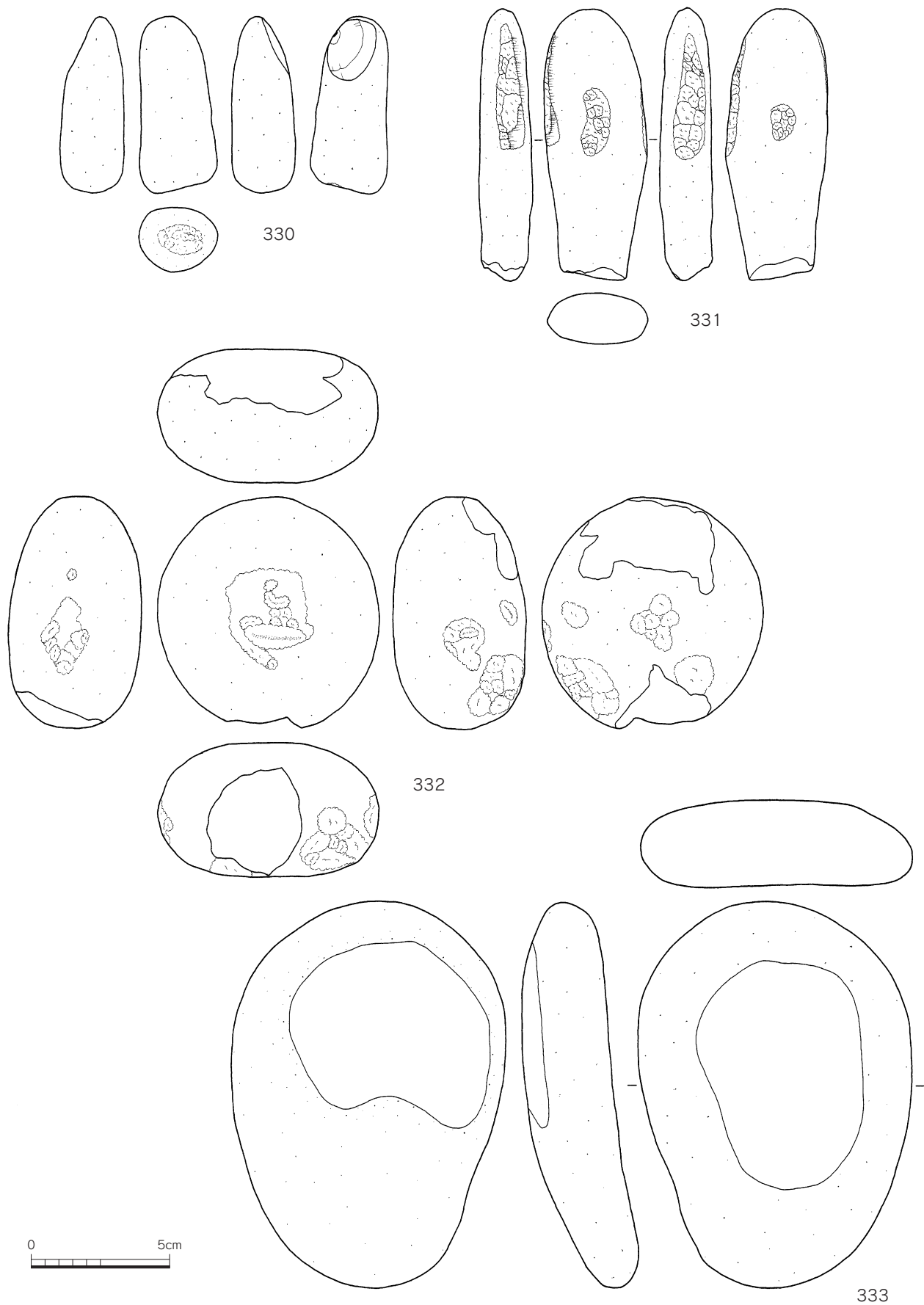
合計2点が出土した。324はチャート類(Ch2)製、325は流紋岩製である。どちらも複数面からの剥離が行われている。

【敲石】(第53図326～329、第54図330～332)

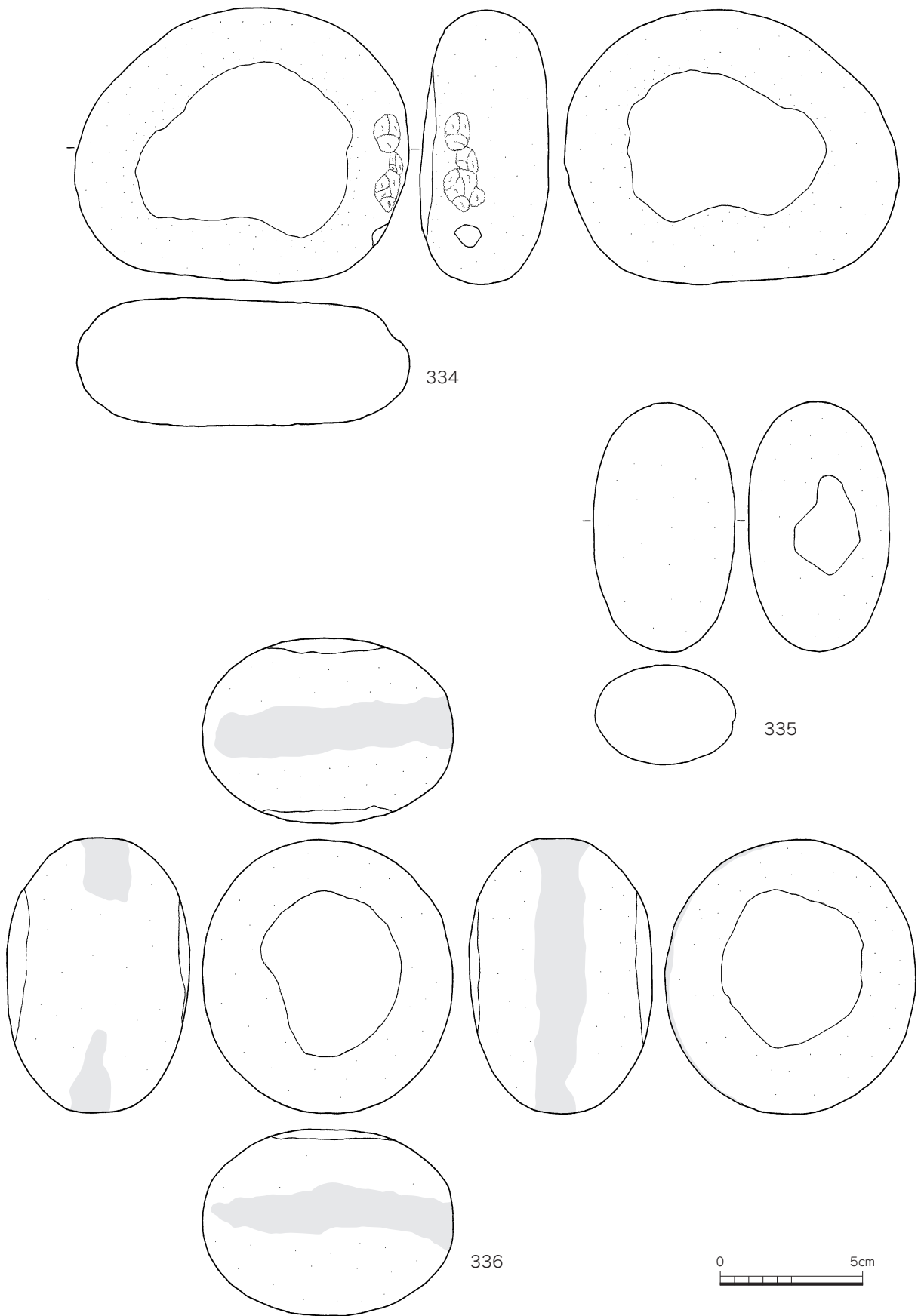
合計7点が出土した。砂岩製が多いが、尾鈴山酸性岩類やホルンフェルス、頁岩も利用されている。326～329は砂岩製である。いずれも複数箇所に敲打痕を持つ。326は礫の上下両側の一部(網掛け部分)が赤化しているが、原因は不明。327は上部から表面にかけての広い範囲に敲打痕を有している。330はホルンフェルス(H2)製である。棒状で、下面中央部に敲打痕を持ち、裏面上部が一部剥離している。331は頁岩製で、細長い扁平な礫を利用している。左右側面の敲打痕には、それに重なるように何かでこすられたような浅い溝が連続して残されている。332は尾鈴山酸性岩類製である。礫表裏面、左右の稜に敲打痕を持ち、裏面の表皮が大きく剥がれている。



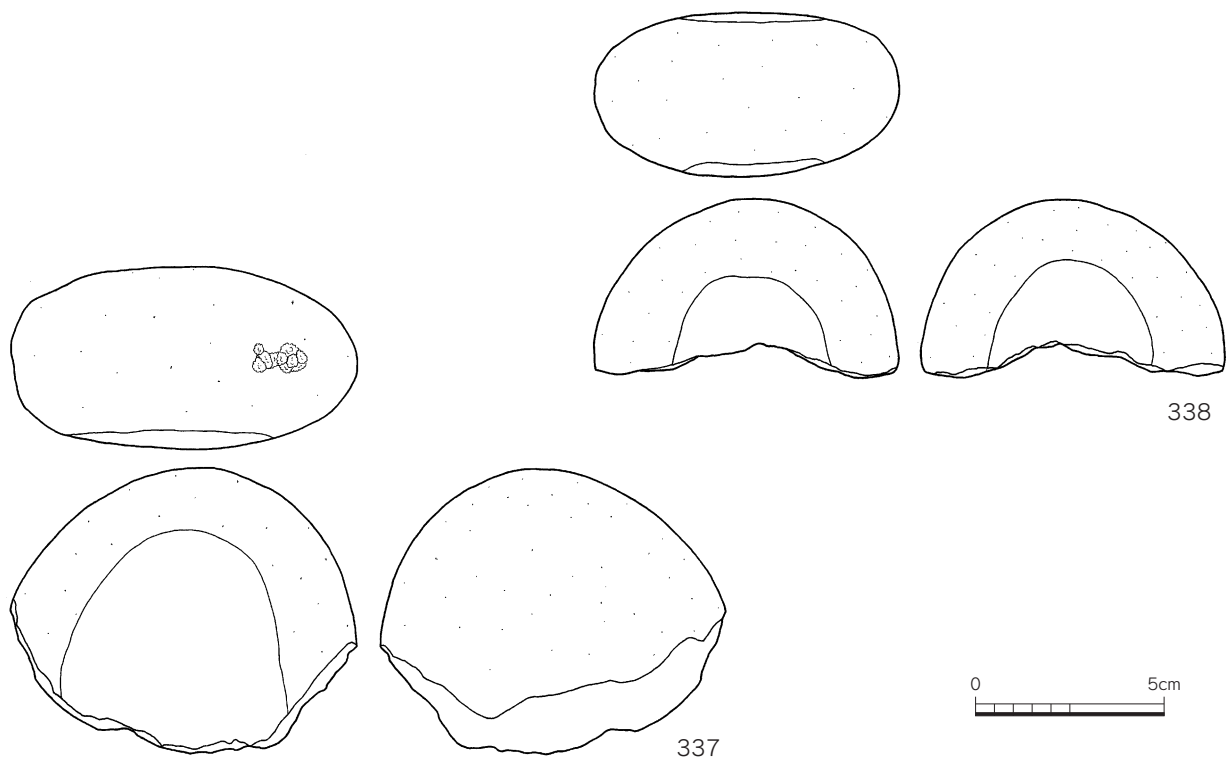
第53図 縄文時代早期石器実測図 (6) (1/2)



第54図 縄文時代早期石器実測図 (7) (1/2)



第55図 縄文時代早期石器実測図 (8) (1/2)



第56図 縄文時代早期石器実測図 (9) (1/2)

【磨石】(第54図333、第55図334～336、
第56図337・338)

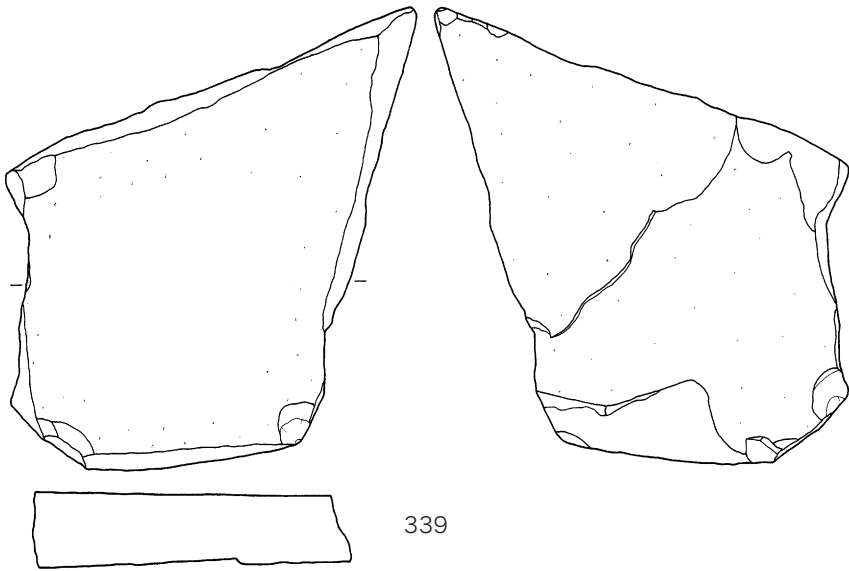
合計6点が出土した。333は砂岩製、334～338は尾鈴山酸性岩類製で、表裏面に磨面を有している。333は全体が赤化しており、裏面中央が僅かに窪んでいる。334や337のように、僅かに敲打痕を有しているものもある。336は礫の周囲に細かな敲打が帯状に(網掛け部分)施されている。

【砥石】(第57図339～342)

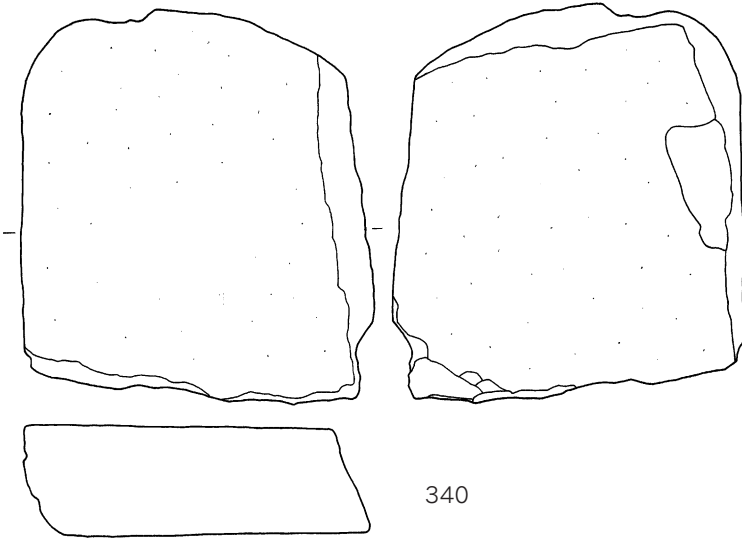
合計4点が出土した。いずれも表面に、他の剥離面とは異なる磨面を有している。339～341は尾鈴山酸性岩類製、342はホルンフェルス(H2)製である。

【台石】(第58図343～345)

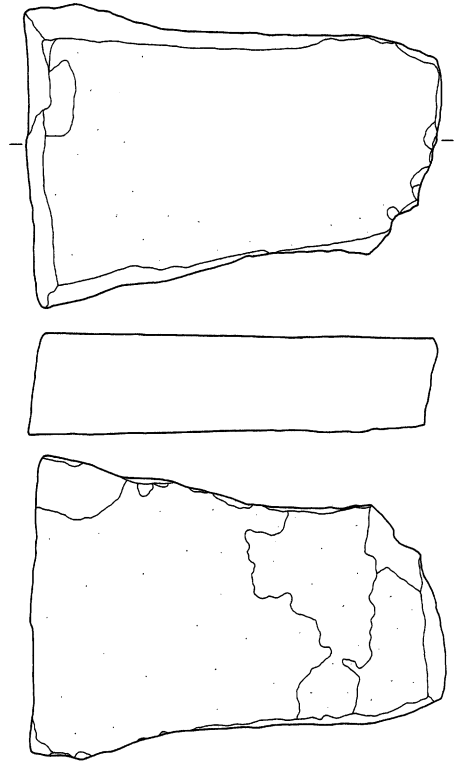
合計3点が出土した。全て尾鈴山酸性岩類製で、平坦面に敲打痕を有しているものもある。



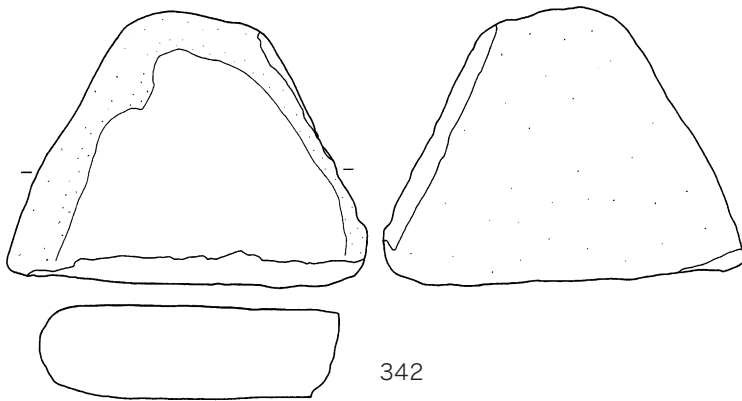
339



340



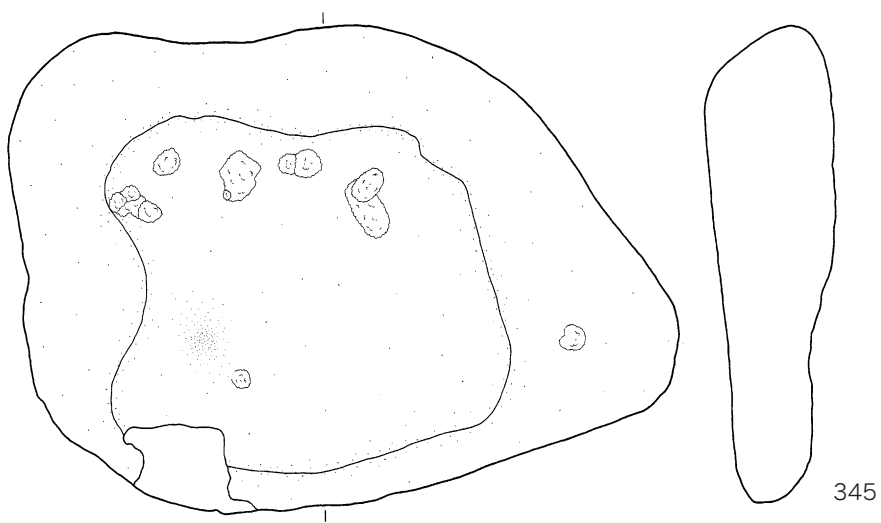
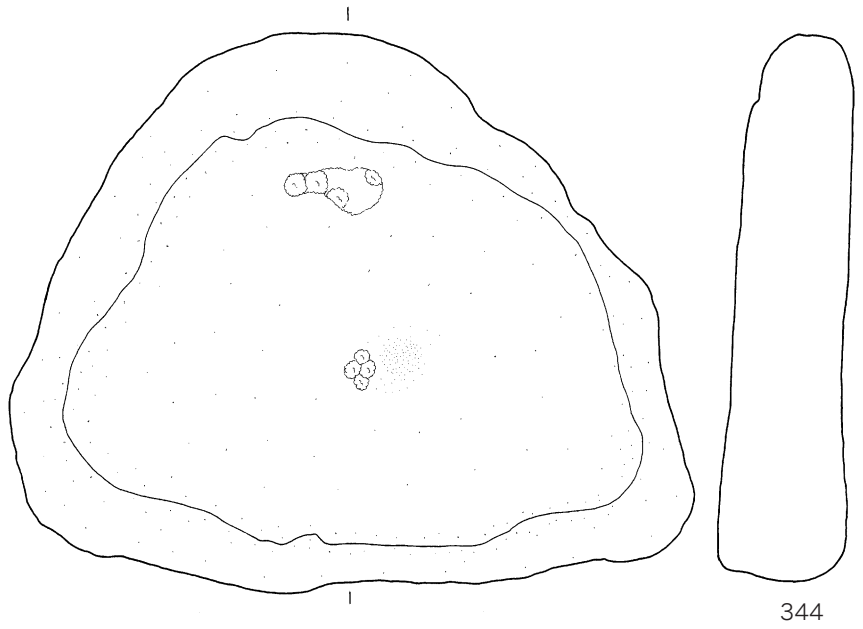
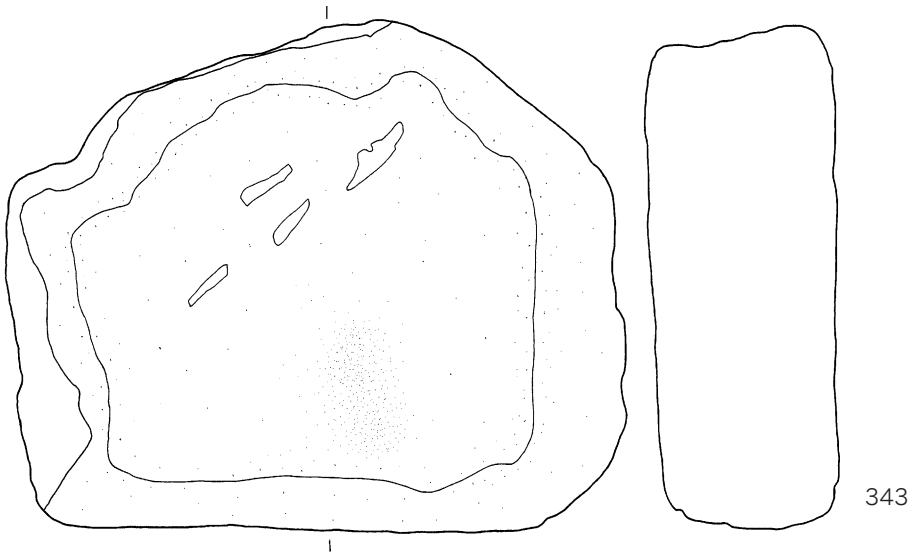
341



342



第57図 縄文時代早期石器実測図 (10) (1/2)



第58図 縄文時代早期石器実測図 (11)(1/3)

(4) 弥生時代の遺構・遺物

この時期の遺構は、調査区北端で2軒の竪穴住居跡が検出されたのみである。遺物は、ほとんどがこの2軒から出土した。

1 竪穴住居跡

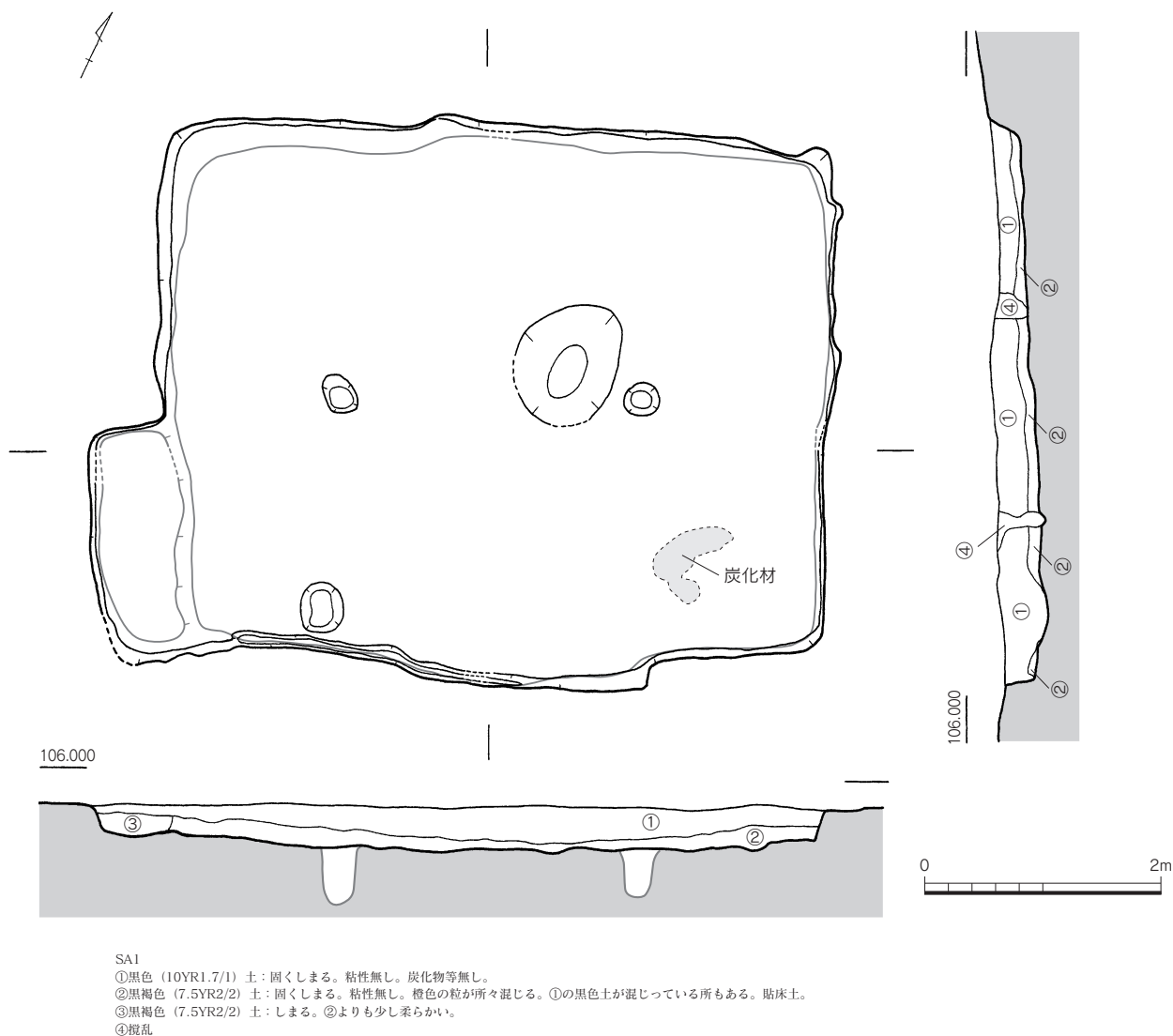
【SA1】(第59図)

6m(張り出し含む)×4.5mの方形で、西側に張り出しを持つ。貼床が全面に施され、検出面から貼床面までの深さは約0.3m、掘削面までの深さは約0.4mであった。支柱穴は2本柱で、貼床面から約0.6m掘り込んでいる。南側壁沿いに壁帯溝を有している。埋土中から炭化材が出土しており、焼失住居の可能性はある。この炭化材を用いて年代測定を行ったところ、較正年代でAD347～AD503年頃との結果が得られた(詳細第V章)。

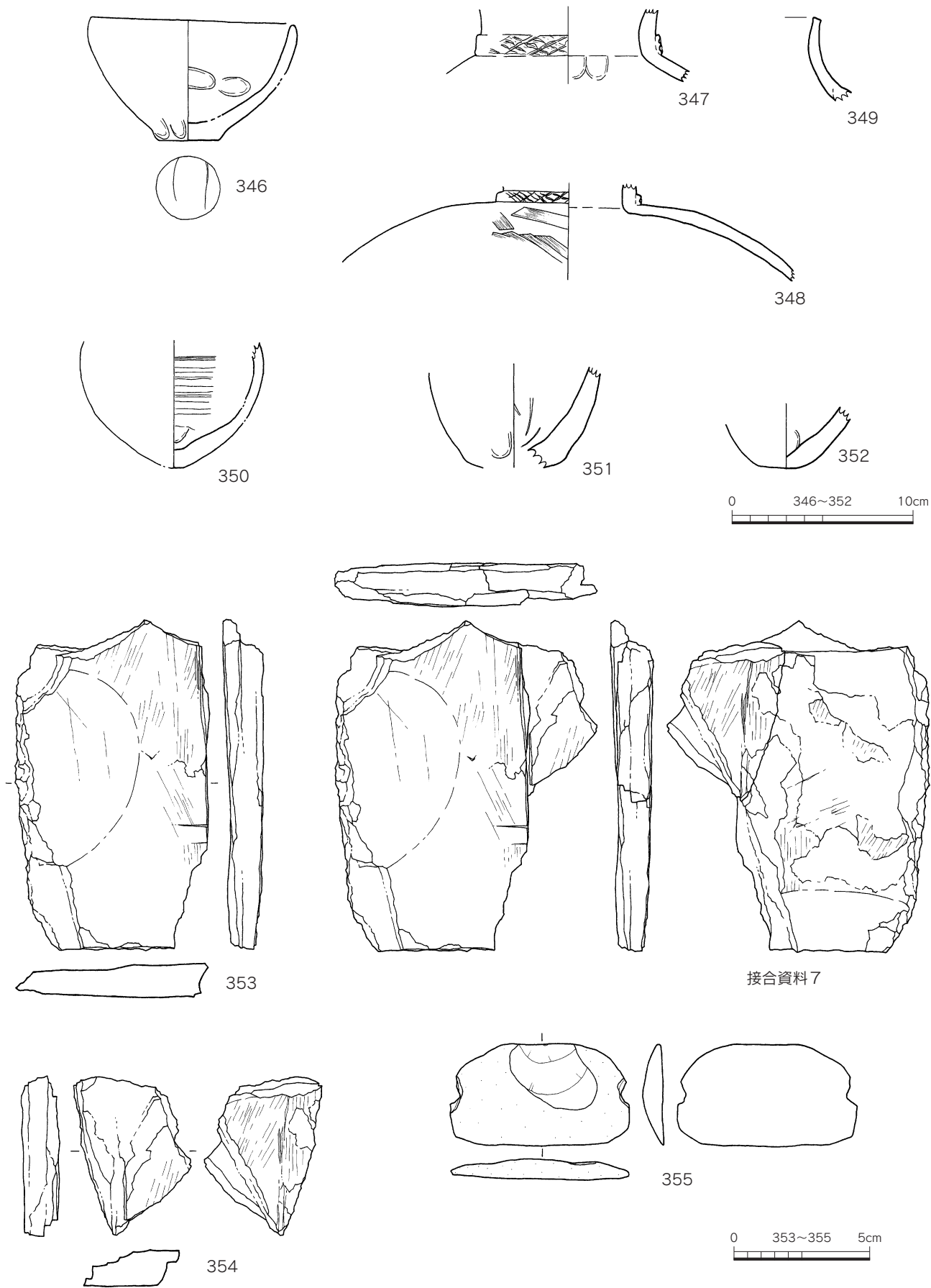
床面中央部に浅い土坑が確認されたが、内部から炭化物等は確認されなかった。遺物はあまり多くないが、石庖丁と砥石が床面直上から出土している。

[SA1出土遺物(第60図346～355、第61図356～358)]

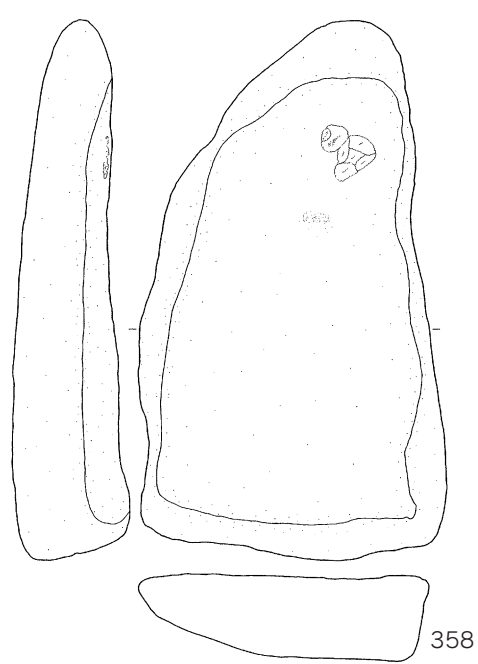
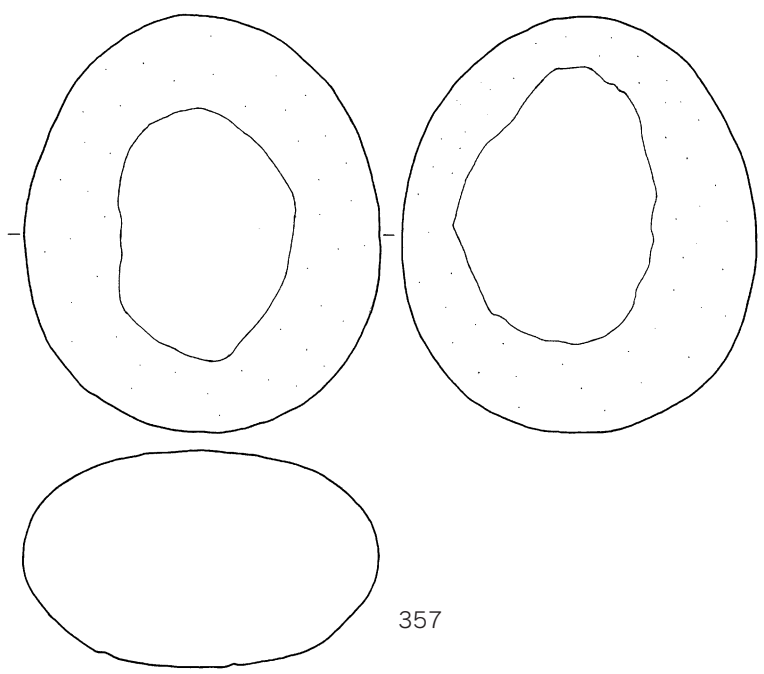
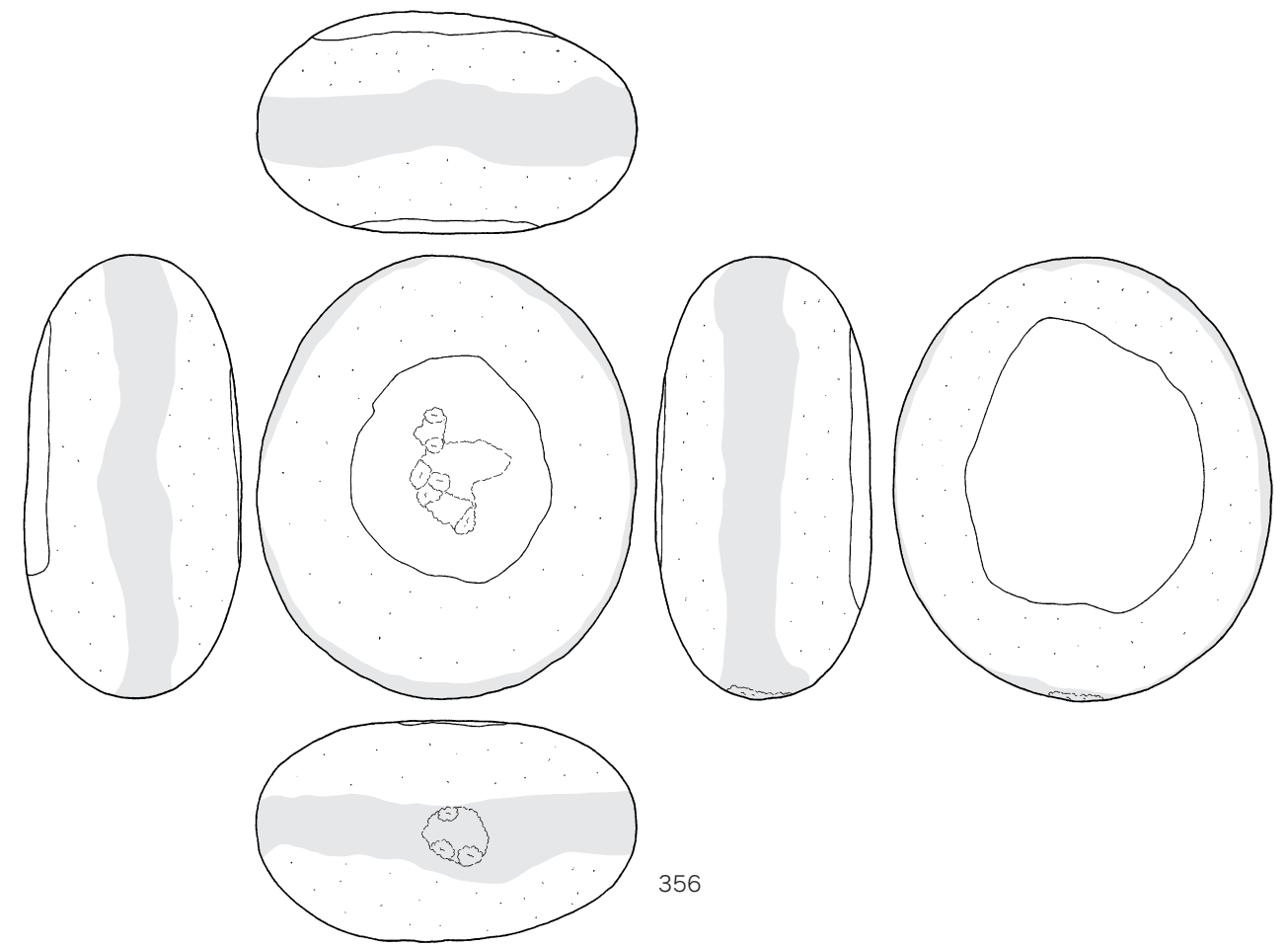
346は鉢である。埋土中から完形で出土した。底部は小さな脚台状を呈しており、指押さえによる成形の跡を持つ。底裏に工具痕と思われる溝が残っている。347・348は壺の頸部と思われる。どちらも屈曲部に刻目貼付突帯を有している。349は壺の口縁部である。内外共によく磨かれている。350は小型壺の胴部～底部と思われる。内面に、工具による横方向のナデが施されている。351・352は底部である。どちらも尖底に近い平底を呈



第59図 弥生時代SA1実測図(1/60)



第60図 SA1出土土器実測図 (1/3)・石器実測図 (1)(1/2)



0 356 · 357 5cm

0 358 10cm

第61図 SA1出土石器実測図 (2) (1/2 · 1/3)

しており、鉢の底部と思われる。

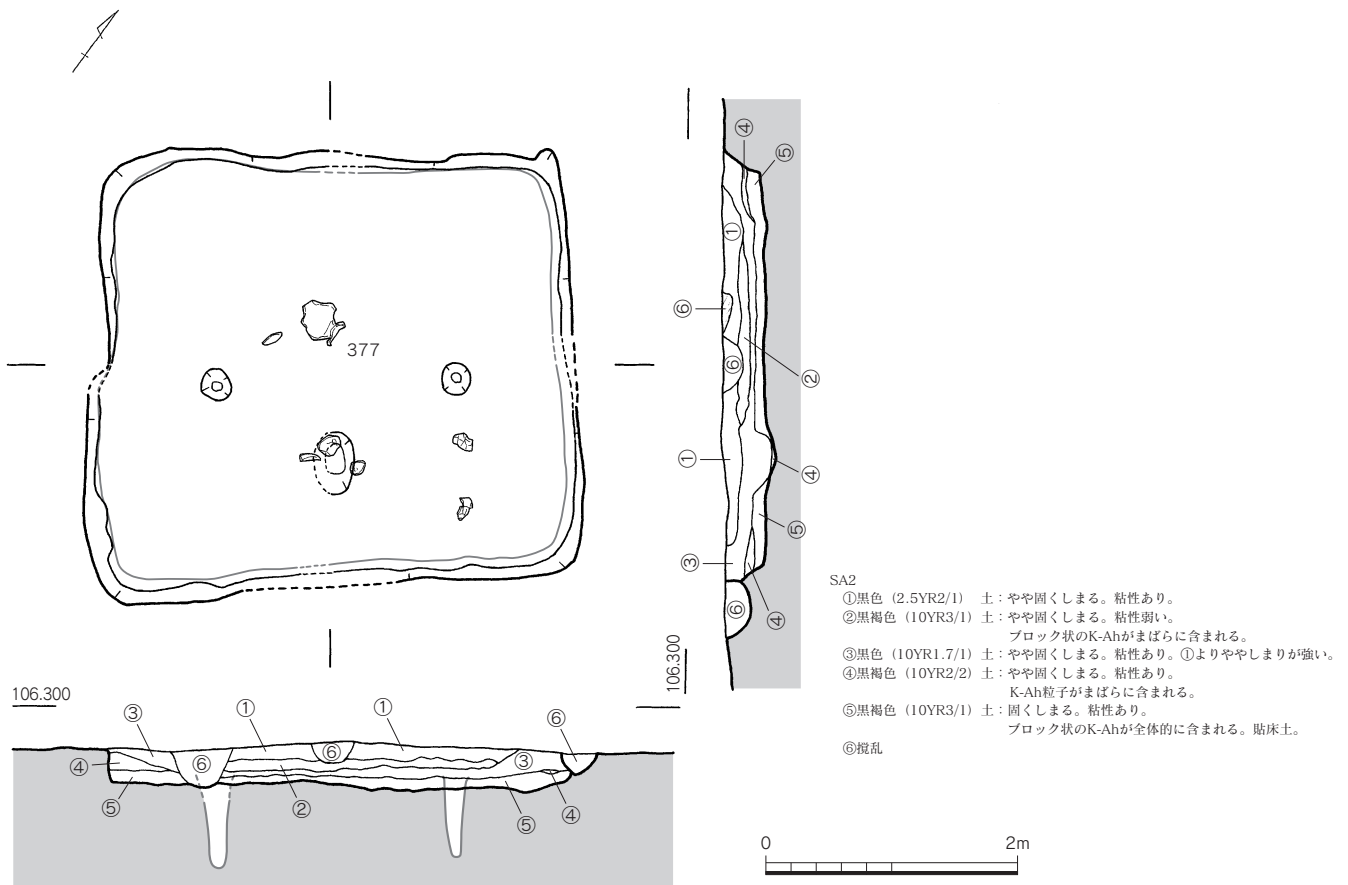
353・354は砥石である。頁岩製で、接合すると（第60図接合資料7）、接合部分にV字形の溝が見られた。この溝から、擦切技法により切断が行われたと思われるが、擦切による溝は接合部の下側のみで、上側は折れている。また、切断面裏側等に擦切を行おうとしたと思われる浅い溝が残されている。353は一部が使用によって摩耗し、楕円形に窪んでいる。355は石庖丁である。ホルンフェルス（H1）製で、短辺に抉りを設けており、表面は自然面を残している。356は敲石である。尾鈴山酸性岩類製で、礫表面中央と下端に敲打痕を持つ。また、礫の周囲には、細かな敲打を施した一帯（網掛け部分）がある。357は磨石である。尾鈴山酸性岩類製で、表裏両面に磨面を持つ。358は台石である。尾鈴山酸性岩類製で、平坦な表面に敲打痕を有している。

【SA2】（第62図）

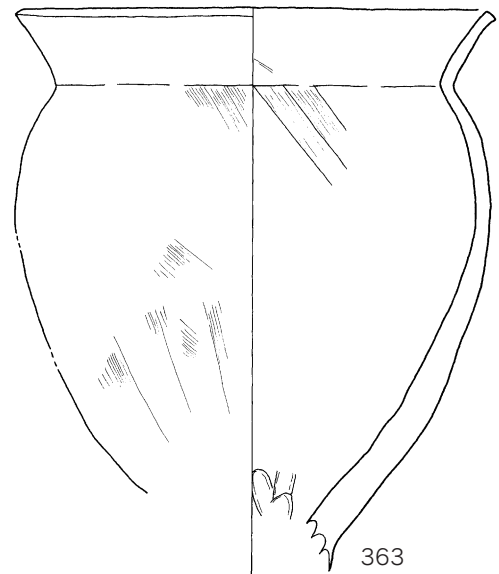
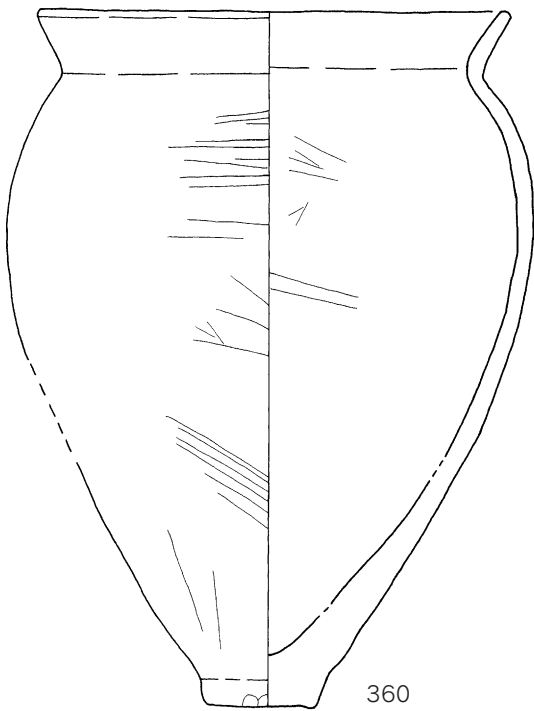
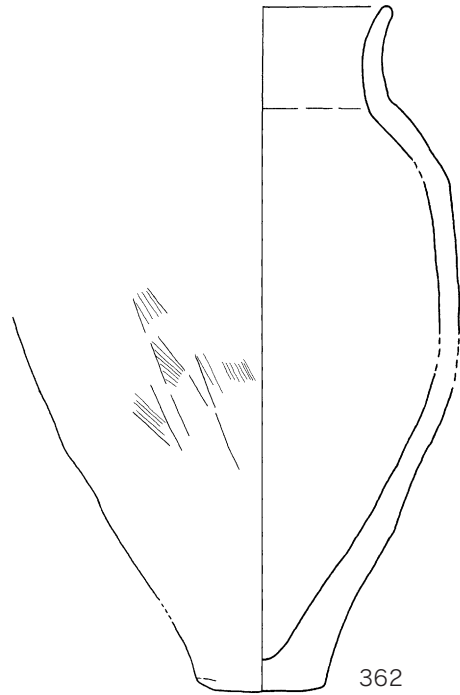
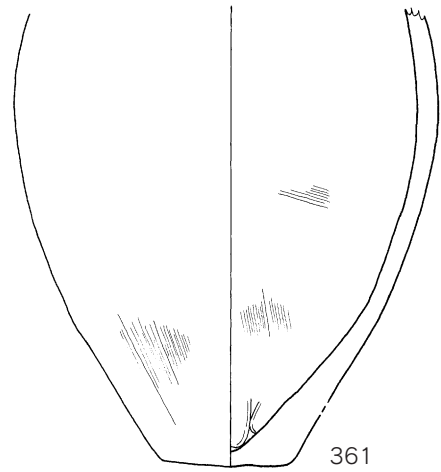
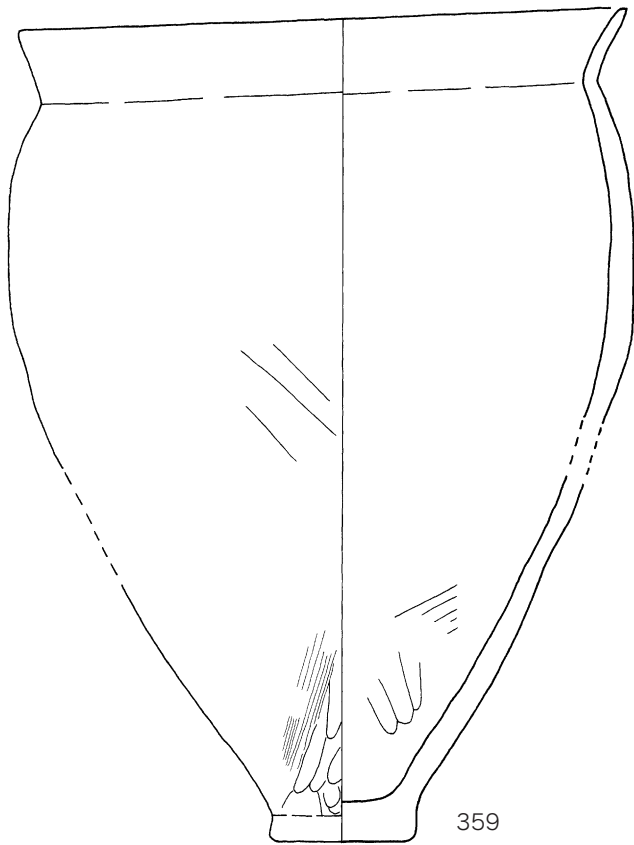
4 m×3.5 mの方形で、多数の土器片が積み重なるようにして出土した。貼床が全面に施され、検出面から貼床面までの深さは約0.25 m、掘削面までの深さは約0.35 mであった。主柱穴は2本柱で、貼床面から約0.6 m掘り込んでいる。南側の一部は現代の攪乱に切られている。遺物は、SA1に比べて遙かに多くの土器片が出土したが、石器は埋土中から石庖丁が1点出土したのみであった。

【SA2出土遺物（第63図359～363、第64図364～375、第65図376～380、第66図381～384）】

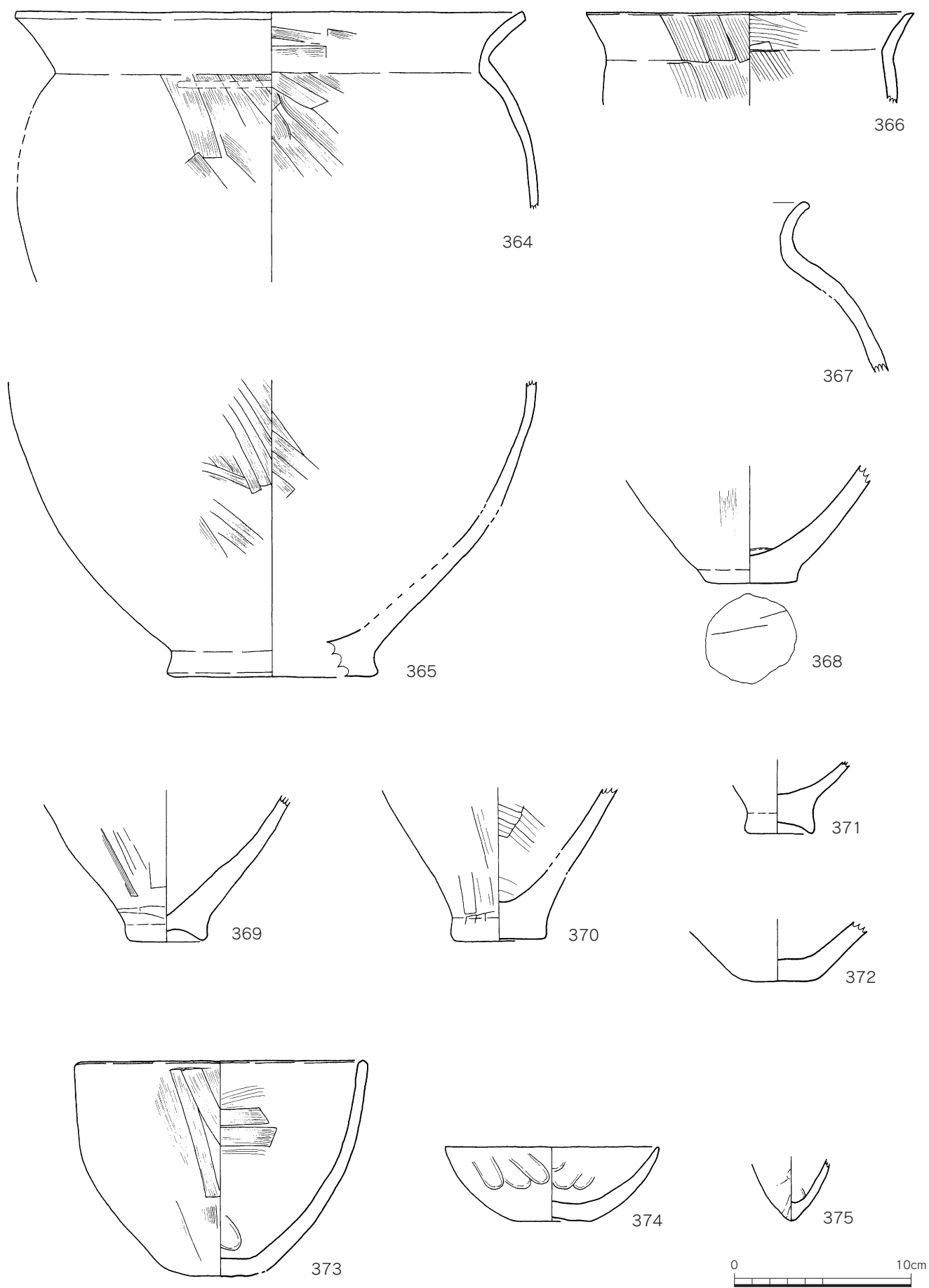
359～367は甕である。いずれも口縁部付近で「く」の字に外反しており、内外面共にハケ目が施されている。底部が小型の脚台、あるいは平底を呈している。364と365は、同一個体であることが確認されたものの、接合箇所が小さく組み上げることは困難であったため、分割した状態で実測を行ったが、写真撮影時に復元を行っている（図版26



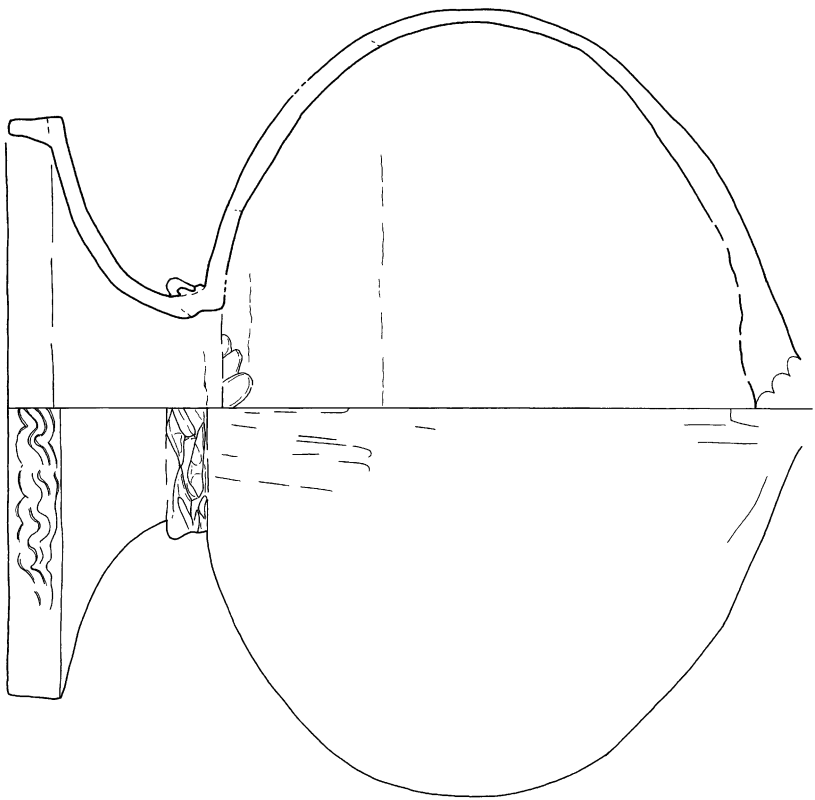
第62図 弥生時代SA2実測図（1/60）



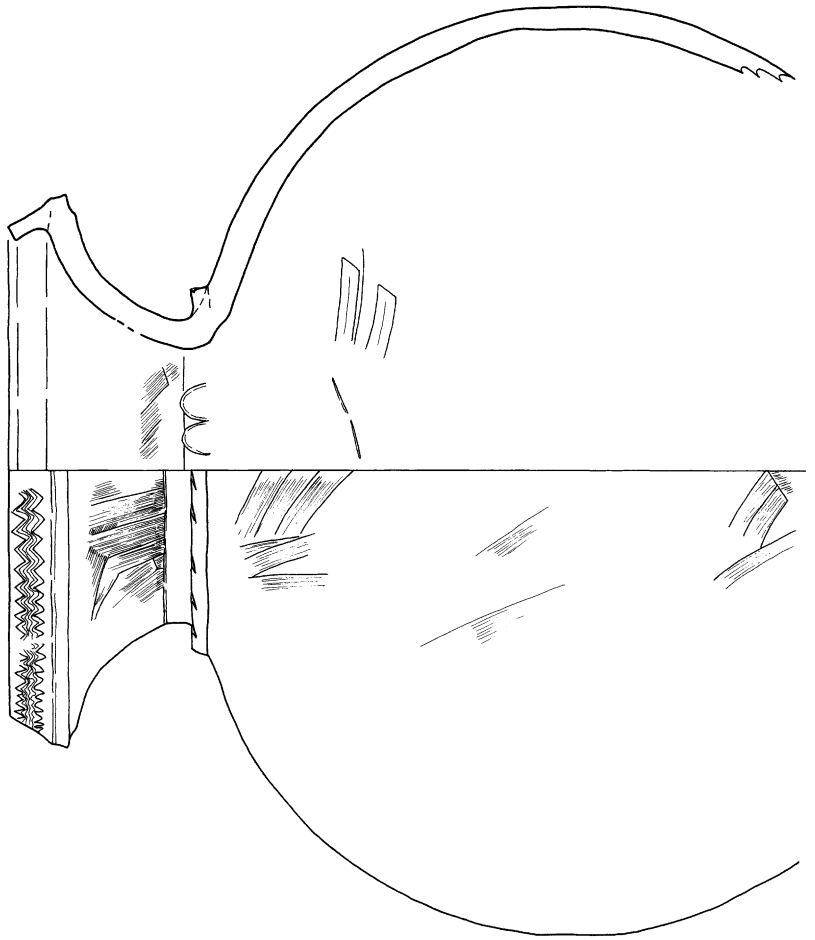
第63图 SA2出土土器実測图 (1)(1/3)



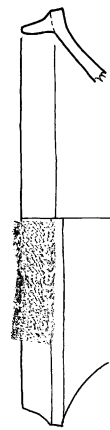
第64图 SA2出土土器実測图 (2) (1/3)



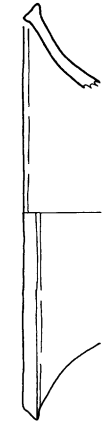
376



377



378



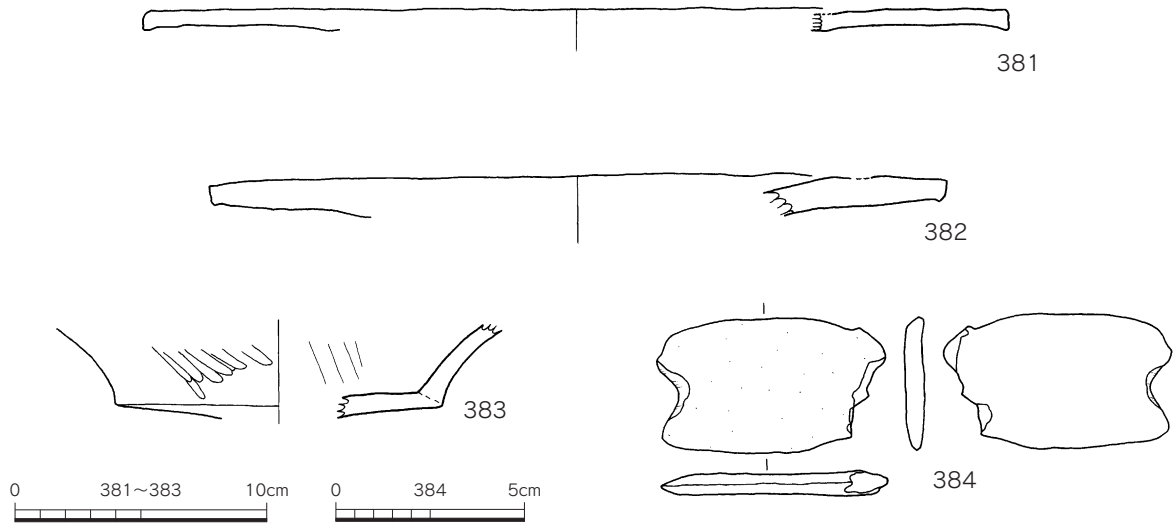
379



380



第65图 SA2出土土器実測图 (3) (1/3)



第66図 SA2出土土器実測図 (4) (1/3)・石器実測図 (1/2)

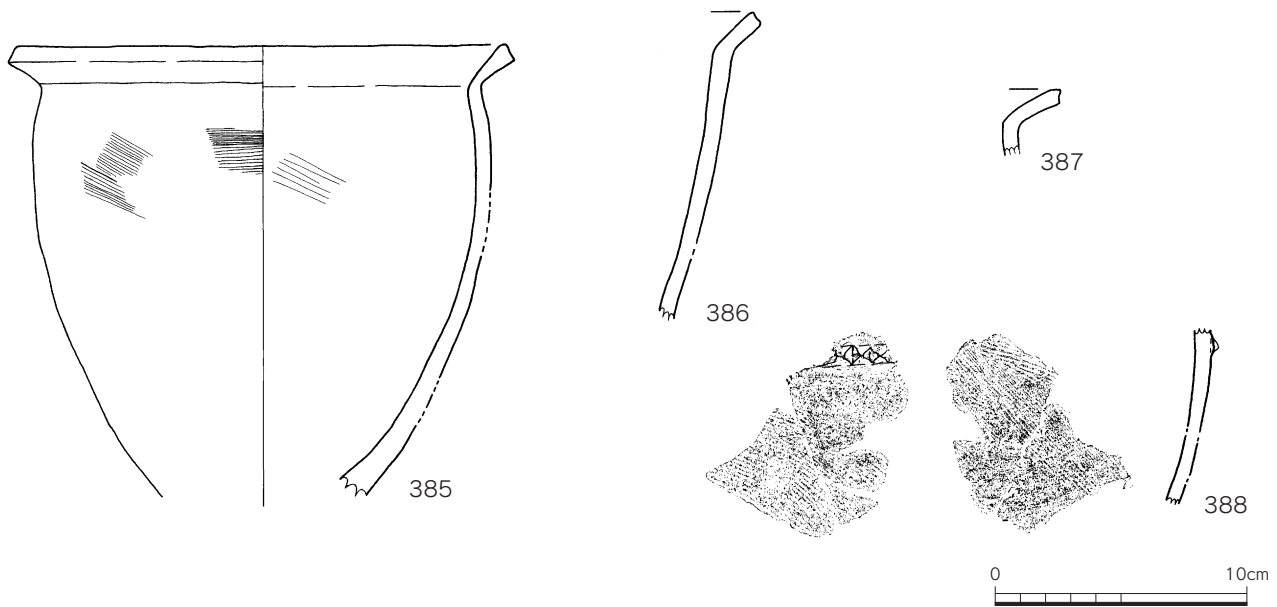
参照)。368～372は底部である。372が平底である以外は脚台状を呈しており、甕の底部と思われる。いずれも外面にはナデ、もしくはハケ目が施されている。373は浅鉢である。平底で、内外面共にハケ目が施されている。374は壺である。内外共に指押さえの跡が多数残っている。375は手づくね土器である。尖底で、おそらく鉢形と思われる。

376～380は壺である。376～378は複合口縁壺で、いずれも口縁部に櫛描波状文が施されている。特に377は、口縁部から胴部までがつながった状態で出土した。また、376・377は、細部は異なるものの、どちらも頸部に刻目貼付突帯を有している。379は他のものよりもよく磨かれており、きれいに整えられている。380は口縁部から頸部が直線的に立ち上がっている。

381・382は器台もしくは高坏の口縁部と思われる。これらに接合するものは確認されず、全体像は不明である。どちらも風化が激しく、明確な調整は判別出来なかった。383は高坏の坏部である。外面はよく磨かれており、硬質な印象を受ける。脚部は見つかっていない。

384は石庖丁である。埋土中から出土した。ホルンフェルス (H2) 製で、短辺に抉りを設けているが、右側が破損している。表面は自然面を残して

いる。左側の抉りは、剥離したままではなく磨かれている。



第67図 包含層等出土弥生土器実測図 (1/3)

2 包含層等出土弥生土器 (第67図)

385～388はMB0 (Ⅲ層) 中や攪乱土中から出土した土器片である。MB0 (Ⅲ層) は、基本的には縄文時代早期の層であるが、出土地点は現代の耕作によりK-Ah (Ⅱ層) が消失している。そのため、縄文時代早期以降の遺物がMB0 (Ⅲ層) に混入したものと思われる。

385・386は攪乱土中から出土した甕である。口縁部付近で短く外反し、口縁部断面形は方形を呈している。器体外面には炭化物が付着しているが、ほとんどの部分で風化が進んでおり、調整は読み取りにくい。

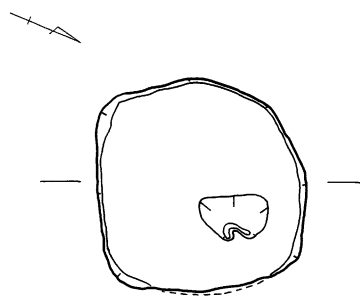
387・388はMB0 (Ⅲ層) 中から出土した甕形土器片である。387は口縁部付近で短く外反している。388は刻み目突帯を有しており、内外共にハケ目が施されている。

(5) その他の時代の遺構・遺物

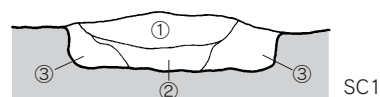
1 土坑

SC1 (第68図)

B区検出。検出面から垂直に掘り込まれている。中央部分の深さは検出面から約0.4m。埋土中から弥生土器と思われる土器片(第68図389)が出土しているが、底面から遺物は出土せず、時期、用途は不明である。



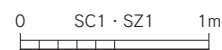
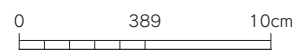
102.000



- SC1
 ①黒色 (10YR2/1) 土: しまり無し。軟質。
 ②黒色 (10YR2/1) 土: しまり無し。軟質。K-Ah粒子を含む。
 ③黒褐色 (2.5YR3/1) 土: しまり無し。軟質。K-Ah粒子を多く含む。



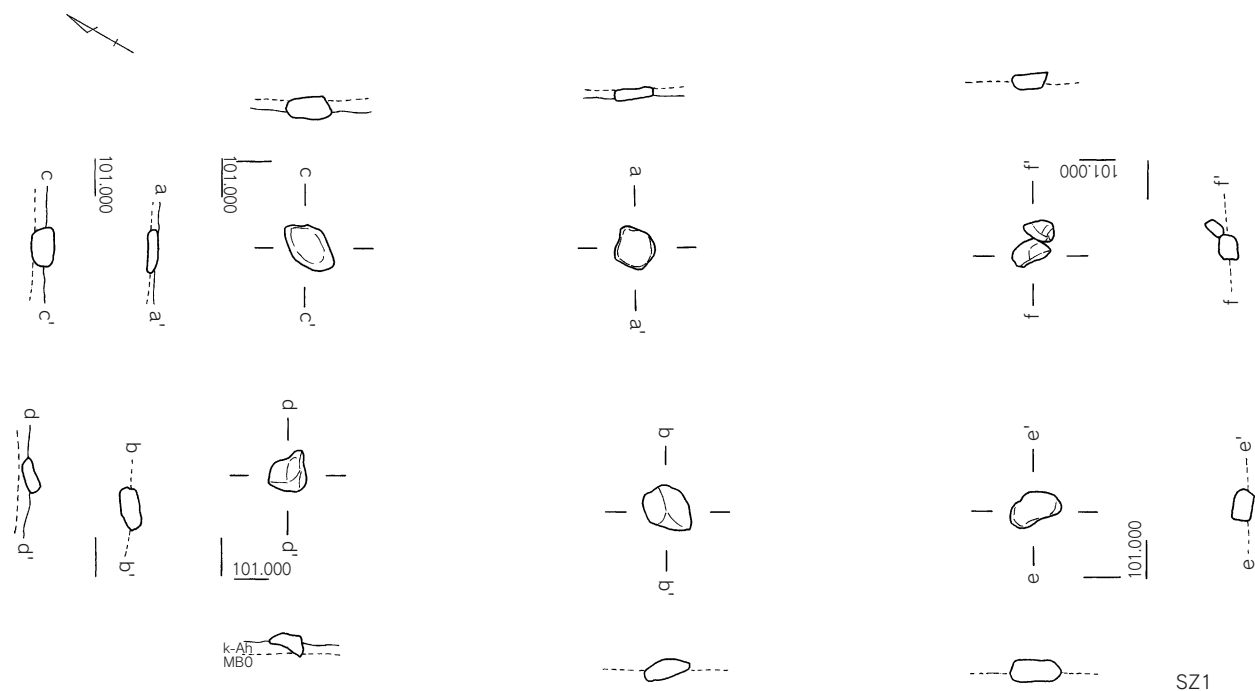
389



2 不明遺構

SZ1 (第68図)

D区検出。6個の巨礫が3個×2個の長方形に並び、いずれもが平坦な面を有している。巨礫の平均重量は約6.5kg。礫同士の間隔は、長辺側で1.7m~2.1m、短辺側で1.2m~1.4m。6個の巨礫のうち一つは割れていた(接合することで一つの巨礫に復元可能)が、他は平坦な面を上に向けた状態で検出された。掘立柱建物の礎石列である可能性が高いが、K-Ah(II層)以降の堆積状態があまり良好ではなかったためか、柱穴は確認できなかった。



第68図 時期不明遺構実測図 (1/40)・時期不明土坑出土土器実測図 (1/3)

第V章 自然科学分析

第1節 分析の経緯

中ノ迫第2遺跡の調査では、集石遺構、炉穴、竪穴住居跡等の遺構から、多くの炭化物・炭化材が検出された。そこで、自然科学分析を用い、炭化物・炭化材の年代測定及び樹種同定を行うこととした。

年代測定は、AMS-炭素14 (^{14}C) 年代測定法を使用した。これは、遺構から検出された炭化材を測定に使用することで、その遺構の実年代を明らかにしようとするものである。中でも、炉穴 (SP1) は1基しか検出されず、検出時に上部を掘り飛ばしている可能性が高いことから、そのままでは年代を決定することができない。そこで、出土遺物等からおそらく同時期と思われる集石遺構の年代と比較することで、炉穴の帰属時期を確定させることを目的の一つとしている。また、集石遺構の

検出場所の違いによる帰属時期の違いを検討するため、A~Dの地区ごとに集石遺構を1基選出し、そこから検出された炭化材の年代測定を行うこととした。

樹種同定は、年代測定を行った炭化材から比較的状态の良いものを選んで行った。これは、同定された樹種から当時の周辺環境を推定するものである。検出された炭化材は、集石遺構であれば燃料として使用された薪、竪穴住居跡であれば上屋をなしていた部材の一部であった可能性がある。

以下には分析ごとの記載を行うが、分析方法・結果・第2~4表についてはパリノ・サーヴェイ(株)の分析報告を掲載し、考察はそれに基づいて行った。

第2節 放射性炭素年代測定

1 分析試料

分析には、以下の試料を用いた。

SI2 (掘り込み底部検出の炭化材)

SI38 (掘り込み底部検出の炭化材)

SI7 (配石周辺検出の炭化材)

SP1 (掘り込み下部検出の炭化物)

SI10 (掘り込み下部検出の炭化材)

SA1-4 (竪穴住居跡埋土中検出の炭化材)

2 分析方法

土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HClにより炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOHにより腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去を行う(酸・アルカリ・酸処理)。

試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅(II)と銀箔(硫化物を除去するため)を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃(30分)850℃(2時間)で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO₂を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製した

CO₂と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした ^{14}C -AMS専用装置(NEC Pelletron 9SDH-2)を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局(NIST)から提供されるシュウ酸(HOX-II)とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定も行うため、この値を用いて $\delta^{13}\text{C}$ を算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代 (BP) であり、誤差は標準偏差 (One Sigma;68%) に相当する年代である。なお、暦年

3 結果

同位体効果による補正を行った測定結果を第2表、暦年較正結果を第3表、各試料の暦年較正曲線を第69図に示す。SI2炭化材は $8,190 \pm 50$ BP、SI7炭化材2は $8,120 \pm 50$ BP、SI10炭化物は $8,730 \pm 50$ BP、SI38炭化材は $8,340 \pm 50$ BP、SP1炭化物は $8,000 \pm 50$ BP、SA1-4炭化材一括は $1,640 \pm 30$ BPを示す。また、測定誤差を σ として計算させた暦年較正結果は、SI2炭化材がcalBC7,292~7,081、SI7炭化材2がcalBC7,173~7,054、SI10炭化物がcalBC7,825~7,613、SI38炭化材がcalBC7,484~7,354、SP1炭化物がcalBC7,047~6,829、SA1-4炭化材一括がcalAD347~503を示す。

暦年較正とは、大気中のC濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の

較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02 (Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer) を用い、誤差として標準偏差 (One Sigma) を用いる。

宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い (^{14}C の半減期5730 \pm 40年) を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表している。いずれも樹種同定結果から炭化材であることが確認されていることから、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。

暦年校正は、測定誤差 σ 、 2σ 双方の値を計算する。 σ は統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、 σ 、 2σ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

第3節 樹種同定

1 分析試料

分析には、以下の試料を用いた。

SI2 (掘り込み底部検出の炭化材)

SI38 (掘り込み底部検出の炭化材)

SI7 (配石周辺検出の炭化材)

SP1 (掘り込み下部検出の炭化物)

SI10 (掘り込み下部検出の炭化材)

SA1-4 (竪穴住居跡埋土中検出の炭化材)

2 分析方法

試料を自然乾燥させた後、木口 (横断面・柃目 (放射断面)・板目 (接線断面) の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。

なお、同定の根拠となる顕微鏡下での木材組

織の特徴等については、島地・伊東 (1982)、Wheeler他 (1998) を参考にする。また、各樹種の木材組織配列の特徴については、林 (1991)、伊東 (1995,1996,1997,1998,1999) や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースを参考にする。

第2表 放射性炭素年代測定結果表

| 地区 | グリッド | 遺構 | 試料名 | 種類 | 補正年代 BP | $\delta^{13}C$ (‰) | 測定年代 BP | Code No. | Measurement No. |
|----|-------|-------|-------|-----|------------|-----------------------|------------|----------|-----------------|
| B区 | M23-1 | SI2 | 炭化材 | 炭化材 | 8,190±50 | -26.43±0.72 | 8,210±50 | 9689-1 | IAAA-70344 |
| D区 | M29-1 | SI7 | 炭化材2 | 炭化材 | 8,120±50 | -28.62±0.75 | 8,180±50 | 9689-2 | IAAA-70345 |
| C区 | I28-1 | SI10 | 炭化物 | 炭化材 | 8,730±50 | -27.11±0.58 | 8,770±50 | 9689-3 | IAAA-70346 |
| A区 | F12-2 | SI38 | 炭化材 | 炭化材 | 8,340±50 | -30.05±0.80 | 8,430±50 | 9689-4 | IAAA-70347 |
| B区 | M23-3 | SP1 | 炭化物 | 炭化材 | 8,000±50 | -30.12±0.69 | 8,080±50 | 9689-5 | IAAA-70348 |
| A区 | B5-2 | SA1-4 | 炭化材一括 | 炭化材 | 1,640±30 | -29.13±0.66 | 1,730±30 | 9689-6 | IAAA-70349 |

- (1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
 (2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
 (3) 付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の68%が入る範囲) を年代値に換算した値。

第3表 暦年較正結果表

| 試料名 | 試料名 | 補正年代 (BP) | 暦年較年代 (cal) | | | | 相対比 | Code No. |
|-------|-------|--------------|----------------|-----------------------------|----------------------|--------|--------|----------|
| | | | σ | 2 σ | cal BC | cal BP | | |
| SI2 | 炭化材 | 8,186±50 | σ | cal BC 7,292 - cal BC 7,269 | cal BP 9,242 - 9,219 | 0.125 | 9689-1 | |
| | | | | cal BC 7,258 - cal BC 7,225 | cal BP 9,208 - 9,175 | | | 0.180 |
| | | | 2 σ | cal BC 7,192 - cal BC 7,081 | cal BP 9,142 - 9,031 | 0.695 | | |
| | | | | cal BC 7,333 - cal BC 7,065 | cal BP 9,283 - 9,015 | 1.000 | | |
| SI7 | 炭化材2 | 8,118±51 | σ | cal BC 7,173 - cal BC 7,152 | cal BP 9,123 - 9,102 | 0.148 | 9689-2 | |
| | | | | cal BC 7,145 - cal BC 7,054 | cal BP 9,095 - 9,004 | | | 0.852 |
| | | | 2 σ | cal BC 7,315 - cal BC 7,029 | cal BP 9,265 - 8,979 | 0.989 | | |
| | | | | cal BC 6,928 - cal BC 6,923 | cal BP 8,878 - 8,873 | 0.002 | | |
| | | | | cal BC 6,876 - cal BC 6,861 | cal BP 8,826 - 8,811 | 0.008 | | |
| | | | | cal BC 6,876 - cal BC 6,861 | cal BP 8,826 - 8,811 | 0.008 | | |
| SI10 | 炭化物 | 8,734±47 | σ | cal BC 7,825 - cal BC 7,846 | cal BP 9,775 - 9,796 | 0.948 | 9689-3 | |
| | | | | cal BC 7,641 - cal BC 7,635 | cal BP 9,591 - 9,585 | | | 0.018 |
| | | | 2 σ | cal BC 7,623 - cal BC 7,613 | cal BP 9,573 - 9,563 | 0.034 | | |
| | | | | cal BC 7,940 - cal BC 7,607 | cal BP 9,890 - 9,557 | 1.000 | | |
| SI38 | 炭化材 | 8,342±48 | σ | cal BC 7,484 - cal BC 7,354 | cal BP 9,434 - 9,304 | 1.000 | 9689-4 | |
| | | | | cal BC 7,530 - cal BC 7,297 | cal BP 9,480 - 9,247 | | | 0.979 |
| | | | 2 σ | cal BC 7,222 - cal BC 7,198 | cal BP 9,172 - 9,148 | 0.021 | | |
| | | | | cal BC 7,222 - cal BC 7,198 | cal BP 9,172 - 9,148 | 0.021 | | |
| SP1 | 炭化物 | 8,000±44 | σ | cal BC 7,047 - cal BC 6,998 | cal BP 8,997 - 8,948 | 0.279 | 9689-5 | |
| | | | | cal BC 6,994 - cal BC 6,984 | cal BP 8,944 - 8,934 | | | 0.049 |
| | | | | cal BC 6,972 - cal BC 6,911 | cal BP 8,922 - 8,861 | | | 0.349 |
| | | | | cal BC 6,884 - cal BC 6,829 | cal BP 8,834 - 8,779 | | | 0.324 |
| | | | 2 σ | cal BC 7,060 - cal BC 6,767 | cal BP 9,010 - 8,717 | 0.983 | | |
| | | | | cal BC 6,763 - cal BC 6,754 | cal BP 8,713 - 8,704 | 0.009 | | |
| | | | | cal BC 6,718 - cal BC 6,711 | cal BP 8,668 - 8,661 | 0.008 | | |
| | | | | cal BC 6,718 - cal BC 6,711 | cal BP 8,668 - 8,661 | 0.008 | | |
| SA1-4 | 炭化材一括 | 1,643±32 | σ | cal AD 347 - cal AD 369 | cal BP 1,603 - 1,581 | 0.156 | 9689-6 | |
| | | | | cal AD 378 - cal AD 433 | cal BP 1,572 - 1,517 | | | 0.802 |
| | | | | cal AD 496 - cal AD 503 | cal BP 1,454 - 1,447 | | | 0.042 |
| | | | | cal AD 265 - cal AD 273 | cal BP 1,685 - 1,677 | | | 0.011 |
| | | | 2 σ | cal AD 334 - cal AD 468 | cal BP 1,616 - 1,482 | 0.820 | | |
| | | | | cal AD 478 - cal AD 534 | cal BP 1,472 - 1,416 | 0.168 | | |
| | | | | cal AD 478 - cal AD 534 | cal BP 1,472 - 1,416 | 0.168 | | |
| | | | | cal AD 478 - cal AD 534 | cal BP 1,472 - 1,416 | 0.168 | | |

- (1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.01 (Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer) を使用
 (2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。
 (3) 1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
 (4) 統計的に真の値が入る確率は σ は68%、2 σ は95%である
 (5) 相対比は、 σ 、2 σ のそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

第4表 樹種同定結果表

| 地区 | グリッド | 遺構 | 試料名 | 樹種 |
|----|-------|-------|-------|---|
| B区 | M23-1 | SI2 | 炭化材 | コナラ属コナラ亜属コナラ節 <i>Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Prinus</i> |
| | | | | エゴノキ属 <i>Styrax</i> |
| D区 | M29-1 | SI7 | 炭化材2 | コナラ属コナラ亜属コナラ節 <i>Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Prinus</i> |
| C区 | I28-1 | SI10 | 炭化物 | コナラ属コナラ亜属コナラ節 <i>Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Prinus</i> |
| A区 | F12-2 | SI38 | 炭化材 | コナラ属コナラ亜属コナラ節 <i>Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Prinus</i> |
| B区 | M23-3 | SP1 | 炭化物 | コナラ属コナラ亜属コナラ節 <i>Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Prinus</i> |
| A区 | B5-2 | SA1-4 | 炭化材一括 | コナラ属コナラ亜属コナラ節 <i>Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Prinus</i> |

3 結果

樹種同定結果を第4表に示す。SI2には、2種類の木材が認められた。これらの炭化材は、広葉樹2種類（コナラ属コナラ亜属コナラ節・エゴノキ属）に同定された。各種類の解剖学的特徴等を記す。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Prinus*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1～2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・エゴノキ属 (*Styrax*) エゴノキ科

散孔材で、横断面では楕円形、単独または2～4個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は階段穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1～3細胞幅、1～20細胞高。

第4節 考察

1 分析結果からの考察

年代測定で、集石遺構検出炭化材は較正年代でBC7,800年頃～BC7,000年頃の年代が出ている。これは縄文時代早期の時期にあたり、集石遺構の検出面であるMB0（Ⅲ層）出土の土器が、押型文等縄文時代早期のものであることと合致する。また、炉穴検出炭化物は較正年代でBC7,000年頃～BC6,800年頃の年代が出ており、やや新しいものの集石遺構とほぼ同時期としてよいと思われる。集石遺構同士の比較では、測定結果としては、古いものからSI10・SI38・SI2・SI7の順となるが、SI10で他よりやや古い年代が出ている以外に大きな差は無く、構築時期の違いを見出すのは難しい。また、SI10の検出面はKr-Kbを含む層（V層）であるが、掘込み内部から検出された炭化材の年代は、上記のように他の集石遺構のものと大きな差は無く、ML1（Ⅳ層）以上が削平されたことによりSI10の上部も削平された可能性があることが確かめられた。弥生時代は、SA1の試料1点のみの測定ではあるが、較正年代で4世紀中頃～6世紀初頭の古墳時代の年代が出ており、出土土器の年代よりも、やや新しいものとなっている。

樹種同定では全ての試料でコナラ節が確認され、集石遺構のものも、竪穴住居跡のものも同じであった。集石遺構・炉穴と竪穴住居跡は、年代測定

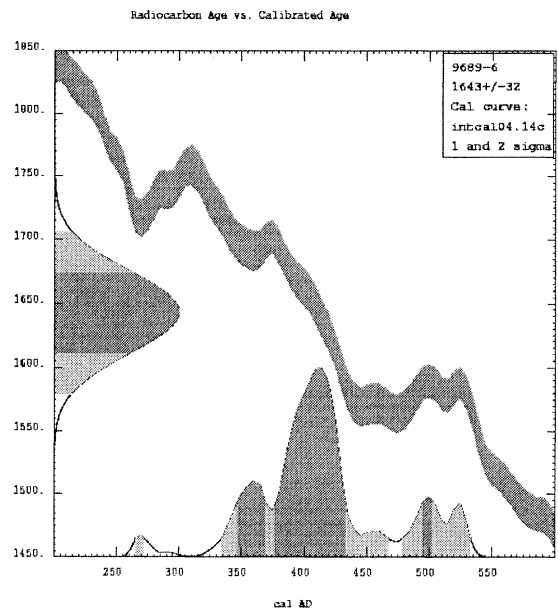
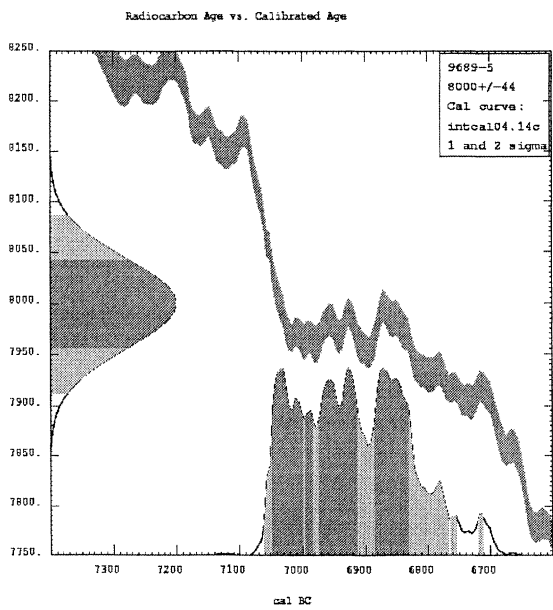
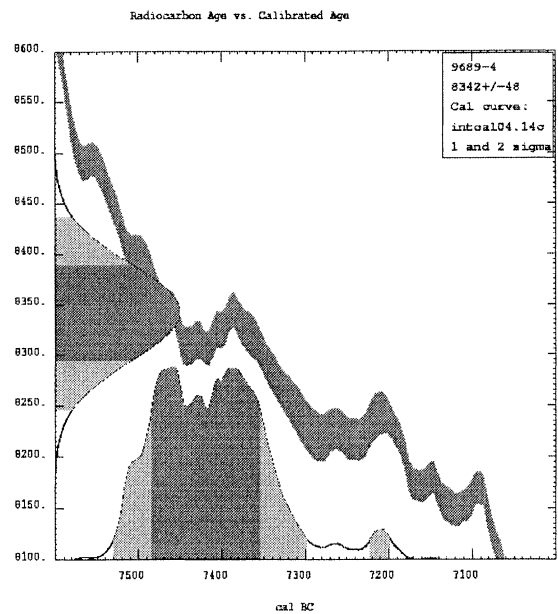
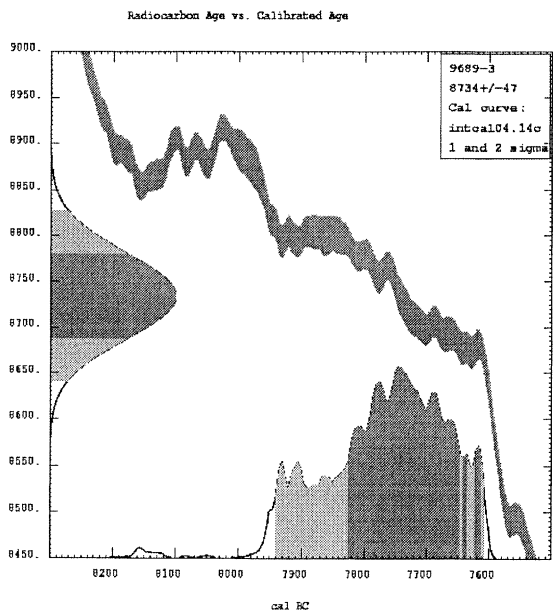
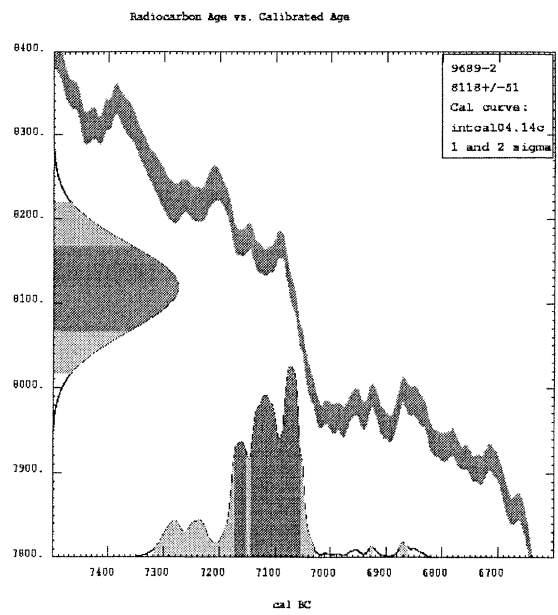
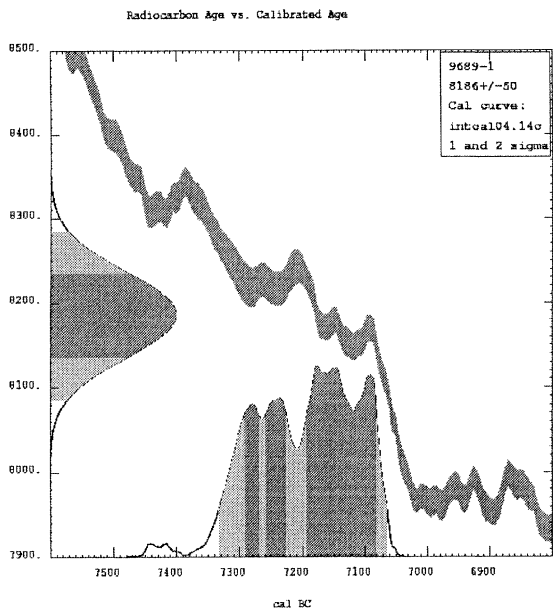
により時代が隔たることが確認されている。これは同定試料が少数であるため確実ではないが、それぞれの時期の植生に似通った部分（コナラ節やエゴノキ節の生育する落葉広葉樹林）があった可能性がある。

2 周辺遺跡との対比

自然科学分析は、本遺跡の南に位置する中ノ迫第3遺跡でも行われ、炭化材の年代測定と炭化種子の樹種同定が実施されている。年代測定では、炉穴と集石遺構検出の炭化材8点が用いられている。その結果、較正年代ではBC9,000年頃～BC8,000年頃と、いずれも第2遺跡の結果よりも1,000年程度古い年代が出ている。このことは、両遺跡の縄文時代早期の土器を見た場合に、第3遺跡は比較的古い段階に位置する条痕文土器を主体としているのに対して、第2遺跡はその後の押型文や燃糸文土器を主体として出土しており、第2遺跡の方が比較的新しいものが残されている可能性が高いことと関連するものと思われる。樹種同定では、炭化種子6点の同定が行われている。6点中1点がコナラ属コナラ節、3点がコナラ属とされており、植生については第2遺跡と似通った部分があったものと思われる。

【参考文献】

- 林 昭三,1991,日本産木材 顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.
- 伊東 隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.
- 伊東 隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176.
- 伊東 隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.
- 伊東 隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.
- 伊東 隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.
- 「中ノ迫第3遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第144集 2007 宮崎県埋蔵文化財センター



第69圖 歷年較正曲線圖

第Ⅵ章 まとめ

第1節 中ノ迫第2遺跡の様相

中ノ迫第2遺跡は、AT（Ⅷ層）下位の後期旧石器時代Ⅰ期から後期旧石器時代Ⅱ期、縄文時代早期、弥生時代の遺構・遺物を確認することができた。ここで、以下に各時代ごとの総括を行う。

1 後期旧石器時代Ⅰ期

この時期で出土したものは、ホルンフェルス（H2）の剥片のみであり、製品と呼べるものは含まれていない。遺物数も少なく、ごく短期間とどまっていたのみであったと思われる。

2 後期旧石器時代Ⅱ期

この時期は、礫群8基、石器ブロック1箇所が検出され、角錐状石器等の石器が出土した。ここでは礫群が検出されたことから、後期旧石器時代Ⅰ期よりも長期間とどまり、石器ブロック周辺等で石器製作を行いながらキャンプ的集落を営んでいたものと思われる。

遺物では、角錐状石器の中に、折れた破片の先端を利用し基部側を加工することで、新たな角錐状石器として再生させているものがある（第14図接合資料2・28）。このような様相が確認できるものはほとんど無いが、本遺跡では比較的器長の長い角錐状石器が確認されていることから、器長の短いものの中に器長の長い角錐状石器の欠損品から再加工されたものが含まれているとも考えられる。

3 縄文時代早期

この時期は、集石遺構37基、炉穴1基が検出され、押型文・条痕文等の施された土器片、石鏃を中心とした石器が出土した。集石遺構は直径2mを測るようなものが出現し、数も多いことから、以前より大きな規模で集落が営まれるようになったと考えられる。

第Ⅳ章第2節（3）4で縄文土器の分類を行ったが、その結果、Ⅰ類～Ⅳ類のいずれもが縄文時代早期の土器で、早期前半に編年される形式に相当することが判明した。また、Ⅳ類は直線的に立

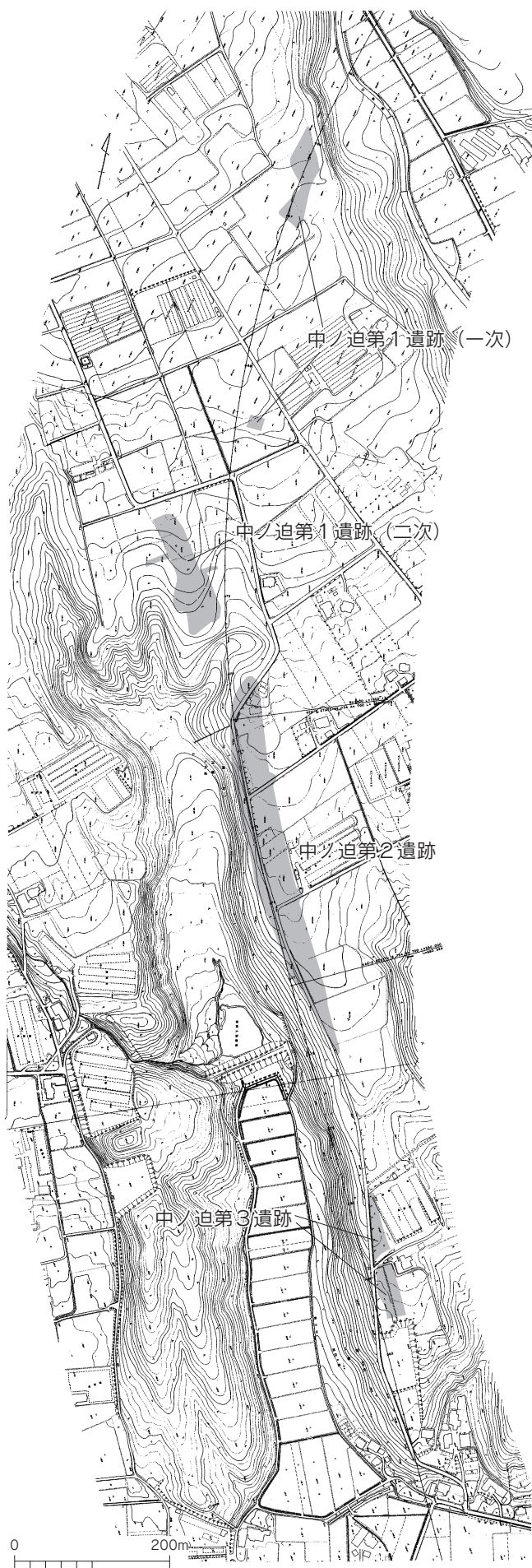
ち上がる器形等からⅠ類Ba・Caと併存する可能性がある。これにより、本遺跡の縄文時代は早期前半を中心に、人々が居住していたと考えられる。

石鏃にはさまざまな石材が使用されているが、中には黒曜石やサヌカイト等本遺跡の近隣では採取することのできないものが含まれている。これらは、現在の鹿児島県と宮崎県の県境付近や大分県等の遠方で採取されるものであり、このような石材が使用されていることは、産地となる地域と何らかの交流（直接・間接を問わず）があったことを意味している。中でもサヌカイト製の石鏃は、剥片が出土せず製品しか出土しなかったことから、製品に加工された状態で搬入されたものと思われる。また黒曜石は、後期旧石器時代Ⅱ期に主に使用されていた小国産（Ob2）に変わって、主として桑ノ木津留産（Ob1）・姫島産（Ob3）が使用されている。このような使用石材の変化は、集団の存在する時期により交易ルートが変化する等して、入手可能な石材が変化したことを示している可能性がある（周辺遺跡の状況は、次節で検討する）。

4 弥生時代

この時期は、竪穴住居跡2軒が検出され、土器や石庖丁、砥石等が出土した。2軒の竪穴住居跡には、大きさや遺物構成等の違いが見られる。SA1は、6m×4.5mの方形で、土器片は少ないものの石庖丁や砥石が床面から出土した。SA2は、少し小さく4m×3.5mの方形で、非常に多くの土器片が出土したが、石器は埋土中からのみであった。このような違いから、SA1は住居として、SA2は倉庫として使用されたのではないかと、といった同種の遺構内での使用法の違いを想定できるかもしれない。これらの竪穴住居跡は、櫛描波状文を持つ複合口縁壺や甕の器形等から、弥生時代後期後半に比定できる。

また、Ⅲ層中や攪乱土中から出土した弥生土器は、口縁付近の形態や貼付突帯文を有すること等から、弥生時代中期頃に比定できる可能性があるが、ごく僅かしか出土していない。



第70図 中ノ迫遺跡位置図 (1/8,000)

5 その他の時代

その他、時代を確定できなかったものとして、掘立柱建物跡の礎石と思われる巨礫の列が挙げられる。柱穴自体や、礫付近からの遺物が確認できなかったこともあり、年代は不明である。

第2節 周辺遺跡との比較・検討

中ノ迫第2遺跡（以下第2遺跡）の周囲には、東九州自動車道関連遺跡として、北に中ノ迫第1遺跡（一次調査・二次調査）（以下第1遺跡（一次・二次））、南に中ノ迫第3遺跡（以下第3遺跡）が存在している。以下、4遺跡全てを含むものとして「中ノ迫遺跡」という仮称を使用する。第1遺跡（一次・二次）・第3遺跡は、どちらも平成18年度に報告書を刊行しているため、そこから得られる情報を用いて検討を進める。

1 基本土層による比較（第71図）

まず始めに、第1～第3遺跡の基本土層と文化層の比較を行う。そこで、それぞれの基本土層を比較してみると、第3遺跡で一部他と違う土色の層が見られるものの、基本的な堆積状況はほぼ一致している。

そこで、中ノ迫遺跡の文化層は、

- ①後期旧石器時代Ⅰ期（第3遺跡X b層で確認）
- ②後期旧石器時代Ⅱ期（MB2～3）
- ③後期旧石器時代Ⅲ期（Kr-Kbを含む層）
- ④縄文時代早期（MB0）
- ⑤弥生時代（クロボク～K-Ahを掘り込む）

の合計5枚となる。以下、遺跡名を冠さずに文化層名を使用した場合、中ノ迫遺跡の文化層を指す。

中ノ迫第1遺跡

| | |
|-------|---------|
| I層 | 表土 |
| II層 | ク口ボク |
| III層 | K-Ah |
| IV層 | MBO |
| V層 | ML1 |
| VI層 | Kr-Kb相当 |
| VII層 | ML2 |
| VIII層 | AT |
| IXa層 | MB2 |
| IXb層 | MB3 |
| X層 | 礫層 |

縄文時代前期
～弥生時代

縄文時代早期

旧石器時代
II期

旧石器時代
I期

中ノ迫第2遺跡

| | |
|-------|----------|
| I層 | 表土 |
| II層 | K-Ah |
| III層 | MBO |
| IV層 | ML1 |
| V層 | Kr-Kbを含む |
| VI層 | MB1 |
| VII層 | ML2 |
| VIII層 | AT |
| IXa層 | MB2 |
| IXb層 | MB3 |
| X層 | ML3 |

弥生時代

縄文時代早期

後期旧石器
時代II期

後期旧石器
時代I期

中ノ迫第3遺跡

| | |
|-------|----------|
| I層 | 表土 |
| II層 | 黒褐色土 |
| III層 | K-Ah |
| IV層 | MBO |
| V層 | 褐灰色土 |
| VI層 | Kr-Kbを含む |
| VII層 | ML2 |
| VIII層 | AT |
| IX層 | MB2・3 |
| Xa層 | 橙色土 |
| Xb層 | にぶい黄橙色土 |
| XIa層 | にぶい橙色土 |
| XIb層 | 橙色土 |
| XII層 | 礫層 |

縄文時代早期

旧石器時代
IV期

旧石器時代
III期

旧石器時代
II期

旧石器時代
I期

※この図では、火山灰層（縦掛け部分）の高さを揃えているが、実際の層高は異なる。
各層の幅の違いは、火山灰層（縦掛け部分）を揃えていることによるもので、実際の厚みとは異なる。

第71図 中ノ迫遺跡基本土層・文化層比較図

2 遺構・遺物による比較・検討

①後期旧石器時代Ⅰ期

第3遺跡の旧石器時代Ⅰ期がこれにあたり、局部磨製石斧が出土した。これは、県内の事例としてもかなり古い段階に位置し、宮崎県の旧石器時代10段階編年での第1段階に相当する。東九州自動車道関連遺跡では、尾立第2遺跡（都農町）で、第3遺跡の旧石器時代Ⅰ期の層に相当する層から局部磨製石斧が出土している。ただ、第3遺跡では局部磨製石斧が1点出土したのみで他に遺物は無く、どのような状況でそれが残されたのかは不明である。

②後期旧石器時代Ⅱ期

第1遺跡（一次・二次）の旧石器時代Ⅰ期、第2遺跡の後期旧石器時代Ⅰ期、第3遺跡の旧石器時代Ⅱ期にあたる。中心となるのは、礫群が8基検出された第1遺跡（二次）と、国府型ナイフ形石器が出土した第1遺跡（一次）である。第3遺跡でも礫群が検出されているが、こちらは1基のみである。この時期は、第1遺跡（一次）で小型のナイフ形石器等が出土していることから、10段階編年の第3段階に相当する。

③後期旧石器時代Ⅲ期

第1遺跡（一次・二次）の旧石器時代Ⅱ期、第2遺跡の後期旧石器時代Ⅱ期、第3遺跡の旧石器時代Ⅲ・Ⅳ期にあたる。第1遺跡（一次・二次）で礫群がそれぞれ21基、15基検出されており、他が10基に満たないと比べて多いと言える。ただ、遺物の側から見ると、第2遺跡で石器ブロックが検出される等、明らかに第1遺跡に集中していた後期旧石器時代Ⅱ期とは異なっている。また、第1遺跡と第2遺跡では使用される石材や石器の組

成に違いが見られる。石材では、第1遺跡は流紋岩を中心に使用されているが、第2遺跡はホルンフェルスを中心に使用されている。石器の組成では、角錐状石器は第2遺跡でまとまった数の出土があるが、他では少ない。ナイフ形石器は第1遺跡（一次・二次）で出土数が多く、他では数点ずつしか出土していない（第6表参照）。このような違いは、遺跡ごとの人々の生活が営まれていた時期の違いを現している可能性がある。この時期は、層位からいえば10段階編年の第6段階に相当するが、第2遺跡の角錐状石器に比較的大型のものが存在することから、第5段階に相当する遺物が含まれていると思われる。第1・第3遺跡で、そのような大型のものは出土していないが、両遺跡のこの時期は第5～6段階に相当する、とされている。遺物の出土した層はほぼ同一であるが、数段階に渡る遺物が含まれるものと思われる。

④縄文時代早期

第2遺跡では集石遺構37基が検出されると共に、押型文土器等が多数出土している。また第3遺跡でも、集石遺構32基、炉穴4群21基が検出されると共に、貝殻条痕文土器が出土しているが、第1遺跡では集石遺構はほとんど検出されず、縄文土器の出土数も非常に少ない。

第3遺跡で出土している貝殻条痕文土器のうち、Ⅱ類-Ⅱとされているものは、第2遺跡でのⅡ類Aにあたると思われる。これらは、ほぼ同一の層位から出土しており、第2遺跡ではその一部が遺跡南部に集中する状況が見られることから、ほぼ同じ時期のものであろうことが想像される。ただ、第3遺跡では条痕文土器の中に、口縁付近に刺突文を持つもの（Ⅱ類-Ⅰ）が出土しているが、同

第5表 中ノ迫遺跡検出遺構数比較表

| | 後期旧石器時代Ⅱ期 礫群（基） | 後期旧石器時代Ⅲ期 礫群（基） | 縄文時代早期 集石遺構（基） | 縄文時代早期 炉穴（基） | 弥生時代 竪穴住居跡（軒） |
|----------|--------------------|--------------------|-------------------|-----------------|------------------|
| 第1遺跡（一次） | 0 | 21 | 0 | 0 | 0 |
| 第1遺跡（二次） | 8 | 15 | 2 | 0 | 1 |
| 第2遺跡 | 0 | 8 | 37 | 1 | 2 |
| 第3遺跡 | 1 | 6 | 32 | 4群21基 | 0 |

第6表 中ノ迫遺跡後期旧石器時代Ⅲ期遺物数比較表

| | ナイフ形石器 | 剥片尖頭器 | 角錐状石器 | 細石刃 | 細石刃核 |
|-----------------|--------|-------|-------|-----|------|
| 第1遺跡(一次)旧石器時代Ⅱ期 | 19 | 1 | 0 | 2 | 2 |
| 第1遺跡(二次)旧石器時代Ⅱ期 | 39 | 1 | 8 | 0 | 0 |
| 第2遺跡 旧石器時代Ⅱ期 | 4 | 5 | 31 | 14 | 11 |
| 第3遺跡 旧石器時代Ⅲ・Ⅳ期 | 3 | 0 | 2 | 6 | 0 |

(単位：点)

様のものは第2遺跡では確認されていない。次に押型文土器を見ると、第3遺跡での出土は僅かであるが、第2遺跡からはまとまった量が出土している。これに加え、両遺跡で行われた自然科学分析を用いた年代測定でも、第3遺跡がBC9,000～BC8,000年頃（主に炉穴検出の炭化物で測定）、第2遺跡がBC7,800～BC7,000年頃（主に集石遺構検出の炭化物で測定）という結果がでており、二つの遺跡における使用時期の違いを見出すことができる。

第2遺跡では、後期旧石器時代Ⅲ期と縄文時代早期で主に使用されている黒曜石の産地が、小国産（Ob2）から桑ノ木津留産（Ob1）・姫島産（Ob3）に変化することが確認されたが、第1・3遺跡でもそれぞれに変化している。

第1遺跡（一次）では、後期旧石器時代Ⅱ期で桑ノ木津留産・竜ヶ水産の黒曜石が出土しており、後期旧石器時代Ⅲ期には全体の出土量は減るものの桑ノ木津留産・小国産・竜ヶ水産・針尾産が出土し、幅が広がる。縄文時代早期には姫島産・腰岳産・竜ヶ水産となり、主に石鏃に加工されている。

第1遺跡（二次）では、後期旧石器時代Ⅱ期では黒曜石は出土せず、後期旧石器時代Ⅲ期で日東産・

桑ノ木津留産・姫島産・淀姫産が使用されているが、第1遺跡（一次）と同様に出土量は少ない。縄文時代早期では、日東産・桑ノ木津留産・姫島産・淀姫産・腰岳産・竜ヶ水産と、多種に渡っている。

第3遺跡では、後期旧石器時代Ⅲ期まで黒曜石は出土せず、縄文時代早期になって桑ノ木津留産・姫島産が出土する。これらは主に石鏃に加工されている。

第1遺跡（一次）・第1遺跡（二次）で出土する黒曜石の産地は、どちらも第2遺跡のものとは大きく異なっている。これは、時代の前後関係等は不明であるが、別々の集団が異なった時期に、それぞれに石材を入手していたことによるのではないかと考えられる。これは、後期旧石器時代Ⅲ期の項で指摘した、第1遺跡と第2遺跡では使用されている石材や石器の組成に違いが見られることから、居住していた時期が異なるのではないかとする考えと矛盾しないものである。第3遺跡では、黒曜石は縄文時代早期にしか出土していないが、産地の構成は第2遺跡と同じである。両遺跡は、土器の検討や年代測定から時期の違いを指摘したが、黒曜石の構成から見ると、同じ石材入手ルートを持つ同系列の集団であった可能性がある。

第7表 中ノ迫遺跡出土黒曜石産地一覧表

| | | 後期旧石器時代Ⅰ期 | 後期旧石器時代Ⅱ期 | 後期旧石器時代Ⅲ期 | 縄文時代早期 |
|-------------|----|-----------|--------------|--------------------------|--------------------------------------|
| 中ノ迫 第1遺跡 | 一次 | — | 桑ノ木津留 竜ヶ水 | 桑ノ木津留 竜ヶ水 小国 針尾 | 竜ヶ水 姫島 腰岳 |
| | 二次 | — | — | 日東 桑ノ木津留 姫島 淀姫 | 日東 桑ノ木津留 姫島 淀姫 腰岳 竜ヶ水 |
| 中ノ迫第2遺跡 | | — | — | 小国 | 桑ノ木津留 姫島 |
| 中ノ迫第3遺跡 | | — | — | — | 桑ノ木津留 姫島 |

⑤弥生時代

竪穴住居跡が、第2遺跡で2軒、第1遺跡（二次）で1軒検出された。第1遺跡（一次）では自然流路から多くの土器片が出土したが、これは流れ込みの可能性が高いとされる。逆に第3遺跡では遺構・遺物は確認されず、縄文時代早期と比較して、居住の中心地が台地上の平坦部に移動している。

3 東九州自動車道関連遺跡以外の周辺遺跡

東九州自動車道関連遺跡ではないが、同一もしくは近い台地上に位置し、中ノ迫遺跡と関連のありそうな遺跡として次の二つが挙げられる。

・中ノ迫A遺跡

中ノ迫遺跡の存在する舌状台地の東側に位置している。ここからは、弥生時代後期の竪穴住居跡が1軒検出されており、口縁部付近で「く」の字に外反する甕、高坏、石庖丁、鉄鏃等が出土している。

・大迫遺跡

第2遺跡西側、谷を挟んだ向かい側の舌状台地上に位置している。未発掘であるものの、40軒以上の竪穴住居跡や円形周溝墓、方形周溝墓の存在が確認されており、弥生時代後期におけるこの地域の拠点集落であろうと考えられている。

第1遺跡（二次）、第2遺跡と中ノ迫A遺跡の竪穴住居跡と、大迫遺跡の竪穴住居群が同時期のものかは分からないが、弥生時代後期頃に、大迫遺跡を中心とした、周辺の舌状台地一帯に広がる一大集落が営まれていたとも想像される。

第3節 おわりに

中ノ迫第2遺跡は、後期旧石器時代Ⅰ・Ⅱ期、縄文時代早期、弥生時代後期と複数時期の遺構・遺物を確認した複合遺跡であった。また、中ノ迫遺跡としてみた場合、3万年以上前とも言われる層から出土した第3遺跡の局部磨製石斧から始まり、第1遺跡（二次）・第2遺跡で検出された弥生時代の竪穴住居跡まで、さらに広い時期の遺構・遺物が確認されている。また、中ノ迫遺跡を構成する4遺跡には、それぞれに遺構・遺物の比較的多くなる時期が存在している。これは、人々の主要な

居住地が、時代により移り変わっていったことによるのではないかと思われる。一連の調査により、この舌状台地の一端に長期に渡る人々の活動の痕跡を確認することができた。

【参考文献】

「白ヶ野第2・第3遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第52集 2002 宮崎県埋蔵文化財センター

「藏座村遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第53集 2002 宮崎県埋蔵文化財センター

「阿蘇原上遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第71集 2003 宮崎県埋蔵文化財センター

「中ノ迫第1遺跡（一次・二次）」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第143集 2007 宮崎県埋蔵文化財センター

「中ノ迫第3遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第144集 2007 宮崎県埋蔵文化財センター

「中ノ迫A遺跡」『宮崎県文化財調査報告書』第28集 1985 宮崎県教育委員会

『川南町の埋蔵文化財』遺跡詳細分布調査報告書 1983 川南町教育委員会

栗 畑光博・上田耕・雨宮瑞生 「貝殻文円筒形土器と押型文の関係」『南九州縄文通信』No.7 1993 南九州縄文研究会

山下大輔 「下剥峯式および桑ノ丸式土器の再検討」『南九州縄文通信』No.16 2005 南九州縄文研究会

水ノ江和同 「九州における押型文土器の地域性」『九州の押型文土器—論攷編—』 1998 九州縄文研究会

金丸武司 「宮崎における縄文時代早期前半期の土器群—別府原式土器の設定—」『宮崎考古』第19号 2004 宮崎考古学会

岩永哲夫 「南九州の押型文」『宮崎考古』第20号 2005 宮崎考古学会

宮崎県旧石器文化談話会 「宮崎県下の旧石器時代遺跡概観」『旧石器考古学』66 2005 旧石器文化談話会

| 報告書 番号 | 注記No. 及び 接合No. | 器種 | 石材 | 出土 地点 | 層 | X 座 標 | Y 座 標 | Z 座 標 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 備 考 |
|-----------|----------------------|-------|-----|----------|----|------------|-----------|---------|------|-----|------|-------|-------------------|
| 1 | カクニンN03 | 搔器 | Ryu | B区T6 | V | - | - | - | 9.7 | 4.9 | 1.4 | 57.6 | 一次確認調査 |
| 2 | 確認調査7 | 石鏃 | H2 | T2 | Ⅲ | - | - | - | 2.2 | 1.6 | 0.4 | 0.9 | 二次確認調査 灰色 |
| 3 | 確認調査6 | 石鏃 | H2 | T2 | Ⅲ | - | - | - | 1.2 | 1.6 | 0.4 | 1.0 | 二次確認調査 灰色 |
| 4 | 確認調査52 | 石鏃 | Ob3 | T7 | Ⅲ | - | - | - | 1.8 | 1.5 | 0.4 | 0.6 | 二次確認調査 |
| 5 | 確認調査14 | 石鏃 | Ch3 | T2 | Ⅳ | - | - | - | 1.5 | 1.3 | 0.5 | 1.3 | 二次確認調査 |
| 6 | 確認調査3 | 石鏃 | H2 | T1 | Ⅲ | - | - | - | 1.1 | 0.9 | 0.2 | 0.2 | 二次確認調査 一部のみ 白色 |
| 7 | N04926 | 剥片 | H2 | D12-4 | Ⅸa | -89235.106 | 46078.749 | 103.307 | 6.7 | 5.9 | 1.8 | 76.8 | 白色 |
| 8 | N04933 | 剥片 | H2 | E12-3 | Ⅸa | -89235.288 | 46080.900 | 103.330 | 7.7 | 5.6 | 2.0 | 85.6 | 赤褐色 |
| 9 | N04928 | 剥片 | H2 | D12-4 | Ⅸb | -89235.064 | 46079.959 | 103.182 | 8.3 | 6.1 | 2.0 | 135.3 | 白色 |
| 10 | N04925 | 剥片 | H2 | D12-4 | Ⅸa | -89235.135 | 46078.445 | 103.311 | 4.9 | 8.2 | 2.0 | 85.9 | 白色 |
| 接合資料1 | 接合47 | - | - | - | - | - | - | - | 9.0 | 8.2 | 5.5 | 150.0 | |
| 11 | N04655 | 剥片 | Ryu | C10-1 | Ⅳ | -89211.735 | 46064.178 | 104.580 | 3.5 | 2.2 | 0.8 | 6.7 | 接合資料1 |
| 12 | N04673 | 剥片 | Ryu | C10-2 | V | -89211.657 | 46066.395 | 104.433 | 4.1 | 2.2 | 0.8 | 7.9 | 接合資料1 |
| 13 | N04804 | 剥片 | Ryu | D10-1 | Ⅵ | -89210.673 | 46070.139 | 104.418 | 0.5 | 3.2 | 10.5 | 10.8 | 接合資料1 |
| 14 | N04057 | 剥片 | Ryu | C9-4 | Ⅳ | -89207.560 | 46067.349 | 104.822 | 1.6 | 1.3 | 0.5 | 1.5 | 接合資料1 |
| 15 | N04115 | 剥片 | Ryu | C9-4 | V | -89209.502 | 46065.786 | 104.623 | 1.5 | 1.3 | 0.6 | 1.0 | 接合資料1 |
| 16 | N04061 | 剥片 | Ryu | C9-4 | V | -89205.181 | 46065.663 | 104.703 | 4.7 | 3.4 | 1.1 | 20.5 | 接合資料1 |
| 17 | N04123 | 剥片 | Ryu | D9-3 | V | -89207.081 | 46070.332 | 104.723 | 2.8 | 3.0 | 0.6 | 4.5 | 接合資料1 |
| 18 | N04117 | 剥片 | Ryu | C9-4 | V | -89210.028 | 46066.205 | 104.630 | 5.9 | 3.7 | 1.6 | 36.1 | 接合資料1 |
| 19 | N04242 | 剥片 | Ryu | C9-4 | V | -89207.366 | 46068.807 | 104.723 | 2.7 | 3.5 | 1.1 | 9.5 | 接合資料1 |
| 20 | N04325 | 剥片 | Ryu | C9-4 | V | -89205.354 | 46068.874 | 104.658 | 3.0 | 3.3 | 1.1 | 10.2 | 接合資料1 |
| 21 | N04671 | 剥片 | Ryu | C10-2 | V | -89212.186 | 46066.011 | 104.456 | 3.0 | 2.2 | 0.7 | 6.1 | 接合資料1 |
| 22 | N04223 | 剥片 | Ryu | C9-4 | V | -89207.387 | 46067.098 | 104.699 | 4.6 | 4.0 | 1.4 | 24.1 | 接合資料1 |
| 23 | N04326 | 剥片 | Ryu | C9-4 | V | -89205.572 | 46068.772 | 104.667 | 4.1 | 2.9 | 1.0 | 11.1 | 接合資料1 |
| 接合資料2 | 接合37 | - | - | - | - | - | - | - | 14.9 | 3.4 | 2.9 | 103.3 | |
| 24 | N02333 | 剥片 | H1 | C9-4 | Ⅲ | -89208.407 | 46066.263 | 104.892 | 2.2 | 2.9 | 0.7 | 3.5 | 接合資料2 |
| 25 | N04231 | 剥片 | H1 | C9-4 | V | -89205.873 | 46068.117 | 104.699 | 1.9 | 2.7 | 0.6 | 3.0 | 接合資料2 |
| 26 | N04331 | 剥片 | H1 | C9-4 | V | -89205.644 | 46068.342 | 104.613 | 2.8 | 2.6 | 1.8 | 3.1 | 接合資料2 |
| 27 | N04337 | 剥片 | H1 | C9-4 | V | -89206.233 | 46067.589 | 104.580 | 1.5 | 2.6 | 0.7 | 2.0 | 接合資料2 |
| 28 | N04344 | 角錐状石器 | H1 | C9-4 | V | -89205.891 | 46067.231 | 104.601 | 9.1 | 3.3 | 2.2 | 54.7 | 接合資料2 |
| 29 | N04341 | 剥片 | H1 | C9-4 | V | -89205.420 | 46067.624 | 104.583 | 2.6 | 2.8 | 0.6 | 3.1 | 接合資料2 |
| 30 | N04406 | 剥片 | H1 | C9-4 | V | -89206.017 | 46066.835 | 104.544 | 2.5 | 3.7 | 0.6 | 5.0 | 接合資料2 |
| 31 | N04501 | 剥片 | H1 | C9-1 | V | -89203.900 | 46061.980 | 104.568 | 2.5 | 3.9 | 0.9 | 7.0 | 接合資料2 |
| 32 | N04688 | 剥片 | H1 | D9-3 | Ⅵ | -89206.597 | 46070.486 | 104.534 | 1.3 | 1.3 | 0.3 | 0.7 | 接合資料2 |
| 33 | N04656 | 角錐状石器 | H1 | C10-1 | Ⅳ | -89212.069 | 46064.596 | 104.538 | 5.9 | 2.6 | 1.8 | 21.2 | 接合資料2 |
| 接合資料3 | 接合34 | - | - | - | - | - | - | - | 11.3 | 5.0 | 3.1 | 139.1 | |
| 34 | N01894 | 剥片 | H1 | C9-2 | Ⅲ | -89204.172 | 46065.130 | 105.000 | 2.9 | 3.0 | 0.6 | 5.1 | 接合資料3 |
| 35 | N02346 | 剥片 | H1 | C9-1 | Ⅲ | -89203.135 | 46062.567 | 104.955 | 2.0 | 2.1 | 0.6 | 5.1 | 接合資料3 |
| 36 | N03388 | 剥片 | H1 | C9-1 | Ⅳ | -89203.241 | 46064.666 | 104.898 | 2.0 | 2.3 | 0.6 | 3.6 | 接合資料3 |
| 37 | N04496 | 剥片 | H1 | B9-2 | Ⅳ | -89200.833 | 46059.208 | 104.686 | 2.6 | 2.8 | 1.2 | 8.5 | 接合資料3 |
| 38 | N04548 | 角錐状石器 | H1 | C9-1 | V | -89202.825 | 46064.181 | 104.605 | 9.0 | 4.0 | 2.7 | 98.8 | 接合資料3 |

第8表 中ノ迫第2遺跡石器観察表 (1)

| 報告書 番号 | 注記No. 及び 接合No. | 器種 | 石材 | 出土 地点 | 層 | X 座 標 | Y 座 標 | Z 座 標 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 備 考 |
|-----------|----------------------|-------|----|----------|----|------------|-----------|---------|------|-----|-----|-------|-------|
| 39 | NO4505 | 剥片 | H1 | C9-1 | V | -89203.422 | 46062.030 | 104.600 | 2.1 | 2.2 | 0.5 | 2.0 | 接合資料3 |
| 40 | NO4515 | 剥片 | H1 | C9-1 | V | -89204.093 | 46062.491 | 104.532 | 2.1 | 4.2 | 0.6 | 4.3 | 接合資料3 |
| 41 | NO4527 | 剥片 | H1 | C9-1 | V | -89203.027 | 46063.301 | 104.628 | 1.8 | 1.7 | 0.4 | 1.1 | 接合資料3 |
| 42 | NO4572 | 剥片 | H1 | C9-1 | V | -89203.034 | 46063.898 | 104.593 | 1.5 | 1.7 | 0.3 | 1.1 | 接合資料3 |
| 43 | NO4553 | 剥片 | H1 | C9-1 | V | -89203.156 | 46064.488 | 104.624 | 2.4 | 2.3 | 0.6 | 3.6 | 接合資料3 |
| 44 | NO4560 | 剥片 | H1 | C9-1 | V | -89204.036 | 46064.548 | 104.582 | 2.1 | 1.8 | 0.5 | 2.2 | 接合資料3 |
| 45 | NO4550 | 剥片 | H1 | C9-1 | V | -89202.866 | 46064.344 | 104.666 | 2.1 | 3.2 | 0.6 | 3.7 | 接合資料3 |
| 接合資料4 | 接合35 | - | - | - | - | - | - | - | 9.7 | 4.2 | 3.1 | 64.9 | |
| 46 | NO4213 | 剥片 | H1 | C9-4 | V | -89206.665 | 46066.213 | 104.625 | 1.9 | 1.7 | 0.4 | 1.3 | 接合資料4 |
| 47 | NO4230 | 剥片 | H1 | C9-4 | V | -89206.278 | 46067.805 | 104.703 | 2.9 | 2.0 | 0.4 | 2.2 | 接合資料4 |
| 48 | NO4217 | 角錐状石器 | H1 | C9-4 | V | -89205.926 | 46067.314 | 104.669 | 4.4 | 2.1 | 1.5 | 9.4 | 接合資料4 |
| 49 | NO4261 | 剥片 | H1 | C9-4 | V | -89207.564 | 46067.632 | 104.522 | 4.1 | 2.6 | 1.3 | 41.7 | 接合資料4 |
| 50 | NO4347 | 剥片 | H1 | C9-4 | V | -89205.451 | 46066.958 | 104.595 | 3.9 | 2.8 | 0.4 | 4.0 | 接合資料4 |
| 51 | NO4619 | 剥片 | H1 | C9-3 | IV | -89208.782 | 46063.034 | 104.493 | 2.7 | 2.8 | 0.6 | 4.4 | 接合資料4 |
| 52 | NO4760 | 剥片 | H1 | C9-1 | VI | -89202.902 | 46063.759 | 104.522 | 1.9 | 2.4 | 0.4 | 1.9 | 接合資料4 |
| 接合資料5 | 接合30 | - | - | - | - | - | - | - | 13.3 | 3.9 | 3.0 | 123.9 | |
| 53 | NO4368 | 剥片 | H1 | C9-2 | V | -89204.505 | 46066.243 | 104.609 | 3.4 | 2.1 | 0.9 | 5.0 | 接合資料5 |
| 54 | NO4365 | 角錐状石器 | H1 | C9-2 | V | -89204.375 | 46066.576 | 104.646 | 4.6 | 1.5 | 1.4 | 6.3 | 接合資料5 |
| 55 | NO4672 | 剥片 | H1 | C10-2 | V | -89210.243 | 46065.326 | 104.494 | 2.7 | 3.0 | 1.2 | 5.3 | 接合資料5 |
| 56 | NO4661 | 剥片 | H1 | C10-2 | IV | -89210.656 | 46065.464 | 104.585 | 1.4 | 2.2 | 0.5 | 1.5 | 接合資料5 |
| 57 | NO4375 | 角錐状石器 | H1 | C9-2 | V | -89204.369 | 46066.084 | 104.621 | 9.7 | 3.9 | 2.9 | 105.8 | 接合資料5 |
| 接合資料6 | 接合86 | - | - | - | - | - | - | - | 7.4 | 2.6 | 2.9 | 34.7 | |
| 58 | NO4524 | 剥片 | H1 | C9-1 | V | -89203.239 | 46063.368 | 104.622 | 2.9 | 5.6 | 1.0 | 14.1 | 接合資料6 |
| 59 | NO4402 | 角錐状石器 | H1 | C9-2 | VI | -89200.377 | 46067.774 | 104.567 | 7.4 | 2.0 | 1.7 | 20.6 | 接合資料6 |
| 60 | 接合13 | 角錐状石器 | - | - | - | - | - | - | 16.3 | 2.6 | 1.8 | 67.1 | |
| - | NO4028 | - | H2 | C9-2 | IV | -89202.021 | 46068.290 | 104.848 | - | - | - | - | 黄色 |
| - | NO4104 | - | H2 | C9-2 | V | -89202.989 | 46068.939 | 104.729 | - | - | - | - | 黄色 |
| - | NO4401 | - | H2 | C9-2 | V | -89200.975 | 46067.632 | 104.639 | - | - | - | - | 黄色 |
| 61 | 接合7 | 角錐状石器 | - | - | - | - | - | - | 10.0 | 2.1 | 1.7 | 25.6 | |
| - | NO4203 | - | H2 | C9-2 | V | -89202.650 | 46069.673 | 104.684 | - | - | - | - | 灰色 |
| - | NO4902 | - | H2 | D9-1 | VI | -89199.986 | 46074.204 | 104.618 | - | - | - | - | 灰色 |
| 62 | NO4903 | 角錐状石器 | H2 | D9-1 | VI | -89200.170 | 46073.282 | 104.629 | 7.1 | 2.3 | 1.9 | 24.2 | 灰色 |
| 63 | 接合74 | 角錐状石器 | - | - | - | - | - | - | 11.2 | 3.0 | 2.0 | 52.7 | |
| - | NO4339 | - | H2 | C9-4 | V | -89205.366 | 46067.923 | 104.681 | - | - | - | - | 灰 |
| - | NO4340 | - | H2 | C9-4 | V | -89205.600 | 46067.772 | 104.652 | - | - | - | - | 灰 |
| 64 | 接合63 | 角錐状石器 | - | - | - | - | - | - | 10.3 | 2.6 | 1.7 | 38.5 | |
| - | NO4063 | - | H2 | C9-4 | V | -89206.632 | 46066.554 | 104.725 | - | - | - | - | 灰 |
| - | NO4110 | - | H2 | C9-4 | V | -89206.066 | 46065.597 | 104.680 | - | - | - | - | 灰 |
| 65 | NO1326 | 角錐状石器 | H2 | S34-4 | V | -89458.387 | 46228.600 | 99.211 | 6.9 | 1.8 | 1.4 | 15.6 | 黒褐色 |
| 66 | NO1351 | 角錐状石器 | H2 | U35-1 | V | -89462.247 | 46240.455 | 99.579 | 7.2 | 2.2 | 1.7 | 22.4 | 黄色 |
| 67 | NO1399 | 角錐状石器 | H2 | U36-3 | V | -89475.731 | 46240.974 | 98.809 | 7.8 | 2.5 | 1.6 | 25.3 | 黒褐色 |

第9表 中ノ迫第2遺跡石器観察表 (2)

| 報告書 番号 | 注記No. 及び 接合No. | 器種 | 石材 | 出土 地点 | 層 | X 座 標 | Y 座 標 | Z 座 標 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 備 考 |
|-----------|----------------------|--------|-----|----------|----|------------|-----------|---------|------|-----|-----|------|-------|
| 68 | NO4623 | 角錐状石器 | H2 | C9-3 | IV | -89208.841 | 46063.514 | 104.469 | 5.5 | 1.8 | 1.3 | 12.2 | 黄色 |
| 69 | NO4707 | 角錐状石器 | H2 | E11-4 | V | -89226.703 | 46085.553 | 104.117 | 4.7 | 1.8 | 1.3 | 10.5 | 黄色 |
| 70 | NO1323 | 角錐状石器 | H2 | S34-4 | V | -89458.052 | 46228.597 | 99.207 | 9.1 | 3.1 | 2.0 | 47.5 | 灰色 |
| 71 | NO4338 | 角錐状石器 | H2 | C9-4 | V | -89205.337 | 46068.050 | 104.651 | 8.6 | 3.6 | 3.0 | 92.5 | 灰色 |
| 72 | NO4377 | 角錐状石器 | H2 | C9-2 | V | -89204.783 | 46065.873 | 104.594 | 5.9 | 2.6 | 2.2 | 38.7 | 黄色 |
| 73 | NO3773 | 角錐状石器 | H2 | F9-3 | V | -89207.771 | 46093.275 | 104.469 | 3.8 | 2.1 | 1.4 | 12.1 | 灰色 |
| 74 | NO4120 | 角錐状石器 | H2 | D9-3 | V | -89205.733 | 46070.234 | 104.751 | 3.9 | 1.9 | 1.4 | 6.9 | 灰色 |
| 75 | NO4113 | 角錐状石器 | H2 | C9-4 | V | -89208.676 | 46066.556 | 104.700 | 2.5 | 1.2 | 1.0 | 3.1 | 黒褐色 |
| 76 | NO4233 | 角錐状石器 | H2 | C9-2 | V | -89203.007 | 46069.141 | 104.666 | 4.2 | 2.0 | 1.2 | 10.4 | 黄色 |
| 77 | NO4906 | 角錐状石器 | H2 | D8-3 | VI | -89198.398 | 46073.854 | 104.670 | 3.2 | 1.7 | 1.6 | 5.9 | 灰色 |
| 78 | NO4844 | 角錐状石器 | H2 | C9-4 | VI | -89206.434 | 46067.177 | 104.529 | 2.3 | 1.3 | 1.1 | 2.9 | 灰色 |
| 79 | NO4964 | 角錐状石器 | H2 | F14-1 | IV | -89254.657 | 46092.170 | 103.973 | 2.1 | 1.1 | 0.9 | 1.9 | 灰色 |
| 80 | NO2314 | 角錐状石器 | Ch2 | C8-4 | Ⅲ | -89195.570 | 46065.762 | 105.072 | 1.8 | 0.9 | 0.8 | 1.1 | |
| 81 | NO941 | 角錐状石器 | Ryu | H13-3 | Ⅲ | -89248.912 | 46113.065 | 103.945 | 4.0 | 1.8 | 1.0 | 7.4 | |
| 82 | NO2104 | 角錐状石器 | Ryu | T34-3 | V | -89458.194 | 46231.554 | 99.340 | 5.3 | 2.0 | 2.1 | 19.9 | |
| 83 | NO4019 | 角錐状石器 | Ryu | G12-2 | Ⅲ | -89233.308 | 46105.800 | 104.411 | 3.3 | 1.8 | 1.0 | 5.8 | |
| 84 | NO958 | 剥片尖頭器 | H2 | L23-4 | V | -89345.334 | 46157.010 | 101.476 | 8.1 | 3.0 | 1.5 | 37.7 | 灰色 |
| 85 | NO4020 | 剥片尖頭器 | H2 | F13-4 | IV | -89246.324 | 46095.780 | 104.002 | 4.4 | 3.3 | 1.2 | 17.4 | 黒褐色 |
| 86 | 接合43 | 剥片尖頭器 | - | - | - | - | - | - | 11.6 | 4.1 | 2.4 | 91.4 | |
| - | NO4035 | - | Ryu | C9-2 | IV | -89204.126 | 46066.153 | 104.774 | - | - | - | - | |
| - | NO4036 | - | Ryu | C9-2 | IV | -89204.643 | 46066.143 | 104.798 | - | - | - | - | |
| 87 | NO4188 | 剥片尖頭器 | Ryu | F11-3 | V | -89226.900 | 46091.189 | 104.197 | 6.6 | 2.1 | 1.3 | 15.0 | |
| 88 | NO4863 | 剥片尖頭器 | Ryu | E10-3 | VI | -89218.467 | 46082.600 | 104.179 | 7.5 | 4.5 | 1.6 | 32.2 | |
| 89 | NO960 | ナイフ形石器 | Ryu | L23-4 | V | -89347.177 | 46157.401 | 101.503 | 5.0 | 1.3 | 0.9 | 5.7 | |
| 90 | NO3777 | ナイフ形石器 | Ryu | E9-4 | V | -89206.536 | 46089.178 | 104.520 | 2.8 | 1.0 | 0.8 | 1.9 | |
| 91 | NO4866 | ナイフ形石器 | Ryu | G11-3 | VI | -89229.120 | 46104.461 | 104.006 | 6.8 | 2.5 | 0.9 | 13.9 | |
| 92 | NO3763 | ナイフ形石器 | H2 | E9-2 | V | -89203.233 | 46089.793 | 104.592 | 2.1 | 1.1 | 0.8 | 2.1 | 灰色 |
| 93 | NO4864 | ナイフ形石器 | Ch2 | E8-3 | V | -89198.056 | 46084.042 | 104.654 | 2.8 | 1.3 | 0.8 | 3.0 | |
| 94 | NO1249 | 搔器 | Ryu | U36-3 | Ⅲ | -89479.084 | 46240.809 | 98.935 | 5.4 | 7.2 | 1.5 | 55.4 | |
| 95 | 接合36 | 搔器 | - | - | - | - | - | - | 6.0 | 5.9 | 1.8 | 75.3 | |
| - | NO1366 | - | H1 | T35-2 | V | -89463.491 | 46238.653 | 99.442 | - | - | - | - | |
| - | NO1370 | - | H1 | T35-2 | V | -89465.038 | 46236.973 | 99.435 | - | - | - | - | |
| 96 | NO974 | 搔器 | Ob2 | L23-1 | V | -89344.082 | 46152.277 | 101.637 | 2.8 | 2.2 | 1.0 | 6.0 | |
| 97 | NO3420 | 石核 | Ryu | C8-1 | IV | -89191.807 | 46064.307 | 104.981 | 3.2 | 2.8 | 1.2 | 10.1 | |
| 98 | NO1039 | 細石刃 | Ryu | P30-3 | V | -89416.261 | 46194.302 | 100.505 | 2.5 | 0.8 | 0.2 | 0.4 | |
| 99 | NO1220 | 細石刃 | Ryu | N30-1 | Ⅲ | -89414.767 | 46171.542 | 100.442 | 1.4 | 1.0 | 0.2 | 0.5 | 両端部無し |
| 100 | NO1227 | 細石刃 | Ryu | N30-3 | Ⅲ | -89416.170 | 46174.957 | 100.499 | 2.3 | 0.6 | 0.2 | 0.3 | |
| 101 | NO4797 | 細石刃 | Ryu | C9-3 | V | -89208.147 | 46064.393 | 104.540 | 1.3 | 0.6 | 0.2 | 0.2 | |
| 102 | NO1741 | 細石刃 | Ob1 | E11-1 | Ⅲ | -89222.172 | 46085.000 | 104.583 | 0.9 | 0.4 | 0.1 | 0.1 | |
| 103 | NO1800 | 細石刃 | Ob1 | F11-2 | Ⅲ | -89221.622 | 46098.482 | 104.609 | 1.1 | 0.4 | 0.1 | 0.1 | |
| 104 | NO1474 | 細石刃 | Ob1 | G11-3 | Ⅲ | -89226.093 | 46101.899 | 104.551 | 0.8 | 0.6 | 0.2 | 0.1 | 頭部のみ |

第10表 中ノ迫第2遺跡石器観察表 (3)

| 報告書 番号 | 注記No. 及び 接合No. | 器種 | 石材 | 出土 地点 | 層 | X 座 標 | Y 座 標 | Z 座 標 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 備 考 |
|-----------|----------------------|------|-----|----------|---|------------|-----------|---------|------|------|------|--------|---------|
| 105 | NO1802 | 細石刃 | Ob1 | F11-2 | Ⅲ | -89222.674 | 46098.569 | 104.608 | 0.5 | 0.4 | 0.1 | 0.1 | 頭部のみ |
| 106 | NO1925 | 細石刃 | Ob1 | D8-4 | Ⅲ | -89196.229 | 46076.671 | 105.155 | 1.6 | 0.5 | 0.2 | 0.1 | |
| 107 | NO2139 | 細石刃 | Ob1 | E8-3 | Ⅲ | -89197.344 | 46084.798 | 105.059 | 0.7 | 0.4 | 0.1 | 0.1 | 頭部のみ |
| 108 | NO3273 | 細石刃 | Ob1 | D9-4 | Ⅲ | -89207.733 | 46079.058 | 104.894 | 1.2 | 0.5 | 0.2 | 0.1 | |
| 109 | NO2929 | 細石刃 | Ch1 | E9-3 | Ⅲ | -89206.500 | 46080.053 | 105.012 | 1.1 | 0.5 | 0.1 | 0.1 | |
| 110 | NO2965 | 細石刃 | Ch2 | F13-1 | Ⅲ | -89243.097 | 46092.265 | 104.254 | 0.5 | 0.7 | 0.2 | 0.1 | |
| 111 | NO2556 | 細石刃 | Ch2 | F13-1 | Ⅲ | -89242.743 | 46092.875 | 104.340 | 2.1 | 0.7 | 0.4 | 0.4 | |
| 112 | NO4105 | 細石刃核 | Ryu | C9-2 | V | -89204.344 | 46068.027 | 104.762 | 1.6 | 1.7 | 1.5 | 6.1 | |
| 113 | NO1896 | 細石刃核 | Ryu | C9-2 | Ⅲ | -89203.145 | 46066.526 | 104.979 | 2.1 | 2.5 | 1.7 | 7.7 | |
| 114 | NO4939 | 細石刃核 | Ryu | E13-4 | Ⅵ | -89248.690 | 46089.780 | 103.795 | 2.1 | 1.5 | 0.9 | 3.9 | |
| 115 | NO141 | 細石刃核 | Ob1 | M23-4 | Ⅲ | -89345.353 | 46168.657 | 102.000 | 1.0 | 1.8 | 1.1 | 1.3 | |
| 116 | NO4942 | 細石刃核 | Ob1 | F13-3 | Ⅵ | -89247.396 | 46090.496 | 103.792 | 1.6 | 0.8 | 0.8 | 1.0 | |
| 117 | NO3562 | 細石刃核 | Ob1 | E10-1 | Ⅳ | -89212.124 | 46080.060 | 104.810 | 1.7 | 1.7 | 1.5 | 3.5 | |
| 118 | NO4178 | 細石刃核 | Ob1 | F11-2 | Ⅳ | -89222.846 | 46094.940 | 104.537 | 1.5 | 1.3 | 1.0 | 1.4 | |
| 119 | NO4952 | 細石刃核 | Ob1 | F14-1 | Ⅲ | -89252.875 | 46092.672 | 104.141 | 1.4 | 1.2 | 0.8 | 1.7 | |
| 120 | NO3670 | 細石刃核 | Ob1 | F9-3 | Ⅲ | -89206.185 | 46094.176 | 104.960 | 1.1 | 0.9 | 0.7 | 0.7 | |
| 121 | NO4059 | 細石刃核 | Ch2 | C9-4 | Ⅳ | -89206.021 | 46065.592 | 104.759 | 2.1 | 4.2 | 2.2 | 17.9 | |
| 122 | NO3016 | 細石刃核 | Ch1 | E9-2 | Ⅲ | -89202.642 | 46084.606 | 105.037 | 1.7 | 1.6 | 1.4 | 3.4 | |
| 123 | NO4065 | 細石刃核 | Ch2 | C9-4 | V | -89208.026 | 46068.694 | 104.790 | 1.8 | 2.1 | 1.5 | 6.1 | |
| 124 | NO4317 | 敲石 | Sa | C9-4 | V | -89206.010 | 46069.117 | 104.649 | 10.5 | 4.0 | 3.4 | 201.4 | |
| 125 | NO4145 | 敲石 | Sa | F10-1 | Ⅵ | -89210.202 | 46093.559 | 104.399 | 14.1 | 3.4 | 3.6 | 248.9 | |
| 126 | NO4286 | 敲石 | Sa | C9-4 | V | -89207.140 | 46067.385 | 104.614 | 8.3 | 5.2 | 5.0 | 269.9 | |
| 127 | NO4150 | 敲石 | Sa | F10-4 | V | -89216.691 | 46095.641 | 104.305 | 7.3 | 3.0 | 2.9 | 87.9 | |
| 128 | NO1002 | 敲石 | Sa | N25-1 | V | -89362.111 | 46170.176 | 101.336 | 9.6 | 4.7 | 3.4 | 211.4 | |
| 129 | NO4596 | 敲石 | Sa | C9-2 | Ⅵ | -89204.921 | 46065.610 | 104.587 | 10.4 | 7.1 | 2.3 | 244.7 | |
| 130 | NO4235 | 敲石 | Sa | C9-2 | V | -89202.407 | 46065.370 | 104.624 | 7.8 | 5.1 | 2.1 | 97.2 | |
| 131 | NO4395 | 敲石 | Sa | C9-2 | V | -89203.007 | 46065.700 | 104.566 | 2.1 | 2.4 | 0.8 | 3.7 | |
| 132 | NO4587 | 敲石 | Sa | C9-1 | Ⅵ | -89203.466 | 46064.880 | 104.583 | 6.0 | 4.8 | 2.4 | 73.1 | |
| 133 | NO1030 | 敲石 | Oz | K21-3 | V | -89327.121 | 46142.399 | 101.863 | 10.5 | 7.8 | 4.6 | 568.2 | |
| 134 | NO4274 | 磨石 | Oz | C9-4 | V | -89207.782 | 46065.832 | 104.590 | 10.9 | 10.0 | 62.0 | 1015.8 | |
| 217 | NO108 | 石鏃 | Ob1 | M22-3 | Ⅲ | -89336.944 | 46163.183 | 102.178 | 1.0 | 1.0 | 0.2 | 0.1 | |
| 218 | NO4914 | 石鏃 | Ob1 | E12-2 | Ⅲ | -89232.330 | 46089.699 | 104.455 | 1.0 | 1.1 | 0.2 | 0.2 | |
| 219 | NO942 | 石鏃 | Ch2 | I16-2 | Ⅲ | -89273.164 | 46128.373 | 103.359 | 1.2 | 1.0 | 0.2 | 0.3 | |
| 220 | NO930 | 石鏃 | Ob1 | I15-3 | Ⅲ | -89269.417 | 46121.866 | 103.421 | 1.4 | 1.1 | 0.3 | 0.3 | |
| 221 | NO1 | 石鏃 | Ch2 | M23-1 | Ⅲ | -89340.334 | 46163.095 | 102.100 | 1.2 | 1.2 | 0.5 | 0.5 | |
| 222 | NO107 | 石鏃 | Ch2 | N25-3 | Ⅲ | -89366.057 | 46172.131 | 101.842 | 1.1 | 1.6 | 0.4 | 0.7 | |
| 223 | NO3305 | 石鏃 | Ch2 | F13-1 | Ⅳ | -89244.591 | 46090.339 | 104.189 | 1.7 | 1.5 | 0.2 | 0.7 | |
| 224 | NO101 | 石鏃 | Ch2 | O25-4 | Ⅲ | -89366.840 | 46184.836 | 101.743 | 1.9 | 1.7 | 0.3 | 0.6 | |
| 225 | NO200 | 石鏃 | Ch2 | N26-2 | Ⅲ | -89375.341 | 46177.393 | 101.873 | 1.9 | 1.9 | 0.5 | 1.5 | |
| 226 | NO2227 | 石鏃 | Ryu | D8-3 | Ⅲ | -89195.783 | 46071.291 | 105.076 | 1.9 | 1.9 | 0.4 | 1.2 | |
| 227 | NO1780 | 石鏃 | H2 | L29-2 | Ⅳ | -89401.067 | 46158.804 | 100.337 | 2.2 | 2.0 | 0.6 | 1.7 | 局部磨製 灰色 |

第11表 中ノ迫第2遺跡石器観察表 (4)

| 報告書 番号 | 注記No. 及び 接合No. | 器種 | 石材 | 出土 地点 | 層 | X 座 標 | Y 座 標 | Z 座 標 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 備 考 |
|-----------|----------------------|----|-----|----------|---|------------|-----------|---------|-----|-----|-----|-----|-------|
| 228 | NO2821 | 石鏃 | Ch1 | E7-3 | Ⅲ | -89185.888 | 46083.915 | 105.088 | 2.1 | 2.0 | 0.5 | 1.8 | |
| 229 | NO3838 | 石鏃 | Ch2 | F13-4 | Ⅲ | -89247.787 | 46095.280 | 104.203 | 2.2 | 1.9 | 0.7 | 2.9 | |
| 230 | NO272 | 石鏃 | Ch2 | I17-4 | Ⅲ | -89288.738 | 46128.485 | 103.195 | 1.8 | 1.7 | 0.2 | 0.5 | |
| 231 | NO2237 | 石鏃 | Ch2 | D9-1 | Ⅲ | -89201.857 | 46072.196 | 104.960 | 1.7 | 1.6 | 0.4 | 0.6 | |
| 232 | NO1156 | 石鏃 | Ch2 | L28-1 | Ⅲ | -89394.359 | 46151.589 | 100.395 | 1.5 | 1.7 | 0.3 | 0.4 | |
| 233 | NO1907 | 石鏃 | Ob3 | C9-2 | Ⅲ | -89201.167 | 46065.310 | 104.992 | 2.2 | 1.8 | 0.4 | 1.0 | |
| 234 | 表採 | 石鏃 | Ch3 | B区Ⅲ~Ⅳ | - | - | - | - | 2.2 | 1.9 | 0.3 | 1.0 | |
| 235 | NO3287 | 石鏃 | Ch1 | E13-2 | Ⅲ | -89242.420 | 46089.817 | 104.341 | 2.4 | 1.5 | 0.3 | 1.0 | |
| 236 | NO273 | 石鏃 | Ob1 | J17-4 | Ⅲ | -89285.634 | 46135.381 | 103.206 | 1.9 | 2.0 | 0.4 | 0.7 | |
| 237 | NO2436 | 石鏃 | Ob1 | D11-2 | Ⅲ | -89220.857 | 46075.604 | 104.662 | 1.4 | 1.1 | 0.3 | 0.3 | |
| 238 | NO532 | 石鏃 | Ob1 | K23-3 | Ⅲ | -89345.647 | 46142.290 | 101.751 | 1.4 | 1.2 | 0.3 | 0.3 | |
| 239 | NO557 | 石鏃 | Ch1 | M26-4 | Ⅲ | -89378.647 | 46167.231 | 101.752 | 1.5 | 1.4 | 0.2 | 0.3 | |
| 240 | NO266 | 石鏃 | H2 | I20-4 | Ⅲ | -89318.732 | 46128.346 | 102.625 | 1.6 | 1.2 | 0.2 | 0.3 | 灰色 |
| 241 | NO559 | 石鏃 | Ch2 | N26-3 | Ⅲ | -89376.066 | 46175.397 | 101.712 | 1.8 | 1.3 | 0.5 | 1.2 | |
| 242 | NO2148 | 石鏃 | Ch1 | E8-3 | Ⅲ | -89195.190 | 46081.822 | 105.097 | 1.9 | 1.7 | 0.3 | 0.5 | |
| 243 | NO4726 | 石鏃 | Ob1 | F12-1 | Ⅲ | -89232.260 | 46093.737 | 104.497 | 1.8 | 1.5 | 0.2 | 0.5 | |
| 244 | NO269 | 石鏃 | Ch2 | J18-3 | Ⅲ | -89295.456 | 46135.250 | 103.024 | 2.1 | 1.4 | 0.3 | 0.7 | |
| 245 | NO402 | 石鏃 | H2 | N26-1 | Ⅲ | -89371.872 | 46173.816 | 101.843 | 2.0 | 1.8 | 0.6 | 2.1 | 黒褐色 |
| 246 | NO187 | 石鏃 | Ch2 | O26-1 | Ⅳ | -89371.317 | 46180.301 | 101.736 | 2.1 | 1.6 | 0.6 | 1.3 | |
| 247 | カブト一括 | 石鏃 | Ch3 | D10 | - | - | - | - | 2.1 | 1.5 | 0.4 | 1.2 | |
| 248 | NO3721 | 石鏃 | H2 | D8-1 | Ⅳ | -89194.448 | 46071.609 | 105.126 | 2.3 | 1.6 | 0.3 | 0.8 | 黒褐色 |
| 249 | NO3280 | 石鏃 | H2 | E11-3 | Ⅳ | -89229.258 | 46080.471 | 104.417 | 2.3 | 1.4 | 0.3 | 0.7 | 白色 |
| 250 | NO3283 | 石鏃 | H2 | G11-1 | Ⅲ | -89223.371 | 46100.054 | 104.548 | 2.3 | 1.5 | 0.4 | 1.2 | 黄色 |
| 251 | NO3284 | 石鏃 | H2 | G11-3 | Ⅲ | -89226.222 | 46100.556 | 104.588 | 2.3 | 1.5 | 0.3 | 1.2 | 黄色 |
| 252 | NO4733 | 石鏃 | Ryu | H12-1 | Ⅲ | -89233.511 | 46111.752 | 104.396 | 2.4 | 1.7 | 0.4 | 1.1 | |
| 253 | NO186 | 石鏃 | Ch2 | O26-1 | Ⅳ | -89371.062 | 46180.666 | 101.742 | 2.4 | 2.0 | 0.4 | 1.3 | |
| 254 | NO142 | 石鏃 | Oz | M23-4 | Ⅲ | -89345.263 | 46169.787 | 101.973 | 2.6 | 2.1 | 0.4 | 1.6 | |
| 255 | NO2812 | 石鏃 | H2 | D7-1 | Ⅲ | -89181.623 | 46070.302 | 105.255 | 2.6 | 1.9 | 0.3 | 1.3 | 局部磨製? |
| 256 | NO410 | 石鏃 | Ob1 | L22-3 | Ⅲ | -89339.727 | 46151.175 | 102.086 | 1.8 | 1.5 | 0.3 | 0.4 | |
| 257 | NO1129 | 石鏃 | Ob3 | P31-4 | Ⅲ | -89429.779 | 46196.547 | 100.149 | 2.1 | 1.7 | 0.3 | 0.6 | |
| 258 | 表採 | 石鏃 | Ob3 | B区Ⅲ | - | - | - | - | 1.8 | 1.4 | 0.3 | 0.5 | |
| 259 | NO3795 | 石鏃 | Ch2 | F13-4 | Ⅲ | -89248.333 | 46098.768 | 104.239 | 2.2 | 1.6 | 0.4 | 0.9 | |
| 260 | 一括 | 石鏃 | Ch1 | D区Ⅲ~Ⅳ | - | - | - | - | 2.6 | 1.3 | 0.4 | 0.8 | |
| 261 | NO268 | 石鏃 | Ob3 | J19-2 | Ⅲ | -89302.312 | 46135.998 | 102.985 | 2.3 | 1.9 | 0.3 | 1.0 | |
| 262 | NO2509 | 石鏃 | Ch2 | E11-3 | Ⅲ | -89228.921 | 46083.576 | 104.539 | 1.9 | 1.8 | 0.5 | 1.5 | |
| 263 | NO3255 | 石鏃 | Ch2 | B8-2 | Ⅳ | -89192.214 | 46059.948 | 104.927 | 2.8 | 1.6 | 0.3 | 1.2 | |
| 264 | NO3740 | 石鏃 | Ch2 | D11-1 | Ⅲ | -89224.120 | 46072.702 | 104.484 | 2.2 | 1.6 | 0.3 | 0.7 | |
| 265 | NO3029 | 石鏃 | Ch2 | D10-1 | Ⅲ | -89211.164 | 46070.596 | 104.870 | 2.2 | 2.3 | 0.4 | 1.5 | |
| 266 | NO2393 | 石鏃 | H2 | D11-2 | Ⅲ | -89221.575 | 46079.456 | 104.683 | 2.5 | 1.8 | 0.4 | 1.2 | 暗褐色 |
| 267 | NO3013 | 石鏃 | Ch2 | C6-2 | Ⅲ | -89173.786 | 46069.017 | 105.324 | 2.7 | 1.7 | 0.3 | 0.9 | |
| 268 | NO1718 | 石鏃 | Ch2 | F10-2 | Ⅲ | -89212.465 | 46095.937 | 104.809 | 2.5 | 2.1 | 0.4 | 1.5 | |

第12表 中ノ迫第2遺跡石器観察表 (5)

| 報告書 番号 | 注記No. 及び 接合No. | 器種 | 石材 | 出土 地点 | 層 | X 座 標 | Y 座 標 | Z 座 標 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 備 考 |
|-----------|----------------------|---------|-----|----------|---|------------|-----------|---------|------|-----|-----|-------|-------------------|
| 269 | NO3074 | 石鏃 | Ch1 | D7-3 | Ⅲ | -89189.737 | 46070.844 | 105.217 | 2.7 | 1.7 | 0.3 | 1.1 | |
| 270 | NO3177 | 石鏃 | Ch1 | C9-1 | Ⅳ | -89200.369 | 46060.901 | 104.888 | 2.8 | 2.4 | 0.4 | 1.4 | |
| 271 | NO504 | 石鏃 | Ch1 | M27-1 | Ⅲ | -89382.445 | 46164.317 | 101.537 | 2.9 | 2.1 | 0.3 | 1.5 | |
| 272 | カヲ | 石鏃 | Ch3 | E10-1 | - | - | - | - | 2.9 | 1.8 | 0.4 | 1.4 | |
| 273 | NO267 | 石鏃 | Ob3 | J19-4 | Ⅲ | -89309.435 | 46135.905 | 102.815 | 3.3 | 2.2 | 0.4 | 2.0 | |
| 274 | NO552 | 石鏃 | Ob3 | H18-3 | Ⅲ | -89299.023 | 46112.228 | 102.861 | 3.4 | 2.0 | 0.5 | 1.7 | |
| 275 | NO383 | 石鏃 | Ryu | I20-4 | Ⅲ | -89316.976 | 46128.040 | 102.607 | 3.4 | 1.9 | 0.4 | 1.4 | |
| 276 | NO511 | 石鏃 | Ch1 | N26-2 | Ⅲ | -89371.336 | 46176.787 | 101.821 | 1.2 | 1.6 | 0.2 | 0.3 | |
| 277 | NO2323 | 石鏃 | Ch1 | D8-4 | Ⅲ | -89196.632 | 46077.056 | 105.104 | 1.4 | 1.2 | 0.4 | 0.1 | |
| 278 | NO2977 | 石鏃 | H2 | F13-1 | Ⅲ | -89243.881 | 46092.363 | 104.247 | 1.5 | 1.3 | 0.3 | 0.4 | 灰色 |
| 279 | NO3315 | 石鏃 | Ch2 | F13-4 | Ⅲ | -89245.838 | 46098.718 | 104.299 | 1.7 | 1.6 | 0.4 | 0.6 | |
| 280 | NO1821 | 石鏃 | Ch1 | E9-2 | Ⅲ | -89204.601 | 46087.034 | 104.995 | 1.8 | 1.7 | 0.3 | 0.4 | |
| 281 | NO4943 | 石鏃 | Ch2 | E12-2 | Ⅳ | -89250.659 | 46088.936 | 104.100 | 1.9 | 1.9 | 0.3 | 0.9 | |
| 282 | NO3965 | 石鏃 | Ch4 | G11-4 | Ⅲ | -89228.068 | 46108.409 | 104.470 | 2.2 | 1.1 | 0.3 | 0.7 | |
| 283 | NO292 | 石鏃 | Sn | I18-4 | Ⅲ | -89296.930 | 46125.349 | 102.813 | 2.6 | 1.4 | 0.3 | 1.3 | |
| 284 | NO361 | 石鏃 | Ryu | H14-1 | Ⅲ | -89251.123 | 46114.907 | 103.920 | 2.8 | 1.6 | 0.4 | 1.5 | |
| 285 | NO3791 | 石鏃 | Ob3 | G13-1 | Ⅲ | -89243.082 | 46103.398 | 104.365 | 2.5 | 1.6 | 0.4 | 0.7 | |
| 286 | NO1909 | 石鏃 | H2 | C8-4 | Ⅲ | -89198.110 | 46067.408 | 105.121 | 2.2 | 1.8 | 0.4 | 1.0 | 灰色 |
| 287 | NO4518 | 石鏃 | H2 | C9-1 | Ⅴ | -89203.595 | 46063.308 | 104.575 | 2.3 | 1.6 | 0.4 | 1.3 | 灰色 |
| 288 | NO4056 | 石鏃 | Ch1 | C9-4 | Ⅳ | -89207.471 | 46066.512 | 104.833 | 2.3 | 2.1 | 0.8 | 3.6 | |
| 289 | NO2235 | 石鏃 | Ch1 | D9-1 | Ⅲ | -89201.786 | 46072.841 | 104.983 | 2.1 | 1.9 | 0.7 | 2.3 | |
| 290 | NO3792 | 石鏃 | Ch2 | G13-3 | Ⅲ | -89246.473 | 46100.592 | 104.234 | 2.9 | 2.4 | 0.6 | 3.9 | |
| 291 | NO2811 | 石鏃 | Ch2 | D7-1 | Ⅳ | -89181.094 | 46070.190 | 105.236 | 3.9 | 2.7 | 0.6 | 7.3 | |
| 292 | NO849 | 石鏃 | Ch2 | M22-3 | Ⅲ | -89337.221 | 46161.506 | 102.080 | 1.5 | 0.9 | 0.4 | 0.4 | 一部のみ |
| 293 | NO1807 | 石鏃 | Ch2 | E9-2 | Ⅲ | -89203.678 | 46087.922 | 105.033 | 1.2 | 0.8 | 0.3 | 0.3 | 一部のみ |
| 294 | NO2491 | 石鏃 | H2 | D11-1 | Ⅲ | -89224.916 | 46074.238 | 104.543 | 1.4 | 0.9 | 0.3 | 0.3 | 一部のみ 灰色 |
| 295 | NO4740 | 石鏃 | Ob1 | G11-4 | Ⅳ | -89226.218 | 46106.562 | 104.336 | 1.1 | 0.9 | 0.3 | 0.2 | 一部のみ |
| 296 | NO3495 | 石鏃 | Ch2 | G11-4 | Ⅲ | -89225.998 | 46105.670 | 104.481 | 1.5 | 0.9 | 0.3 | 0.4 | 一部のみ |
| 297 | NO3658 | 石鏃 | Ryu | D8-4 | Ⅳ | -89197.589 | 46078.224 | 105.093 | 1.6 | 1.2 | 0.3 | 0.4 | 一部のみ |
| 298 | NO3789 | 石鏃 | Sh | G12-3 | Ⅲ | -89239.975 | 46103.536 | 104.299 | 1.7 | 1.4 | 0.4 | 0.7 | 局部磨製 |
| 299 | NO72 | 石鏃(未製品) | Ch1 | N25-3 | Ⅲ | -89367.005 | 46172.193 | 101.888 | 1.4 | 1.1 | 0.4 | 0.4 | |
| 300 | NO87 | 石鏃(未製品) | Ch2 | N25-2 | Ⅲ | -89362.419 | 46176.511 | 101.900 | 2.3 | 1.9 | 1.1 | 3.4 | |
| 301 | NO2152 | 石鏃(未製品) | H2 | D8-4 | Ⅲ | -89196.806 | 46078.813 | 105.080 | 3.4 | 2.3 | 1.0 | 6.4 | 灰色 |
| 302 | NO1846 | 石鏃(未製品) | H2 | D9-4 | Ⅲ | -89205.017 | 46077.472 | 104.954 | 2.6 | 2.1 | 0.8 | 3.5 | 黒褐色 |
| 303 | NO2499 | 石鏃(未製品) | Ch2 | D11-4 | Ⅲ | -89228.773 | 46078.450 | 104.546 | 2.6 | 2.1 | 1.0 | 4.2 | |
| 304 | NO39 | 石鏃(未製品) | Ch1 | L23-2 | Ⅲ | -89341.712 | 46156.261 | 102.133 | 4.0 | 3.2 | 0.9 | 8.3 | |
| 305 | NO2195 | 石鏃(未製品) | H2 | D8-1 | Ⅲ | -89191.837 | 46074.756 | 105.130 | 2.7 | 2.4 | 0.6 | 3.0 | 灰色 |
| 306 | NO3395 | 石鏃(未製品) | Ch2 | C7-2 | Ⅲ | -89183.297 | 46068.240 | 105.102 | 3.1 | 2.4 | 1.0 | 5.9 | |
| 307 | NO4490 | 石鏃(未製品) | H2 | C9-1 | Ⅳ | -89203.695 | 46063.343 | 104.695 | 3.2 | 2.1 | 0.7 | 4.2 | 灰色 |
| 308 | NO1417 | 石斧 | H1 | U36-3 | Ⅲ | -89478.762 | 46242.668 | 98.902 | 11.4 | 5.0 | 1.9 | 133.9 | 打製 基部に抉りを設けている |
| 309 | NO1040 | 石斧 | H1 | P30-4 | Ⅳ | -89417.183 | 46195.504 | 100.494 | 10.1 | 5.0 | 2.6 | 141.3 | 打製 |

第13表 中ノ迫第2遺跡石器観察表 (6)

| 報告書 番号 | 注記No. 及び 接合No. | 器種 | 石材 | 出土 地点 | 層 | X 座 標 | Y 座 標 | Z 座 標 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 備 考 |
|-----------|----------------------|----|-----|----------|---|------------|-----------|---------|------|------|-----|--------|------------|
| 310 | NO3576 | 石斧 | H2 | C9-4 | Ⅳ | -89206.508 | 46068.915 | 104.932 | 6.8 | 4.1 | 1.8 | 56.0 | 打製 灰色 |
| 311 | NO1021 | 石斧 | H1 | M23-1 | Ⅲ | -89340.935 | 46161.420 | 102.025 | 17.3 | 8.7 | 3.3 | 505.0 | 打製 Sl2から出土 |
| 312 | NO2199 | 石斧 | H2 | D8-1 | Ⅲ | -89194.757 | 46073.752 | 105.119 | 11.6 | 7.5 | 3.8 | 412.9 | 打製 灰色 |
| 313 | NO227 | 石斧 | H2 | O26-1 | Ⅲ | -89370.702 | 46180.598 | 101.753 | 11.2 | 7.5 | 2.6 | 241.9 | 打製 灰色 |
| 314 | NO1509 | 石斧 | H2 | G12-3 | Ⅲ | -89235.390 | 46101.314 | 104.387 | 7.7 | 4.1 | 1.6 | 71.1 | 磨製 黄色 |
| 315 | NO2211 | 石斧 | H1 | D8-1 | Ⅲ | -89193.895 | 46070.554 | 105.094 | 13.3 | 4.5 | 2.1 | 182.0 | 局部磨製 |
| 316 | NO2249 | 石錐 | Ch1 | D9-1 | Ⅳ | -89203.168 | 46070.653 | 104.937 | 4.0 | 3.4 | 1.1 | 10.6 | |
| 317 | NO2289 | 石錐 | Ch2 | C8-4 | Ⅲ | -89198.643 | 46066.616 | 105.049 | 2.2 | 1.9 | 0.8 | 2.8 | |
| 318 | NO3820 | 石錐 | Ryu | D7-2 | Ⅳ | -89180.854 | 46077.561 | 105.185 | 3.2 | 1.0 | 0.7 | 2.3 | |
| 319 | NO242 | 石錐 | Ob1 | L24-1 | Ⅲ | -89354.466 | 46150.466 | 101.728 | 2.4 | 1.0 | 0.6 | 1.3 | |
| 320 | NO2252 | 石匙 | H2 | C9-1 | Ⅲ | -89202.021 | 46064.987 | 104.998 | 4.3 | 2.4 | 0.9 | 9.3 | 縦長 黄色 |
| 321 | NO4081 | 石匙 | H2 | D9-1 | Ⅴ | -89204.481 | 46072.308 | 104.672 | 4.2 | 3.6 | 1.0 | 9.5 | 縦長 灰色 |
| 322 | NO1233 | 石匙 | Ryu | M30-2 | Ⅲ | -89412.947 | 46169.054 | 100.355 | 4.6 | 2.7 | 1.1 | 10.5 | 縦長 |
| 323 | NO118 | 石匙 | Ob1 | L24-2 | Ⅲ | -89351.777 | 46155.352 | 101.977 | 2.6 | 2.9 | 0.6 | 1.9 | 横長 |
| 324 | NO97 | 石核 | Ch2 | O25-3 | Ⅲ | -89369.621 | 46180.937 | 101.825 | 1.6 | 2.7 | 1.8 | 7.1 | |
| 325 | NO1937 | 石核 | Ryu | D8-3 | Ⅲ | -89198.113 | 46072.489 | 105.133 | 2.9 | 3.9 | 1.2 | 13.4 | |
| 326 | 接合89 | 敲石 | - | - | - | - | - | - | 12.8 | 6.1 | 4.0 | 443.7 | 赤化部分あり |
| - | NO1213 | - | Sa | M30-2 | Ⅲ | -89410.375 | 46165.473 | 100.307 | - | - | - | - | |
| - | NO1782 | - | Sa | M29-1 | Ⅳ | -89401.217 | 46160.652 | 100.458 | - | - | - | - | |
| 327 | NO1171 | 敲石 | Sa | T34-3 | Ⅳ | -89458.421 | 46231.385 | 99.593 | 5.8 | 6.2 | 4.6 | 205.5 | |
| 328 | NO1774 | 敲石 | Sa | L28-4 | Ⅲ | -89397.758 | 46157.174 | 100.469 | 8.4 | 6.3 | 3.2 | 242.6 | |
| 329 | NO2207 | 敲石 | Sa | D8-1 | Ⅲ | -89191.125 | 46072.955 | 105.123 | 4.8 | 4.4 | 3.5 | 87.7 | |
| 330 | NO3778 | 敲石 | H2 | E9-2 | Ⅳ | -89201.074 | 46085.818 | 104.675 | 2.8 | 2.2 | 0.9 | 3.5 | |
| 331 | NO1148 | 敲石 | Sh | M29-4 | Ⅲ | -89409.223 | 46168.073 | 100.405 | 9.8 | 3.6 | 2.0 | 108.2 | |
| 332 | NO3693 | 敲石 | Oz | C9-1 | Ⅲ | -89204.476 | 46063.685 | 104.974 | 8.2 | 7.9 | 5.0 | 448.2 | |
| 333 | NO1052 | 磨石 | Sa | U36-4 | Ⅳ | -89478.871 | 46246.530 | 99.229 | 14.1 | 10.0 | 3.1 | 639.6 | |
| 334 | NO1425 | 磨石 | Oz | G12-1 | Ⅲ | -89231.526 | 46102.022 | 104.439 | 11.7 | 9.5 | 4.5 | 749.8 | |
| 335 | NO1212 | 磨石 | Oz | M30-1 | Ⅲ | -89411.553 | 46163.359 | 100.206 | 8.6 | 5.0 | 3.6 | 214.4 | |
| 336 | NO2999 | 磨石 | Oz | G12-3 | Ⅲ | -89238.017 | 46103.444 | 104.263 | 9.5 | 8.8 | 6.3 | 797.5 | |
| 337 | NO3692 | 磨石 | Oz | C9-1 | Ⅳ | -89203.056 | 46064.374 | 105.009 | 8.9 | 7.5 | 5.0 | 468.3 | |
| 338 | NO2993 | 磨石 | Oz | E10-1 | Ⅲ | -89237.586 | 46080.712 | 104.132 | 8.1 | 4.3 | 4.5 | 205.7 | |
| 339 | NO1794 | 砥石 | Oz | N30-3 | Ⅳ | -89417.424 | 46172.700 | 100.237 | 11.2 | 10.0 | 1.7 | 373.3 | |
| 340 | NO1141 | 砥石 | Oz | N31-1 | Ⅲ | -89422.121 | 46174.050 | 100.130 | 10.3 | 9.4 | 3.3 | 538.7 | |
| 341 | 接合91 | 砥石 | - | - | - | - | - | - | 12.1 | 8.0 | 2.7 | 387.7 | |
| - | NO1219 | - | Oz | N30-3 | Ⅳ | -89415.923 | 46171.581 | 100.297 | - | - | - | - | |
| - | NO1221 | - | Oz | N30-1 | Ⅲ | -89414.174 | 46172.020 | 100.411 | - | - | - | - | |
| - | NO1224 | - | Oz | N30-1 | Ⅲ | -89415.026 | 46172.486 | 100.389 | - | - | - | - | |
| 342 | NO1144 | 砥石 | H2 | N30-3 | Ⅲ | -89419.576 | 46173.883 | 100.166 | 8.6 | 8.6 | 2.5 | 267.5 | |
| 343 | NO3001 | 台石 | Oz | G12-2 | Ⅲ | -89231.731 | 46105.555 | 104.414 | 24.3 | 20.1 | 9.0 | 7000.0 | |
| 344 | NO4856 | 台石 | Oz | C10-4 | Ⅲ | -89215.209 | 46069.001 | 104.717 | 26.6 | 23.3 | 5.0 | 4200.0 | |
| 345 | NO4857 | 台石 | Oz | D10-2 | Ⅳ | -89215.342 | 46071.153 | 104.744 | 28.0 | 20.2 | 5.8 | 3800.0 | |

第14表 中ノ迫第2遺跡石器観察表 (7)

| 報告書 番号 | 注記No. 及び 接合No. | 器種 | 石材 | 出土 地点 | 層 | X 座 標 | Y 座 標 | Z 座 標 | 長さ | 幅 | 厚さ | 重量 | 備 考 |
|-----------|----------------------|-----|----|----------|----|-------|-------|-------|------|------|-----|--------|---------------|
| 接合資料7 | 接合90 | - | - | - | - | - | - | - | 12.1 | 9.7 | 1.6 | 200.1 | |
| 353 | SA1-1 | 砥石 | Sh | SA1-1 | II | - | - | - | 12.1 | 7.1 | 1.5 | 171.6 | 接合資料7 擦り切り跡あり |
| 354 | SA1-4 | 砥石 | Sh | SA1-4 | II | - | - | - | 5.8 | 4.3 | 1.3 | 28.5 | 接合資料7 擦り切り跡あり |
| 355 | SA1-2 | 石庖丁 | H1 | SA1 | II | - | - | - | 3.8 | 6.6 | 0.7 | 22.7 | 短辺に挟りあり |
| 356 | SA1-3 | 敲石 | Oz | SA1-3 | II | - | - | - | 9.1 | 6.4 | 4.8 | 328.8 | |
| 357 | 一括 | 磨石 | Oz | SA1-1 | II | - | - | - | 11.0 | 9.4 | 5.6 | 877.1 | |
| 358 | (1-6) | 台石 | Oz | SA1 | II | - | - | - | 21.2 | 12.2 | 4.0 | 1500.0 | |
| 384 | 一括 | 石庖丁 | H2 | SA2-2 | II | - | - | - | 3.6 | 6.2 | 0.6 | 19.0 | 短辺に挟りあり 灰色 |

第15表 中ノ迫第2遺跡石器観察表 (8)

| 報告書 番号 | 種 別 | 器種 | 部 位 | 出土地点 | | | 法量 (cm) | | 調 整 | | 土器 分類 | 色 調 | | 胎 土 | 備 考 |
|-----------|----------|----|-----|----------|------------------------|----|---------|----|--------|--------|----------|--------|--------|--|------------------|
| | | | | 区・層 | グリッド・遺構 | 口径 | 口径 | 口径 | 器高 | 外面 | | 内面 | 外面 | | |
| 135 | 縄文 土器 | | 口縁部 | AⅢ | F13-1 | - | - | - | 格子目押型文 | 格子目押型文 | IA | にぶい黄褐色 | にぶい黄褐色 | 4mm以下の赤褐色粒 2mm以下の黒色角形光沢粒、灰白色粒 | 口縁部に刻み目 |
| 136 | 縄文 土器 | | 口縁部 | AⅢ | G12-2 | - | - | - | 格子目押型文 | 格子目押型文 | IA | にぶい黄褐色 | にぶい黄褐色 | 3mm以下の赤褐色粒 2mm以下の灰白色粒 1.5mm以下の黒色角形光沢粒 | 口縁部に刻み目 補修孔あり |
| 137 | 縄文 土器 | | 口縁部 | BⅢ | J21-2 | - | - | - | 格子目押型文 | 格子目押型文 | IA | にぶい黄褐色 | にぶい黄褐色 | 2mm以下の黒色角形光沢粒、灰白色粒 | 口縁部に刻み目 |
| 138 | 縄文 土器 | | 胴部 | AⅢ | F13-1 | - | - | - | 格子目押型文 | ナテ | IA | にぶい黄褐色 | にぶい黄褐色 | 4mm以下の黄灰褐色粒 2mm以下の黒色角形光沢粒 1.5mm以下の褐灰色、灰白色粒 | |
| 139 | 縄文 土器 | | 胴部 | AⅢ | F13-2 | - | - | - | 格子目押型文 | 格子目押型文 | IA | にぶい褐色 | 灰黄褐色 | 5mm以下の黄灰色粒 2mm以下の黒色角形光沢粒 1mm以下の赤褐色、灰白色粒 | |
| 140 | 縄文 土器 | | 胴部 | AⅢ | F13-3 | - | - | - | 格子目押型文 | 格子目押型文 | IA | にぶい黄褐色 | にぶい黄褐色 | 2mm以下の黒色角形光沢粒、灰白色粒 1mm以下の赤褐色粒 | |
| 141 | 縄文 土器 | | 胴部 | AⅢ | E12-4 | - | - | - | 格子目押型文 | 格子目押型文 | IA | にぶい黄褐色 | にぶい黄褐色 | 2mm以下の赤褐色粒 1.5mm以下の灰白色粒 微細な黒色光沢粒 | |
| 142 | 縄文 土器 | | 胴部 | BⅢ | H13-3 | - | - | - | 格子目押型文 | 格子目押型文 | IA | にぶい黄褐色 | にぶい黄褐色 | 4mm以下の黒色粒 2mm以下の黒色角形光沢粒 1.5mm以下の赤褐色粒 1mm以下の灰白色粒 | |
| 143 | 縄文 土器 | | 胴部 | AⅢ AⅣ | E13-4 F12-3 | - | - | - | 格子目押型文 | 格子目押型文 | IA | にぶい黄褐色 | にぶい黄褐色 | 3mm以下の黒色角形光沢粒 2mm以下の灰白色粒 1mm以下の褐灰色粒 | |
| 144 | 縄文 土器 | | 口縁部 | AⅢ | D11-1 | - | - | - | 山形押型文 | 山形押型文 | IBa | 褐色 | 褐色 | 1mm以下のにぶい褐色粒 微細な透明光沢粒 | 内面口縁部付近にも山形押型文 |
| 145 | 縄文 土器 | | 胴部 | AⅢ | S116 E12-1 | - | - | - | 山形押型文 | ナテ | IBa | にぶい赤褐色 | にぶい赤褐色 | 1.5mm以下の乳白色粒 微細な透明光沢粒、灰白色粒 | 補修孔あり |
| 146 | 縄文 土器 | | 胴部 | AⅢ | D11-1,2 | - | - | - | 山形押型文 | ナテ | IBa | 暗褐色 | 褐色 | 2mm以下明黄褐色粒 1mm以下の褐灰色粒 微細な透明光沢粒 | |
| 147 | 縄文 土器 | | 胴部 | AⅢ | E11-2 | - | - | - | 山形押型文 | ナテ | IBa | 褐色 | 暗褐色 | 3mm以下の明褐灰色粒 2mmの白色粒 2mm以下の暗褐色粒 微細な透明光沢粒 | |
| 148 | 縄文 土器 | | 胴部 | AⅢ AⅣ | D11-2 E9-3 F12-3 | - | - | - | 山形押型文 | ナテ | IBa | にぶい赤褐色 | 赤褐色 | 2mm以下のにぶい褐色粒 1mm以下の明褐色粒 微細な透明光沢粒 | |
| 149 | 縄文 土器 | | 胴部 | AⅢ | E12-2,4 | - | - | - | 山形押型文 | ナテ | IBa | 明赤褐色 | にぶい赤褐色 | 2mm以下のにぶい赤褐色粒 0.5mm以下のにぶい褐色粒 微細な透明光沢粒 | |
| 150 | 縄文 土器 | | 胴部 | AⅣ | E12-4 | - | - | - | 山形押型文 | ナテ | IBa | 褐色 | 褐色 | 2mm以下の黒褐色粒 1mm以下の灰白色、褐色粒 微細な透明光沢粒 | 内面一部に山形押型文 |
| 151 | 縄文 土器 | | 胴部 | AⅣ | C10-4 | - | - | - | 山形押型文 | ナテ | IBa | 明赤褐色 | にぶい褐色 | 1mm以下の灰白色粒 微細な透明光沢粒 | |
| 152 | 縄文 土器 | | 口縁部 | AⅢ | E11-4 | - | - | - | 山形押型文 | ナテ | IBa | 褐色 | 褐色 | 1.5mm以下のにぶい褐色粒 1mm以下の褐灰色粒 微細な透明光沢粒 | |
| 153 | 縄文 土器 | | 胴部 | AⅢ AⅣ | D11-2 | - | - | - | 山形押型文 | ナテ | IBa | 褐色 | 褐色 | 3mm以下のにぶい黄褐色粒 2mm以下の褐灰色粒 微細な黒色光沢粒 | |
| 154 | 縄文 土器 | | 口縁部 | BⅢ | M24-2 | - | - | - | 山形押型文 | 山形押型文 | IBb | にぶい黄褐色 | にぶい黄褐色 | 3mm以下の灰白色粒 2.5mm以下の灰色粒 | |
| 155 | 縄文 土器 | | 口縁部 | BⅢ | N25-4 | - | - | - | 山形押型文 | 山形押型文 | IBb | 灰黄褐色 | 灰黄褐色 | 5mm以下の褐灰色粒 微細な透明光沢粒、黒色光沢粒 | |
| 156 | 縄文 土器 | | 口縁部 | BⅢ | M23-4 | - | - | - | 山形押型文 | 山形押型文 | IBb | にぶい黄褐色 | にぶい黄褐色 | 2mm以下の灰白色粒 1.5mm以下の灰色粒 | |
| 157 | 縄文 土器 | | 口縁部 | BⅢ | L23-4 | - | - | - | 山形押型文 | ナテ | IBb | にぶい黄褐色 | にぶい黄褐色 | 3mm以下の褐灰色粒 2.5mm以下の灰白色粒 1.5mm以下のにぶい褐色粒 微細な透明光沢粒 | 内面口縁部付近にも山形押型文 |

第16表 中ノ迫第2遺跡土器観察表 (1)

| 報告書 番号 | 種別 | 器種 | 部位 | 出土地点 | | | 法量 (cm) | | 調整 | | 土器 分類 | 色調 | | 胎土 | 備考 |
|-----------|----------|----|-----|----------|----------------|----|---------|----|-------|--------|----------|--------------------|------------|--|----------------|
| | | | | 区・層 | グリッド・遺構 | 口径 | 座径 | 器高 | 外面 | 内面 | | 外面 | 内面 | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| 158 | 縄文 土器 | | 胴部 | BⅢ | K21-1 | - | - | - | 山形押型文 | ナテ | IBb | にぶい 橙色 | にぶい 橙色 | 2.5mm以下の灰白色、淡橙色粒 2mm以下の赤褐色粒 | |
| 159 | 縄文 土器 | | 胴部 | BⅢ | L23-4 | - | - | - | 山形押型文 | ナテ | IBb | にぶい 褐色 | にぶい 褐色 | 3mm以下の赤褐色粒 2.5mm以下の灰黄褐色粒 2mm以下の灰白色粒 | |
| 160 | 縄文 土器 | | 口縁部 | BⅢ | L23-4 | - | - | - | 山形押型文 | ナテ | IBb | にぶい 橙色 | にぶい 黄褐色 | 5mm以下の灰白色粒 1mm以下の赤褐色粒 | 内面口縁部付近にも山形押型文 |
| 161 | 縄文 土器 | | 胴部 | BⅢ | L23-4 | - | - | - | 山形押型文 | ナテ | IBb | にぶい 橙色 | にぶい 褐色 | 4mm以下の灰白色粒 1.5mm以下のにぶい赤褐色粒 | 内面一部に山形押型文 |
| 162 | 縄文 土器 | | 胴部 | BⅢ | L23-4 | - | - | - | 山形押型文 | ナテ | IBb | にぶい 橙色 | にぶい 褐色 | 4mm以下の黒褐色粒 2mm以下のにぶい黄褐色粒 1.5mm以下の灰白色粒 | |
| 163 | 縄文 土器 | | 胴部 | AⅢ | C7-4 | - | - | - | 楕円押型文 | ナテ | ICa | 黄褐色 赤褐色 | 赤褐色 | 3mmの灰白色粒 2mm以下の黄灰色粒 微細な透明光沢粒、褐色粒 | ベルト状施文 |
| 164 | 縄文 土器 | | 胴部 | AⅢ | F14-1 | - | - | - | 楕円押型文 | ナテ | ICa | 暗褐色 | にぶい 赤褐色 | 微細な橙色、明褐色、透明粒 | |
| 165 | 縄文 土器 | | 口縁部 | AⅣ | F14-1 | - | - | - | 楕円押型文 | ナテ | ICa | 暗褐色 | にぶい 赤褐色 | 微細な透明光沢粒、明褐色、 にぶい 褐色粒 | |
| 166 | 縄文 土器 | | 胴部 | AⅢ | E12-2 | - | - | - | 楕円押型文 | ナテ | ICa | にぶい 黄褐色 明赤褐色 | 明赤褐色 | 4.5mmの灰白色粒 4mm以下のにぶい黄褐色粒、 微細な光沢粒、浅黄褐色、 相灰色粒 | |
| 167 | 縄文 土器 | | 口縁部 | AⅢ | F13-2 H12-3 | - | - | - | 楕円押型文 | ナテ | ICa | 褐色 | 褐色 | 3mm以下の褐色粒 1mm以下の相灰色粒 微細な光沢粒 | 内面口縁部付近にも楕円押型文 |
| 168 | 縄文 土器 | | 胴部 | AⅣ | D11-4 | - | - | - | 楕円押型文 | 横方向のナテ | ICa | 暗褐色 | 赤褐色 | 3mm以下の褐色粒 微細な透明光沢粒、明赤褐色粒 | |
| 169 | 縄文 土器 | | 胴部 | AⅢ | C10-2 | - | - | - | 楕円押型文 | ナテ | ICa | 褐色 | 赤褐色 | 2mm以下の明赤褐色粒 微細な光沢粒 | |
| 170 | 縄文 土器 | | 胴部 | AⅢ | C7-4 | - | - | - | 楕円押型文 | ナテ | ICa | 褐色 | 褐色 | 2mm以下の黄灰色、明黄褐色、褐色粒 微細な光沢粒 | |
| 171 | 縄文 土器 | | 胴部 | AⅢ AⅣ | C7-2 C8-4 | - | - | - | 楕円押型文 | 横方向のナテ | ICa | にぶい 赤褐色 | にぶい 赤褐色 | 1mm以下の淡黄色、暗褐色、乳白色粒 | 無文帯あり |
| 172 | 縄文 土器 | | 胴部 | AⅢ AⅣ | C9-2 E9-7 | - | - | - | 楕円押型文 | ナテ | ICa | 褐色 | 明赤褐色 | 3mm以下の褐色粒 2mm以下の相灰色粒 | |
| 173 | 縄文 土器 | | 胴部 | AⅢ | D11-4 | - | - | - | 楕円押型文 | ナテ | ICa | にぶい 赤褐色 | 明赤褐色 | 1mm以下の乳白色、明褐色粒 光る灰色粒 | 内面一部に楕円押型文 |
| 174 | 縄文 土器 | | 胴部 | BⅢ | I15-1 | - | - | - | 楕円押型文 | ナテ | ICb | にぶい 赤褐色 | にぶい 赤褐色 | 2mm以下の相灰色粒 1mm以下の灰白色粒 微細な透明光沢粒 | |
| 175 | 縄文 土器 | | 胴部 | BⅢ | I15-3 | - | - | - | 楕円押型文 | ナテ | ICb | にぶい 赤褐色 | 褐色 | 4mm以下の暗褐色粒 3mm以下の黒褐色粒 2mm以下の浅黄褐色粒 微細な透明の光沢粒 | |
| 176 | 縄文 土器 | | 胴部 | BⅢ | I15-1 | - | - | - | 楕円押型文 | ナテ | ICb | 褐色 | 褐色 | 6mm以下の赤褐色粒 微細な浅黄褐色、黒褐色、光沢粒 | |
| 177 | 縄文 土器 | | 底部 | BⅢ | I15-1 | - | - | - | 楕円押型文 | 剥離している | ICb | 褐色 | 明赤褐色 | 4mmの灰白色粒 2mm以下の浅黄褐色、明褐色粒 微細な光沢粒、褐色、相灰色粒 | |
| 178 | 縄文 土器 | | 口縁部 | CⅢ CⅣ | U36-1,2 | - | - | - | 貝殻条痕文 | ナテ | IIA | 浅黄色 | 浅黄色 | 1.5mm以下のにぶい赤褐色粒 1mm以下の灰白色粒 微細な透明光沢粒 | |
| 179 | 縄文 土器 | | 口縁部 | CⅣ | U36-1 | - | - | - | 貝殻条痕文 | ナテ | IIA | にぶい 黄褐色 | にぶい 黄褐色 | 2mm以下の灰白色、にぶい黄褐色粒 | |
| 180 | 縄文 土器 | | 口縁部 | CⅣ | T35-3 | - | - | - | 貝殻条痕文 | 横方向のナテ | IIA | にぶい 黄褐色 | 浅黄褐色 | 3mm以下の灰白色、浅黄褐色、相灰色粒、 微細な光沢粒 | |
| 181 | 縄文 土器 | | 口縁部 | CⅣ | S33-3 | - | - | - | 貝殻条痕文 | ナテ | IIA | にぶい 黄褐色 | 浅黄褐色 | 1mm以下の浅黄褐色、灰白色粒 微細な黒色光沢粒 | |
| 182 | 縄文 土器 | | 口縁部 | DⅣ | N31-4 | - | - | - | 貝殻条痕文 | ナテ | IIA | にぶい 褐色 | にぶい 黄褐色 | 3mm以下の浅黄褐色粒 2mm以下の灰白色粒 微細な透明光沢粒 | 補修孔あり |
| 183 | 縄文 土器 | | 胴部 | DⅢ | I15-3 I16-1 | - | - | - | 貝殻条痕文 | ナテ | IIA | にぶい 黄褐色 | にぶい 赤褐色 | 1mm以下の乳白色粒 | |
| 184 | 縄文 土器 | | 口縁部 | CⅣ | U36-4 | - | - | - | 貝殻条痕文 | ナテ | IIA | にぶい 黄褐色 | にぶい 黄褐色 | 1.5mm以下の黄灰色、灰黄褐色粒 微細な透明光沢粒 | 補修孔あり |
| 185 | 縄文 土器 | | 口縁部 | CⅢ | S35-2 | - | - | - | 貝殻条痕文 | ナテ | IIA | 浅黄色 | 浅黄色 | 1mm以下の灰白色粒 微細な黒色光沢粒 | |
| 186 | 縄文 土器 | | 口縁部 | DⅢ | M29-1 | - | - | - | 貝殻条痕文 | ナテ | IIA | にぶい 黄褐色 | にぶい 黄褐色 | 3mm以下の浅黄褐色粒 | |
| 187 | 縄文 土器 | | 口縁部 | CⅣ | P31-1 | - | - | - | 貝殻条痕文 | 剥離している | IIA | にぶい 黄褐色 | 明黄褐色 | 3mm以下の灰白色、相灰色粒 微細な光沢粒 | |
| 188 | 縄文 土器 | | 口縁部 | DⅣ | N30-3 | - | - | - | 貝殻条痕文 | ナテ | IIA | 褐色 | にぶい 黄褐色 | 微細な透明光沢粒、灰白、相灰、 浅黄褐色粒 | |
| 189 | 縄文 土器 | | 口縁部 | CⅣ | S33-3 | - | - | - | 貝殻条痕文 | ナテ | IIA | にぶい 黄褐色 | にぶい 褐色 | 1mm以下の灰白色粒 微細な透明光沢粒 | |

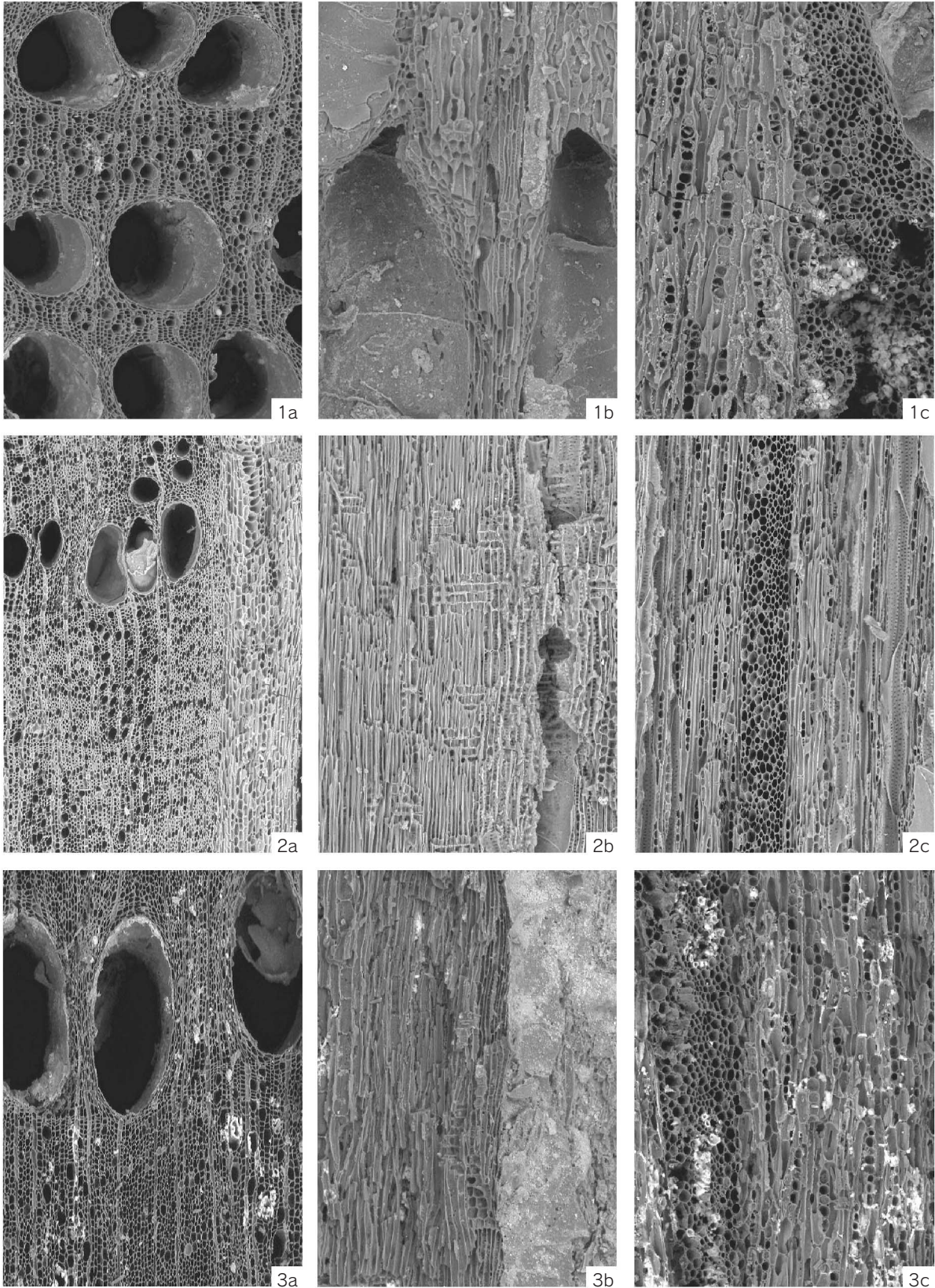
第17表 中ノ迫第2遺跡土器観察表 (2)

| 報告書 番号 | 種別 | 器種 | 部位 | 出土地点 | | | 法量 (cm) | | | 調整 | | 土器 分類 | 色調 | | 胎土 | 備考 |
|-----------|----------|----|------------|----------|------------------|------|---------|------|--------|---------|----|----------|--------------|---|--------------------------|----|
| | | | | 区・層 | グリッド・遺構 | | 口径 | 座径 | 器高 | 外面 | 内面 | | 外面 | 内面 | | |
| 190 | 縄文 土器 | | 口縁部 | CⅢ | S34-3 | - | - | - | 貝殻条痕文 | ナテ | ⅡA | にぶい褐色 | にぶい褐色 | 2mm以下の灰白色、黒褐色粒 | | |
| 191 | 縄文 土器 | | 口縁部 | AⅢ AⅣ | C9-1 D8-1,2 | - | - | - | 貝殻条痕文 | ナテ | ⅡA | 明黄褐色 | にぶい黄褐色 | 3mm以下のにぶい褐色、灰白色粒 微細な透明光沢粒 | | |
| 192 | 縄文 土器 | | 口縁部 | AⅣ | C8-1 | - | - | - | 貝殻条痕文 | ナテ | ⅡA | にぶい黄褐色 | にぶい黄褐色 | 5mm以下の灰白色粒 2mm以下の黒色角形光沢粒 微細な透明光沢粒 | | |
| 193 | 縄文 土器 | | 胴部 | AⅢ | G11-3 | - | - | - | 貝殻条痕文 | ナテ | ⅡA | にぶい黄褐色 | 褐色 | 3mm以下の赤褐色粒 2mm以下の灰白色粒 微細な光沢粒、褐灰色粒 | | |
| 194 | 縄文 土器 | | 口縁部 ～胴部 | AⅢ AⅣ | C8-1 C9-1 | - | - | - | 貝殻条痕文 | ナテ | ⅡA | にぶい赤褐色 | 褐色 にぶい黄褐色 | 2.5mm以下の灰白色粒 1.5mm以下の浅黄褐色粒 | | |
| 195 | 縄文 土器 | | 胴部 | AⅢ AⅣ | C8-1 E8-1 | - | - | - | 貝殻条痕文 | ナテ | ⅡA | 明褐色 | にぶい黄褐色 | 1mm以下の黒色光沢粒、乳白色粒 | | |
| 196 | 縄文 土器 | | 胴部 | AⅢ AⅣ | C8-1,4 | - | - | - | 貝殻条痕文 | ナテ | ⅡA | 浅黄色 | にぶい黄褐色 | 4mm以下の灰白色、灰黄色粒 微細な透明光沢粒 | | |
| 197 | 縄文 土器 | | 口縁部 | BⅢ | H14-1 | - | - | - | 貝殻条痕文 | ナテ | ⅡB | にぶい黄褐色 | にぶい黄褐色 | 3mm以下のにぶい褐色粒 2mm以下の透明粒、黒色光沢粒 微細な明褐色粒 | | |
| 198 | 縄文 土器 | 深鉢 | 口縁部 ～底部 | AⅢ | G11-3,4 G12-2 | 26.8 | 12.5 | 26.0 | 貝殻刺突文 | 横方向のナテ | Ⅲ | にぶい赤褐色 | 褐色 | 4mm以下のにぶい褐色粒 1mm以下の黒色光沢粒、灰白色粒 微細な透明光沢粒 | 補修孔あり | |
| 199 | 縄文 土器 | | 口縁部 | AⅢ | G12-2 | - | - | - | 貝殻刺突文 | ナテ | Ⅲ | 灰褐色 | 褐色 | 2.5mm以下の赤褐色粒 1mm以下の灰白色粒 微細な透明光沢粒 | 外面一部にスス付着 | |
| 200 | 縄文 土器 | | 口縁部 | AⅢ | G12-2 | - | - | - | 貝殻刺突文 | 斜方向のナテ | Ⅲ | 黒褐色 | 褐色 | 1.5mm以下の黒色光沢粒 微細な透明光沢粒 | | |
| 201 | 縄文 土器 | | 口縁部 | AⅣ | C9-4 | - | - | - | 貝殻刺突文 | ナテ | Ⅲ | にぶい褐色 | にぶい褐色 | 2mm以下の浅黄褐色、金色、 にぶい褐色粒 | 補修孔あり | |
| 202 | 縄文 土器 | 深鉢 | 胴部 | AⅢ AⅣ | C9-4 D9-1,2,4 | - | - | - | 貝殻刺突文 | ナテ | Ⅲ | 褐色 | にぶい黄褐色 | 5mm以下のにぶい褐色粒 3mm以下の灰白色粒 微細な透明光沢粒 | | |
| 203 | 縄文 土器 | | 口縁部 | AⅣ | C9-4 | - | - | - | 擦糸文 | ナテ | ⅣA | 浅黄色 | 浅黄色 | 4mm以下の灰白色粒 2mm以下の黒色角形光沢粒、灰白色粒 | | |
| 204 | 縄文 土器 | | 胴部 | BⅢ | O25-1 | - | - | - | 擦糸文 | ナテ | ⅣB | 灰黄褐色 | 褐色 | 4.5mm以下の赤褐色粒 2mm以下の黒色光沢粒、褐灰色、浅黄褐色 色粒 | | |
| 205 | 縄文 土器 | | 胴部 | BⅢ | | - | - | - | 擦糸文 | ナテ | ⅣB | にぶい褐色 | にぶい褐色 | 5mm以下の淡黄色粒 2mm以下の黒褐色粒 | | |
| 206 | 縄文 土器 | | 口縁部 | AⅢ AⅣ | SI29 E10-4 | - | - | - | 擦糸文 | 横方向のナテ | ⅣB | にぶい赤褐色 | にぶい赤褐色 | 1mm以下の乳白色、赤褐色粒 | 補修孔あり | |
| 207 | 縄文 土器 | | 胴部 | DⅢ | SI8 | - | - | - | 擦糸文 | ナテ | ⅣB | 褐色 | 褐色 | 3mm以下のにぶい褐色粒 2mm以下の灰白色粒 1.5mm以下の黒色角形光沢粒 | | |
| 208 | 縄文 土器 | | 胴部 | BⅢ | M23-4 | - | - | - | 擦糸文 | ナテ | ⅣB | 褐色 | 褐色 | 2mm以下の浅黄褐色粒 1mm以下の黒色光沢粒 微細な褐灰色粒 | | |
| 209 | 縄文 土器 | | 口縁部 | A | D10攪乱 | - | - | - | 擦糸文 | ナテ | ⅣB | 褐色 | 褐色 | 3mm以下のにぶい褐色粒 微細な透明光沢粒 | | |
| 210 | 縄文 土器 | | 胴部 | AⅢ | E8-2 | - | - | - | 擦糸文 | ナテ | ⅣB | 褐色 | 褐色 | 6.5mmの暗褐色粒 3mm以下の褐灰色粒 2mm以下の浅黄褐色粒 微細な光沢粒 | | |
| 211 | 縄文 土器 | | 胴部 | BⅤ | M24-2 | - | - | - | 擦糸文 | ナテ | ⅣC | にぶい褐色 | にぶい褐色 | 2mm以下の乳白色粒 1.5mm以下の灰白色粒 微細な黒色光沢粒 | | |
| 212 | 縄文 土器 | | 底部 | BⅢ | H16-2 | - | 5.0 | - | 風化している | ナテ | Ⅴ | 浅黄褐色 | 浅黄色 | 1.5mm以下の浅黄褐色、灰白色粒 1mm以下の黒褐色粒 | | |
| 213 | 縄文 土器 | | 底部 | AⅢ | C7-2 | - | - | - | ナテ | ナテ | Ⅴ | にぶい褐色 | にぶい黄褐色 | 1.5mm以下の赤褐色、半透明ガラス質粒 1mm以下のにぶい黄褐色粒 微細な透明光沢粒 | | |
| 214 | 縄文 土器 | | 胴部 | BⅢ | N25-3 | - | - | - | 貼付文 | ナテ | Ⅴ | にぶい黄褐色 | 黄褐色 | 2mm以下の黒褐色粒 1.5mm以下の浅黄褐色粒 微細な灰白色粒 | 粘土紐を貼り付けて菱形の模様 を付けている | |
| 215 | 縄文 土器 | | | DⅢ | L27-3 | - | - | - | | | Ⅴ | 褐色 | 褐色 | 4mm以下の灰白色、灰黄色粒 0.5mm以下の黒色光沢粒 微細な黒褐色粒 | 耳の部分か？ | |
| 216 | 弥生 土器 | | 口縁部 | CⅢ | S34-4 | - | - | - | ナテ | ナテ | Ⅴ | にぶい黄褐色 | 褐色 | 5mm以下の灰白色粒 0.5mm以下の灰白色粒 | 外面一部にスス付着 | |
| 346 | 弥生 土器 | 鉢 | 完形 | AⅡ | SA1-1 | 11.0 | 3.2 | 6.7 | ナテ | 横方向のナテ | | 褐色 | にぶい褐色 | 1mm以下の黒色粒 1mm以下の乳白色粒が少し | 底部に繊維痕が見られる | |
| 347 | 弥生 土器 | | 頸部付近 | AⅡ | SA1-2 | - | - | - | ナテ | ナテ | | にぶい黄褐色 | にぶい黄褐色 | 1.5mm以下の黒色光沢粒 0.5mm以下の灰白色粒 微細な透明光沢粒 | 頸部に刻目突帯 | |
| 348 | 弥生 土器 | | 頸部付近 | AⅡ | SA1-4 | - | - | - | ナテ | ナテ | | にぶい黄褐色 | 黒褐色 | 3mm以下の灰白色粒 2mm以下の黒色光沢粒 微細な透明光沢粒 | 頸部に刻目突帯 | |
| 349 | 弥生 土器 | 壺 | 口縁部 | AⅡ | SA1-1 | - | - | - | 横方向のナテ | ナテ | | にぶい黄褐色 | にぶい黄褐色 | 2.5mm以下の黒色粒 1mm以下の黒色光沢粒、灰白色粒 微細な黒褐色粒 | 外面一部にスス付着 | |
| 350 | 弥生 土器 | 壺 | 胴部～ 底部 | AⅡ | SA1-3,4 | - | - | - | 縦方向のナテ | 工具によるナテ | | 浅黄色 | 浅黄色 | 3mm以下の灰白色粒 1.5mm以下の灰色粒 | 尖底 | |

第18表 中ノ迫第2遺跡土器観察表 (3)

| 報告書 番号 | 種別 | 器種 | 部位 | 出土地点 | | | 法量 (cm) | | | 調整 | | 土器 分類 | 色調 | | 胎土 | 備考 |
|-----------|------|----|------------|------|---------------|------|---------|------|------------------------|------------------------|----|--------------|---------------|--|-----------------------|----|
| | | | | 区・層 | グリッド・遺構 | 口径 | 座径 | 器高 | 外面 | 内面 | 外面 | | 内面 | | | |
| 351 | 弥生土器 | | 底部 | AII | SA1-3 | - | - | - | ナテ | ナテ | | 浅黄褐色 | 浅黄褐色 | 1mm以下の乳白色粒が少し | 小さな脚台 | |
| 352 | 弥生土器 | | 底部 | AII | SA1-1 | - | 1.6 | - | ナテ | ナテ | | にぶい橙褐色 | にぶい橙褐色 | 1mm以下の灰白色粒 1mm以下の赤褐色粒を少し含む | | |
| 359 | 弥生土器 | 壺 | 口縁部 ~底部 | AII | SA2-1,4 | 24.0 | 5.1 | 32.9 | 横方向のナテ | ナテ | | にぶい橙褐色 | 明黄褐色 | 2mm以下の淡黄褐色、乳白色粒が多い | 外面スス付着 | |
| 360 | 弥生土器 | 壺 | 口縁部 ~底部 | AII | SA2-2 | 18.2 | 4.2 | 27.4 | ナテ | ハケ目 | | 明褐色 | にぶい黄褐色 | 3mm以下の褐色、灰白色、褐色粒 | 外面一部にスス付着 | |
| 361 | 弥生土器 | 壺 | 胴部 ~底部 | AII | SA2-1,2,3,4 | - | 5.0 | - | 縦方向のハケ目 | ハケ目の後ナテ | | 淡黄褐色 | 淡黄褐色 | 4mm以下の赤褐色粒 2mm以下の黒色粒が少し | 内外共に僅かにスス付着 | |
| 362 | 弥生土器 | 壺 | 口縁部 ~底部 | AII | SA2-1,2 | - | 4.7 | 27.0 | ハケ目 | 風化している | | 浅黄褐色 | にぶい黄褐色 | 4mm以下の灰白色粒 3mm以下のにぶい赤褐色粒 微細な透明光沢粒 | 外面スス付着 | |
| 363 | 弥生土器 | 壺 | 口縁部 ~底部 | AII | SA2-1,2,3,4 | 18.2 | - | - | ハケ目 | 斜方向のハケ目 | | にぶい黄褐色 | にぶい黄褐色 | 5mm以下の黄灰色粒 3mm以下の褐色粒 | 外面スス付着 | |
| 364 | 弥生土器 | 壺 | 口縁部 ~胴部 | AII | SA2-1,2,3,4 | 28.4 | - | - | 斜方向のハケ目 | 斜方向のハケ目 | | 橙色 にぶい黄褐色 | 橙色 明黄褐色 | 2mm以下の乳白色、白色透明ガラス質、 褐色灰色粒が多い | 口唇部にハケ目 365と接合 | |
| 365 | 弥生土器 | 壺 | 胴部 ~底部 | AII | SA2-1,2,3,4 | - | 11.1 | - | ハケ目 | ハケ目 | | にぶい褐色 | にぶい褐色 | 2.5mm以下の灰白色粒 2mm以下のにぶい赤褐色粒 微細な透明光沢粒 | 外面一部にスス付着 364と接合 | |
| 366 | 弥生土器 | 壺 | 口縁部 | AII | SA2-2,2 床上 | 18.4 | - | - | 縦方向のハケ目 | 斜方向のハケ目 | | にぶい赤褐色 | 褐色 | 1mm以下の黒色光沢粒、乳白色粒が少し | 外面一部にスス付着 | |
| 367 | 弥生土器 | 壺 | 口縁部 ~胴部 | AII | SA2-2,4 | - | - | - | 斜方向のナテ | 横方向のナテ | | にぶい黄褐色 | にぶい黄褐色 | 1mm以下の黒色光沢粒、灰色、 乳白色粒が多い | | |
| 368 | 弥生土器 | | 胴部 ~底部 | AII | SA2-2,4 | - | 5.2 | - | ハケ目 | ナテ | | にぶい黄褐色 | 黄灰色 | 4mm以下の褐色、褐色灰色粒 | 脚台付き 裏底に工具痕あり | |
| 369 | 弥生土器 | | 胴部 ~底部 | AII | SA2-4 | - | 4.1 | - | ハケ目 | 風化している | | にぶい黄褐色 | 黒褐色 | 6mm以下のにぶい黄褐色粒 4mm以下の褐色灰色粒 | 脚台付き 外面一部にスス付着 | |
| 370 | 弥生土器 | | 胴部 ~底部 | AII | SA2-1,4 | - | 5.1 | - | ハケ目 | ハケ目 | | にぶい赤褐色 | にぶい褐色 黄灰色 | 2.5mm以下のにぶい赤褐色粒 1mm以下の乳白色粒 | 脚台付き | |
| 371 | 弥生土器 | | 底部 | AII | SA2-3 | - | 3.5 | - | 縦方向のナテ | ナテ | | にぶい黄褐色 | にぶい黄褐色 | 1mm以下の赤褐色、灰白色粒が少し | 脚台付き | |
| 372 | 弥生土器 | | 底部 | AII | SA2-1 | - | 3.0 | - | 縦方向のナテ | 縦方向のハケ目 | | にぶい黄褐色 | にぶい黄褐色 | 1.5mm以下のにぶい褐色粒 1mm以下のにぶい黄褐色粒が僅か | 平底 | |
| 373 | 弥生土器 | 壺 | 口縁部 ~底部 | AII | SA2-4 | 15.9 | 3.2 | 12.1 | 縦方向のハケ目 | 横方向のハケ目 | | にぶい褐色 | にぶい黄褐色 | 2mm以下の暗褐色粒 1mm以下の黒色粒 1mm以下の灰色粒が少し | 外面スス付着 | |
| 374 | 弥生土器 | 壺 | 口縁部 ~底部 | AII | SA2-1,2 | 11.9 | 4.3 | 4.2 | 横方向のハケ目 | ナテ | | にぶい黄褐色 | にぶい黄褐色 | 1mm以下の黒色光沢粒、乳白色粒 | 指押さえの跡多数 | |
| 375 | 弥生土器 | | 底部 | AII | SA2-1 | - | - | - | 工具によるナテ | ナテ | | 褐色 | 褐色 | 1mm以下の灰白色、灰色粒 | 尖底 手づくね | |
| 376 | 弥生土器 | 壺 | 口縁部 ~胴部 | AII | SA2-4 | 22.6 | - | - | ナテが見られるが、摩滅のためはつきりしない | ナテ | | 浅黄褐色 | にぶい褐色 | 6mm以下のにぶい褐色粒 5mm以下の黄灰色粒 4mm以下の灰白色粒 | 複合口縁、櫛描波状文 頸部に刻目突帯 | |
| 377 | 弥生土器 | 壺 | 口縁部 ~底部 | AII | SA2-1,2,4 | 19.2 | - | - | 縦方向のハケ目 | ハケ目の後ナテ | | 褐色 | にぶい浅黄褐色 灰色 | 2mm以下の浅黄褐色、黒色粒が多い | 複合口縁、櫛描波状文 頸部に刻目突帯 | |
| 378 | 弥生土器 | 壺 | 口縁部 | AII | SA2-3 | - | - | - | ナテ | ナテ | | にぶい黄褐色 | にぶい黄色 | 2mm以下の乳白色粒 1.5mm以下の灰白色粒 微細な透明光沢粒 | 複合口縁 櫛描波状文 | |
| 379 | 弥生土器 | 壺 | 口縁部 | AII | SA2-1 | 15.2 | - | - | ナテ | ナテ | | 褐色 | 浅黄褐色 | 1.5mm以下の灰白色粒 微細な透明光沢粒 | 内外共に一部にスス付着 | |
| 380 | 弥生土器 | 壺 | 口縁部 ~頸部 | AII | SA2-2,3 | 10.0 | - | - | ナテ | ナテ | | にぶい褐色 | にぶい褐色 | 4mm以下の赤褐色粒 1mm以下の灰白色粒 | 外面一部にスス付着 | |
| 381 | 弥生土器 | | 口縁部 | AII | SA2-1 | 33.8 | - | - | 風化している | 風化している | | にぶい褐色 | 褐色 | 3mm以下の灰白色、黄灰色、明褐色粒 | 高坏もしくは器台の口縁部か | |
| 382 | 弥生土器 | | 口縁部 | AII | SA2-4 | 29.2 | - | - | 風化している | ハケ目 | | にぶい黄褐色 | 浅黄褐色 | 3mm以下の灰白色、褐色粒 | 高坏もしくは器台の口縁部か | |
| 383 | 弥生土器 | 高坏 | 杯部 | AII | SA2-4 | - | - | - | ミガキ | ナテ | | 褐色 | 明褐色 | 2mm以下の明褐色、褐色灰色粒 | | |
| 385 | 弥生土器 | 壺 | 口縁部 ~胴部 | AIII | B7-4攪乱 | 19.2 | - | - | ハケ目が見られるが、摩滅のためはつきりしない | ハケ目が見られるが、摩滅のためはつきりしない | | にぶい黄褐色 | 褐色 | 3mm以下の褐色灰色粒が多い | 外面スス付着 | |
| 386 | 弥生土器 | 壺 | 口縁部 ~胴部 | AIII | B7-4攪乱 | - | - | - | ハケ目が見られるが、摩滅のためはつきりしない | 横方向のナテ | | にぶい黄褐色 | 褐色 | 3mm以下のにぶい褐色、灰色 赤褐色粒が多い | 外面スス付着 | |
| 387 | 弥生土器 | | 口縁部 | AIII | C7-3 | - | - | - | ナテ | ナテ | | 浅黄褐色 | にぶい黄褐色 | 3.5mm以下のにぶい褐色粒 2mm以下の灰白色粒 1.5mm以下の黒褐色粒 | 外面一部にスス付着 | |
| 388 | 弥生土器 | 壺 | 胴部 | AIII | C7-3 | - | - | - | ハケ目 | ハケ目 | | 浅黄褐色 | 黄灰色 | 3mm以下の褐色粒 2mm以下の褐色灰色粒 | 刻目突帯あり | |
| 389 | 弥生土器 | | 胴部 | BIII | SC1 | - | - | - | ナテ | ナテ | | にぶい黄褐色 | 灰色 | 1.5mm以下の灰白色粒 微細な黄灰色、透明光沢粒 | 時期不明土坑出土 | |

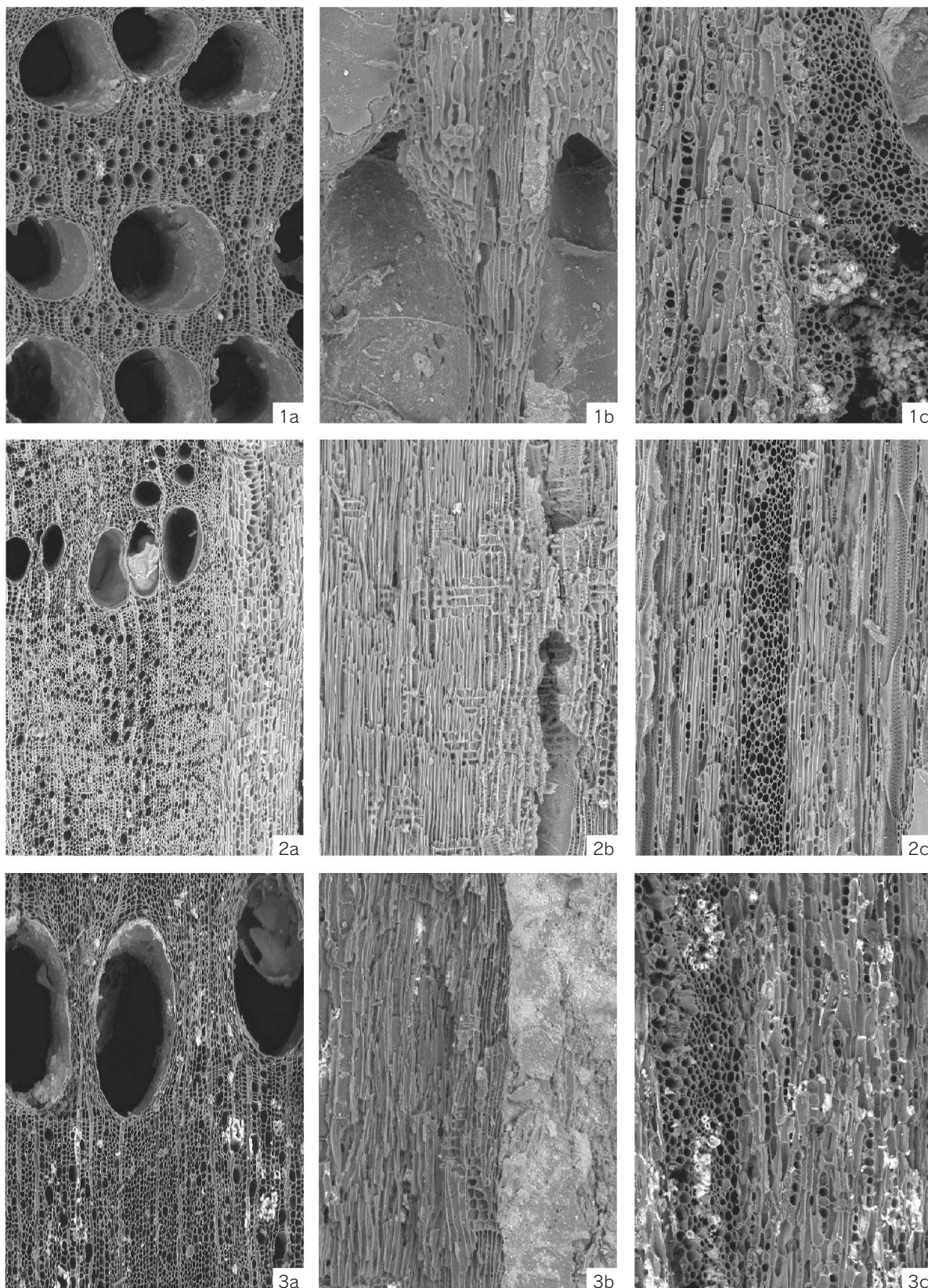
第19表 中ノ迫第2遺跡土器観察表 (4)



1. コナラ属コナラ亜属コナラ節 (SI-7 ; 炭化材2)
 2. コナラ属コナラ亜属コナラ節 (SI-38 ; 炭化材)
 3. コナラ属コナラ亜属コナラ節 (SA1-4 ; 炭化物一括)
- a : 木口, b : 柱目, c : 板目

200 μm : a
200 μm : b, c

樹種同定炭化材



1. コナラ属コナラ亜属コナラ節 (SI-7 ; 炭化材2)
 2. コナラ属コナラ亜属コナラ節 (SI-38 ; 炭化材)
 3. コナラ属コナラ亜属コナラ節 (SA1-4 ; 炭化物一括)
- a : 木口, b : 柱目, c : 板目

200 μm : a
200 μm : b, c

樹種同定炭化材



後期旧石器時代Ⅱ期 礫群 SI1



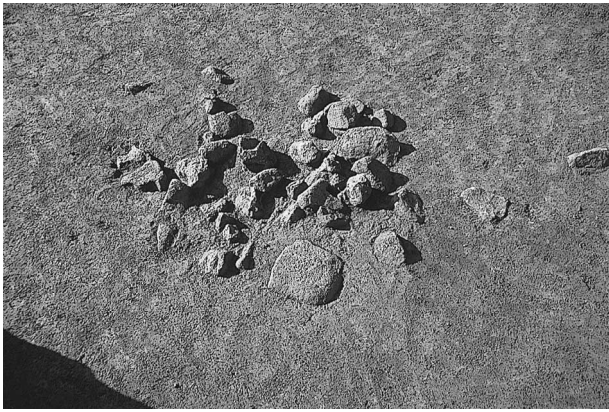
後期旧石器時代Ⅱ期 礫群 SI2



後期旧石器時代Ⅱ期 礫群 SI3



後期旧石器時代Ⅱ期 礫群 SI4



後期旧石器時代Ⅱ期 礫群 SI5



後期旧石器時代Ⅱ期 礫群 SI6



後期旧石器時代Ⅱ期 礫群 SI7



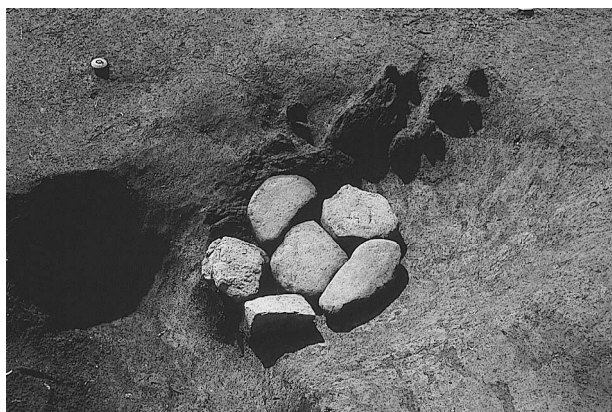
後期旧石器時代Ⅱ期 礫群 SI8



縄文時代早期集石遺構 I類 SI17



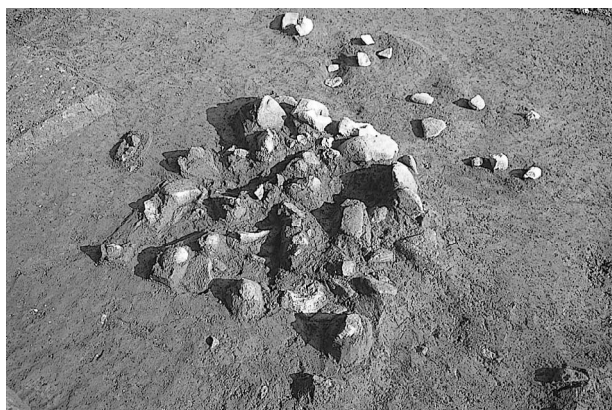
縄文時代早期集石遺構 I類 SI12



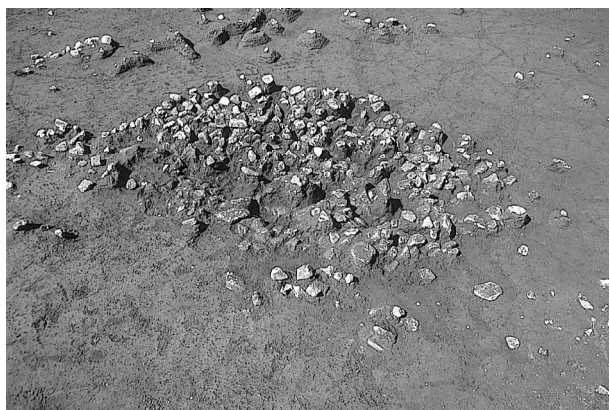
縄文時代早期集石遺構 I類 SI17 配石



縄文時代早期集石遺構 I類 SI12 配石



縄文時代早期集石遺構 I類 SI32



縄文時代早期集石遺構 I類 SI38



縄文時代早期集石遺構 I類 SI32 配石



縄文時代早期集石遺構 I類 SI38 配石



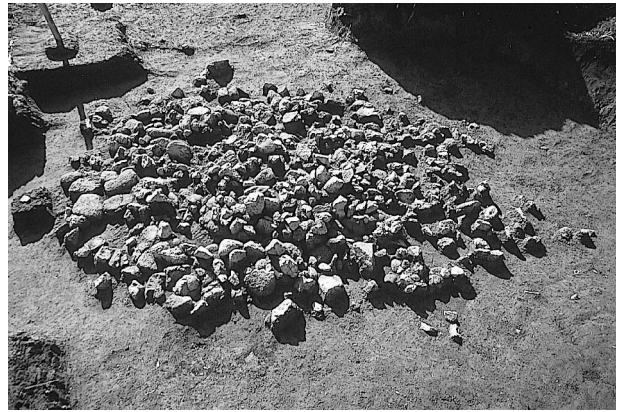
縄文時代早期集石遺構 II類 SI2



縄文時代早期集石遺構 II類 SI3



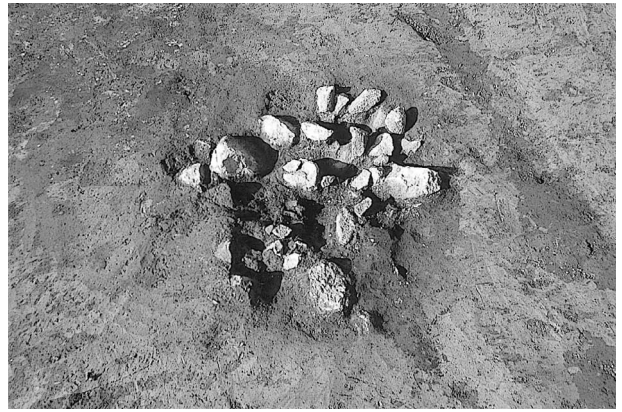
縄文時代早期集石遺構 II類 SI5



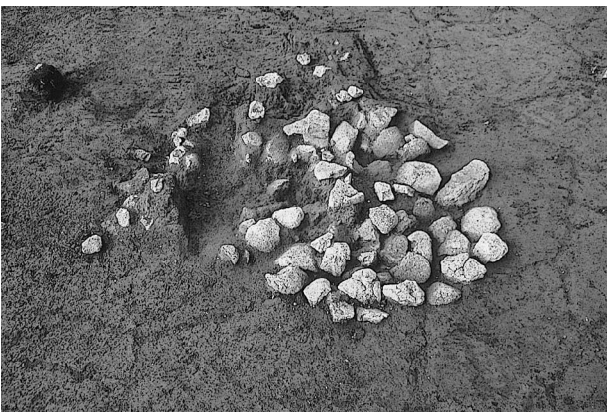
縄文時代早期集石遺構 II類 SI8



縄文時代早期集石遺構 II類 SI9



縄文時代早期集石遺構 II類 SI10



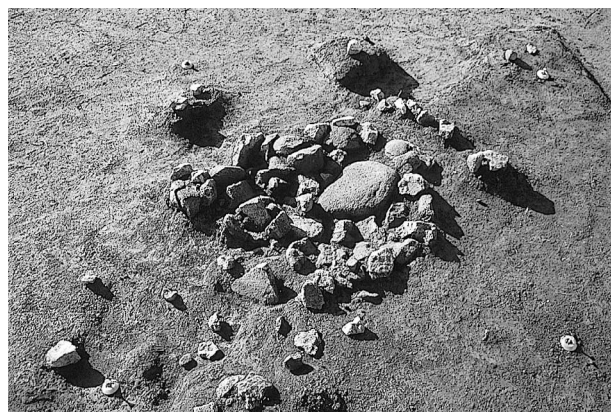
縄文時代早期集石遺構 II類 SI13



縄文時代早期集石遺構 II類 SI14



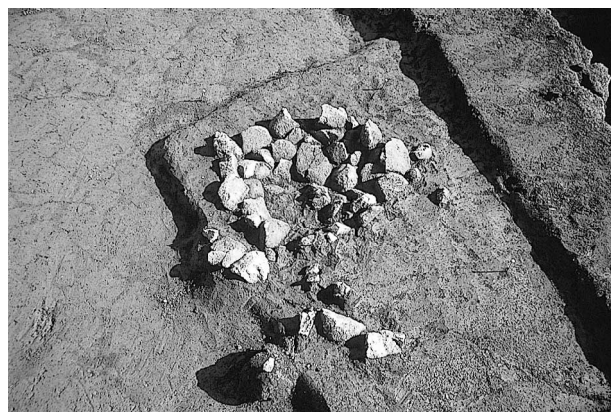
縄文時代早期集石遺構 II類 SI18



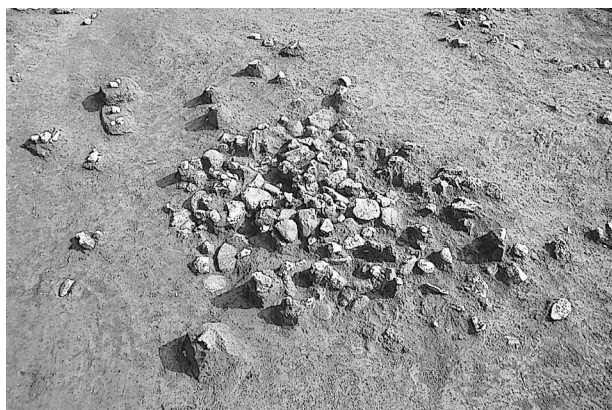
縄文時代早期集石遺構 II類 SI23



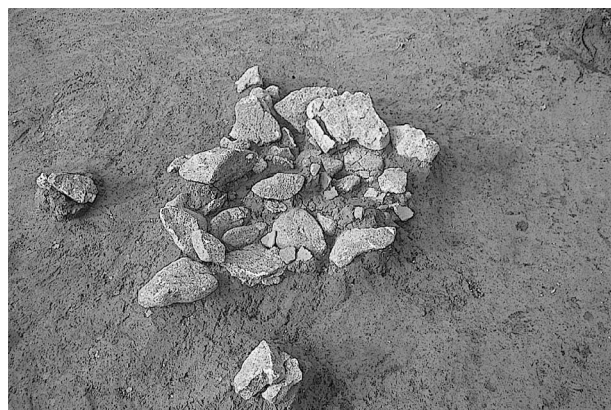
縄文時代早期集石遺構 II類 SI25・III類 SI24



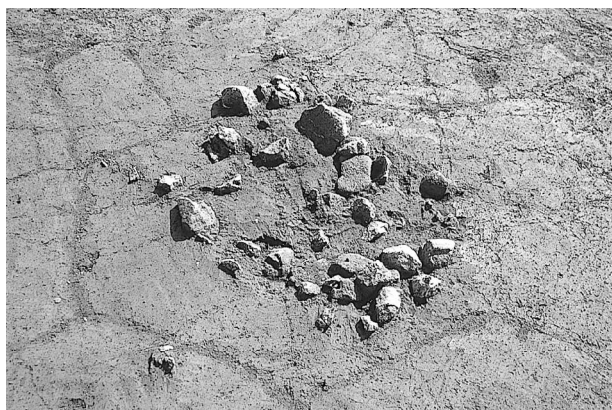
縄文時代早期集石遺構 II類 SI26



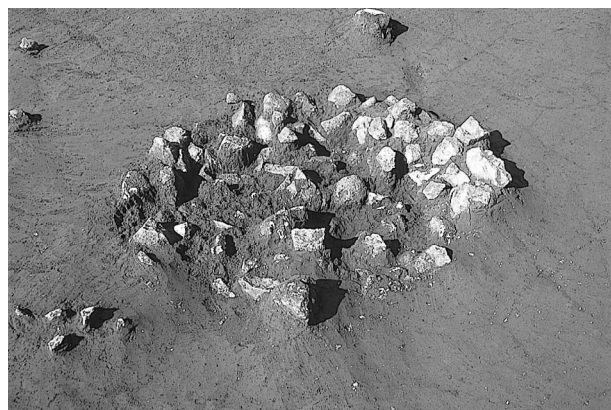
縄文時代早期集石遺構 II類 SI27



縄文時代早期集石遺構 II類 SI29



縄文時代早期集石遺構 II類 SI31



縄文時代早期集石遺構 II類 SI33



縄文時代早期集石遺構 II類 SI37



縄文時代早期集石遺構 III類 SI11



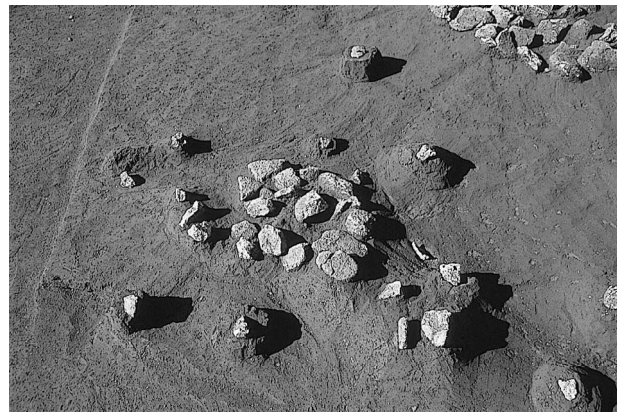
縄文時代早期集石遺構 III類 SI14



縄文時代早期集石遺構 III類 SI15



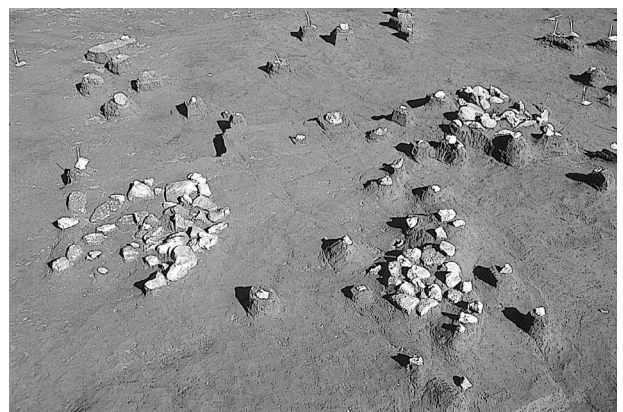
縄文時代早期集石遺構 III類 SI16



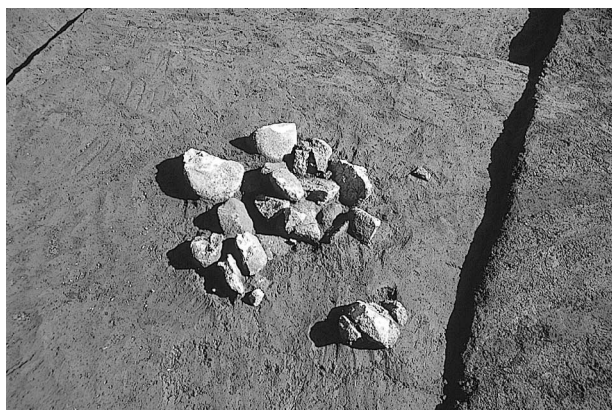
縄文時代早期集石遺構 III類 SI17



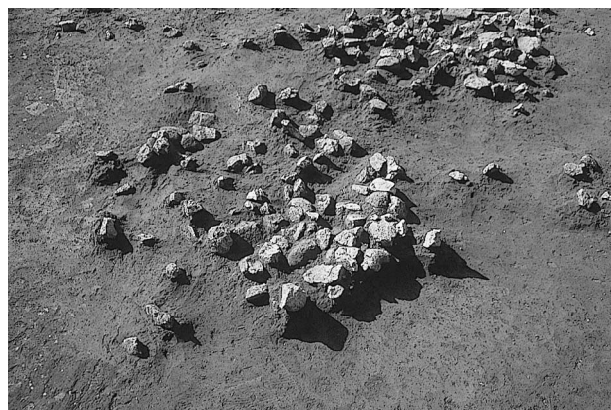
縄文時代早期集石遺構 III類 SI19



SI16・17・19 検出状況



縄文時代早期集石遺構 Ⅲ類 SI20



縄文時代早期集石遺構 Ⅲ類 SI21



縄文時代早期集石遺構 Ⅲ類 SI22



SI21・22 検出状況



縄文時代早期集石遺構 Ⅲ類 SI28



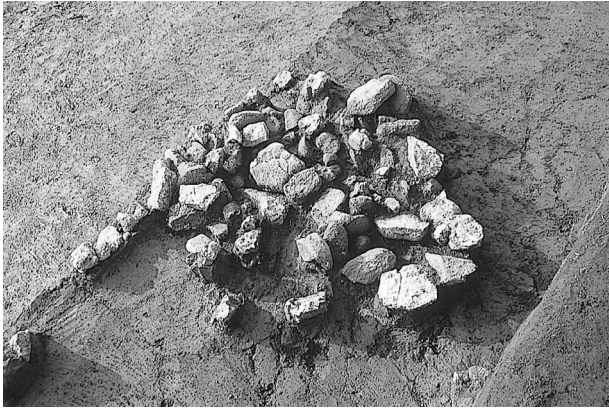
縄文時代早期集石遺構 Ⅲ類 SI30



縄文時代早期集石遺構 Ⅲ類 SI34



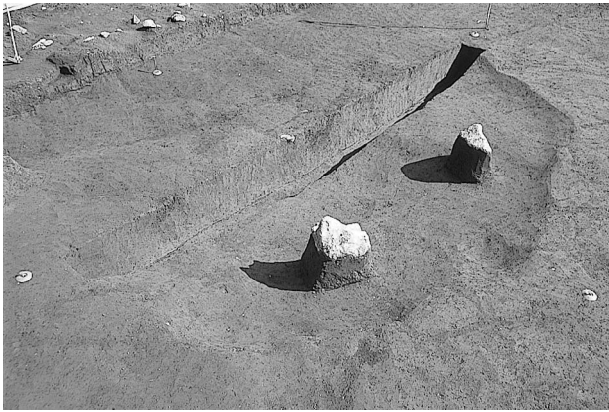
縄文時代早期集石遺構 Ⅲ類 SI35



縄文時代早期集石遺構 Ⅲ類 SI36



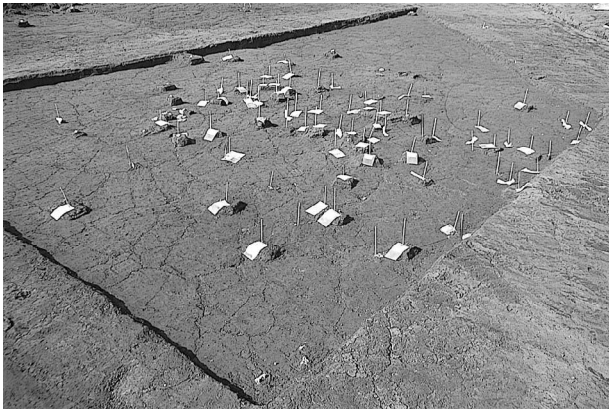
縄文時代早期炉穴 SP1



縄文時代早期土坑 SC1



縄文時代早期 SI12・38 周辺散礫



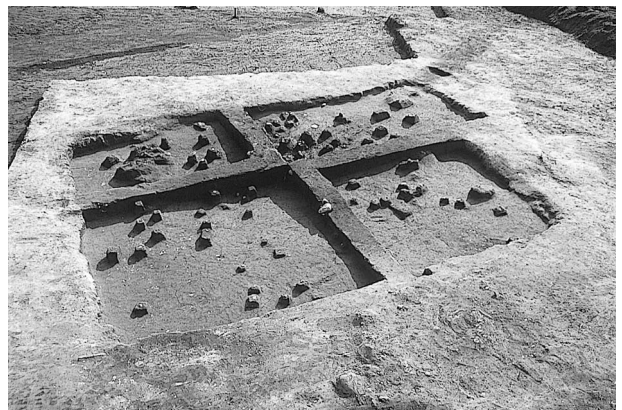
G11 グリッド (Ⅲ層) 遺物検出



A区 (Ⅲ層) 作業風景



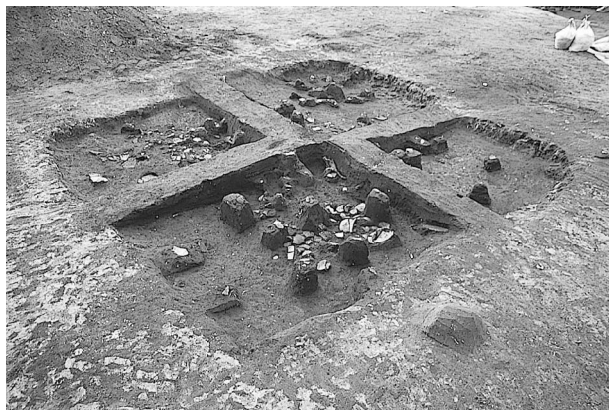
弥生時代堅穴住居跡 SA1



弥生時代堅穴住居跡 SA1



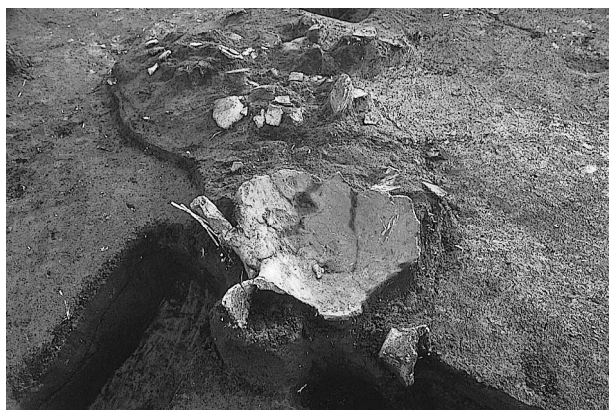
弥生時代 SA1 床面検出



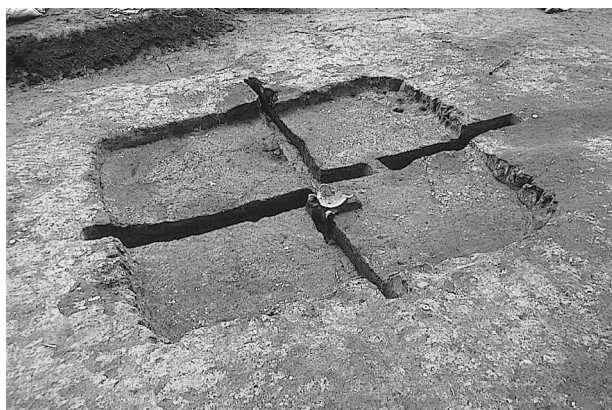
弥生時代竪穴住居跡 SA2



弥生時代 SA2 遺物検出



弥生時代 SA2 遺物検出



弥生時代 SA2 床面検出



弥生時代 SA2 掘削状況



時期不明土坑 SC1



時期不明遺構 SZ1